

# 語史再構における言語地理学的解釈の再検討 —類型的定式化の試み—

**Rethinking the geolinguistic interpretation in the linguistic reconstruction —  
An attempt at establishing typological formulation**

平成 28—31 年度 科学研究費 基盤研究(B)  
(課題番号 16H03415)

**研究成果報告書**

Progressive Report, Project No. 16H03415, 2016-2019  
Grant-in-Aid for Scientific Research (B)

令和 2 年 3 月

March, 2020

研究代表者 岩 田 礼

公立小松大学国際文化交流学部

Director: Ray Iwata

Faculty of Intercultural Communication, Komatsu University, Japan

## 研究組織

研究代表者 岩田 礼（公立小松大学国際文化交流学部教授）  
研究分担者 大西 拓一郎（大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語  
研究所言語変化研究領域教授）  
中井 精一（富山大学学術研究部人文科学系教授）  
川口 裕司（東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授）  
石 汝杰（熊本学園大学外国語学部教授）  
研究協力者 沢木幹栄（信州大学人文学部名誉教授）

## 研究経費

	総額	直接経費	間接経費
平成 28 年度	2,600 千円	2,000 千円	600 千円
平成 29 年度	2,080 千円	1,600 千円	480 千円
平成 30 年度	2,860 千円	2,200 千円	660 千円
平成 31 年度	1,040 千円	800 千円	240 千円

# 目次

## Contents

はしがき .....	1
研究活動の記録 .....	2-8
<b>Iwata, Ray (岩田 礼)</b>	
<b>Contrastive Geo-linguistics: An Introduction</b> .....	10-18
大西拓一郎	
混交・民間語源・類音牽引・同音衝突.....	19-48
<b>Item-based Contrastive Observation – Potato</b>	
同一項目の対照的観察 – ジャガイモ (馬鈴薯)	
岩田 礼 : <b>Potato (馬鈴薯) in Chinese</b> .....	50-55
川口裕司 : 語彙変化と方言分布 – フランス語のジャガイモ – .....	56-62
中井精一 : ジャガイモの地域名称とその分布の背景.....	63-83
沢木幹栄	
LAJ における同音衝突 プログラムとデータ.....	85-116
川口裕司	
<b>Elisabetta Carpitelli</b> フランス方言学の現状.....	118-137
石 汝杰	
从地方志看明清时代的苏州方言.....	138-148



## はしがき

本研究課題「語史再構における言語地理学的解釈の再検討—類型的定式化の試み—」の含意について、公開中の“2016年度実績報告書”から引用する。

「言語地理学は、地図上に現れた言語形式(又はそれに対応する語の意味)の分布が言葉の歴史的地層を反映するとの仮定の下に、言語変化の過程と変化の要因を明らかにしようとする。このような言語史の再構作業において、圏論は一定の効力を有するが、地図上の分布は人間を取り巻く様々な要因によって形成されたものであるため、自然科学のような単一の公理によってすべてが解けるものではない。そのため、一枚の言語地図の解釈についてしばしば異なった解釈が生まれることになる。ここに言語地理学が宿命的に抱える弱点があった。一方、言語地理学の手法が従来適用されてきたヨーロッパや日本の方言、そして近年、本研究代表者らによって研究が進んだ中国語方言においては、国や地域を越えて共通する諸現象がみられることが明らかとなっている。それらは、民間語源、類音牽引、同音衝突、類推、混淆、過剰修正などである。これらの現象が生まれる条件について、従来、国や地域を越えた研究が不足していたとの認識に立ち、本研究では、日本、中国、フランスの方言について言語地理学的研究を蓄積してきたメンバーが集まり、「対照言語地図」の制作を通じて、いかなる条件があれば当該現象が生起するかという変化の一般性、普遍性を帰納する。また、方言伝播と言語外的要因の関係を考慮しながら、方言地図解釈の恣意性を克服することを目指す。」

日本の言語地理学の先達は、夙にこのような問題意識の下で研究を進めてこられたと思う。地図解釈のための定式化を図った柴田武『言語地理学の方法』(筑摩書房、1969)、語彙変化の一般性、普遍性を追求した馬瀬良雄『言語地理学』(桜楓社、1992)などである。本研究では、日本語、中国語、フランス語の方言地図を直接比較することで対照研究を進めた。当初は「対照言語地図」の作成をめざしたが、様々な制約によって独自の地図を作成するに至らなかったことは遺憾である。

本研究報告書冒頭の岩田(Iwata)論文は、その後半が分布パターンと現象(同音衝突)の共通性に着目した **phenomenon-based** の考察である。民間語源、混淆、類音牽引、同音衝突は別個の現象ではなく、相互に関連を有する。大西論文は、それらがどのように関連するかを実例に拠って論じ、新たな定義を提示している。LAJ(日本言語地図)に基づく沢木の資料集は、同音異義語の問題を考える上で貴重である。岩田、川口、中井によるジャガイモ語形の考察は **Item-based** の対照研究である。国や地域による命名法の違いは、新作物の導入、普及という言語外的要因と不可分である。本報告書には、このほか、フランスにおける方言研究の動向をまとめた川口の資料と中国の文献方言学の伝統を示す石の研究を掲載した。

最後に、研究期間中、中国で下記二件の出版があったことを付記する。

- ・柴田武著・崔蒙訳『言語地理学方法』、商務印書館、2018年9月。
- ・W.A.Grootaers 著・石汝杰、岩田礼訳『漢語方言地理学』第三版、上海教育出版社、2018年10月(2003年初版、2012年再版)。

岩田 礼

## 研究活動の記録

### 1. 本研究テーマに関する国内研究会（研究報告のみ。研究打合せ等は除く。）

2016 年度(平成 28 年度)

#### 第 1 回研究会

9 月 20 日～21 日 金沢大学人間社会学域（角間キャンパス）

芝原暁彦（産業技術総合研究所）「3D 地質模型による情報分析：言語地理学との分野融合」

川口裕司 「方言変異と地形—フランス地域別言語地図の場合—」

中井精一 「河川流域と言語伝播」

大西拓一郎「言語変化と方言分布領域の関係」

石 汝杰 「蘇州地域における声調形式の分布と変化」

岩田 礼 「語史再構における言語地理学的解釈の再検討」

#### 第 2 回研究会

2017 年 1 月 21 日～22 日 富山大学人文学部（五福キャンパス）

岩田 礼 「研究の目的と手法」

沢木幹栄（信州大学）「馬瀬方言学における同音衝突」

石汝杰 「中国語の“妻”を表す語形をめぐって」

芝原暁彦（産総研）「地形模型を用いた教育支援手法の開発（関東地域の例）」

中井精一 「日本語における語彙変化と方言分布」

大西拓一郎 「言語変化がもたらす分布形成の諸条件」

川口裕司 「フランス語における言語変化と方言分布」

岩田 礼 「各言語で共通する現象と共通しない現象」

2017 年度(平成 29 年度)

#### 第 3 回研究会

2017 年 6 月 10 日～11 日 富山大学人文学部（五福キャンパス）

岩田 礼 「対照方言地図のサンプル (Samples of contrastive maps)」

川口裕司 「語彙変化と方言分布 (Lexical change and dialect distribution)」

大西拓一郎 「上伊那方言における混濁形変化の再検討 (Reconsideration of blending change in Kami-Ina dialect).」

芝原暁彦（産総研） 「方言分布と地形 (Dialect distribution and topography)」

大西拓一郎、川口裕司、石汝杰「共通語化と距離 (Standardization and distance)」

沢木幹栄 (信州大学)「コンピュータを用いたタグ付き方言コーパスの作成 (Making a tagged dialect corpus)」

中井精一「言語変化における言語外的要因 (Extralinguistic factors in linguistic change)」

#### 第4回研究会

2018年1月19日～20日 富山大学人文学部 (五福キャンパス)

中井精一「ジャガイモの地域名称と言語要因」

岩田 礼「ジャガイモの対照言語地図」

大西拓一郎「方言間の一致度と距離の関係」

沢木幹栄 (信州大学)「混淆と類音牽引、アクセント」

2018年度(平成30年度)

#### 第5回研究会

2018年6月30日～7月1日 富山大学人文学部 (五福キャンパス)

中井精一、沢木幹栄「LAJの問題点をめぐって—『日本の方言地図』の批判的検討」

石汝杰「漢語方言における“趁(乗)”(乗り物に乗る)を表わす語形の分布—文献及び現代方言から—」

大西拓一郎「地名を冠した外来作物の方言」

松丸真大(滋賀大学)「GISを用いた言語地図の解釈—富山県庄内川流域を例に—」

岩田 礼「語彙変化における言語間の平行性について」

川口裕司「フランス言語地図(ALF)が教えてくれないこと」

#### 第6回研究会

2018年12月7日～8日 富山大学人文学部 (五福キャンパス)

沢木幹栄 (信州大学)「言語地理学以前から以後」

石汝杰「中国語方言研究の最新動向」

岩田 礼「基礎語彙を通して見る中国語方言の系統関係について」

大西拓一郎「地名を冠した外来作物の方言：特にナンバンをめぐって」

中井精一「方言変化から見た奈良県と三重県の境界地帯」

2019年度(平成31年度/令和元年度)

#### 第7回研究会

2019年11月22日～23日 富山大学人文学部(五福キャンパス)

岩田礼「中国語の語彙変化における類推作用：他言語との比較」

大西拓一郎 「同音衝突と類音牽引・混交一庄川流域における「桑の実」と「燕」一」  
中井精一 「方言敬語形式にみられる同音衝突と混交一富山県中央部を対象に一」  
沢木幹栄 「オランダ・ベルギーの言語地理学とグロータース(子)と柴田武」  
石汝杰 「沈明《汉语方言地理学研究七十年》评介」  
川口裕司 「フランス方言学の現状」

## 2. 国際会議におけるワークショップ

### **Methods in Dialectology 16**

#### **Workshop 4, Contrastive Geolinguistics**

国立国語研究所(NINJAL) 2017年8月10日

Organizer: Takuichiro Onishi

#### **Presentations**

1. Iwata, Ray : Introduction.
2. Kawaguchi, Yuji. Iwata, Ray. Nakai, Seiichi. : Item-based contrastive map: Potato in French, Chinese and Japanese.
3. Onishi, Takuichiro. Kawaguchi, Yuji : Problems of standardization: Japanese and French.
4. Onishi, Takuichiro : Reconsideration of blending change.
5. Shibahara, Akihiko : Dialect distribution and topography.

## 3. 本研究テーマに関わる国際シンポジウムの開催

### **Komatsu Round-Table Conference on Geo-linguistics**

公立小松大学(Komatsu University) 2018年9月8-9日

#### **Main theme: Interpretation of Linguistic Maps**

#### **Presentations**

1. André Thibault (Université Paris Sorbonne (Paris IV))  
Time, space and politics: what overseas French varieties and French creoles can teach us about the mechanics of diatopic diffusion in a globalized world  
Commentator: Yuji kawaguchi
2. M.R. Kalaya Tingsabadh (Chulalongkorn University)  
From Thai Dialect Studies to Thai Dialectology to Thai Geo-linguistics  
Commentator: Ray Iwata
3. Sirivilai Teerarojanarat, M.R. Kalaya Tingsabadh, Areerut Patnukao (Chulalongkorn University)  
A Geolinguistic Study of Temporal Variation in Northeastern Thai  
Commentator: Takuichiro Onishi
4. Ray Iwata (Komatsu University)

Parallelism in lexical change across languages: the case of time words in Chinese and French

Commentator: André Thibault

5. Yuji Kawaguchi (Tokyo University of Foreign Studies)

What the *ALF* does not tell us

Commentator: Chitsuko Fukushima

6. Takuichiro Onishi (National Institute for Japanese Language)

Japanese dialectal words for imported produce that include proper nouns: *morokoshi* (“China”), *nanban* (“southern countries”), and other place or person names

Commentator: Mitsuaki Endo

7. Chitsuko Fukushima (University of Niigata University)

Interplay of Phonological, Morphological, and Lexical Variation: Adjectives in Niigata dialects

Commentator: Motoei Sawaki

8. Michio Matsumaru (Shiga University)

Interpreting linguistic maps using GIS: A case from the Shogawa River basin area in Toyama

Commentator: Sirivilai Teerarojanarat

9. Mitsuaki Endo (Aoyama Gakuin University)

Theoretical Issues in Asian Geolinguistics

Commentator: M.R. Kalaya Tingsabadh

#### 4. 研究成果（本研究課題に関わる個人別業績）

##### [1] 著書、論文

###### 岩田 礼

・漢語方言における語彙変化の特徴：類推の役割，国際文化，2号，公立小松大学，3-27，2020年3月。

・「語彙変化に関わる言語地理学的要因の再検討」，方言の研究，第3号，日本方言研究会，185-215，2017年。

###### 大西拓一郎

・「ひつつき虫」方言の変化を探る *BIOSTORY*, 31, 72-73, 2019年。

・On the Relationship of the Degrees of Correspondence of Dialects and Distances, *Languages*, 4(2),1-15, 2019.

・方言から考える動詞否定辞中止形 日本語文法 19(2), 3-17, 2019年。

・言語変化・方言分化が起こりにくいところ—方言地図からさぐる—，日本語学，38(12)，48-56，2019年。

・交易とことばの伝播—とうもろこしの不思議を探る—，日本語学，37(8)，36-45，2018年。

- ・方言語彙の分布の変動 方言の語彙—日本語を彩る地域語の世界—, シリーズ日本語の語彙 9, 朝倉書店, 116-131, 2018 年.
- ・方言形成論序説—言語地理学の再興— 方言の研究, 第 3 号, 5-28, 2017 年.
- ・方言分布が見せる「坂」「崖」「峰」, *CEL* 117, 48-51, 2017 年.

### 中井精一

- ・河川流域の地域特性と方言, *The Landscapes of World Dialectology*, 韓国慶北大学校李相揆教授退官記念論文集, 535-555, 2019 年.
- ・語の受容と社会的機能-ブリの成長段階名の拡大とその背景-, 方言の研究, 第 4 号, ひつじ書房, 99-132, 2018 年.
- ・日本語敬語の多様性とその変化, 大西拓一郎編 「空間と時間の中の方言-ことばの変化は方言地図にどう現れるか-」, 朝倉書店, 96-116, 2017 年.

### 川口裕司

- ・Uses of the pronoun on in Old French plays A Case study of Le jeu de saint Nicolas and Le jeu de la feuillée, 鈴木拓真、中川亮、川西帆波と共著, *Flambeau* 44, 118-134, 2019 (<http://repository.tufts.ac.jp/bitstream/10108/92922/1/Flambeau+44-7.pdf>)
- ・A Sociolinguistic Analysis of the Indefinite Pronoun ON in Northern France : Evidence from the Atlas Linguistique de la France, 清宮貴博、伊藤玲子と共著, *Flambeau* 44, 135-148, 2019. (<http://repository.tufts.ac.jp/bitstream/10108/92923/1/Flambeau+44-8.pdf>)
- ・Pomme de terre “potato” in French –A Geolinguistic Analysis of Lexical Variation, *Flambeau* 43, 38-52, 2018. (<http://repository.tufts.ac.jp/bitstream/10108/91130/1/Flambeau+43-3.pdf>)
- ・Reflexion géolinguistique sur le mot sel, *Géolinguistique* 17, 7-22, 2018, Centre de Dialectologie, GIPSA-lab, UMR5216, Université Grenoble Alpes (<https://journals.openedition.org/geolinguistique/355>)
- ・フランス語における「雌馬 jument」再考, 語学研究所論集 22, 1-18, 2017 年. ([http://www.tufts.ac.jp/common/fs/ilr/contents/ronshuu/22/jilr\\_22\\_article\\_kawaguchi.pdf](http://www.tufts.ac.jp/common/fs/ilr/contents/ronshuu/22/jilr_22_article_kawaguchi.pdf))
- ・How Can We Depict Standardization in the Linguistic Atlas? Case Study of Champagne and Brie (ALCB), *Philologica Jassyensia* 24.4, 237-250, 2017. ルーマニアの人文科学雑誌 ([http://www.philologica-jassyensia.ro/upload/XII\\_2\\_KAWAGUCHI.pdf](http://www.philologica-jassyensia.ro/upload/XII_2_KAWAGUCHI.pdf))
- ・*La prononciation du français dans le monde Du natif à l'apprenant*, CLÉ International, 264p., 2017, 編者: Sylvain Detey, Isabelle Racine, Yuji Kawaguchi, Julien Eychenne (sous la direction de)

### 石 汝杰

- ・明清時代の吴语人称代词“大家”, 《熊本学園大学文学・言語学論集》第 26 卷第 2 号 (通巻第 51 号), 63-73, 2019 年.
- ・吴语字和词的研究, 上海教育出版社, 185pp., 2018 年, 单著.
- ・现代上海方言的多种来源与方言岛理论, 吴声越韵 (陈忠敏、陶寰选编), 复旦中文学科建设丛书・吴语研究卷, 商务印书馆, 425-444, 2017 年.

## 沢木幹栄

- ・変わりゆく徳之島方言(琉球方言)と文献研究, 方言の研究, 第 5 号, 51-63, 2019 年.
- ・Reverend Grootaers's Contributions to Linguistic Geography in Japan, *Dialectologia, Special Issue*, 8, 2019. (電子ジャーナル)

## [2] 学会等における口頭発表

### 岩田 礼

- ・漢語方言における語彙変化の特徴:時間詞二題, 日本中国語学会「中国語学セミナー」, 東京大学本郷キャンパス, 2019.09.07. 招待講演
- ・词源的探讨和语言地理学, 韓国中国語学会, ソウル大学, 2018.06.01. 招待講演

### 大西拓一郎

- ・日本におけるじゃがいも方言の分布と変化—弱い固有名詞の強い力—, The 2nd The Northeast Asian Sea Region and Humanities Networks International Conference, 261-273, 釜慶大学校 (釜山市), 2019.04.27.
- ・地名と人名の地理的關係—行政域名と名字に基づく検証—, 日本地理言語学会第 1 回大会予稿集, 119-123, 青山学院大学, 2019.10.06.
- ・方言分布・言語地図データベース—時空間情報を持つ言語データ—, 公開シンポジウム 人文科学とデータベース 23, 43-50, 大阪府立大学, 2018.03.03.

### 中井精一

- ・北陸沿岸域の北方的基層と西方的基層, 2018 年度日本海学シンポジウム (日本海学機構), 富山市北日本新聞社ホール, 2019.2.
- ・奈良県東部方言の現在, 第 25 回なら学研究会, 奈良女子大学, 2019.1.
- ・和歌山県沿岸域の言語動態, 地域活性化シンポジウム: 日本社会の変容と伝統文化(田辺市方言に注目して), 田辺市中央公民館, 2019.1. (招待講演)
- ・大阪市～田辺市間方言グロットグラムから見た敬語体系の変化, 地域言語研究会平成 30 年度研究発表会, 大阪府立大学 I-site なんば, 2018.8.
- ・無敬語地帯の言語行動とその背景, 地域言語研究会平成 29 年度研究発表会, 大阪府立大学 I-site なんば, 2017.7.

### 川口裕司

- ・ALF936 OIE (ガチョウ) の言語地理学的分析, 日本地理言語学会第一回大会, 青山学院大学, 2019.10.06, 清宮貴雅, 伊藤玲子, 川口裕司.
- ・フランス語において「教会」を表す三つの語の史的変遷, 日本地理言語学会第一回大会, 青山学院大学, 2019.10.06, 中川亮, 鈴木拓真, 川口裕司.
- ・フランス語不定代名詞 on について① —on の諸用法とその通時的考察—, ロマン語学会第 56 回大会, 京都大学, 2018.05, 中川亮, 鈴木拓真, 川口裕司.
- ・語彙の多様性と歴史的変遷—Eclair と Pomme de terre—, フランス語学会談話会「フランス語の多様性」, 早稲田大学, 2017.07.22.
- ・フランス語 SEL「塩」の語形変化—言語地理学的再考—, 日本ロマンス語学会第 55

回大会, 神田外語大学, 2017.05.20-21.

### 石 汝杰

- 歴史文献和現代方言研究の關係, 第六届中国語言資源国際學術研討会, 浙江師範大学 (中国金華), 2019.9.23.
- 研読經典文献 推進吳語研究, 記念趙元任『現代吳語的研究』出版 90 周年 第 10 届国際吳方言研討会, 杭州師範大学, 2018.11.3.
- 蘇州周辺方言境界的語言地理學研究, 現代言語学高端論壇, 復旦大学, 2018.5.20.
- 近代漢語吳方言文献集成結項報告及相關問題研究, 「近代漢語方言文献集成」結項報告会, 山西大学學術交流中心, 2018.1.13.
- 吳語文献中的官話, “近代官話研究的新視野: 以對音資料和異域記載為中心” 国際學術研討会, 南開大学, 2017.9.2.

### [3] 地図集のウェブ公開

2019/12/13 岩田礼編《汉语方言解释地图》INTERPRETATIVE MAPS of CHINESE DIALECTS (白帝社, 2009 年出版) を下記のホームページで公開.

<http://chinesedialectgeography.jp/>



# Contrastive Geo-linguistics: An Introduction

Iwata, Ray

Komatsu University

## 1. Background

This project addresses the traditional view of linguistic geography, which aimed to establish dialectology as an historical linguistic domain. It argues for the need to re-evaluate the contributions of early European dialectologists, as represented by Jules Gilliéron and Albert Dauzat. In Japan, there were also dialectologists who performed research in the same way as the European tradition, notably the late Professor Yoshio Mase.

In China, ever since Bernhard Karlgren's *Etudes sur la phonologie Chinoise* (1915–1926), the tradition of historical linguistics has treated dialects as convenient tools for reconstructing “Old Sounds,” and a main trend in historical linguistics still remains in the establishment of sound correspondence among dialects. As a result, Chinese dialectology emphasizes classification and demarcation of dialects (The Australian Academy of the Humanities and the Chinese Academy of Social Sciences 1987, The Chinese Academy of Social Sciences 2012).

A crucial problem with this trend is that, despite early criticism by Willem Grootaers of Karlgren (Grootaers 1943, 1945), researchers are generally unaware of the function of unmechanical factors, such as folk-etymology, phonetic attraction, and analogy, which essentially relate with the issue of motivation of lexical change. This lack of focus on the actualities of lexical change has led researchers to erroneous assumptions within etymology.

Traditional dialectology, which focuses on rural dialects, is declining. In European research, it has, to a great extent, been replaced with urban dialectology and sociolinguistics. The same situation exists in China due to rapid urbanization of rural areas and standard language education. However, the descriptive tradition is still vital in China because of the preservation of large rural areas. Hence, there are still sufficient grounds for applying the linguistic geography method to this particular field (Iwata 2016).

However, interpreting linguistic maps is a difficult task since, unlike sound correspondence in comparative methods, there is no single formula for interpretation. This is because linguistic change, especially lexical change, is governed by numerous non-mechanical factors, including extra-linguistic ones, and triggering such factors depends on chance. While a great deal of empirical evidence has been accumulated in this field (refer to Iwata 2009, 2012 for Chinese dialects), it is necessary to

integrate the relevant data for accurate interpretation. The Contrastive Geo-linguistics method has been developed to contend with such historical issues.

## 2. Aim and method

The target languages for this project are Japanese, French and Chinese (Han Chinese) because they have all been subjected to successful dialectal research. Therefore, they are worth studying from a contrast point of view. This project challenges two types of observation by choosing relevant maps for each language:

- A. Phenomenon-based contrastive observation
- B. Item-based contrastive observation

The type A observation is concerned with the pattern of geographical distribution, disregarding the difference of lexical items (concepts) and the surveyed area size. Meanwhile, the type B observation compares the maps of different languages which display distribution of identical items (concepts). Through these contrasting observations, this project will achieve the following aims:

- (1) To reveal language universal in linguistic change; the same lexical change trend is at work across genetically unrelated languages.
- (2) To formalize the mechanism of lexical change, and to minimize the non-arbitrary nature of interpreting lexical maps.
- (3) To account for the influence of non-linguistic factors on lexical change.

As for “item-based contrasting observation,” maps and discussions concerning the item *potato* (*pomme de terre*), were referenced and are included in this volume.

## 3. Phenomenon-based contrastive observation: an instance of homonymic collision

The following three maps (Maps 1-3) all exhibit the distribution pattern of “North vs. South” contrast; more significantly, all exhibit a complementary distribution in terms of referents (x, y) of one specific form (P). Based on the generalization proposed by Mase (1994:56-58), this distribution pattern is sketched as Fig.1.

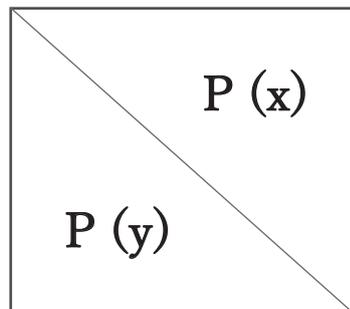
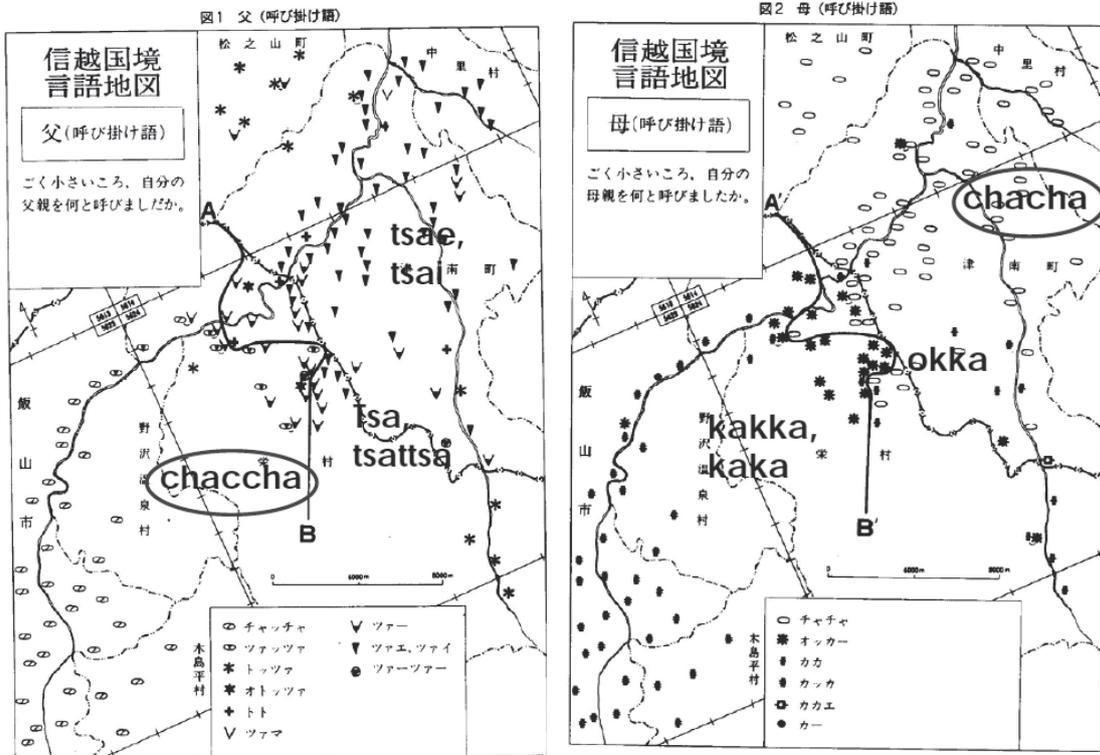


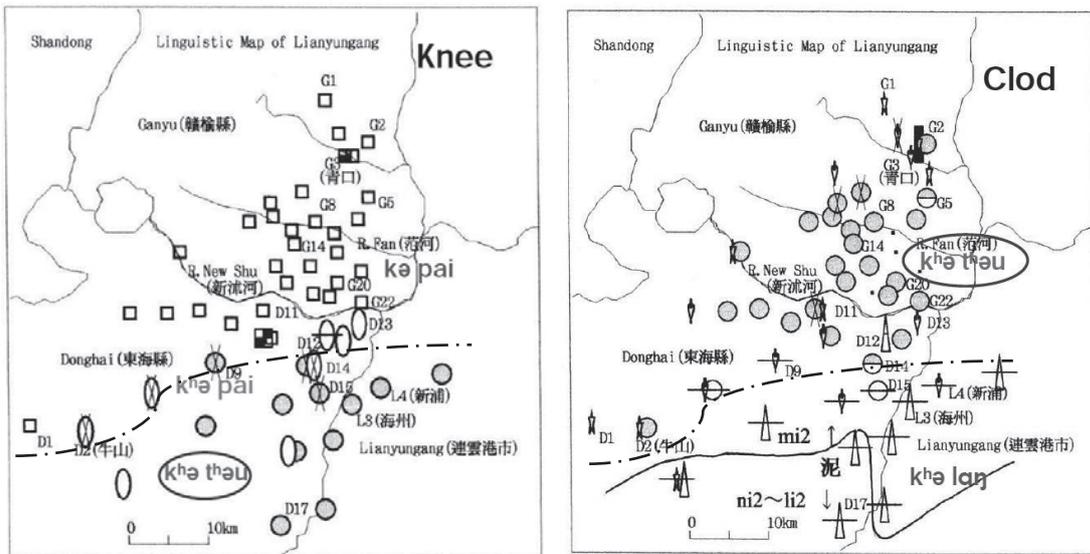
Fig. 1 Homonymic collision and complementary distribution

Map 1 Japanese (Mase 1994: 116-7)



“Father” and “Mother” on the Nagano-Niigata Prefectural border

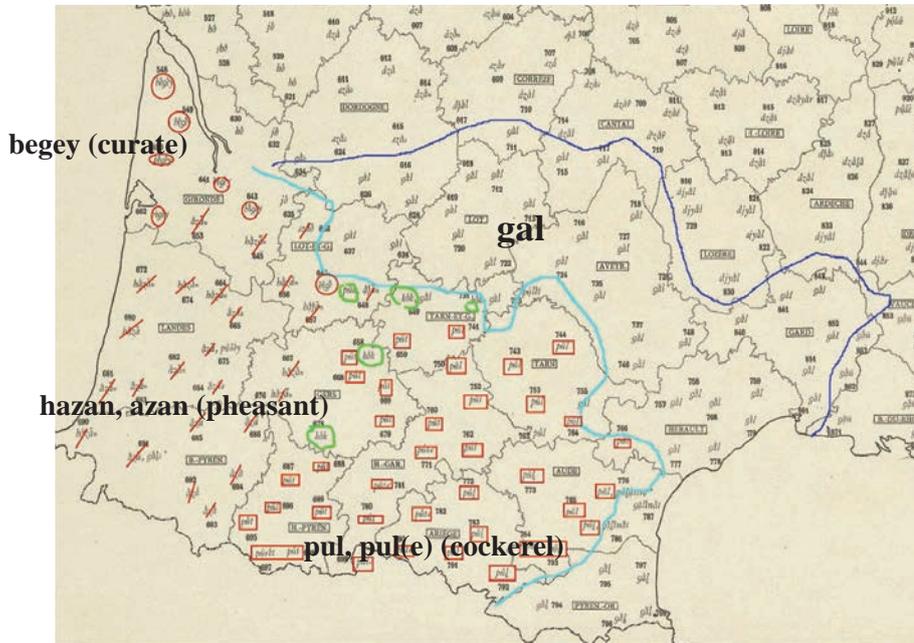
Map 2 Chinese (Iwata 2006: 1041)



“Knee” and “Clod” on the dialectal border of Northern and Southern Mandarin

Map 3 French (ALF0320, ALF0250)

Cock



Cat



“Cock” and “Cat” in the South of France

3-1 Distribution pattern

Following Mase’s generalization, the figures below illustrate the distribution patterns for Maps 1-

3 as Fig.2-4.

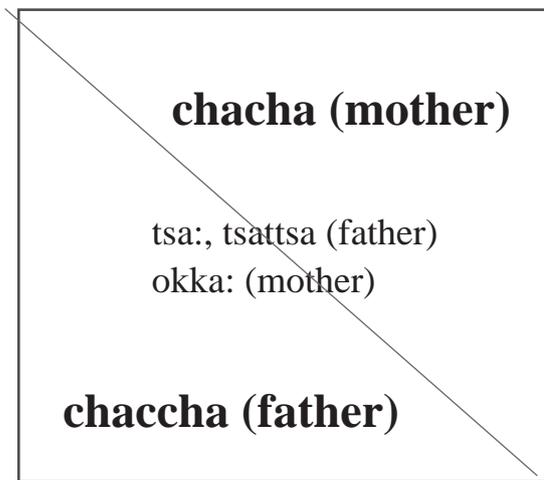


Fig. 2 Japanese “father” and “mother”

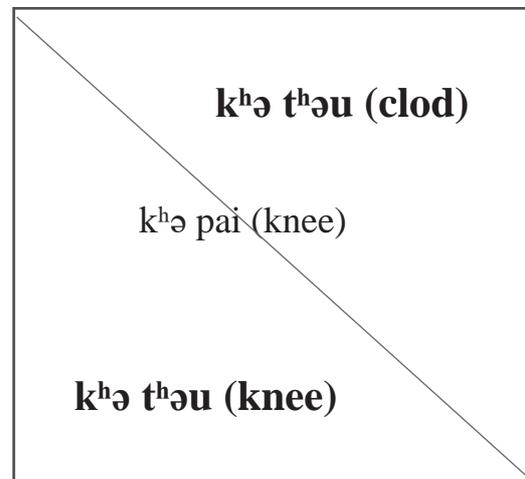


Fig. 3 Chinese “knee” and “clod”

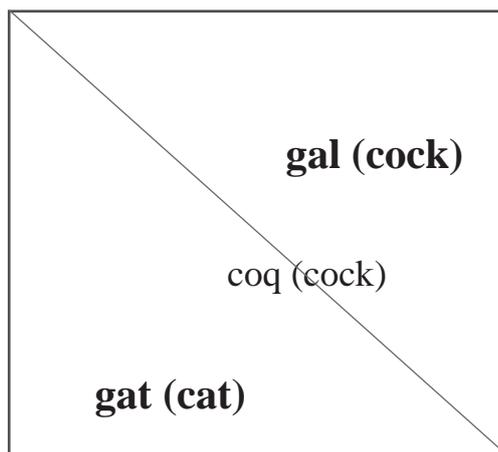


Fig. 4 French “cat” and “cock”

### 3-2 Homonymy

It is noted here that the two forms appearing in the top and the bottom of Fig. 2-4 are not necessarily exact homonyms.

Concerning Fig. 2 (Japanese), the form “chaccha” for “father” contains a geminate, which is absent in the form “chacha” for “mother.”

Concerning Fig. 3 (Chinese), the vocalism and tone of 1<sup>st</sup> syllable “khə” are not necessarily identical between “knee” and “clod.” (Iwata 2006: 1042-3)

Concerning Fig. 4 (French), this is a well-known case of homonymic collision. Below the phonetic isoline (colored in light blue in the upper map), a regular phonetic change was supposed to make the form “gall” meaning “cock” change to “gat”; however, it clashed with the same form meaning “cat.”

Above the isoline, the phonetic change rule was not applied to the form for “cock;” thus the final - l has been retained, namely “gal.”

From this, we can state that the formula shown in Fig. 1 should be modified to  $P(x)/P'(y)$ . Yet the dialects have evidently avoided homonymic collision by the two forms composing a complementary distribution in a specific geographical area.

### 3-3 Breakwater

Facing the crisis of a homonymic clash, dialects often create a “breakwater” by any means practicable in the dialectal border to prevent such a clash.

Concerning Fig. 2 (Japanese), the form “tsa:” as well as the reduplicated form “tsattsu” for “father” may be a retention of older forms, which changed to “tsai,” “tsae” and “tottsua” to the north of the boundary, but changed to “cha:” and “chaccha” to the south (Iwata 2017:205-6). The form “okka:” is prevalent in other Japanese dialects as well, and it is the form used by members of upper social classes (Mase 1992: 115).

Concerning Fig. 3 (Chinese), Map 2 shows that the form “k<sup>h</sup>ə pai,” meaning “knee” (indicated by a vertical ellipse), appears exactly in the area where “k<sup>h</sup>ə t<sup>h</sup>əu” for “knee” and that for “clod” confront. This form “k<sup>h</sup>ə pai” may be a blended form, created by the contact of northern “kə pai” and southern “k<sup>h</sup>ə t<sup>h</sup>əu” (Iwata 2006: 1043-4).

Concerning Fig. 4 (French), in French “cock,” a standard form [coq] emerged from a compromise around the isoline as well as its southern neighboring villages (circled in light green).

### 3-4 Motivation for change

#### (1) Change induced by mechanical factors

Lexical change should not occur without a specific motivation, which is usually reflected in the inducement of non-mechanical factors, such as folk-etymology, phonetic attraction and analogy. The term *non-mechanical* implies a capricious application of these factors, instead of forced application of a rule, which would, typically, be sound law. In this sense, the conflict between “cock” and “cat” that we see on Map 3 is exceptional. In this case, applying a regular sound change rule -ll>-t made the word meaning “cock” (vulgar Latin “gallus”) clash with the word meaning “cat,” i.e., “gat,” and the areas that underwent the application of this rule replaced the forms for “cock” with such forms such as “pul” (cockerel), “hazan” (pheasant), and “begey” (curate). Cf. Dauzat (1922:65-67, Japanese translation 1958: 81-83).

#### (2) Change induced by non-mechanical factors

As for the Japanese for “father” and “mother” (Map 1) and Chinese “knee” and “clod” (Map 2), both changes were induced by a non-mechanical factor, which can be compared to the partnership of two referents.

As for Map 1, the change scenario proposed by Iwata (2017:205-6), was a modified version of Mase (1992:114-8) and is summarized as follows:

1. Originally there was no northern vs. southern opposition in terms of word form, and the whole area simply used the forms “tsa:” for “father” and “chacha” for “mother.” As mentioned above, “tsa:” is still retained on and around the present border.
2. Later, a change occurred in the southern area. Either analogical association or phonetic attraction made the form “tsa:” for “father” change to “cha:,” then, to “chacha,” the form used for “mother.”
3. In order to avoid the homonymic collision that should have occurred in the southern area, the form for “father” changed from “chacha” to “chaccha.” However, “mother” eventually conceded its form to “father,” and accepted the form “kaka” or “kakka,” which had existed in and intruded from the southern area outside this map. Note that, phonetically, this change is an alternation of just one consonant, from [ch] to [k].

The complementary distribution appearing on Map 2 may be surprising in the sense that these two objects, “knee” and “clod,” belong to different semantic categories; hence, they would seem to tolerate the collision. Nevertheless, dialects obey a strict rule of avoiding the co-use of “k<sup>hə</sup> t<sup>həu</sup>” for the two objects, suggesting that this collision was truly intolerable. This situation was due to an accidental encounter of northern and southern forms.

To begin with, northern “k<sup>hə</sup> t<sup>həu</sup>” for “clod” is the result losing its infix “lə” in the form “k<sup>hə</sup> lə t<sup>həu</sup>,” which is widespread in the northern area situated outside Map 2. Meanwhile, the southern “k<sup>hə</sup> t<sup>həu</sup>” has become the form for “knee” through the following changes, indicating an interaction between “clod” and “knee” within southern area (Iwata 2006: 1046-1049):

“clod” \*f<sup>ə</sup> t<sup>həu</sup> > k<sup>hə</sup> t<sup>həu</sup> (k<sup>hə</sup> t<sup>həu</sup>)

“knee” \*k<sup>hə</sup> t<sup>həiə</sup> t<sup>həu</sup> > k<sup>hə</sup> t<sup>həu</sup> (k<sup>hə</sup> t<sup>həu</sup>)

The vowel in the initial syllable floats between [ə] and [ɐ], so this difference is not phonemic. The two forms with asterisks are attested outside the area shown on Map 2 although the semantics of “f<sup>ə</sup> t<sup>həu</sup>” is not unique, “dry soil,” “clod dug out from the cultivated field,” and “clod.” Similar to the case in Map 1, it is assumed that either semantic association or phonetic attraction made the initial consonant [f] in “f<sup>ə</sup> t<sup>həu</sup>” (clod) change to [k<sup>h</sup>]. *Semantic association* here means a similar configuration between “knee” and “clod,” and it can also be referred to as *folk-etymology*. Later, the form “k<sup>hə</sup> t<sup>həiə</sup> t<sup>həu</sup>” for “knee” was attracted by the form for “knee,” namely “k<sup>hə</sup> t<sup>həu</sup>,” thus falling in the crisis of homonymic collision. The winner of this clash was “knee” owing to its higher frequency of usage than ‘clod,’ which therefore was forced to change its form. Two kinds of remedies were prescribed for “clod” to avoid the collision. One was to change the vowel of the initial syllable from [ə] to [ʊ], and another was to replace the second syllable “t<sup>həu</sup>” with “l<sup>əŋ</sup>.” Note that the form “k<sup>hə</sup> l<sup>əŋ</sup>” originally denoted “small hole on the ground.”

### 3-5 Results of change

The three maps show that the formation of geographically complementary distribution is a result of change occurring on either side of the area where two potential homonyms met. However, it is merely coincidental that crucial changes occurred in the southern area in all the instances reviewed (Japanese, Chinese, and French).

Homonymic collision inevitably results in one winner and one defeater.

	Japanese 'father'/'mother'	Chinese 'knee'/'clod'	French 'cat'/'cock'
Winner	father	knee	cat
Defeater	mother	clod	cock

The defeater's disposal could be variable. In Chinese and French, it was a rendition of the forms from neighboring semantic fields, i.e., the form meaning "small hole on the ground" for Chinese "clod," the forms meaning "cockerel" and "pheasant" for French (the form designating "curate" may have come from an association of configuration with an arrogant assistant priest). As for Japanese "mother," it rendered to the form used by people of higher social status.

Finally, but importantly, it is noteworthy that defeaters' original forms were pasted and retained in the winners' forms: "chaccha" in Japanese "father," "k<sup>h</sup>ə t<sup>h</sup>əu" in Chinese "knee," and in the case of French, "gat" for "cat" was the form that "cock" expected to take.

### 4. Conclusions

- (1) If we find a complementary distribution of one specific form P or P' on the map, regarding the two referents x and y, it is probably the result of dialects' attempts to avoid homonymic collision.
- (2) If we find somewhat odd forms, such as blended forms, old forms or standard forms, on or around the border of P (x) and P (y), they are probably the results of dialects' building a breakwater to avoid clash.
- (3) Formation of geographically complementary distribution is a result of change which occurred in either one side or the other within an explored area.
- (4) Within such an area, the changes which could have brought about a homonymic collision are motivated and triggered by either mechanical factors (i.e., regular sound change) or non-mechanical factors, such as analogical and semantic association and phonetic attraction.
- (5) Homonymic collision results in one winner and one defeater. The disposal of defeater for filling with the gap is to render the forms from neighboring semantic fields or to render the forms that are used by the people of higher status, while the defeater copies its original form and pastes it on the face of winner.

## References

- The Chinese Academy of Social Sciences and the Australian Academy of Humanities (1987) *Language Atlas of China* (Zhōngguó Yǔyán Dìtújí), Pacific Linguistics, Series C, No. 102, Hong Kong, Longman Group (Far East) Ltd.
- The Chinese Academy of Social Sciences (2012) New edition of *Language Atlas of China* (Zhōngguó Yǔyán Dìtújí), Beijing, Shangwuyin Press.
- Dauzat, Albert (1922) *La géographie linguistique*, Paris, Librairie Ernest Flammarion. [Japanese translation by H. Matsubara and K. Yokoyama (1958) *France Gengo Chirigaku* フランス言語地理学, Tokyo, Daigaku Shorin].
- Grootaers, Willem A. (1943) *La géographie linguistique en Chine, Nécessité d'une nouvelle méthode pour l'étude linguistique du chinois, Première Partie: La method de la géographie linguistique*. Peking: *Monumenta Serica*, VIII, 103-166.
- Grootaers, Willem A. (1945), *La géographie linguistique en Chine, Nécessité d'une nouvelle méthode pour l'étude linguistique du chinois, Seconde Partie: Une frontière dialectale dans le Nord-est du Chansi*. Peking: *Monumenta Serica*, X, 389-426.
- Iwata, Ray ed. (2009) *The Interpretative Maps of Chinese Dialects*, Tokyo, Hakutei-sha.
- Iwata, Ray ed. (2012) *The Interpretative Maps of Chinese Dialects*, Volume Two, Tokyo, Kobun Press.
- Iwata, Ray (2006) Homonymic and Synonymic Collisions in the Northeastern Jiangsu Dialect: On the formation of geographically complementary distributions. *Linguistic Studies in Chinese and its Neighboring Languages: Festschrift in Honor of Professor Pang-hsin Ting on His Seventieth Birthday*. Language and Linguistics Monograph Series No. W-6, *Taipei: Academia Sinica*, 1035-1058.
- Iwata, Ray (2016) *Chinese Dialect Geography (Geolinguistics)*. Rint Sybesma (Editor-in-Chief), *Encyclopedia of Chinese Language and Linguistics* (5 Volumes), Brill.
- Iwata, Ray (2017) *Goihenka ni kakawaru gengo chirigakuteki youin no saikentou* [Rethinking the geolinguistic factors contributing to lexical changes], *Hougen no Kenkyu* [Studies in Dialect], No. 3, Dialectological Circle of Japan, 183-216.
- Mase, Yoshio (1992) *Gengo chirigaku kenkyu. Studies in Linguistic Geography*. Tokyo, Ohu Press.

# 混交・民間語源・類音牽引・同音衝突

大西拓一郎（国立国語研究所）

## 1. 混交 (blending)

### 1.1 混交とは

日本の言語地理学では、言語接触が生じた際に相互の語形が混じり合って新たな語形が生じることを混交と呼んできた。簡潔にモデル化すると次のようになる。

ab (A 方言) + cd (B 方言) → ad (AB 方言の境界地域)

これは A 方言と B 方言が空間的に接していて、双方に接触が生じた場合に、双方の境界地域において、A 方言の語形 ab と B 方言の語形 cd が混ざり合い、新たに ad のような語形が発生することを表す。

具体的には、「肩車」において、関東地方東部に分布するカタウマと関東地方周辺部に分布するテングルマが接触した結果カタグルマが発生した、「恐ろしい」を表すオソロシーとコワイの接触で中部地方のオソガイが生まれた、というような事例である（『方言の地図帳』<sup>1</sup>「肩車」「恐ろしい」）。

「混交」という術語は、コンタミネーション (contamination) ともブレンディング (blend, blending) とも訳が与えられることから理解されるように多義的である。おもに上記のような事例が混交と呼ばれてきたが、これは後者に該当すると考えられる。また、このような事例の一部は「複合」とされることもある（『方言の地図帳』『方言の誕生』）。

一方、前者のコンタミネーションにあたるケースは、民間語源に該当するとされることもあるが、これについては、本稿 2 節「民間語源」で述べる。

ここでは、従来からの見解に従い、複数の語形の組み合わせから生じる言語変化を「混交」として扱うことにする<sup>2</sup>。

### 1.2 混交の研究文献

混交に関する研究文献は、次の 6 件が知られる。

沢木幹栄 (1987) 「言語地図に見るコンタミネーション」『言語生活』429、pp.60-64

---

<sup>1</sup> 佐藤亮一監修 (2002) 『お国ことばを知る 方言の地図帳』小学館 (佐藤亮一編 (2019) 『方言の地図帳』として講談社学術文庫に収録)。

<sup>2</sup> 本節は、2017 年 8 月に国立国語研究所を会場として開催された第 16 回 METHODS (Methods in dialectology、国際方言学方法論学会) において、Reconsideration of blending changes in Kamiina dialect. として口頭発表した内容をもとにする。

丹羽一弥 (1986) 「混交の様子」『名古屋・方言研究会会報』3、pp.51-60

馬瀬良雄 (1981) 「方言分布からみた「混淆」」『方言学論叢 I 方言研究の推進』三省堂、pp.255-275

山田健三 (1985) 「めだかとコンタミネーション 長野・静岡・愛知県境域」『名古屋・方言研究会会報』2、pp.61-71

山田健三 (1986) 「言語地図にみるコンタミネーションの諸相」『名古屋・方言研究会会報』3、pp.41-49

中でも先駆的かつ代表的なのが、馬瀬 (1981) である。馬瀬自身による方言地図集『上伊那の方言』<sup>3</sup>をもとに約 50 件の事例を取り上げて分析する。なお同論は、後日、馬瀬良雄 (1992) 『言語地理学研究』(桜楓社) に再録されるが、オリジナル論文の末尾に記されている「蒲公英」と「萱草」は別扱いになっている。

以下、馬瀬 (1981) をもとに混交について考察する。

### 1.3 混交の検証

上記の通り、馬瀬 (1981) は『上伊那の方言』から約 50 件の混交の具体例を示す。元データが方言地図であるから、当然のことながら分布についても言及されるが、「萱草」と「蒲公英」を除き、分布図は示されていない。そこで、取り上げられているすべての事例について分布図を描き直し、馬瀬の主張を検証してみた<sup>4</sup>。

たとえば、「いろり」の場合、ヒジロとヒバタの混交の結果、双方の境界地域でヒジロバタが発生する様子が、図 1 のように確認される。

また、「片足跳び」を表すチンカ°ラとシンコ°ロの境界地域にこれらの混交形であるチンコ°ロが分布していることが、図 2 のように現れている。

ほとんどのケースで馬瀬 (1981) の主張の正しいことが、地図上で検証された。

その一方で、「そばかす」のヘークロについては、再考を要することがわかった。以下では、「そばかす」のヘークロ、また、「そばかす」におけるもうひとつの混交形とされるハークソについて検討する。

### 1.4 馬瀬 (1981) の「そばかす」

馬瀬 (1981) は「そばかす」について、同じ素材から二通りの混交が起こったとする。ここではそれぞれを A、B とする。等号の右側の下線部の混交により、等号の左側の形が発生したとする。

A  $\text{ヘークロ} = \text{ハークロ} + \underline{\text{ヘークソ}}$

B  $\text{ハークソ} = \underline{\text{ハークロ}} + \text{ヘークソ}$

---

<sup>3</sup> 馬瀬良雄 (1980) 『上伊那の方言』上伊那誌刊行会

<sup>4</sup> 各図の XY (混交の素材語形) や fb (それらの前後半) は馬瀬 (1981) に従う。

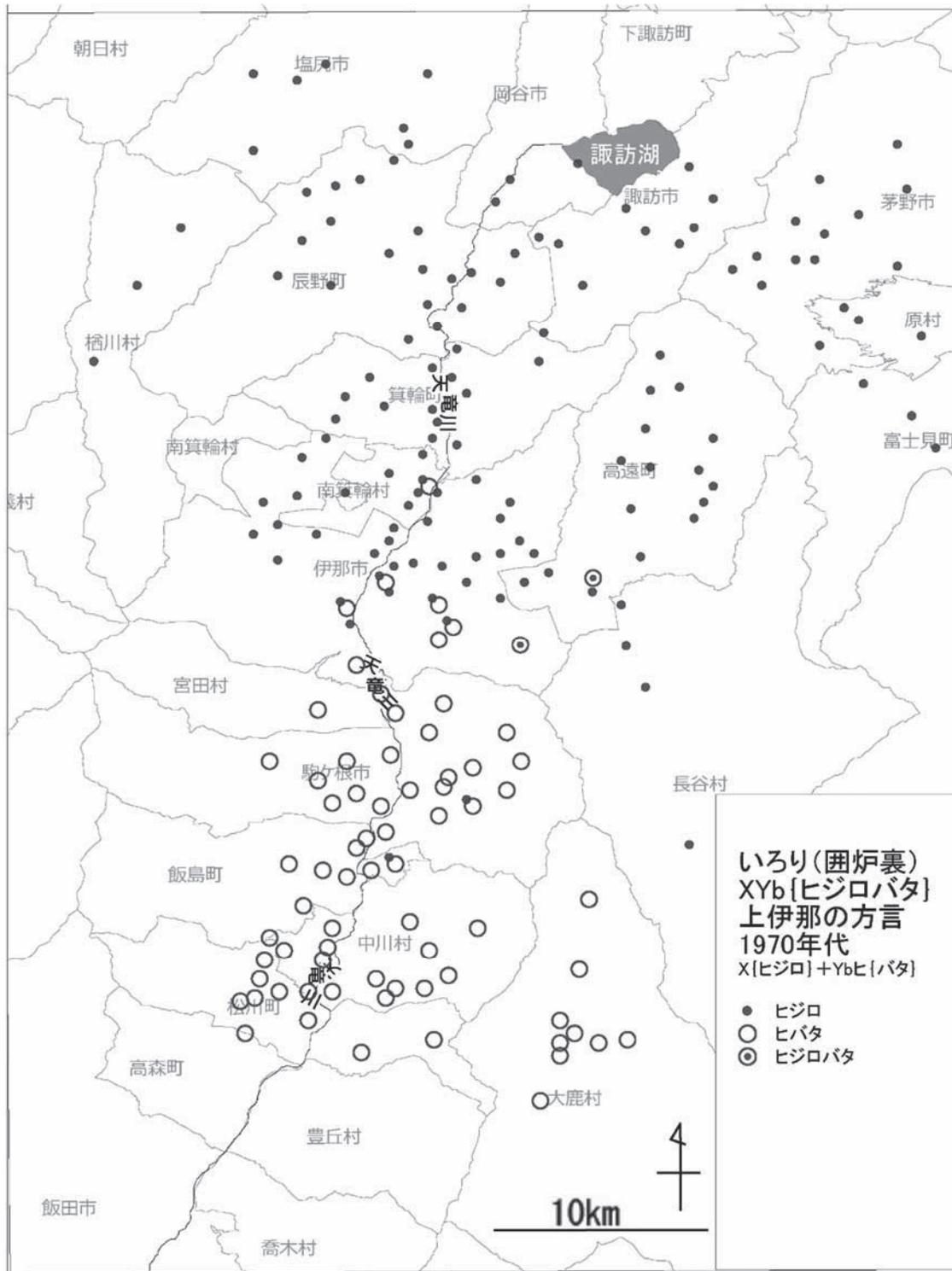


図1 「いろいろ」におけるヒジロとヒバタの混交によるヒジロバタの分布



このように同じ素材から異なる変化が発生することについて、馬瀬(1981)は特段の制限を設けておらず、「そばかす」のほかにも「片足跳び」「床ずれ」「あぶ」「迎え火」「針のめど」「蛍袋」の例が見いだせる。以下も下線部は混交のもとになったとされる箇所である。

「片足跳び」

シンカ° ラ = チンカ° ラ + シンコ° ロ  
チンコ° ロ<sup>5</sup> = チンカ° ラ + シンコ° ロ

「床ずれ」

ネズレ = ネダコ + トコズレ  
ネドコ = ネダコ + トコズレ

「あぶ」

ウマアブ = アブ + ウマサシ  
サシアブ = アブ + ウマサシ

「迎え火」

ムカエマンドー = マンドー + ムカエビ  
マンドービ = マンドー + ムカエビ

「針のめど」

ミゾ = m e d o + m i z u  
メゾ = メ d o + ミ z u

「蛍袋」

アメンボロ = ボンボコ + アメツプリ + ホッタ ロバナ  
アメツボロ = ボンボコ + アメツプリ + ホッタ ロバナ

#### 1.5 ヘークロ（そばかす）の分布の問題

前節で A とした変化、ハークロとヘークソの混交によりヘークロが生まれたとされることについて、分布を確認してみる。図3が「そばかす」を表すヘークロ・ハークロ・ヘークソの分布である。

地図の北側（諏訪から伊那北部）にハークロがまとまっている。そして、その南側の宮田村・駒ヶ根市にヘークソがまとまる。ちょうどそれらの境にヘークロが帯状に分布しており、ここを見る限り、ハークロとヘークソがぶつかりあい、それらの狭間で見事に混交が起こり、その結果、ヘークロが生み出されたように見える。

ただし、注意したいのは、さらに南側、すなわち伊那谷でも下伊那と呼ばれる地方に近い松川町・中川村・大鹿村などにもヘークロがまとまって分布することである。つまり、衝突が確認されない南の下伊那側にもヘークロが存在するわけであり、この点に留意するなら、A とした変化をそのまま認めることはできず、再考と検証を要する。

---

<sup>5</sup> 図2 参照

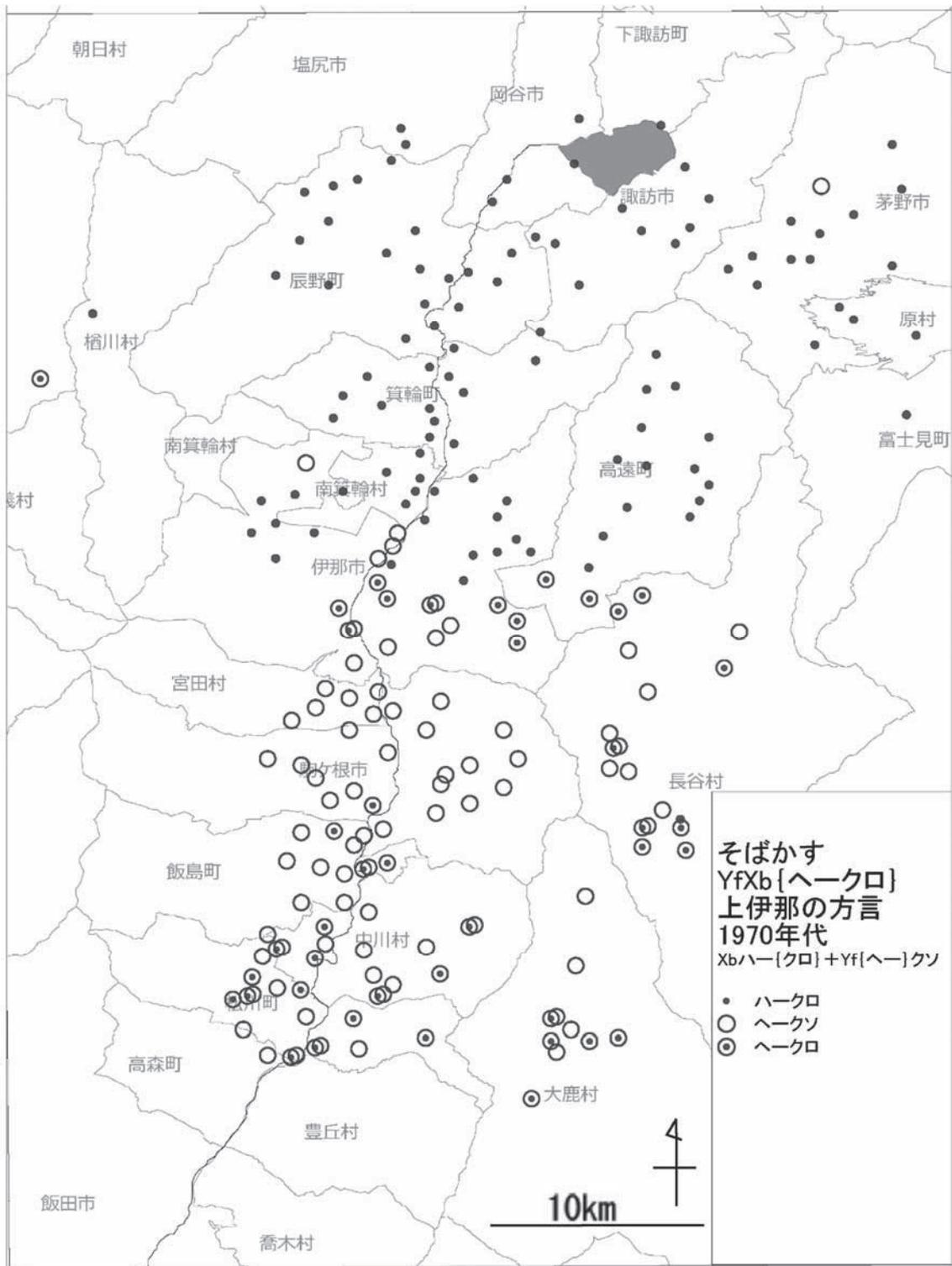


図3 「そばかす」におけるハークロ・へークソ・へークロの分布

## 1.6 地理的条件（地形・河川・道路）との照合

ハークロとヘークソの境界で帯状に現れるヘークロの分布について、地形・河川・道路といった地理的条件との関係を検討してみよう。

ヘークロの分布について、標高をもとに地形と重ねてみたのが図 4 である。東から西に広がる扇状地の南側にヘークロの分布が偏っていることが明らかである。

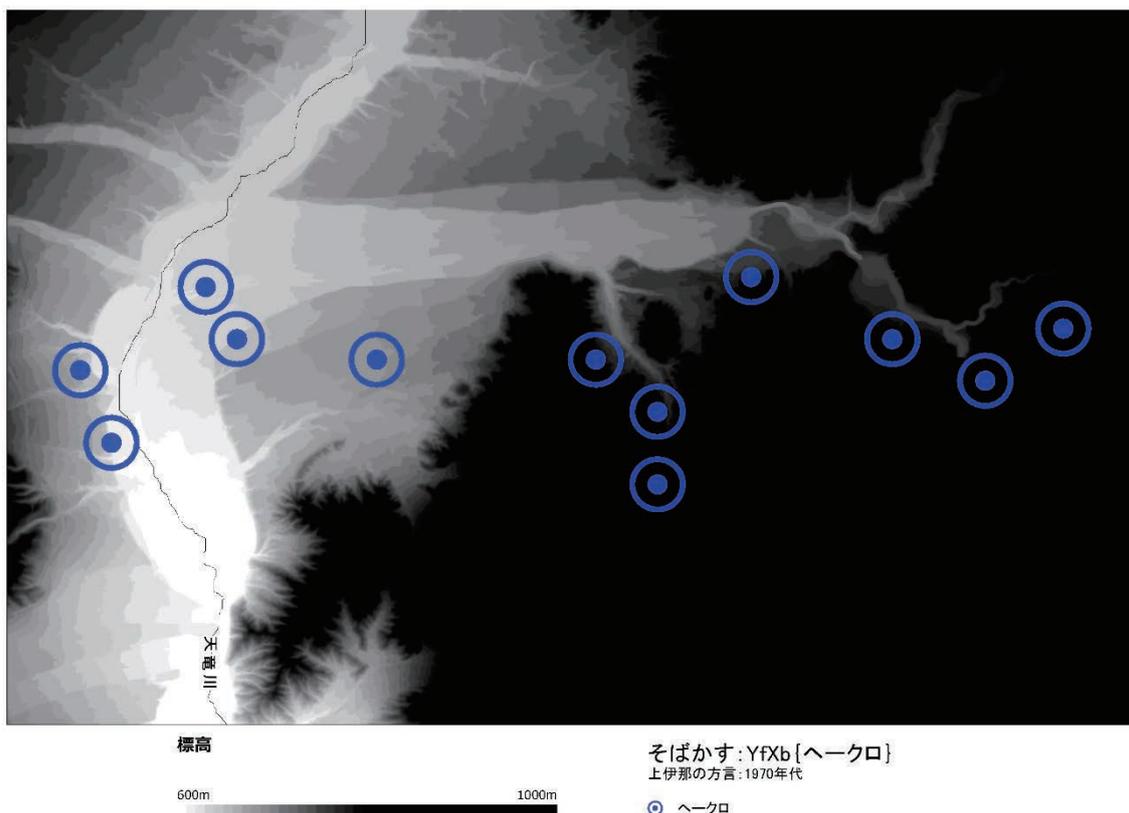


図 4 ヘークロの分布と地形

次に河川・道路との関係を見てみよう。図 5 は「そばかす」のハークロ・ヘークソ・ヘークロの分布と三峰川・国道 361 号線との関係を示している（矢印については後述）。三峰川は天竜川に流れ込む支流であるが、東側のダム湖が示すように氾濫を繰り返し、治水の歴史とともにある河川である。国道 361 号はその三峰川沿いの右岸（北側）に設けられている。そのような河川であるから、川の両岸の行き来が頻繁であったとは考えにくい。つまり、北側のハークロと南側のヘークソを使う人びとの交流は、混交を生み出すほど顕著であったとは認めがたい。

三峰川沿いの現地を確認した写真を図 6 と図 7 に示す。図 6 は図 5 の矢印 1 の場所で、図 7 は矢印 2 の場所で撮影した。

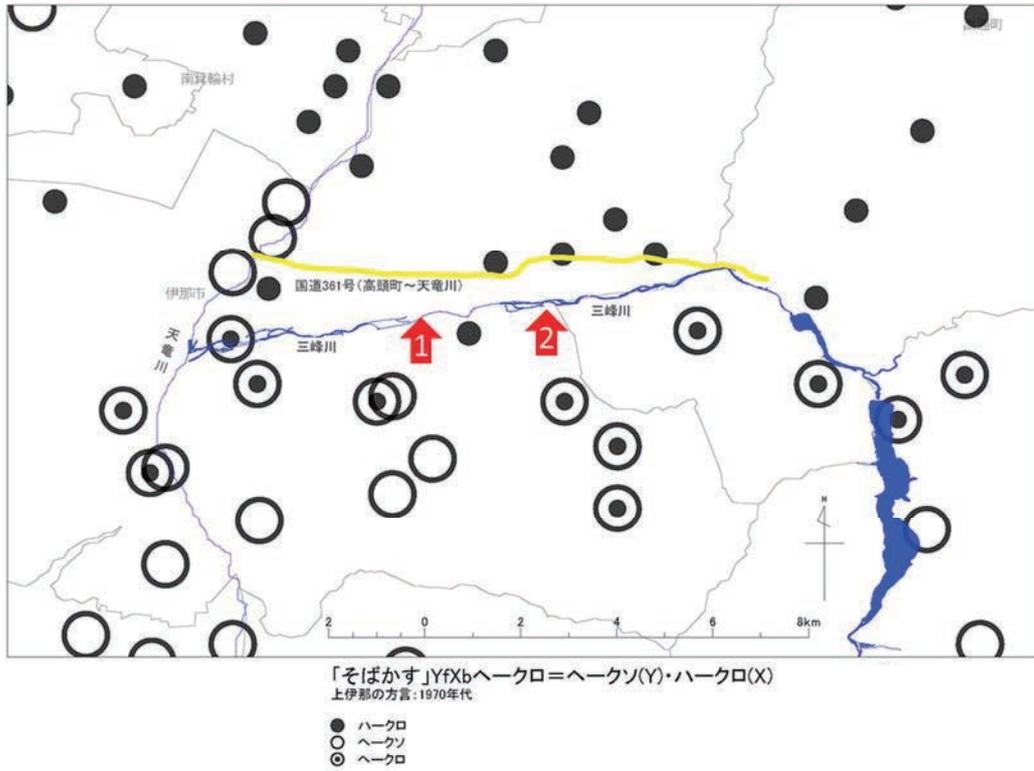


図5 「そばかす」のハークロ・ヘークソ・ヘークロと河川・道路



図6 図5の矢印1の現地確認（三峰川の上流・東側から下流・西側を臨む）



図7 図5の矢印2の現地確認（三峰川の南側を臨む）

現地を確認した11月は水量が少ないが、図6からも理解されるように河川敷はかなり広く、暴雨等による増水への対応がうかがえる。また、図7のように河川の左岸（南側）は田畑が広がり、兩岸の集落が接している様子はない。現地の実際の空間像に基づいても、ハークロとヘークソの接触、すなわちそれぞれを使う人びとの交流は考えにくいのである。

## 1.7 再解釈

以上のように分布や地理的状况に基づくなら、ハークロがハークロとヘークソの混交で生じたとは考えられない。そこで、1.4で示したAは破棄し、新たに変化過程を考えることにする。

ハークロとヘークロは南北で対立する形で分布していたと考える。1.6で見たようにハークロとヘークロは三峰川を挟んで、右岸（北側）がハークロ、左岸（南側）がヘークロとして、分布が分かれている。

『上伊那の方言』では、三峰川を挟む分布対立、つまり三峰川が境界になっているケースは以下のように多く見いだされる<sup>6</sup>（右岸（北側）／左岸（南側）のように示す）。

24 図「餅—幼児語—」オヤイヤ／ヤンヤ

37 図「父—その1—」オトッサン／オトッサマ

39 図「母—その1—」オッカサン／オッカサマ

41 図「祖父—その1—」オジーサン／オジーサマ

43 図「祖母—その1—」オバーサン／オバーサマ

45 図「中指」ナカユビ／タカタカユビ

49 図「あばた」ガー／ガンツーなど

58 図「あられ」コリコリ／モチバナ

71 図「自在鉤」カキ°／カキ°ズツ

75 図「稲架—横の棒—」ハゾキ°／ナル

83 図「物をたばねる1尋ぐらいの縄」ユイソ／イース

84 図「穂先を結んで物をたばねるわら」スケ°／イース

87 図「新木」昔から立てない／以前立てた

88 図「新木」回答無し／オニキ°

95 図「迎え火」白樺の皮／麦がら

99 図「めんこ」マルケン／ケン

102 図「お手玉」オキョク／オテンコ

111 図「おたまじゃくし」オタマ／タマクロ

112 図「蛙」ガエル・ガイル／ゲーロ

---

<sup>6</sup> Methods での発表時にこのようなケースがないか、スイスの地理学者 Péter Jeszenszky 氏が質問してくれたことで、この観点に気づいた。

- 113 図「殿様蛙」ゴット／ドンビキ  
 115 図「蟻地獄」ホッコ／ホックロ  
 123 図「便所にいる大きな蠅」クソアブ／ブンブ  
 126 図「丸花蜂」ベボ／ベーボ  
 129 図「みずかまきり」回答無し／ムイカラ・ムキ°カラ  
 130 図「あめんぼ」ツンツンムシ／カークモ・カーク°モ  
 143 図「すすめの鉄砲」フヨフキ／ピーピー  
 157 図「話した」ハネータ（昔）／ハネータ  
 158 図「出した」データ（昔）／データ  
 211 図「未だ」マダ／マンダ  
 217 図「神：アクセント」1／2  
 219 図「あれ：アクセント」0／2  
 223 図「着物：アクセント」0／2  
 230 図「油：アクセント」0／2  
 235 図「卵：アクセント」0／2  
 274 図「呉れ」クロ／クリョ  
 278 図「鳥追い—行事名—」ホッポーヤ／シシオイ  
 281 図「鳥追い棒—名称—」ホッポイボー・ホッポヤボー／シシボー  
 282 図「鳥追いの歌」穀物挙示型／呼び掛け型

つまり、「そばかす」についても他の一連の分布同様にハークロ／ヘークロという地域差があったものとする。

ヘークロの領域内に新しくヘークソが発生し、駒ヶ根市や宮田村を中心とする分布を持つことになり、ヘークロは北側と南側に分断されることになった。ヘークロからヘークソへの変化は、「そばかす」の形状による民間語源や「ク」音を共有する類音牽引がはたらいたものとする。

それでは、同じ素材から馬瀬（1981）が示した B（ハークソ＝ハークロ＋ヘークソ）はどうだろうか。図 8 はこれを表す分布図である。

上記のようにヘークソはヘークロから変化した新しい語形と考えられる。そして、その新しいヘークソがもともと分布していた北側のハークロと混交を起し、ハークソが生み出されたことになる。

そうすると、ヘークロは境界域で取り残された分布ということになる。小学校の学区との関係を示したが、図 9 である。新山小学校の学区との一致は、この学区内に古いヘークロが残ったことを示すものであろう。

一方、図 10 のように新しいハークソは高遠町側では山室集落に分布領域が限定されている。ハークソという新語形がこの集落で共有されたことを示すものと考えられる。ハークソは西側にも分布するが、個別に成立した可能性もあるだろう。

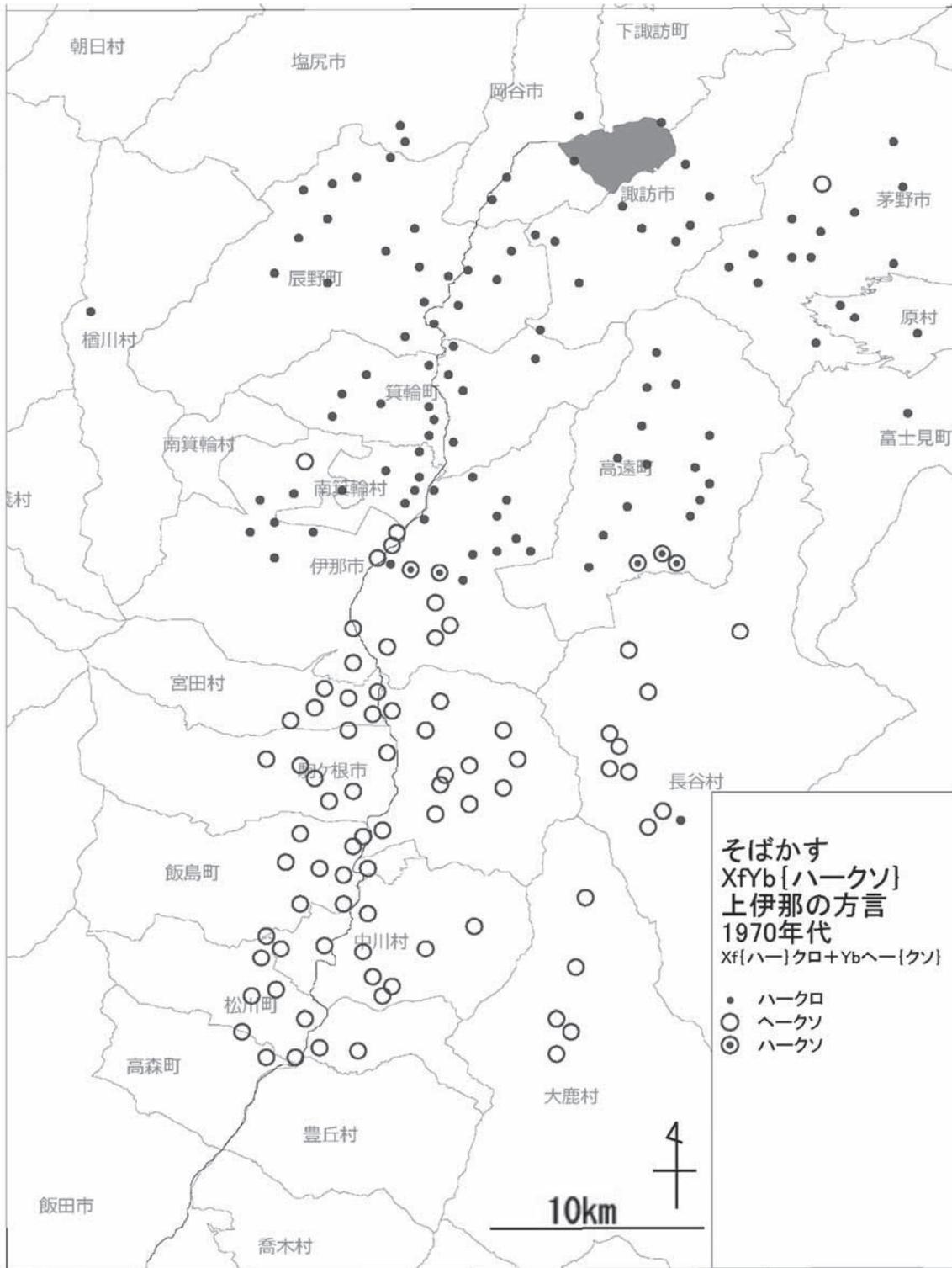


図8 「そばかす」におけるハークロとヘークソの混交によるハークソの分布

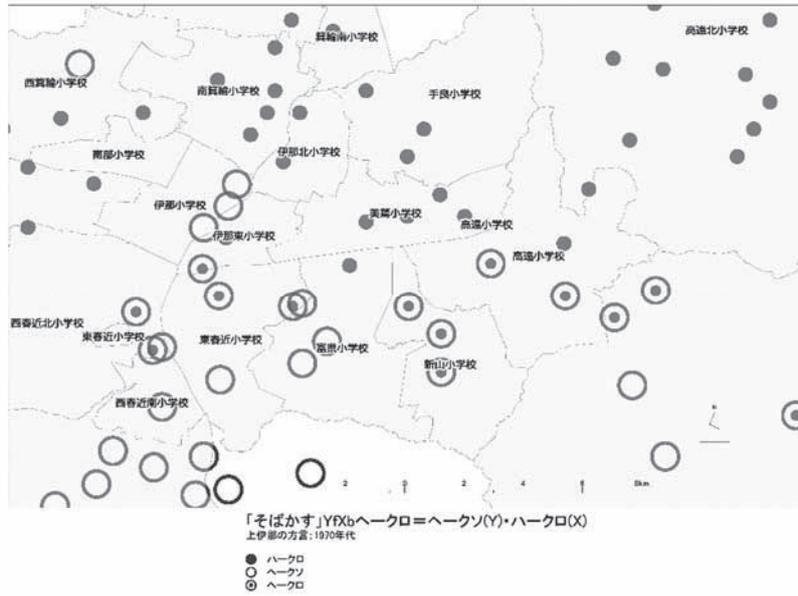


図9 「そばかす」のヘークロと小学校学区

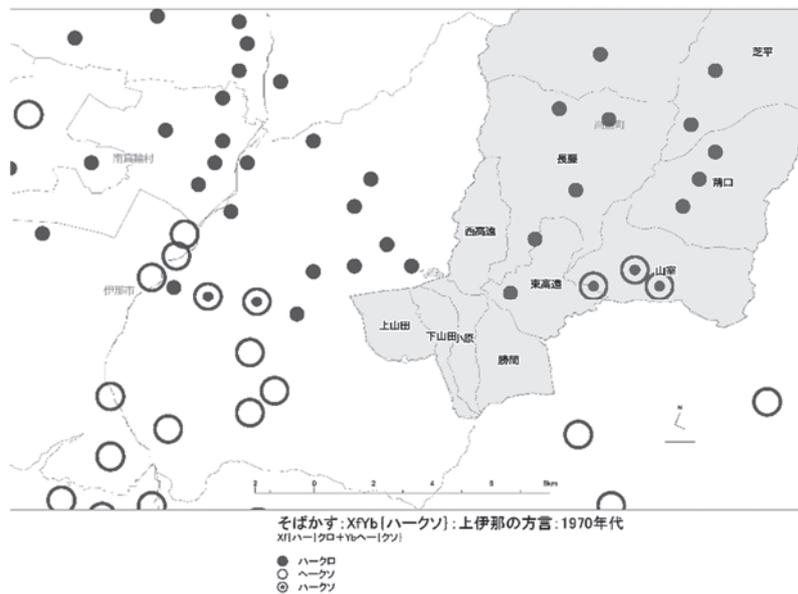


図10 「そばかす」のハークソと集落

### 1.8 地理情報の重要性

言語地理学における言語史推定においては、言語情報のみに頼ると解釈を誤ることがあり、やはり分布図は重要である。その際に方言分布以外の地形・河川・道路・学区・集落といった地理情報が大きな手がかりとなる。ここではそれらを活用することで、説明に説得力を与えることを示した。

## 2. 民間語源 (folk etymology)

### 2.1 民間語源とは

本来の語源とは異なる解釈を与えることが引き起こす言語変化が民間語源（民衆語源とも）である。ここでは、長野県諏訪地方における「ひつつき虫」の方言変化を事例に示す。

### 2.2 「ひつつき虫」の方言<sup>7</sup>

「ひつつき虫」は虫ではない。植物の種である。動物の毛や人間の衣類に「ひつつく（付着する）」ことで、生息域を広げる。「ひつつき虫」という素朴な分類には、さまざまな植物の種があてはまる。『フィールド版ひつつきむしの図鑑』<sup>8</sup>には、ヌスビトハギ、センダングサ、タウコギ、オナモミなどの植物があげられ、形状もいろいろだ。

「ひつつき虫」は方言形も多様である。長野県の伊那谷北部から諏訪盆地にかけての方言分布は、信州大学におられた故・馬瀬良雄先生が1960年代末～1970年代初頭に調査された結果に基づく『上伊那の方言』<sup>9</sup>に所収の地図「盗人萩（ぬすびとはぎ）」を通して見ることができる。

筆者は、2010年代初頭に信州大学の沢木幹栄先生たちと共同で同じ地域を調査した。時間の経過に伴い、言語（方言）の変化が地理的分布にどのように反映されるかを把握することが大きなねらいである。調査を通して、「盗人萩」を掲げながらも、実際には特定の種類の植物に限定されない「ひつつき虫」が広く対象であることがわかった。

馬瀬先生による約40年前の分布図を整理すると、図11のように諏訪地方南部は、諏訪市ではバカ類（バカ・バカグサ）、茅野市ではべべ類（べべバサミ・べべクサ）と、分布が分かれている。一方、図12は2010年代の分布である。両図を比べることで、方言とその分布の半世紀近くにわたる変化が把握できる。

第一に気付くのは、バカ類が諏訪市側から茅野市に拡張したことである。両図ともに各地点の話者は、調査時において70歳代が中心である。2010年代の調査（図2）の話者は、戦後に高校への入学が拡大した世代である。対象地域においては、高校の数の違いもあって、茅野市から諏訪市への通学が増えた。それにより、茅野市と諏訪市の人々の交流が盛んになり、バカ類が茅野市にもたらされた。ただし、それは比較的標高の低い場所に限られた。

図2に現れるシジバサミ、ジジバサミ、チンコ類は、図1には見られない。すなわち、これらの語が40年の間に新しく発生したことを意味する。そのきっかけは、以前からあったべべ類にある。べべ類としたべべバサミ・べべクサのべべは、衣類・着物を指し、それら

---

<sup>7</sup> 大西拓一郎（2019）「フィールドノート 「ひつつき虫」方言の変化を探る」

『BIOHISTORY』（生き物文化誌学会、誠文堂新光社刊）31、pp.72-73に基づく。

<sup>8</sup> 北川尚史監修（2009）『フィールド版 ひつつきむしの図鑑』トンボ出版

<sup>9</sup> 馬瀬良雄（1980）『上伊那の方言』上伊那誌刊行会

に付着することに由来する語形である。ところが、ベベは女性器と同音異義語であった。そこから、対になる男性器に推移させて（もしくは女性器語を避けて）生み出されたのが、シジバサミとチンコ類である。「民間語源」（本来とは異なる語源解釈がもたらす言語変化）の典型として捉えられる。この変化は、「やまうら」と呼ばれる比較的標高の高い地域で発生し、その結果、男性器系（高地）とバカ類（低地）で、方言が分かれることになった。

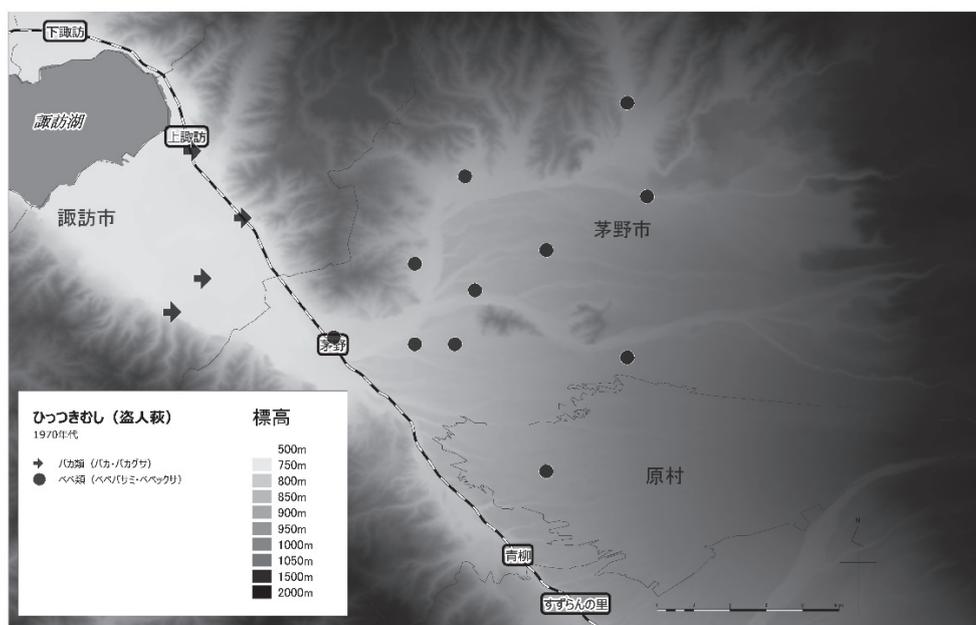


図 11 1970 年頃の長野県諏訪地方における「ひっつき虫」方言の分布 (馬瀬 1980 をもとに再描画)

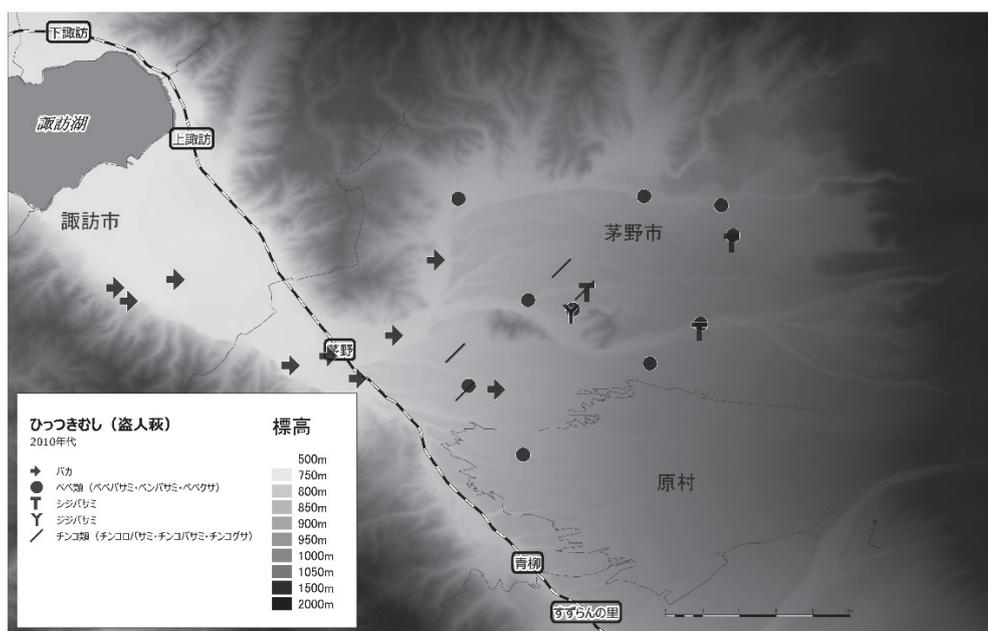


図 12 2010 年代の長野県諏訪地方における「ひっつき虫」方言の分布

男性器をシジと言うことによるシジバサミは、類似の語形である老人男性を意味するジジを引きつけて、ジジバサミに変化した。「類音牽引」と呼ばれる変化だ。

実は、筆者は次のような推定をしていた<sup>10</sup>。ベベバサミの類音牽引で生み出されたバババサミが一時的に存在していたが現在は消失して見つからない。そのバババサミからの連想でジジバサミやシジバサミが発生した、と。

ところが、茅野市の糸萱集落で継続して方言をうかがうなかで、シジは男性器を意味することを知った。各種の方言辞典にも当該地方の記載はなかったが、当地で編まれた『糸萱区史』<sup>11</sup>には掲載されていた。フィールドワークを繰り返し、掘り下げることによって、正しい解釈に導かれたのだった。

### 2.3 民間語源と混交

民間語源と混交の間にはつながりがあると馬瀬良雄氏により繰り返し述べられ、一方で両者がどのようにつながるのかは、実に悩ましい問題であった。

馬瀬良雄氏による言説をあげる。いずれも下記の原論文を再録した著書から引用する。

馬瀬良雄（1992）『言語地理学研究』桜楓社

「序章 言語地理学—歴史・学説・調査法—」

（原論文「言語地理学—歴史・学説・調査法—」1969年『国文学 解釈と鑑賞』34-8 7月臨時増刊号「方言研究のすべて」、pp.189-220）

言語に対し創造的な作用を含むもう一つが、《民衆語源》（Volksetymologie）である。

《民間語源》とも言われる。またそれと密接に結びついているものに混淆がある。（p.34:

「民衆語源」の解説）

混淆は民衆語源とはかなり違った印象を与えるが、民衆語源の生じる過程は混淆と共通していて、両者は密接な関係にある。ドーザ（A. Dauzat）のように民衆語源と混淆とを同一視している学者もいる。（p.37:「混淆」の解説）

「第1章 方言の分布と改革、第2節 方言分布からみた「混淆」」

（原論文「方言分布からみた「混淆」」1981年藤原与一先生古稀御健寿祝賀論集刊行委員会編『方言学論叢 I—方言研究の推進—』三省堂、pp.255-275）

---

<sup>10</sup> Onishi, Takuichiro (2016) Timespan comparison of dialectal distributions. Marie-Helene Cote, Remco Knooihuizen and John Nerbonne.(eds.) *The future of dialects: Selected papers from Methods in dialectology XV*, Berlin: Language Science Press, pp.377-387

大西拓一郎（2018）「方言語彙の分布の変動」小林隆編『方言の語彙—日本語を彩る地域語の世界—（シリーズ日本語の語彙9）』朝倉書店、pp.116-131

<sup>11</sup> 糸萱区史編纂委員会（2011）『糸萱区史』糸萱区

[大西注：「天道虫だまし」のオカサムシについて、元は容器「合子」に見立てたゴースが分布していたところに貴人の妻「御方」に見立てたオカタムシが伝播してきたが、語源の「御方」は忘れられていた。] そこで、'okatamusi は古くからあった goRsi の意味の一部にコンタミネイトされて、'okasamusi となったのである。'okasa は「腕の蓋」を意味する。これは「民衆語源」と呼ばれているものに属するが、「混淆」を最広義に解すればそのなかに含めることもできよう。事実、学者によっては A. ドーザのように両者の区別を認めない学者もいる。(p.89)

これらが示すように両者の関係はドーザに委ねられていることがわかる。ドーザは次のように述べている。

ドーザ『フランス言語地理学』（松原秀治・横山紀伊子訳、1958年、大学書林）

類音牽引は同音衝突の反対現象である。同音は我々がこれまでみて来たように破壊的なものであるが、またそれとともに、一面創造的でもある。創造的というのは、二つの類音語の形態の類似が一つの完全な同音語を作り出すという意味においてである。この変化の代表的なものは *coute-pointe* [かけぶとんの一種] で、形容詞 *court* [短い] の影響で *courte-pointe* に変わった例である。

この現象は、同音衝突と同じに、古典文法では、文法の論理的な、秩序ある調和を乱す破格と認められていたものである。それなのに、いろいろの文語や俚語をもっと深く研究してみると、これは反対に言語の更新の重要な因子であることがわかった。つまり、これは、外国語を国語に同化し、すたれた古語を除去する主要な様式なのである。

この現象は <sup>コンタミネーション</sup>汚染と名付けられた。しかし、この名称は誤った病理学的観念をよび起こすもので適当ではない。なぜなら、他の語を汚染すると非難される語は、この両者のうち一番生命力のある、従って本質的に健康な語であるからである。この現象はまた、民衆語源とも名付けられた。この名称は一面の真理を含んでいる。民衆は無意識的に、稀な語を、周知の語族に結びつける本能的な傾向をもっているからである。しかし、この現象は連想作用がひき起こす単なる機械的事実にすぎず、意識して行われる語原探求とはなんの関係もない。

この現象は事実、真の引力作用とも呼ぶべきもので、空間に投出された物体が、自分自身受けたり、または、他におよぼしたりする引力に全く似ている。二つの放射物体の軌道がたがいに接近する時には、引力作用によって重い方の物体が軽い方の物体を牽引する正確な瞬間を算出することができるものである。それと同様に、言語心理学の領域においても、強い方の語が引力を行使する。ここで強い語というのは、使用回数が最も多く、包含語彙数の多い語彙族に支持される語である。そして強い語が弱い語を牽引するのは、音韻推移の途中で、両語の軌道が十分に近くなった時期、つまり一般的にいえば、二語の相違がただ一音の相違となった時である。(pp.90-91)

(旧訳『言語地理学』松原秀治訳、1938年、富山房、pp.81-82)

混交 (= 混淆) とされるものは、2種類あり、ブレンディング (blending) とコンタミネーション (contamination) に分けられる。第1節で扱った事例ならびにこれまで馬瀬良雄氏を含め、日本の言語地理学の中で「混交 (混淆)」として扱われてきた事例はほとんどブレンディングに該当するものである。

コンタミネーション (contamination) は、言語の研究以外の世界では「汚染」と訳されることもある。ただし、環境汚染などとは違い、本来は純粹であるべきものの中に別のものが混ざり込むことを言う。化学や生物学の実験の中で、特定の物質や微生物に他のものが紛れ込むことで実験結果が左右されるようなことである。例えば、宇宙探査機で小惑星から持ち帰った岩石の中に地球上の金属やバクテリアが混入するような事態を想定すればわかりやすいだろう。理系ではしばしば「コンタミ」と呼ばれ、嫌われる事態である。天文学の観測において、特定の星の光を分析したいのにその近くに明るい別の星があって、その光が紛れ込むようなことも指す。

混交と訳される中のコンタミネーションはそれに類しており、紛れ込んだように見えるものを意味するものであろう。紛れ込んだように見えるものが、別の意味を醸し出す。それが民間語源と考えられる。天井板の節に幽霊を見いだしたり、池の鯉の模様に人の顔を想像したりするのに似ているかもしれない。

このようにブレンディングとコンタミネーションは、明確に切り離されるべきである。「混交」は、ブレンディングのみを指し、コンタミネーションを指すべきではない。コンタミネーションに該当するものは、民間語源の中で扱われなければならない。

### 3. 類音牽引 (paronymic attraction)

#### 3.1 類音牽引とは

類音牽引とは、類似した語形を持つ別の語に引きつけられて、語形が変化することである。語形の類似性が基本であるから、牽引する語との間の意味的なつながりは問わないが、相互が何らかの共通基盤を持ち合わせていることが一般的である。

引きつけた語との意味の関係をもとに整理すると以下のように分類できる。

類音類義牽引：じゃがいも (甲州→江州)：3.2 節

類音異義牽引：じゃがいも (甲州→孔子・弘法、江州→五升、清太夫→仙台)：3.2 節

類音無義牽引：桑の実 (ツバミ→ツバメ)：4.2 節

類音類義牽引は、両語が同等の意味分野にあるもので、「じゃがいも」における地名を共通基盤としたコーシュー (甲州) からゴーシュー (江州) が事例である (3.2 節参照)。

類音異義牽引は、両語の意味分野が異なるものの、何らかのつながりは持つものである。「じゃがいも」の場合は、救荒作物としての恩恵や性質がそのようなつながりとなり、コーシュー (甲州) からコーシ (孔子)・コーポー (弘法)、ゴーシュー (江州) からゴショー (ゴ

ショー)、セーダユー (清太夫) からセンダイ (仙台) が事例である (3.2 節参照)。

類音無義牽引は、両語にまったく意味上のつながりが見いだせないもので、庄川流域における桑の実のツバミからツバメの変化が該当する (4.2 節参照)。意味的連続性から自由で解放されているものであるが、事例は少ないようである。

類音牽引の場合、上記からも理解されるように、単に音の類似性によるのではなく、何らかの意味を見いだそうとすることが多い。2.2 節で扱った「ひつつき虫」のシジバサミ→シジバサミも「男性」に注目するなら類音異義牽引として扱うことができる。

以下では、類音類義牽引と類音異義牽引として事例が多く見いだされる「じゃがいも」における類音牽引をみることにする。

### 3.2 「じゃがいも」の方言変化<sup>12</sup>

「じゃがいも」の全国的な方言変化には、類音牽引が大きく働いている。ここでは LAJ をもとに「じゃがいも」方言の分布と変化を見てみよう。

「じゃがいも」の日本への導入は以下のような経過をたどったとされている<sup>13</sup>。「じゃがいも」の原産地は南米であり、17 世紀中頃にヨーロッパ (オランダもしくはポルトガル) 経由で日本に伝えられた。当初は観賞用の植物として栽培されることもあったが、冷涼な気候に強いことから、飢饉対策の救荒作物として広まった。ただし、本格的な栽培は、明治時代以降であり、北海道開拓入植者の主要食糧として定着した。また、第一次世界大戦以降は、工業用のでん粉の輸出のために作付面積が急増した。

「さつまいも」「かぼちゃ」「とうもろこし」「とうがらし」といった渡来作物<sup>14</sup>よりも、導入は遅く、1775 年刊行の『物類称呼』に上記 4 種は扱われるが、「じゃがいも」は現れない。

---

<sup>12</sup>以下の口頭発表に基づく。

大西拓一郎 (2018) 「渡来作物の方言と歴史—じゃがいも方言にみる弱い固有名詞の強い力—」 国立国語研究所オープンハウス 2018 (2018 年 12 月 22 日、ポスター発表)

Onishi, Takuichiro (2018) Japanese dialectal words for imported produce that include foreign place names, especially *nanban*, “southern countries”. Komatsu Round-Table Conference on Geo-linguistics (2018 年 9 月 8 日、公立小松大学)

大西拓一郎 (2019) 「強い作物のゆるい方言変化物語」第 16 回ラボトークセッション (2019 年 2 月 2 日、宮城県石巻市)

<sup>13</sup> 財団法人いも類振興会編 (2012) 『ジャガイモ事典』全国農村教育会

高野長英 (1883) 『二物考』

田口一夫 (2016) 『海が運んだジャガイモの歴史』梓書院

山本紀夫 (2008) 『ジャガイモのきた道』岩波新書

<sup>14</sup> 佐藤亮一 (1979) 「物の伝来と名称の伝播—渡来作物をめぐって—」『言語生活』312、pp.40-48

このことは、『物類称呼』の段階では、方言が発生するほどの普及が「じゃがいも」にはなかったことを裏付ける。

渡来作物の中でも、「じゃがいも」に特徴的なのは、方言量が多いことと方言に固有名詞起源のものが多いことである。そのような方言形の多くは、特定の人名とその居住地名がもとなった。そして、その人名と地名の持つ「弱さ」が多様な語形を生み出した。つまり、「弱さ」が、言語変化の「強い」力となったと考えられるのである。

その人物は、甲府（甲州）の代官、中井清太夫である。清太夫は幕府の許可のもと、飢饉対策としてじゃがいもを九州から取り寄せ、広めたとされる。

中井清太夫は、1777（安永6）年～1787（天明7）年に甲府の代官を務めた。じゃがいもによる飢饉からの救命により、龍泉寺（山梨県上野原町）に「芋大明神」として祀られている<sup>15</sup>。領民による功德碑建立願いに対し、代官の義務遂行として聞き入れなかったが、その後、山梨県三珠町に功德碑、神明神社（甲府市）に石祠が建立された<sup>16</sup>。また、笛吹川の支流、押出川の治水でも知られる<sup>17</sup>。

清太夫は、「じゃがいも」の方言に名を残した。セーダユー・セーダ・セーダイモ・セーザイモとして、おもに山梨県に分布する。

清太夫の謙虚な姿勢のためか、甲州以外に清太夫の名はあまり知られることはなかった。実際には、清太夫の名とともに「じゃがいも」は、甲州から100km以上離れた隣の岐阜県飛騨地方に広まった<sup>18</sup>が、「清太夫」という馴染みのない名前は、似た名前である東北地方最大の街「仙台」に置き換えられた（図13）。意味分野は異なるものの、「寒さ」のイメージによる類似性が認められる（類音異義牽引）。

---

<sup>15</sup> 小林貞夫（1987）「神に祀られた芋代官」『郡内研究』1

<sup>16</sup> 高槻泰郎（2012）「中井清太夫という男」『神戸大学経済経営研究所ニューズレター』119

<sup>17</sup> 手塚寿男編（1978）『郷土史事典 山梨県』昌平社

<sup>18</sup> 飛騨の語形については、以下の文献は当地の代官、幸田善太夫に由来するとする。

伊藤章治（2008）『ジャガイモの世界史』中公新書、p.168

岐阜県（1968）『岐阜県史 通史編 近世 上』岐阜県、pp.247-249

一方で、林格男（2000）「せんだいも雑話」『飛騨春秋』470のようにそれに対する異論もある。

なお、林格男論文については、岐阜大学教育学部の山田敏弘教授からご教示ならびに論文入手のお力添えをいただいたことを記して、感謝する。

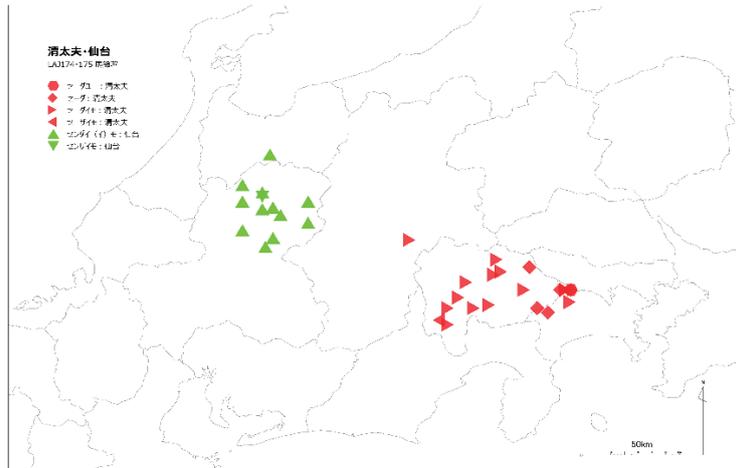


図13 「じゃがいも」の「清太夫」類と「仙台」類

このように甲州はじゃがいもにおいて重要な位置づけを持つゆえに、「じゃがいも」が甲州をもって呼ばれる地域もある一方で、西日本には「江州」類で呼ばれる地域もみられる(図14)。「甲州」は西日本から遠く、西日本の人々にはあまり馴染みのない地名であった。そこで、「甲州」に音が似ていて、西日本に近く、「近江商人」<sup>19</sup>で有名な地名「江州」に置き換えられる変化が起きた(ゴーシューイモ・ゴーシイモ・ゴーシ)。この変化は、意味分野が共通することから類音類義牽引である。

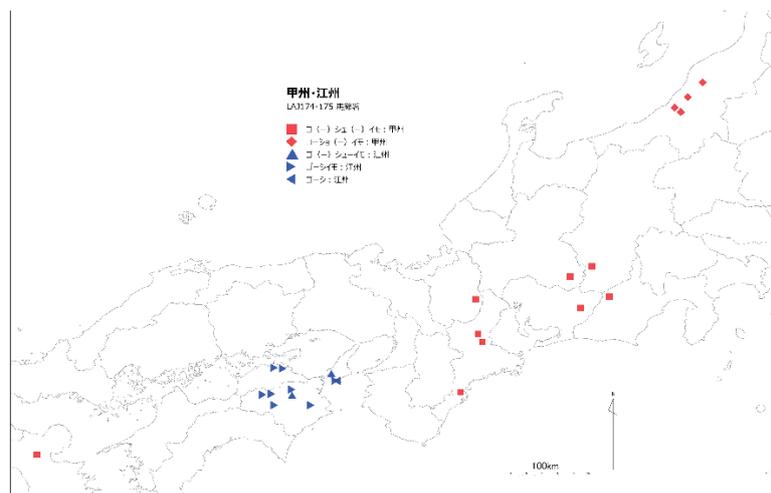


図14 「じゃがいも」の「甲州」類と「江州」類

<sup>19</sup> 江頭恒治 (1959) 『近江商人』弘文堂  
 未永國紀 (2000) 『近江商人』中公新書  
 渡辺守順 (1980) 『近江商人』教育社

救荒作物の「じゃがいも」がもたらす恩恵を基盤に「甲州」が別の形を牽引した(図15)。

コーシイモは「孔子」に該当するが、もとは「甲州」である<sup>20</sup>。救荒作物「じゃがいも」の草分け地から離れると、良く理解されない地名「甲州」は、饑饉から人々を救う救荒作物への敬意により、似た音の「孔子」へと置き換えられた。また、そのような作物に対する敬意は、語頭のコのみ残して(語頭のコが牽引して)、コーボー・コーボーイモ(弘法大師:真言宗の開祖、空海)に変化させた。「弘法」に置き換えられた「甲州」は、中部地方の越前・美濃や中国地方の備後・山陰ではあまり馴染みのない名前であったことも効いていると考えられる。これらは意味の基盤が異なることから類音異義牽引である。

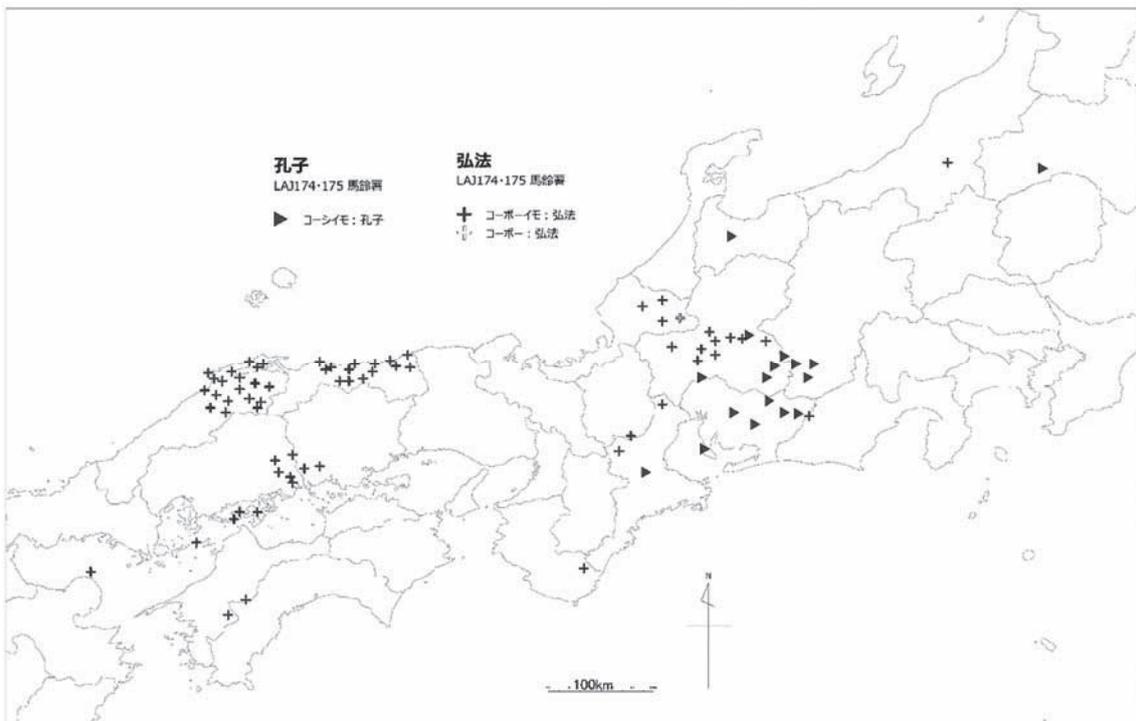


図15 「じゃがいも」の「孔子」類と「弘法」類

「じゃがいも」は、冷涼な気候に強いとともに、豊富な収穫量と二期作可能な性質を持つ。そのことで「江州」(<「甲州」)は、《量》や《回数》という数量に変化する。「甲州」から変化した「江州」<sup>21</sup>は、東北北部から北海道において、ゴシヨー(五升)へと変換し、救荒作物「じゃがいも」の生産《量》の多さを表す名前に変化した。江州が本来持つ「地名」という意味と五升の「量」という意味は相互の分野が異なることから類音異義牽引である。二

<sup>20</sup> 沢木幹栄(1979)「物とことば」徳川宗賢編『日本の方言地図』中公新書、pp.53-97

<sup>21</sup> 近江商人は東日本で活動が顕著であったことが指摘されている(末永國紀(2000)『近江商人』中公新書、p.29)。

期作が可能な救荒作物「じゃがいも」は、収穫の《回数》からニドイモ（二度芋）と、東北地方で広く呼ばれた。さらに「量」を表すゴショーと「回数」を表すニドが混交 (blending) することで、新たにゴドが生み出された（ゴショー+ニド→ゴド：東北地方日本海側）。ゴドの背景には「五斗」「五度」という意識があり、収穫の《量》と《回数》が強化された（図16）。

ゴロを語頭に持つ一連の「じゃがいも」方言形が確認される。ゴは、ゴド（五斗・五度）同様に、甲州をもとにする江州から派生したものかもしれない。そこに「じゃがいも」の形状から、擬態語のゴロによる名称が生み出された。しかし、ゴロは擬態語にとどまらなかった。「いも」は「右衛門」に似ていた (e.g. ごろいも：ごろえもん)。ここからゴローザやゴロータなどの固有名詞を含む語形が生み出された。「清太夫」「甲州」という固有名詞から出発した「じゃがいも」方言は、ふたたび、固有名詞に回帰していった。

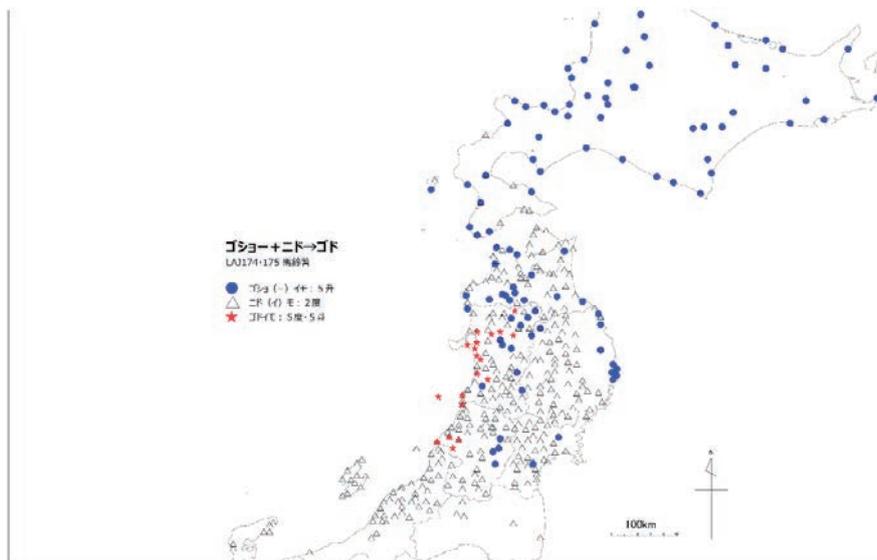


図16 「じゃがいも」の「五升」類と「二度」類

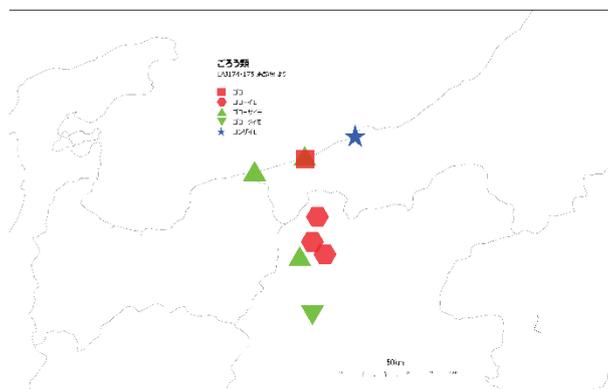


図17 「じゃがいも」の「ごろう」類

「甲州」の「中井清太夫」が救荒作物の「じゃがいも」を広めるもととなった。

「中井清太夫」「甲州」は、ともに現地を離れると、あまり広く知られることのない「弱い固有名詞」であった。弱い固有名詞であったために、現地から離れたところ（伝播先）では、それぞれの場所で、音的類似性と意味・背景のつながりを持つ、なじみのある名称に変化させることになった。すなわち、言語変化を生み出す強い力を発揮した。

以上の流れを図式的に示すと次のようになる。

「清太夫」→「仙台」（寒さ）：類音異義牽引

「甲州」→「孔子」「弘法」（救いへの敬意）：類音異義牽引

→「江州」（地名）：類音類義牽引

→「五升」（量）－（「二度」と混交）→「五度」（回数）

→「五郎」：人名に回帰

以上のように類音牽引は意味分野をもとに類音類義牽引と類音異義牽引に分類できるが、言語変化の上でそれがどの程度の意味を持つのか不明であり、言語変化における差異はあまりないように思われる。その点で、両者の間に線引きを行うよりも、類音類義牽引と類音異義牽引をひとまとめにして、類音無義牽引と区別する方が言語変化の観点からは有効であると考えられる。そこで、なんらかの意味上のつながりを持つ類音類義牽引・類音異義牽引を有縁性類音牽引と呼び、それを持たない類音無義牽引を無縁性類音牽引とすることを提案したい。注意すべきは、有縁性類音牽引の場合、もとの語とは異なる新たな意味との関連づけが行われることであり、そのため、民間語源が同時に発生している点である。類音牽引の中で有縁性類音牽引が多いことを考慮すると、類音牽引はその多くが民間語源と切り離せないわけである<sup>22</sup>。

有縁性類音牽引：類音類義牽引・類音異義牽引→民間語源

無縁性類音牽引：類音無義牽引

ところで興味深いのは、固有名詞を基にする語の分布のあり方である。「清太夫」のような人名に基づく名称は当初地で用いられるのに対し、「甲州」のような地名に基づく名称は現地から離れた場所で用いられる傾向がある<sup>23</sup>。これは、「さつまいも」や「瀬戸物」においても確認され、一般的な性質として捉えられそうだ。これについては稿を改めて扱いたい。

---

<sup>22</sup> 民間語源とコンタミネーション（混交を広義に扱った場合その一部）について、2.3節で記したが、有縁性類音牽引もそのようなコンタミネーションに含まれるのかもしれない。その点からも非分析的な「コンタミネーション」という用語は避けるべきである。

<sup>23</sup> 大西拓一郎（2019）「日本におけるじゃがいも方言の分布と変化—弱い固有名詞の強い力—」The 2nd The Northeast Asian Sea Region and Humanities Networks International Conference. pp.261-273.

大西拓一郎（2019）「地名と人名の地理的關係—行政域名と名字に基づく検証—」『日本地理言語学会第1回大会予稿集』、pp.119-123

## 4. 同音衝突 (homonymic clash)

### 4.1 同音衝突とは

新しく導入される語が、もともと使われていた古い語と同形の状態をいう。同形であるために、導入されないことを指すことが多い。また、2.3 節で引用したドーザの指摘の通り、類音牽引と同音衝突は表裏一体の関係にある。

以下では、富山県の西部を日本海に向かって北流する庄川流域の「桑の実」と「燕」の方言分布をもとに考察する。

### 4.2 庄川流域における「桑の実」と「燕」<sup>24</sup>

庄川流域の「桑の実」と「燕」については、1960年代と2010年代の分布が把握されている。前者は真田信治(1976)「越中飛騨国境言語地図」<sup>25</sup>として(以下、真田地図)、後者は富山大学人文学部日本語学研究室編(2013)『庄川流域言語地図』として公表されている<sup>26</sup>。真田信治氏による1960年代の分布はいわゆる五箇山地方の山間部から砺波平野の南部までを扱い、砺波平野北部から沿岸部は含まれない。一方、2010年代の調査は庄川流域をほぼカバーする。

まず、「桑の実」の分布を2010年代の地図で確認しよう(図18)。地図には標高も合わせて表示したので、地形との関係も理解しやすいだろう。全体としては、2系統であり、平野部のクワノミ系と山間部のツバメ系に分かれる。富山湾に面した沿岸部から砺波平野の平野部には、クワノミ系が分布している。山間部のツバメ系には2類ある。砺波平野の南端から五箇山地方に接する山間部には、ツバメ系のクワツバメ類が分布している。南の深い山間部で、より標高の高い五箇山地方にはツバメ系のツバメ類が分布している。つまり、全体は大きく2系統に分類され、細かくは3類からなることになる。そして、それぞれの分布領域は、きれいに地域分けされている。

クワノミ系：平野部

ツバメ系：山間部 ┌──クワツバメ類：五箇山以外

└──ツバメ類：五箇山

この分布の系統と地域分けは、1960年代の真田信治氏による地図とあまり変わらない。ただし、真田氏による地図は平野部を扱わないので、佐伯安一(1961)『砺波民俗語彙』(高志人社)で確認すると、クワノミがみられない。方言辞典には掲載されていないのは、おそ

---

<sup>24</sup> となみ散居村ミュージアム公開講座(2019年11月22日)において発表した、大西拓一郎「富山方言の特徴とその動態」に基づく。

<sup>25</sup> 真田ふみ(1976)『越中五箇山方言語彙(5) 付、真田信治「越中飛騨国境言語地図」』私家版

<sup>26</sup> 大西と富山大学人文学部中井精一研究室が共同で実施した庄川流域方言調査による。

らく古くから平野部は標準語形と同じクワノミ系だったためだろうと考えられ、そのことに基づくなら、やはり、平野部のクワノミ系が分布していたことが傍証されることになる。

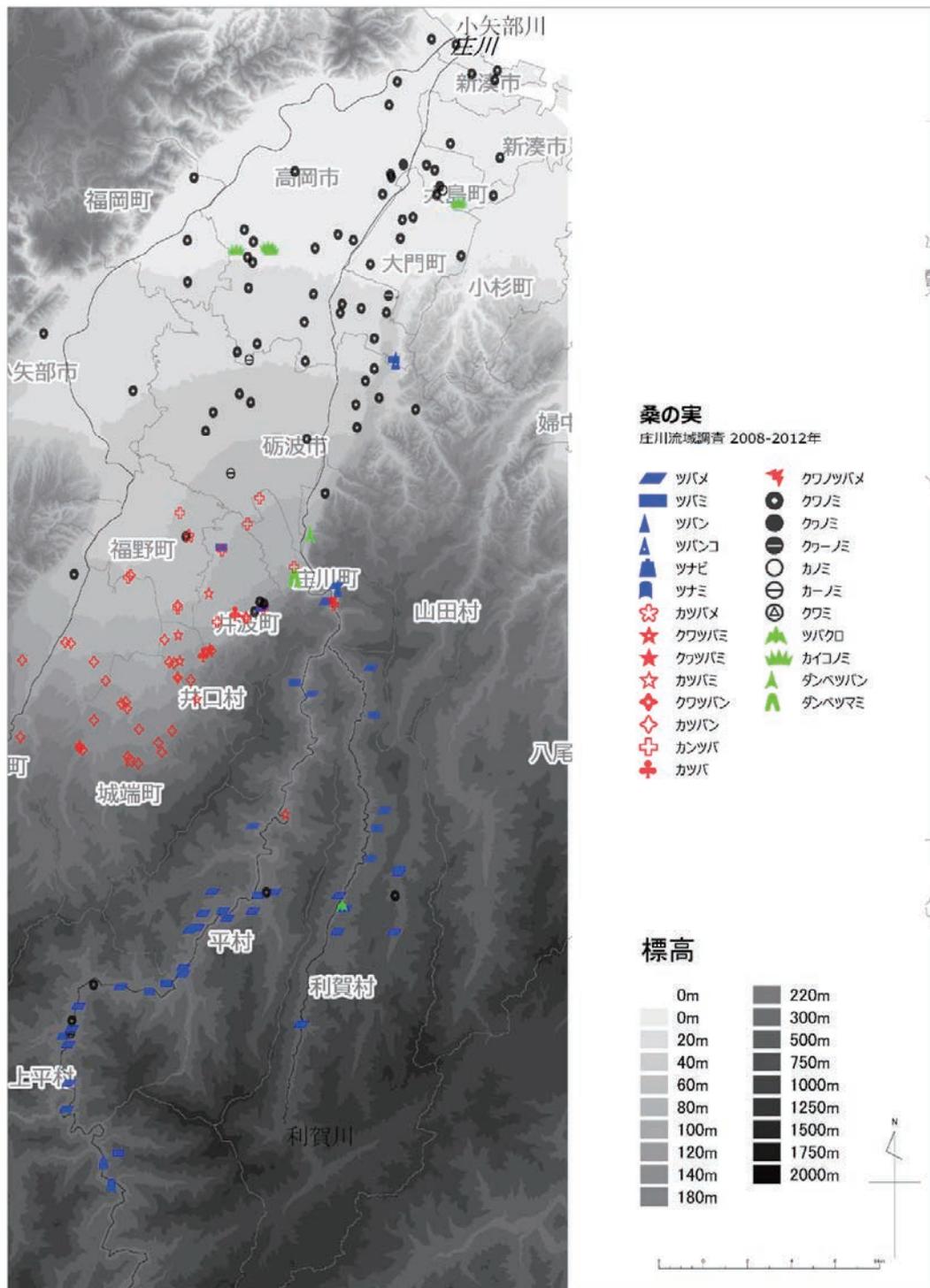


図 18 庄川流域の「桑の実」(2010年代)

庄川流域における「桑の実」の分布において注目されるのは、「桑の実」をツバメ類で表す五箇山では、「燕」と混同、すなわち同音衝突を起こさないのかということである。そこで、「燕」がどのように表されるのか、分布を見てみよう（図19）。

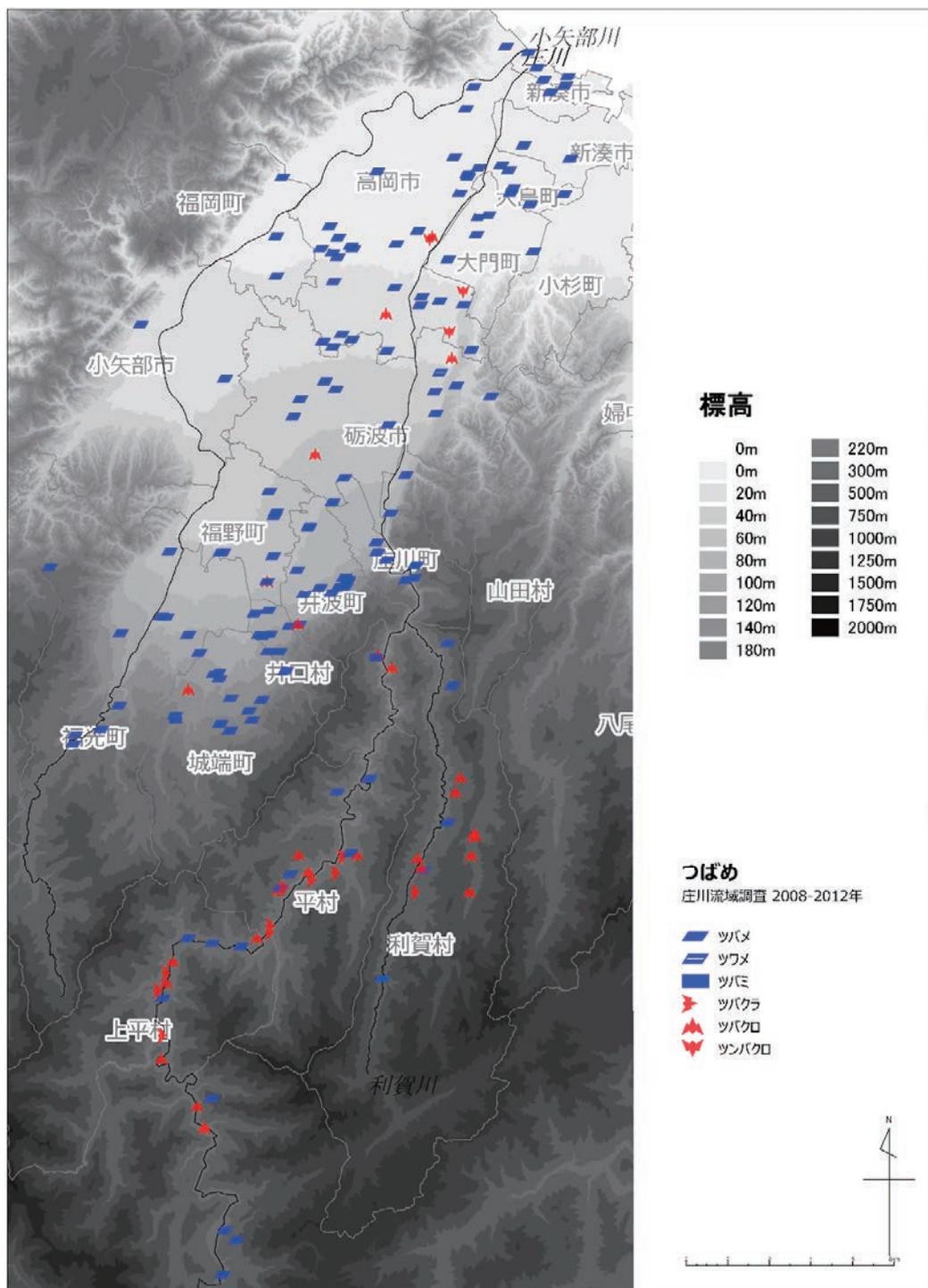


図19 庄川流域の「燕」（2010年代）

山間部の五箇山地方の「燕」は、ツバクラやツバクロなどツバクロ系であり、「桑の実」のツバメとは、同音衝突が回避されている。このことは、「桑の実」「燕」双方のツバメ系の分布を合わせて表示するとより明確になる（図 20）。

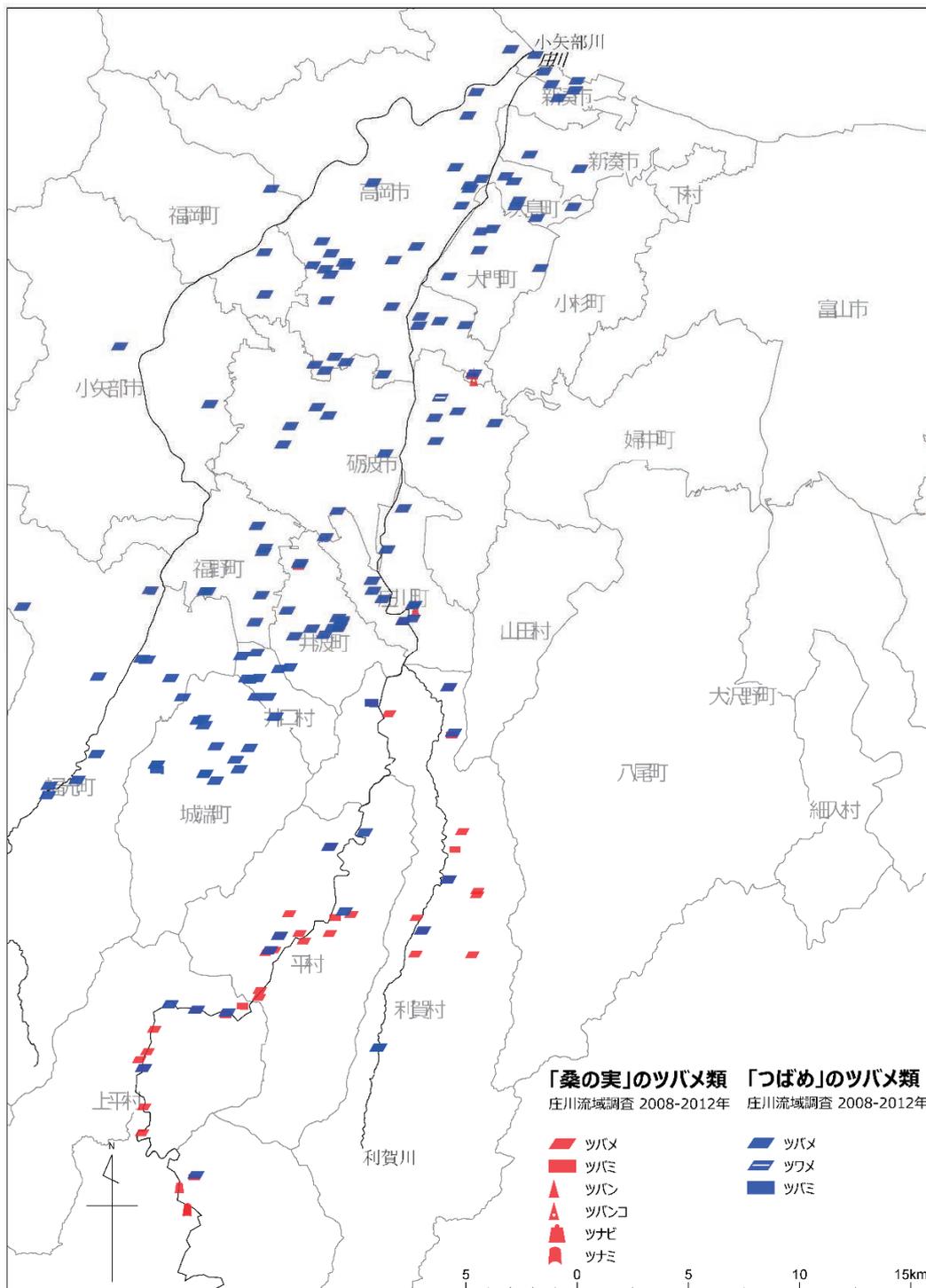


図 20 庄川流域の「桑の実」と「燕」のツバメ類（2010年代）

庄川流域の「桑の実」の方言には次のような歴史があったと考える。

当初の形（祖形）は、\*クワツマメであったと想定する。ツは古形の連体助詞であり、「桑の豆」に該当する形である。連体助詞のツを残す方言は知られていないが、化石的に語の中に痕跡を見いだすことができる<sup>27</sup>。クワツマメをそのまま受け継ぐ場所はないが、真田地区では、ツマメが上平村桂（1970年廃村）、白川村小白川にあり、祖形の推定を支持する。

連体助詞のツは、早い時期に衰退したものと考えられる。そのため\*クワツマメは語構成が不明瞭になった。そこで、異分析<sup>28</sup>とともに「燕」による類音牽引が発生し、\*クワツマメはクワツバメに変化した。マからバの変化は頻度の高い音変化の mb 交替であるが、単なる音変化ではなく、「燕」による類音牽引と考えられる。この場合、「桑の実」と「燕」の間には意味的關係は認められないので、無縁性類音牽引である。

平野部では、連体助詞ツの衰退に伴う語形のわかりにくさを回避するため、現行の連体助詞を使った形で再構成したクワノミに変化した。ここには標準語からの影響も考えられる。

山間部では、クワツバメのクワが単音のクワになり合拗音と同化した。火事（クワ>カ）などと平行した合拗音の衰退による直音化を起こしカツバメとなった。また、上記の通り、連体助詞ツはすでに消失していた。クワ>クワ>カは、語構成上、カ的位置付けを不明瞭にした。これらのことが、他の「実」との区別の必然性を失わせることになった。そのことで語の縮約による合理化がはかられ、カを脱落させツバメという形を生み出す。ところが、山間部の五箇山を除く平野部との境の地域では、「燕」はツバメ系だったため、この変化は、「燕」との同音衝突を発生させる。その回避のために、五箇山以外の山間部ではクワツバメ類が保持された。一方、五箇山地方の「燕」はツバクロ系であったので、同音衝突は起こらず、「桑の実」は一連の変化によりツバメ系に変化できた。

\*クワツマメ（祖形：クワ（桑）・ツ（連体助詞）・マメ（豆））

└異分析・無縁性類音牽引→クワツバメ

└再構成・標準語→クワノミ類：平野部

|

└「燕」との同音衝突を回避→クワツバメ類：山間部

|（原形を保持）

（五箇山以外）

|

└異分析・音変化後の合理化→ツバメ類：山間部

（「燕」（ツバクロ系）と同音衝突しない）（五箇山）

---

<sup>27</sup> 大西拓一郎 2018 「方言語彙の分布の変動」小林隆編『方言の語彙—日本語を彩る地域語の世界—（シリーズ日本語の語彙9）』朝倉書店、pp.116-131 に示した長野県伊那・諏訪地方の「桑の実」のクワズミのズや長野県茅野市の地名「中沢」ナカッサワなど。

<sup>28</sup> 元の語構成とは異なる形で捉え直されること。再分析とも呼ばれる。



## 5. むすび

混交、類音牽引、民間語源、同音衝突という言語地理学の中で従来から繰り返し用いられてきた用語と事例について、現実の方言分布をもとに検証ならびに再検討を行った。

言語形式のみでは判断を誤るケースがあり、言語地理学においてはやはり分布情報は欠かせないことを混交とされてきた長野県伊那地方の「そばかす」をもとに検討した(1節)。

民間語源により長野県諏訪地方の「ひつつき虫」においてここ40年程度の間に起こった言語変化の事例を示すとともに、混交と民間語源の関係について整理し、混交に含むとされてきたコンタミネーションとブレンディングは切り分けて扱うとともにコンタミネーションは混交から除外すべきことを述べた(2節)。

類音牽引は、有縁性類音牽引と無縁性類音牽引の2種類に分けられ、有縁性類音牽引は民間語源と切り離せないことを全国の「じゃがいも」の方言分布をもとに述べた(3節)。扱った方言形は固有名詞をもとにするもので、もとの固有名詞が人名か地名かの違いによって、分布領域が異なることにも触れた。

同音衝突は、古くから指摘されてきたとおり、類音牽引と表裏一体の関係にあり、類音牽引に同音衝突が干渉するような形で言語変化と分布変化が進行することを庄川流域の「桑の実」をもとに考察した(4節)。

これまで言語地理学が対象としてきた方言分布は、標準語化の進んだ現代において、もはや研究の対象とはならないように見なす考えもあるかもしれない。しかし、ここにあげた事例が示すように言語変化がある限り、新たな分布は生み出され続ける。特に狭小な地域においては、文法では見いだされにくい分布の多様性が語彙では顕在化し<sup>29</sup>、4節で示したようなダイナミズムを現在でも捉えることができる<sup>30</sup>。

人間が生身の身体を持ち、人間らしく<sup>31</sup>互いにかかわりながら、ことばを交わして生きている限り、ことばを基盤とした総合的かつ学際的人文学としての言語地理学の対象はそう簡単に絶えることはない。

---

<sup>29</sup> Onishi, Takuichiro (2019) On the Relationship of the Degrees of Correspondence of Dialects and Distances. *Languages* 4(2), pp.1-15

<sup>30</sup> その際に重要なのは、20世紀後半を中心に日本で大量に作成されてきた方言地図・言語地図を再評価し、活用することである。

<sup>31</sup> 平穏無事な日常にとどまらず、喜びや悲しみ、共感や葛藤、協調や矛盾、怒り、恐れなどさまざまに複雑なことを抱えながら生きるものとして考える。

# Item-based Contrastive Observation

## – Potato

### 同一項目の対照的観察 – ジャガイモ (馬鈴薯)

Chinese: Ray Iwata

French: Yuji Kawaguchi

Japanese: Seiichi Nakai

中国語: 岩田礼

フランス語: 川口裕司

日本語: 中井精一

# Item-based Contrastive Map - Potato (馬鈴薯) in Chinese

Iwata, Ray

This presentation is based on the map and its commentary appearing on Iwata ed. (2009). They are authored by Fumiki Suzuki.

## History

- Potato (pomme de terre) and sweet potato (patate douce) were successively introduced into China in the 16<sup>th</sup> century.

## Word formation

### non-head (modifier) + head (stem)

- maling (马铃) + shu (薯) Malay + potato  
\* 'maling' literally means 'horse ring'
  - tu (土) + dou (豆) soil + bean
  - yang (洋) + yu (芋) western + potato
  - yang (洋) + shanyu (山芋) western + mountain potato  
\* The dialects using this form *yangshanyu* tend to use the form *shanyu* for denoting 'sweet potato'. This suggests the earlier introduction of sweet potato into China than potato.
- \*Forms lacking a modifier: shuzai (薯仔), yutou (芋头)

## Head (stem)

frequency (total number of occurrences: 996)

### 1. Potato

- yu (芋) 'aboriginal potato' 34.6%
- shu (薯) 'aboriginal potato' 26.2%
- Shanyao (山药) 'Chinese yam' 11.6%

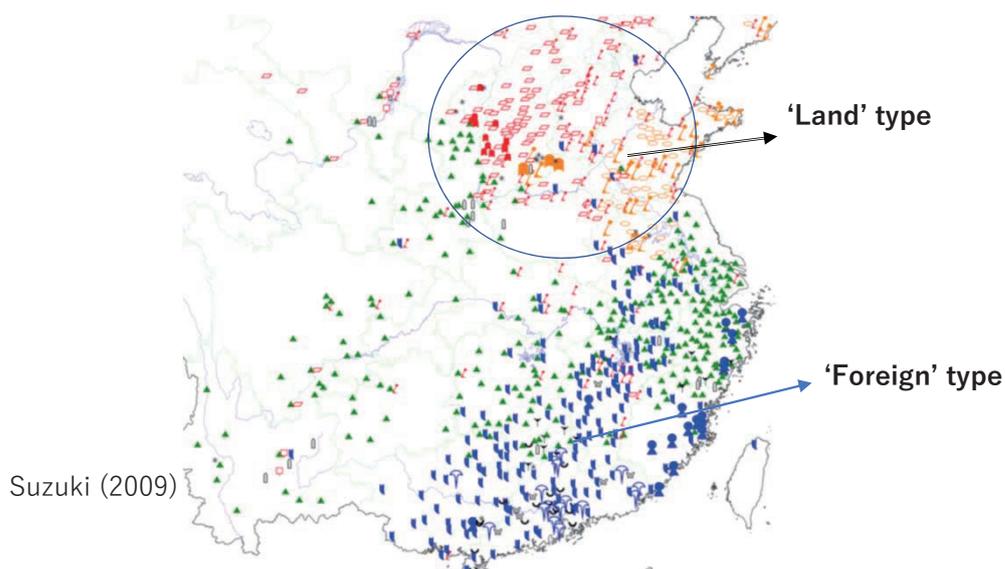
### 2. Bean, egg and other plants

- dou (豆) 'bean' 16.3%
- dan (蛋) 'egg' 7.2%
- Others 4.2%

## Non-head (modifier) frequency (total number of occurrences: 1033)

1. 'Land' type (364)
  - tu (土) 'soil' 12.8%
  - di (地) 'land' 9.5%
  - shan (山) 'mountain' 13.0%
2. 'Foreign' type (584)
  - yang (洋) 'western' 32.3%
  - maling (马铃) 'Malay' 20.1%
  - helan (荷兰) 'holland' 2.3%
  - fanzai, fanren, hongmao 'foreigner', 'red hair' 1.7%
3. Others (85)
  - no modifier etc. 8.2%

## Potato in Chinese (focusing on non-head)



## Findings from Maps

The map shown above clearly indicates the contrast between 'Land' type and 'Foreign' type regarding geographical distribution of non-head, and the whole word form exhibits a quadri-partition if the varieties of head are taken into account.

- (1) Northeast: **soil, land + bean, egg**
- (2) North-central (Shanxi): **mountain + yam**  
-----
- (3) Northwest and Central (Yangtze basin):  
**western + yu (potato)**
- (4) Southeast:  
**Malay, Holland or foreigner + shu (potato)**

Three stages should be distinguished for the names of newly introduced plants (Iwata1995)

- **1<sup>st</sup> stage: introduction as a plant transliteration?**
- **2<sup>nd</sup> stage: acceptance as a food plant (食用化)**  
**Malay potato, Holland potato**  
**Western potato**
- **3<sup>rd</sup> stage: domestication (栽培化)**  
**soil bean, land egg, mountain yam**

## Assumption (1)

1. 'Potato' arrived on China southeast coast in 16<sup>th</sup> century, when an earlier introduced potato, i.e. 'sweet potato', was called *fanshu* (foreign potato).
2. For this newly introduced potato, such names as *malingshu* (Malay potato) and *Helanshu* (Holland potato) were given in the southeast since it was believed to be a potato introduced from Malay or Holland. Notably, the saying that the word *maling* came from 'horse ring' is erroneous.
3. In South China, the foreign type names, as represented by *malingshu*, has been retained. This is because people in South China, where is the kingdom of rice cultivation and is no need to cultivate 'potato', lacked a motivation for creating the new name for this food plant.

## Assumption (2)

3. After being introduced into South China, 'potato' went up north, either via the ground or the sea transportation route, and it became to be cultivated in Central and North China.
4. In central China, the name *malingshu* was replaced by *yangyu* (western potato). The change of non-head from *maling* 'Malay' to *yang* 'western' was motivated due to that the etymology of *maling* became unknown. This change also indicates that the two stems, *shu* and *yu*, have long been competitive as the forms representing aboriginal potato, with the former being dominant in South China and the latter being prevalent in Central China.
5. In northeast China, 'land type' forms, as represented by *tudou* (soil bean) and *didan* (ground egg), were created as the potato became to be widely cultivated and was accepted as a popular food plant.

## Reference

- Iwata, Ray 1995 “Sweet potato, potato, tomato, soap and bicycle — Names for newly introduced things” (in Japanese), Progressive report for the project “Dialects and Local Culture in China” (Research Head: Shoji Hirata), Grant-in-aid for scientific research (Ministry of Education).
- Suzuki, Fumiki 2009 “Map 24 Tuberous Plants: Potato and Sweet potato”, in Iwata, Ray ed. *The Interpretative Maps of Chinese Dialects*, Tokyo : Hakuteisha.

# 語彙変化と方言分布

ーフランス語のジャガイモー

Lexical change and dialect distribution  
– Potatoes in French –

川口 裕司



基盤研究B(代表 岩田礼) 「語史再構における言語地理学的解釈の再検討ー類型的定式化の試みー」 第3回研究会 於富山大学 平成29(2017)年6月11日

## フランスにおけるジャガイモ

1526 スペインのAvilaで栽培開始

16世紀 Olivier de Serreにより知られていた(一説にはキクイモ)

イタリアで豚の飼料

Turgot (1727-81)による有用性の指摘

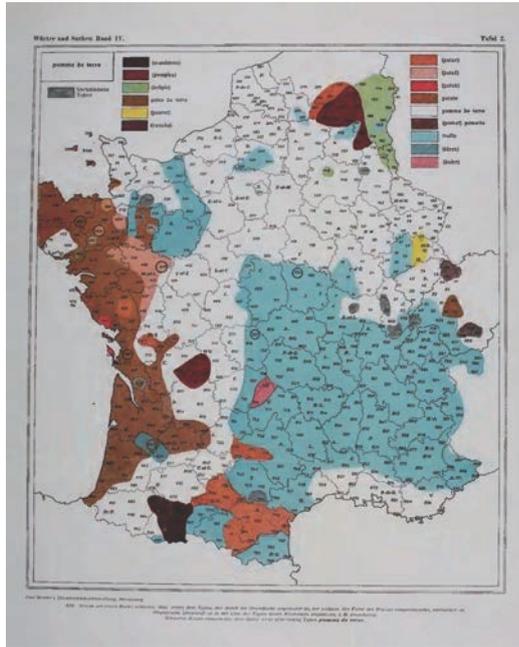
イタリア経由でFranche-Comté地方とドイツへ

Antoine-Augustin Parmentier (1737-1813)

7年戦争中に捕虜となりジャガイモを食す

フランスで飼料として一般化したのは1870年以降

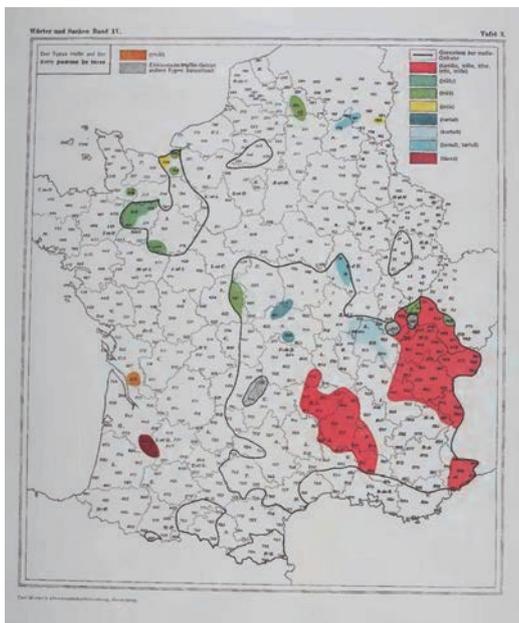
# Leo Spitzer (1921)



## 3 系統の主要語形

1.  patate 系  
 伝播の中心は海運地の西海岸
2.  pomme de terre 系  
 伝播の中心はParis
3.  truffe 系

# Leo Spitzer (1921)



## Truffe系 の3つの下位領域

- 3.1.  tartoufle- : ドイツ語 or イタリア語  
 < 伊 tartuffoli
- 3.2.  truff(l)e- : 翻訳形
- 3.3.  trük- : ジャガイモのない地域へ  
 移入 (trüş も同様?)

# Dauzat (1922)

Parmantierよりもずっと前に様々な地域から入った

1.  patata系 : Gascogne, patate 西部Normandie
2.  pomme de terre系 : Parisで産声をあげて全国に
3.  tartuffola系 : truffe 南東部からAuvergneまで
4.  Grundbirn系 : 東部のライン河地域
5.  Kartoffel系 : ロマンズ語圏スイス

# Bruneau (1932)

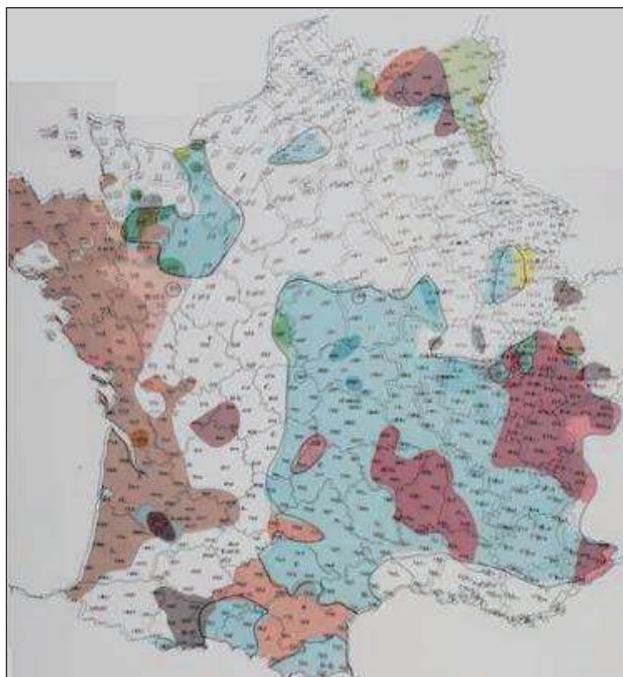
ALFのpomme de terreの地図は最も不明瞭で謎の多い地図 (p.57)

1. patate系 サツマイモ patate douce がいないため混同されない地域
  -  patate ベルギー, Picardie, Normandie
  -  patano ピレネー東部, 中央山塊一部, ガロンヌ河上流最も古い時期にジャガイモが入ったところ
2.  pomme de terre 系  
Saint-Dizier (Champagne)で栽培されpomme de terre初出(1754) 伝播中心?  
**キクイモとの混同** (1764年Lorraineでの不作)  
1772年 Parmentierによりキクイモに勝利

ベルギーの分析であるため 3. truffe 系 はない。



## 語形と分布(まとめ)



1.  patate 系
2.  patano 系
3.  pomme de terre 系
4.  truffe 系
5.  tartoufle 系
6.  trük, trouffe 系
7.  cromptire 系
8.  pmotte, kmotte
9.  canada

## キクイモとジャガイモ



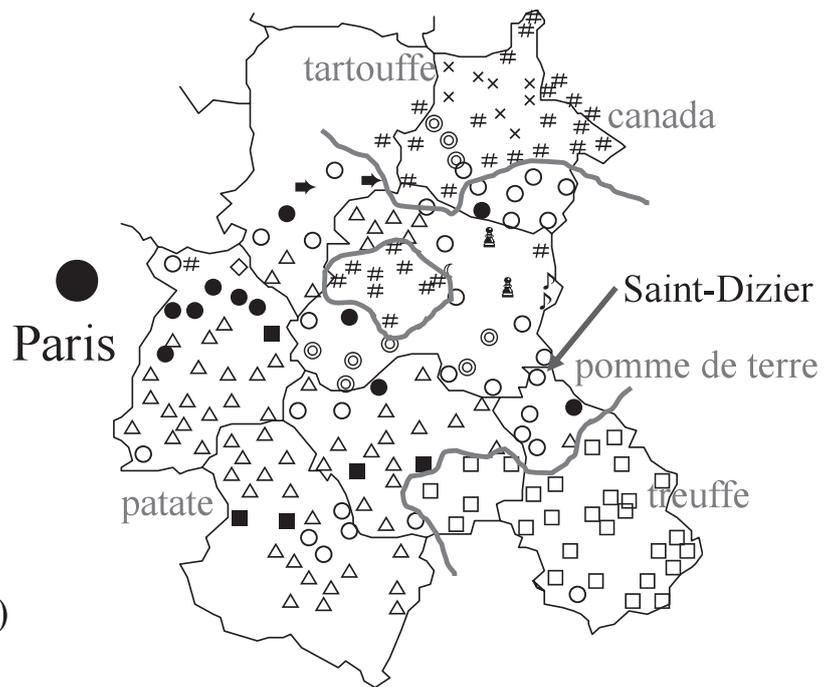
1605 探検家Samuel de Champlainがカナダで発見  
1702 栽培が用意でヨーロッパに定着. poire de terreと記載  
第2次大戦時に食料として消費

### 語源

ブラジルの部族Tupinambasのフランス名

# 事例研究 ALCB

- △ patate
- pomme de terre
- pomme terre
- ◎ pomme-né-terre
- # canada
- treuffe
- truffe
- × tartouffe
- ♪ eiruy = citrouille ?
- ➔ fouilleuses (longues et jaunes)
- ♁ cartoufle
- ☾ cromptire
- ◇ treffe



全ての地点で *cartoffe* の名称も用いられる。

## References

- Brun-Trigaud Guylaine, Yves Le Berre et Jean Le Dù (2005). *Lectures de l'Atlas linguistique de la France de Gilliéron et Edmont Du temps dans l'espace*, Editions du Comité des travaux istoriues et scientifiques (CTHS).
- Bourcelot Henri (1966–2012). *Atlas Linguistique et Ethnographique de la Champagne et de la Brie* Paris, Vol. I–IV, Paris, Éditions de C.N.R.S.
- Bruneau Charles (1932). “Les noms de la pomme de terre en Belgique romane”, *Études de dialectologie romane dédiées à la mémoire de Charles GRANDGAGNAGE*, Slatkine, 57-78.
- Dauzat Albert (1922). *La géographie linguistique*, Ernst Flammarion.
- Gilliéron Jules (1918). *Généalogie des mots qui désignent l'abeille d'après l'Atlas linguistique de la France*, Paris: Librairie Ancienne Honoré Champion.
- Gilliéron Jules et Edmont Edmond (1902). *Atlas linguistique de la France Notice servant à l'intelligence des cartes*, Paris: Honoré Champion.
- Gilliéron Jules et Edmont Edmond (1902-1920). *Atlas linguistique de la France*, Paris: Honoré Champion.
- König Werner (1978) *dtv-Atlas zur deutschen Sprache Tafeln und Texte*, Deutscher Taschenbuch Verlag (dtv).
- Poirot Jean (1913) “Lorrain *pmot*, *kmot* = pomme, pomme de terre”, *Neuphilologische Mitteilungen* 15, 83-87.
- Sébillot Paul (1985). *Le Folklore de France, La Flore*, Imago, 1985.
- Spitzer Leo (1921). “Die Namengebung bei neuen Kulturpflanzen im Französischen”, *Wörter und Sachen* IV, 122-165.
- 松原秀一 (1974). 「じゃがいも」, 『ことばの背景 単語から見たフランス文化史』, 白水社, 34-38.
- ギョ L. (1991). 『花の名前』, 飯田他訳, 八坂書房, 1991.

*Französisches Etymologisches Wörterbuch* (FEW) : <https://apps.atilf.fr/lecteurFEW/index.php/page/view>  
*Trésor de la Langue Française Informatisé* (TLFi) : <http://atilf.atilf.fr/tlf.htm>.

本報告は、大幅に加筆訂正した後に、以下の論文として発表されました。

Pomme de terre "potato" in French eA Geolinguistic Analysis of Lexical Variation-, *Flambeau* 43, Tokyo University of Foreign Studies, 2018, 38 e. 5)

<http://repository.tufs.ac.jp/bitstream/10108/91130/1/Flambeau+43-3.pdf>

科研費基盤研究(B)「語史再構における言語地理学的解釈の再検討ー類型的定式化の試みー」成果報告

## ジャガイモの地域名称とその分布の背景

中井精一

1

### 問題の所在

- ことばの地域差は、なぜ発生するのであろうか。このばの地域差の背景には、どのような諸要因が関わっているのであろうか。
- ことばの地域差には、様々な要因が複雑に、かつ相互に関わっていることが考えられる。したがってことばの地域差や時間差について考察し、普遍性と個別性にアプローチするのは、使用開始時期が明確な語彙や語形式を対象とすることがもっとも適切である。
- 16世紀から17世紀にかけて伝来した外来作物の中から馬鈴薯を取り上げ、事物の伝来と語形分布の状況について、言語外要因との関係から考えてみたい。

2

## 言語変化と方言分布の関係

- 澤木(1979)によれば、新しく輸入された事物の呼び方については、大別して二つの場合がある。一つは、新たに名前をつける(命名する)ことであり、もう一つは、その事物の輸出元ともいうべき、もとの土地での呼び方をそのまま使うこととある。
- 以下では、1957年～1965年実施された「日本言語地図(LAJ)」と2010～2015年に実施された「新日本言語地図(FPJD)」の使用し、馬鈴薯の地域名称をもとに検討する。
- また、言語外要因が言語変化や言語分布に与える影響については、食生活に焦点をあて、生産量や消費量に注目して検討したい。

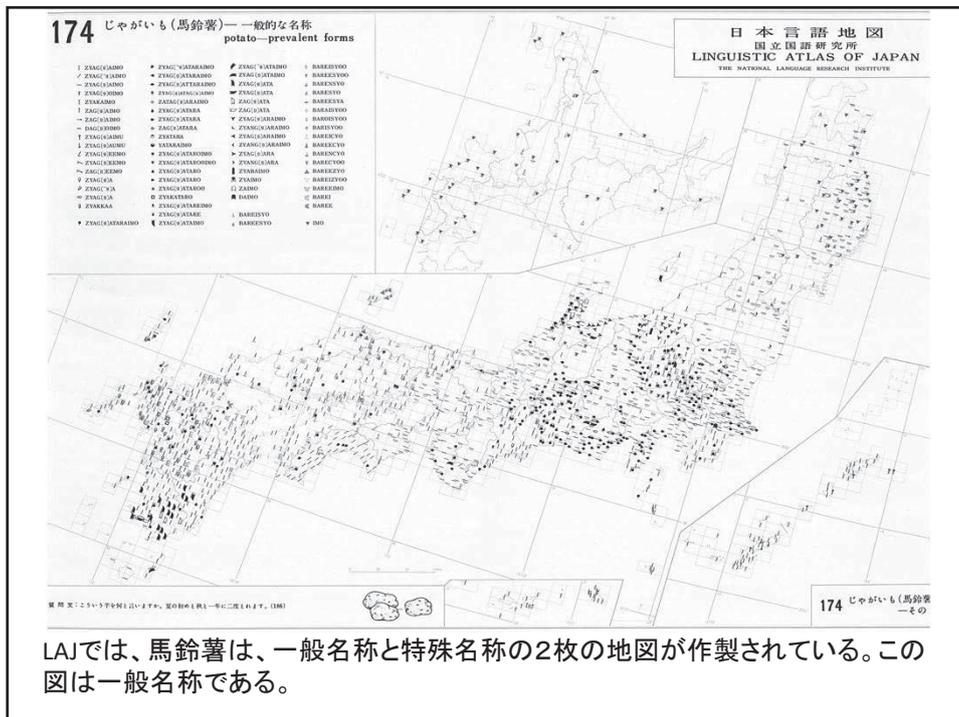
3

## 馬鈴薯

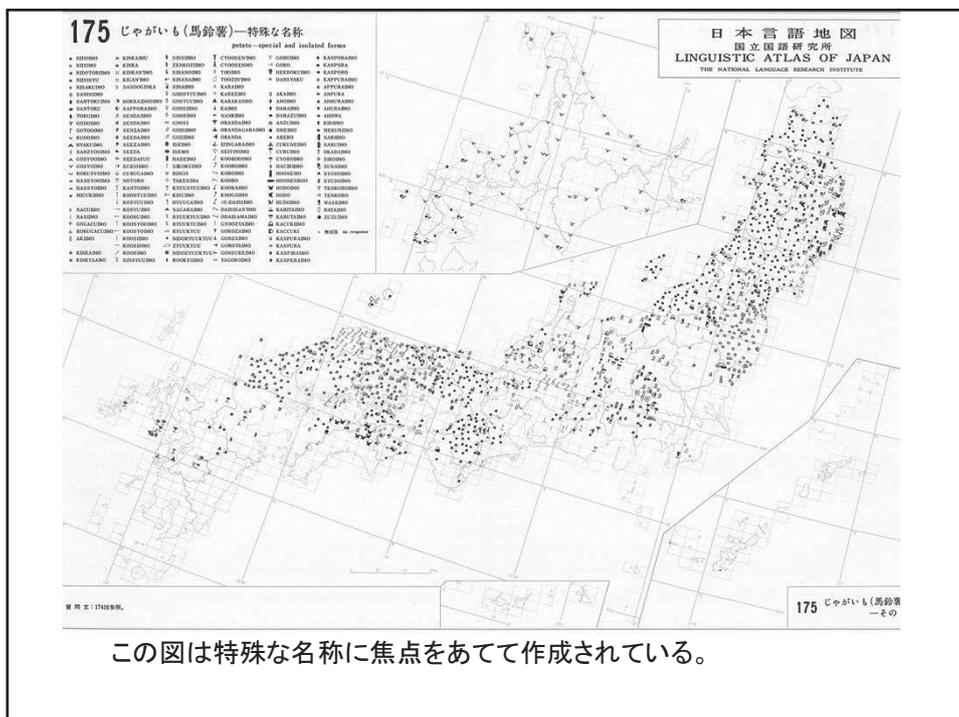
- 日本には1601年(慶長6)に、ジャカルタからオランダ船によって長崎県の平戸(ひらど)に運ばれたのが最初で、ジャガタライモとよばれるようになった、と言われているが諸説ある。
- 寛政(かんせい)年間(1789～1801)にはロシア人が北海道や東北地方に伝え、エゾイモの名で東北地方へ広がった、と言われるが諸説ある。
- ヨーロッパ同様観賞植物扱いであったが、その後飢饉(ききん)のたびに食糧として関心が高まった。
- 本格的に普及したのは、明治初期にアメリカから優良品種を導入して以降のことである。  
(詳細は後述する)



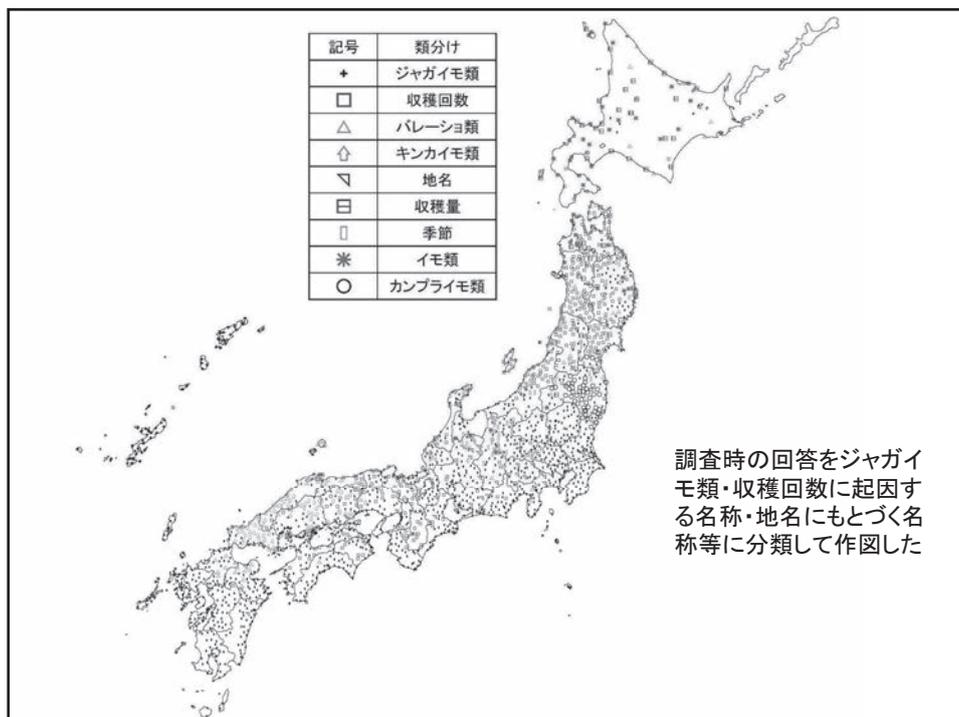
4



5



6

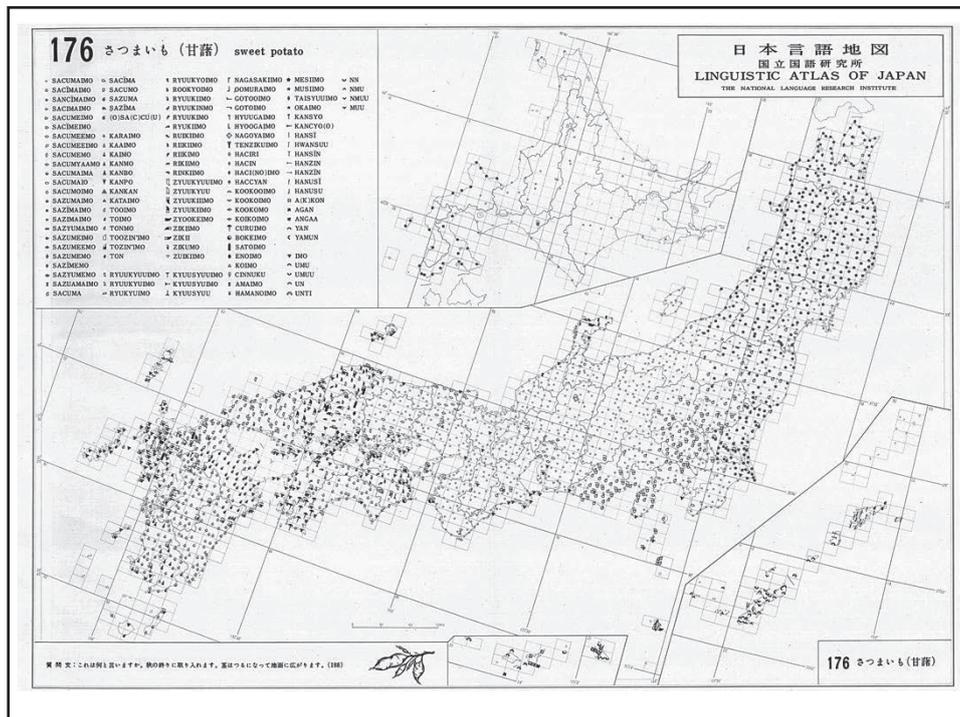


7

## LAI: 馬鈴薯の方言分布状況

- ジャガイモ、パレーショなどが大部分を占めている。
- じゃがいもの方言は国内地名とかかわるものがとくに多い。ホツカイドーイモ(鳥取・福井)、センダイイモ(岐阜)、エチゴイモ(滋賀)、ツルガイモ(岩手)、コーシューイモ(東海地方ほか)、シンシューイモ(埼玉)、ゴーシューイモ(徳島)、イセイモ(兵庫)、シコクイモ(新潟・兵庫)、ヒューガイモ(奈良)、リューキューイモ(熊本ほか)等、いずれも名称地を離れた地方に分布する。
- ニドイモはこの芋が年に二度とれる地域があることからの名であり、サンドイモやゴドイモはそれの誇張形かと思われる。
- 北海道で優勢なゴシヨイモは「五升芋」に由来し、収穫量の多いことによる。
- FPJDでは、上記のような特徴は見えなくなってきている。

8



9

## LAJ: 甘藷の方言分布状況

- 名称は出身地・伝来経路に由来する。
- 東日本から近畿・中国にかけて「サツマイモ」
- 九州北部から山口などにかけて「トウイモ(唐芋)」
- 九州南部と四国の一部で「カライモ(唐芋)」
- 九州北西・中国・四国・能登などで「リュウキュウイモ」と言う。
- さつまいもの主力語形であるカライモ→トイモ→リュウキュウイモ→サツマイモは、西から東に向かって分布している。
- この順序は、日本内地から見て、遠い地名から順に並んでいる
- 甘藷が琉球あるいは九州南部に渡来したときに「唐イモ」の名が与えられ、琉球からある程度離れた土地に到達して「琉球イモ」となり、薩摩から江戸に移入されて「薩摩イモ」となった。
- 馬鈴薯の分布と大きく異なっている。

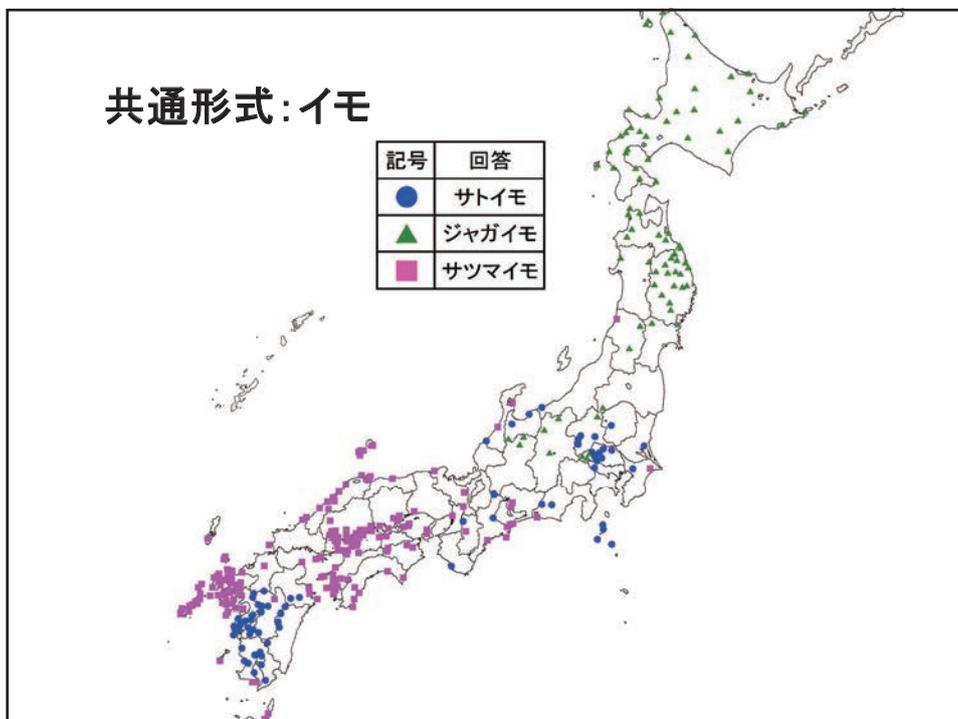
10

	里芋	甘藷	馬鈴薯	集計
アカイモ	◎	—	◎	2
イガイモ	◎	—	◎	2
イモ	◎	◎	◎	3
イモノコ	◎	◎	—	2
エモ	◎	—	◎	2
オカイモ	◎	◎	—	2
オランダイモ	—	◎	◎	2
カイモ	◎	◎	◎	3
カライモ	—	◎	◎	2
ゲンキイモ	◎	◎	◎	3
ジャガイモ	◎	◎	—	2
シロイモ	◎	—	◎	2
ズイキイモ	◎	◎	—	2
ツルイモ	—	◎	◎	2
テンジクイモ	—	◎	◎	2
トイモ	◎	◎	—	2
トーイモ	◎	◎	◎	3
トノイモ	◎	◎	—	2
ナンキンイモ	◎	—	◎	2
バライモ	◎	—	◎	2
ヒューガイモ	—	◎	◎	2
マイモ	◎	◎	—	2

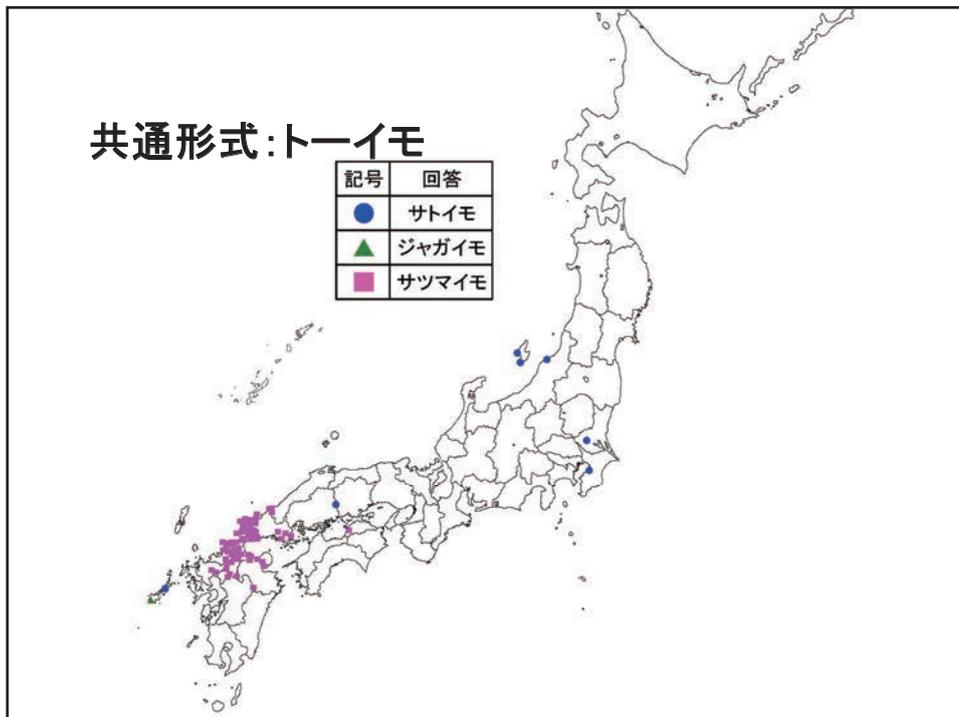
同音衝突は  
起こっている  
のか？

共通の語形  
を見る

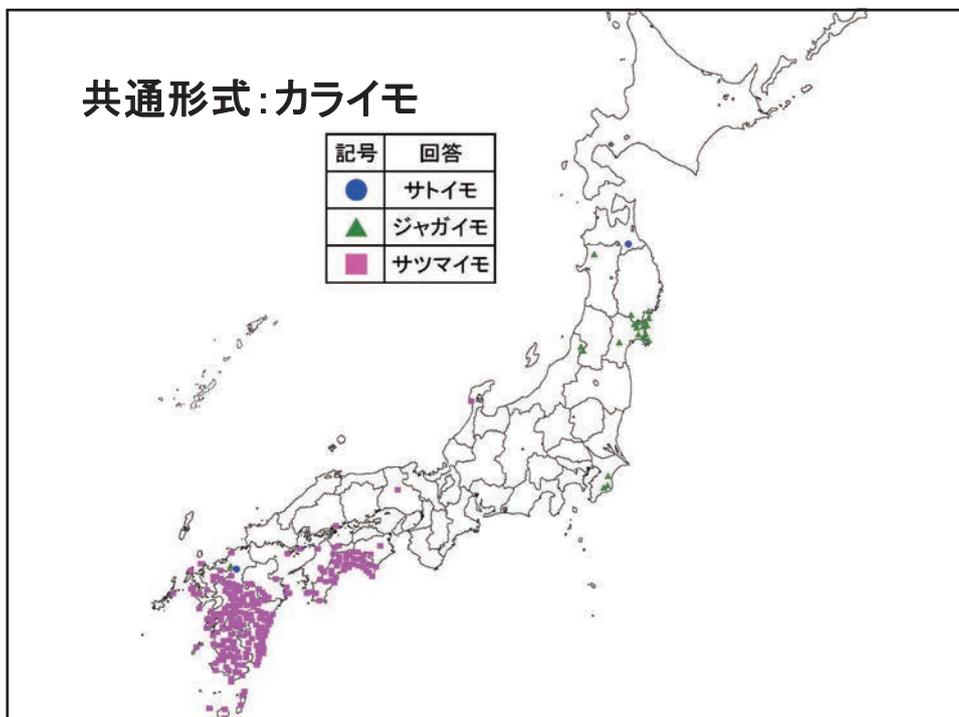
11



12



13



14

- イモは、甘藷：北部九州から瀬戸内、近畿、東海、北陸、馬鈴薯：東北地方を中心に、岐阜、長野および関東地方に、里芋は中南部九州、関東を中心に、辺境部
- トーイモは、甘藷：北部九州が中心、馬鈴薯：長崎県1地点、里芋：長崎県・岡山県・佐渡・新潟県・茨城県・千葉県に数地点
- カライモは、甘藷：南九州を中心に九州全域および四国、馬鈴薯：宮城県や岩手県、山形県などの東北地方および千葉県など、里芋：青森県や福岡県に数地点

※これらに同音衝突は起こっていない

15

LAJ(1957年～65)  
からFPJD(新日本  
言語地図 2010年  
～13年)への方言  
分布の変化を見る

- FPJD L-12  
じゃがいも(馬鈴薯)
- ↑ ジャガイモ
  - ∟ ジャガタライモ
  - ∟ パレーシヨ
  - イモ
  - ナツイモ
  - ▽ ゴシヨイモ
  - ▽ ゴンシイモ
  - ▽ ニドイモ
  - ▽ サンドイモ
  - ゴドイモ
  - ▽ キンカイモ
  - ▽ カライモ
  - ▽ オランダ
  - ▽ ト
  - ▽ コーシイモ
  - ▽ コーボーイモ
  - ▽ コロイモ
  - ▽ セーダ
  - ▽ ダンシャクイモ
  - アガイモ
  - カンフライモ
  - ホドイモ
  - ▽ テンコロイモ
  - ▽ ノトロ
  - ▽ タダイモ
  - ▽ メークエモ
  - ▽ ポテト
  - ▽ その他
  - ・ 第二回答以下のジャガイモ



16

## 平均座標(中心点)の変化からLAJからFPJD(新日本言語地図)への方言分布の変化を読み取る

QGISには「平均座標」を算出する機能が備わっている。

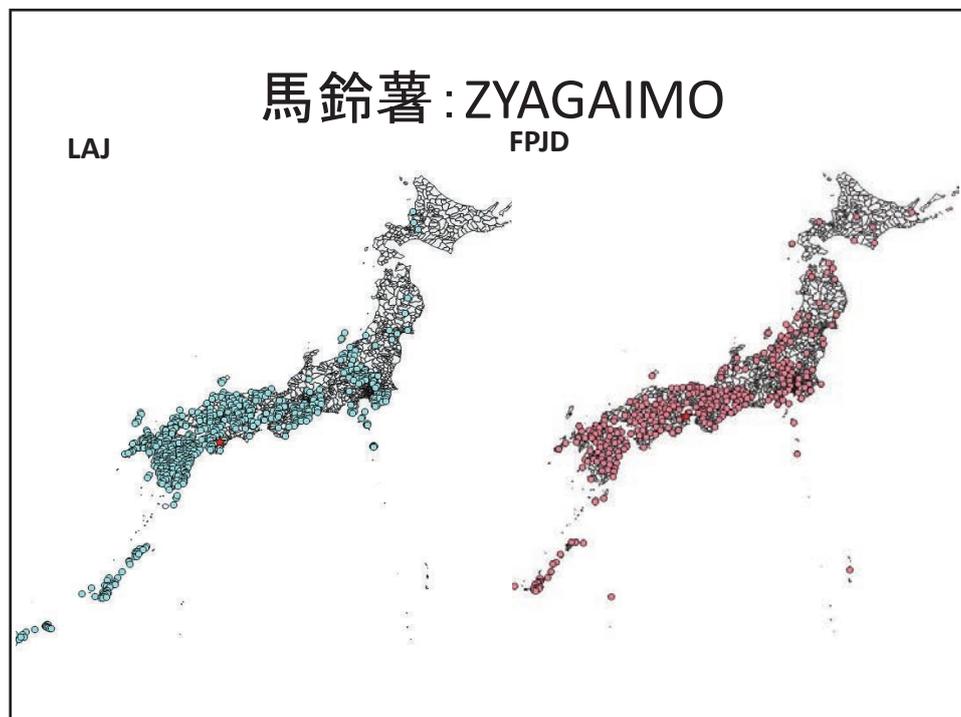
「平均座標」は、対象とする調査地点群の全ての緯度・経度データを合計し、そのデータ個数で割って平均を求める。

また、以下に示す主要語形についての面積比較から、拡大・縮小を推定するとともに、中心点の緯度・経度の移動から分布の変化(ある地域での衰退や拡大もわかる。)

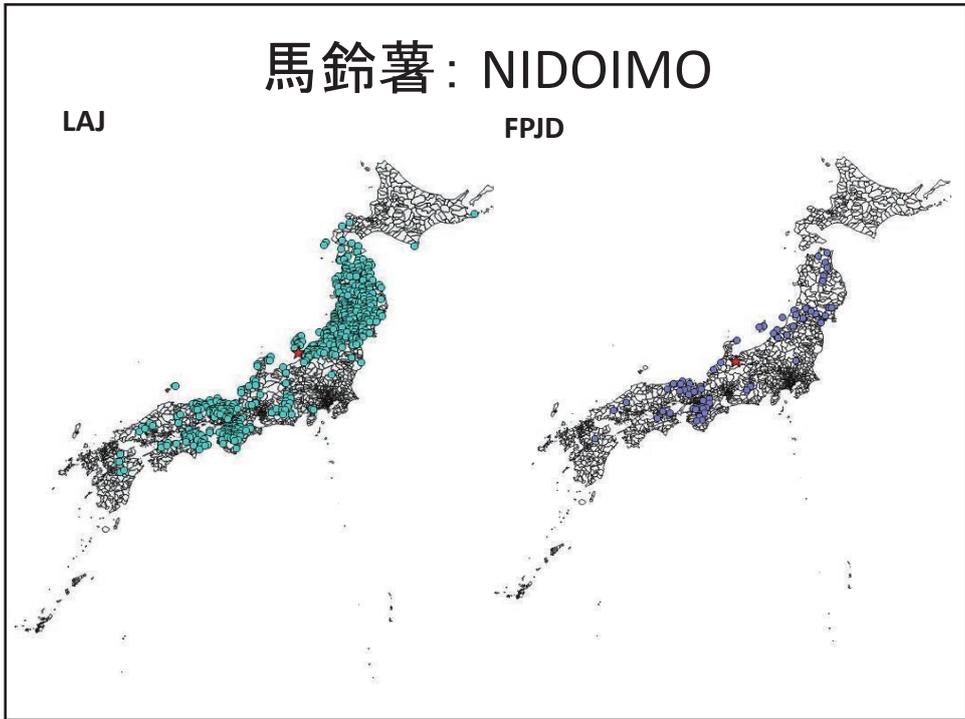


Quantum GISのホームページ(<http://www.qgis.org/>)にアクセスし、最新版のQuantum GISをダウンロード、インストール

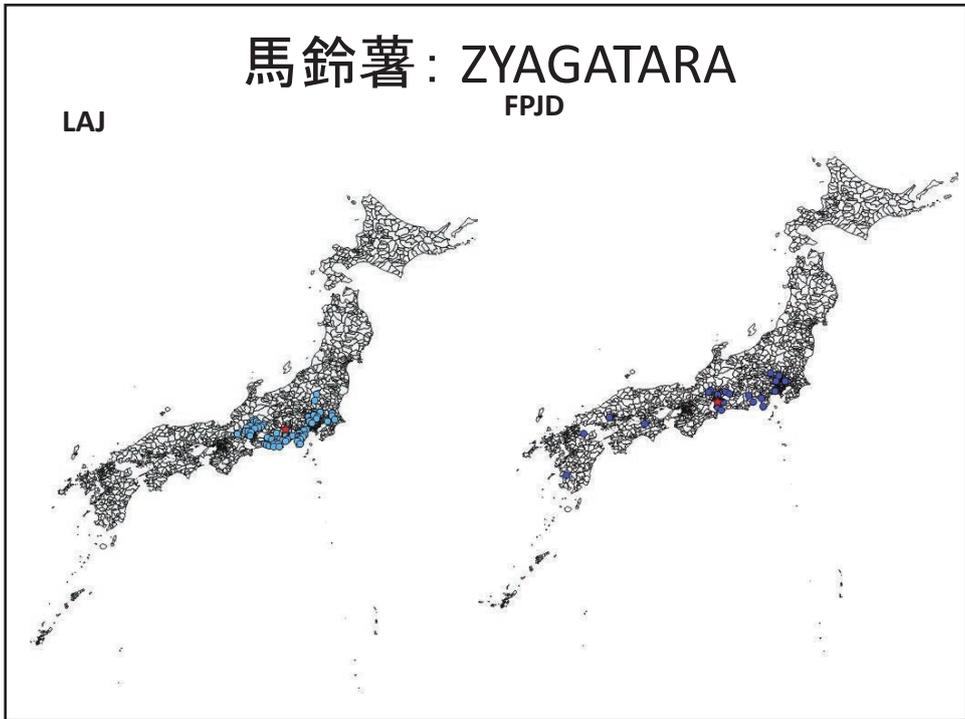
17



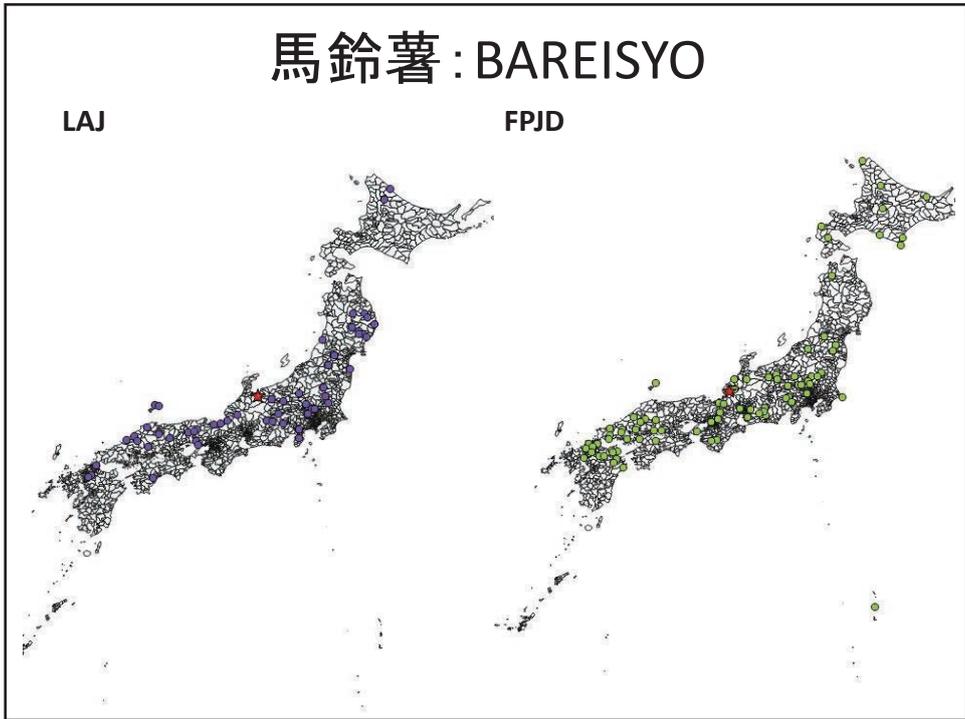
18



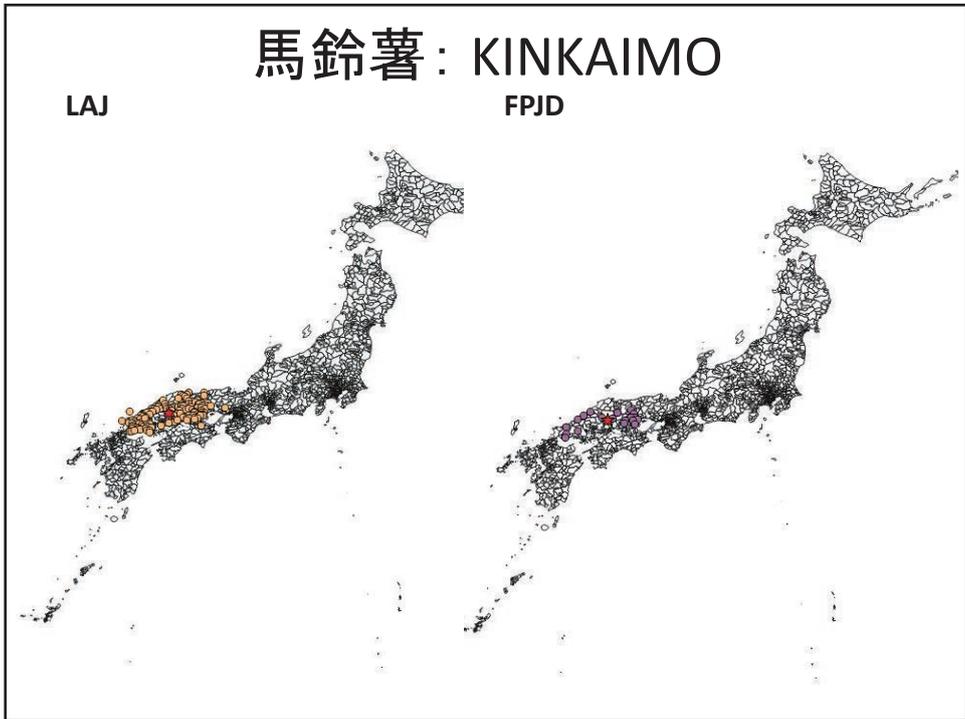
19



20



21



22

## LAJからFPJDへの方言分布の変化

- ・ZYAGAIMOは、近畿地方から北陸地方、関東地方でも使用が拡大した。中心点が東に大きく移動した。
- ・NIDOIMOは、全国的に使用が減少したことがわかる。特に東北地方や新潟県で大きく減少し、中心点は西に移動した。
- ・ZYAGATARAは、全体に減少した。九州や西日本で使用があり、中心点はやや西に移動した。
- ・BAREISYOは、全国的に使用を拡大させている。
- ・KINKAIMOは、山陰・山陽地方で大きな勢力を誇っていたが、大幅に減少した。

23

次ぎに滋賀県を含む北陸地方に焦点をあててジャガイモの経年変化を考えて見る。

語形	新潟県		富山県		石川県		福井県		滋賀県	
	LAJ	FPJD	LAJ	FPJD	LAJ	FPJD	LAJ	FPJD	LAJ	FPJD
ジャガイモ類	24 (20.51%)	16 (51.61%)	11 (30.55%)	12 (60.00%)	26 (48.14%)	10 (62.50%)	24 (42.85%)	8 (53.33%)	20 (51.28%)	7 (63.63%)
ジャガタライモ類	16 (13.67%)	3 (9.67%)	15 (41.66%)	2 (10.00%)	1 (1.85%)	1 (6.25%)	3 (5.35%)		4 (10.25%)	1 (9.09%)
パレーショ類		1 (3.22%)		3 (15.00%)		1 (6.25%)	4 (7.14%)	4 (26.66%)	1 (2.56%)	2 (18.18%)
ニドイモ類	52 (44.44%)	8 (25.80%)			10 (18.51%)	2 (12.50%)	7 (12.50%)	2 (13.33%)	4 (10.25%)	1 (9.09%)
サンドイモ	5 (4.27%)	1 (3.22%)					1 (1.78%)		2 (5.12%)	
ナツイモ	4 (3.41%)		2 (5.55%)		6 (11.11%)	1 (6.25%)				
アキイモ					1 (1.85%)					
ゴガツイモ							6 (10.71%)			
シナイモ									1 (2.56%)	
カライモ	1 (0.85%)						1 (1.78%)			
オランダイモ類									2 (5.12%)	
コーボイモ類	1 (0.85%)						5 (8.92%)		1 (2.56%)	
コーシイモ類	4 (3.41%)		1 (2.77%)						1 (2.56%)	
その他	10 (8.54%)	2 (6.45%)	7 (19.44%)	3 (15.00%)	10 (18.51%)	1 (6.25%)	5 (8.92%)	1 (6.66%)	3 (7.69%)	
総計	117 (100%)	31 (100%)	36 (100%)	20 (100%)	54 (100%)	16 (100%)	56 (100%)	15 (100%)	39 (100%)	11 (100%)

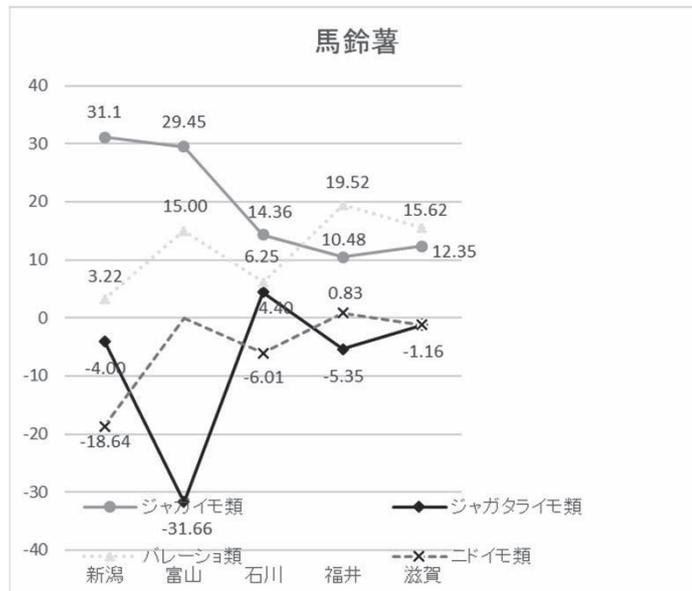
24

## 主要語形の増減

語形	新潟県			富山県			石川県			福井県			滋賀県		
	LAJ	FPJD		LAJ	FPJD		LAJ	FPJD		LAJ	FPJD		LAJ	FPJD	
ジャガイモ類	20.51%	51.61%	31.10%	30.55%	60.00%	29.45%	48.14%	62.50%	14.36%	42.85%	53.33%	10.48%	51.28%	63.63%	12.35%
ジャガタライモ類	13.67%	9.67%	-4.00%	41.66%	10.00%	-31.66%	1.85%	6.25%	4.40%	5.35%		-5.35%	10.25%	9.09%	-1.16%
パレーショ類		3.22%	3.22%		15.00%	15.00%		6.25%	6.25%	7.14%	26.66%	19.52%	2.56%	18.18%	15.62%
ニドイモ類	44.44%	25.80%	-18.64%			0.00%	18.51%	12.50%	-6.01%	12.50%	13.33%	0.83%	10.25%	9.09%	-1.16%
ナツイモ	3.41%		-3.41%	5.55%		-5.55%	11.11%	6.25%	-4.86%			0.00%			0.00%
ゴガツイモ			0.00%			0.00%			0.00%	10.71%		-10.71%			0.00%

25

## 北陸地方：馬鈴薯経年変化



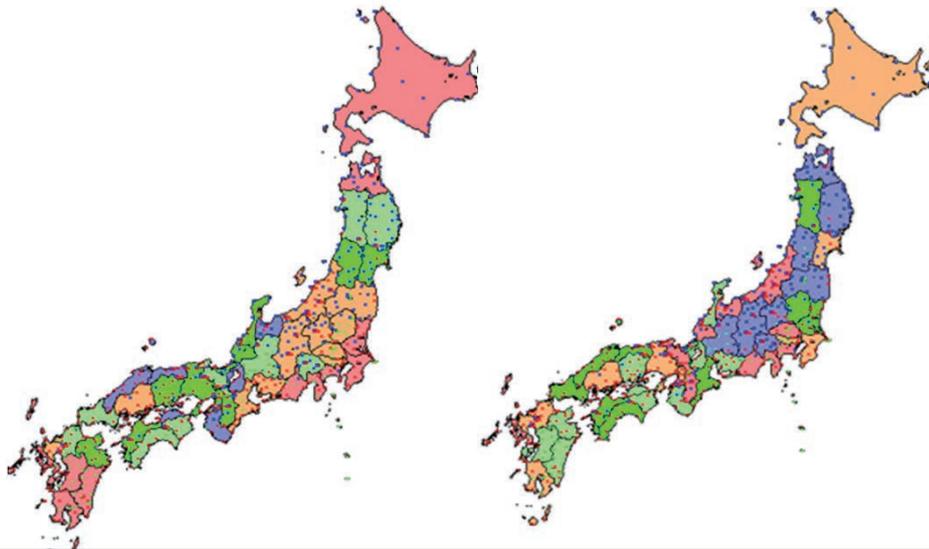
26

- ジャガイモ類・ジャガタライモ類・バレイショ類・ニドイモ類を中心にみれば、共通語形のジャガイモ類が各県とも増加していることがわかる。特に富山県では方言形のジャガタライモ類が大きく減少し、ジャガイモ類にシフトしている。
- 富山県・石川県で使用されていたナツイモ、福井県で使用されていたサンドイモやゴガツイモ、コーボイモ類などが、この50年余で消滅してしまったことがわかる。

27

収穫量(消費量)上位1~10位を赤、11~20位をオレンジ、21~30位を黄緑、31~40位を緑、41~47位を青で示した

2012年次 ジャガイモの生産量 2012年次 ジャガイモの消費量



28

- 馬鈴薯の消費量を見ると、富山県、石川県、福井県などの北陸地方は、生産量が低いにも関わらず、上位にある。
- コロッケの消費量が石川県、富山県、福井県、滋賀県、兵庫県、栃木県は上位にある。
- 共働き率も石川県、富山県、福井県、鳥取県は全国的に上位にある。
- これらの地域は、カレー消費量が多く、ジャガイモの消費量に影響を与えている。

→女性の就業率の高さが、家庭料理やジャガイモ消費につながっている

29

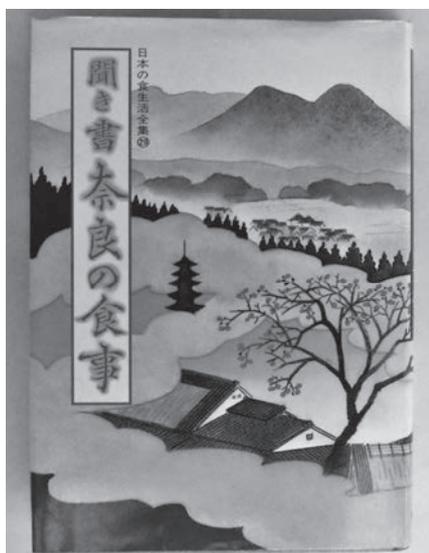
## 地域名称とその背景

澤木(1979)には、「事物の伝播は、普通の語形の伝播と違って、「地をはうように」連続的に行われるとは限らない。むしろ飛火的にひろがっていくこともあれ、そこから各地にひろがったと考えられる。九州に分布するポーブラ類の語形は秋田に飛火しているし、近畿にも九州から伝播物とことばしたと考えられる。事物と一緒に語形が伝播した項目では、事物の伝播経路を知ることが、語形間の先後関係を知るうえで重要である。」とある。

※日本各地の食生活などに注目して馬鈴薯の地域名称とその背景について考えてみたい。

30

## 「日本の食生活全集」をもとに分析



- 大正末期～昭和の初めての食生活を、当時を知る約5,000人のおばあさんたちに、全国350余か所でインタビューして作り上げられた。
- スタートが1982年。実際に食事をつくっていた人々は、当時すでに80歳前後。まさに“ぎりぎり間に合った”食文化の調査だった。
- 10余年の歳月をかけ、1993年に完結を見た。

31

## 北海道



松前郡松前町 【撮影日】85年3月

開拓行政は、北海道に似た自然条件をもつヨーロッパ、北アメリカの方式を取り入れるよう力を入れ、ごしよいも（じゃがいも）など作付けを農家にすすめた。

優良品種を新たに輸入し、日常食に定着させ、郷土料理にも発展させる。

32

## 青森県



弘前市【撮影日】85年9月

青森県は大きく南部と津軽に分けられる。南部地方は太平洋に面し、昔から水田耕作に不適だった。

下北地方は田があっても稲を植えず、ひえ田ばかりである。そして、畑作によるひえ、あわが主で、それにそば、いもが食生活を支えていた。

33

## 岩手県



九戸郡軽米町【撮影日】84年2月

農家では、多少とも主食の節約、食いのばしといった理由から、大根かて飯、干し菜飯、じゃがいも飯などを食べている。

じゃがいもは、味噌汁の実や煮ものなど野菜としての食べ方は当然であるが、大根の前作として多くつくられ、準主食としての役割も果たしている

34

## 秋田県



男鹿市【撮影日】85年6月

基本食として米に次いで食べるのは、あんぷら(じゃがいも)である。

あんぷらは、夏の間、おもに昼食に塩でゆでておき、ごはん前にまずそれを食べてから、ふつうのごはんを食べて、ごはんの節約をはかる。

35

## 『日本の食生活全集』から見える馬鈴薯

- 救荒作物として導入された点は、甘藷と似ている。ただし、分布の様相が大きく異なっている。
- ジャガイモの受容や栽培には、気候条件や土壌など、稲作の不適地が積極的に受け入れたことがわかる。
- 日本各地の郷土料理には、ジャガイモを使用した料理が多い。また、米の節約のために米の代用品として食べている地域も多い。

→各地では、郷土料理として定着している

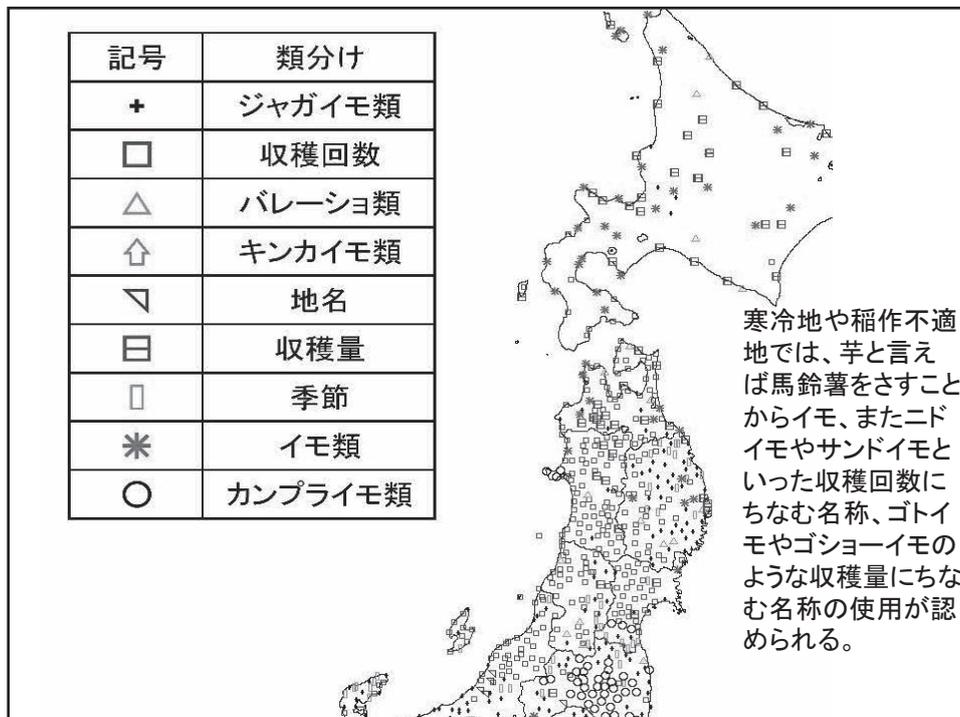
36

## 伝播経路と地域名称

- ①1598年にオランダ人によって持ち込まれた。1801年に甲斐の代官であった中井清太夫が栽培を奨励し日本国内に救荒作物として普及した。
- ②1799年に最上徳内が、ロシア人から入手し、北海道・東北地方での栽培が始まった。
- ③1868年に開拓史によって、アメリカから優良品種が輸入される。

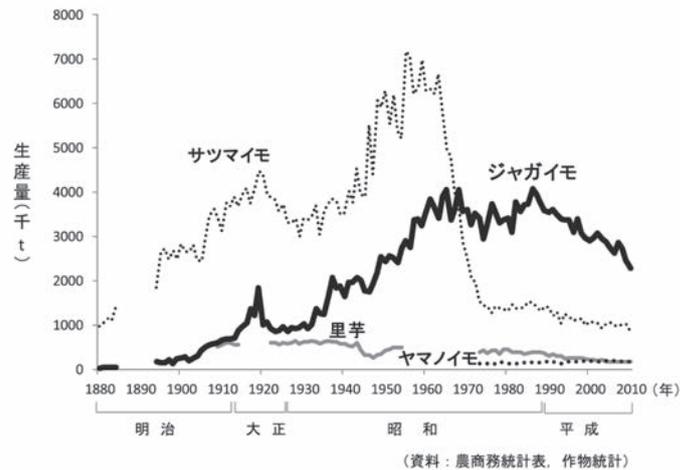
※現在、日本国内で普及している馬鈴薯は、明治以降に輸入あるいは改良された品種であり、品種等からは経路の推定は極めて困難である

37



38

## 甘藷・馬鈴薯・里芋の生産量



39

## 消費量・生産量の変化と地域名称

- 馬鈴薯は、救荒作物として導入され、食糧不足を救った。
- 長い時間をかけて煮物や焼き物、揚げ物などの郷土料理にも取り入れられている。
- 洋食の普及や女性の社会進出により、スーパーの総菜や短時間で調理できることからカレー、ポテトサラダ、コロッケなどで使用され、高い生産量・消費量を維持している。
- 食生活の変化により、消費量を拡大したが、自家での栽培の減少により方言形の衰退を招き、ジャガイモやバレイシヨといった名称の拡大を招いた。

40

《参考文献》

- 加藤貞仁・鐙啓記(2002)『北前船—寄港地と交易の物語—』無明舎出版
- 加藤正信・佐藤武義・前田富祺(1988)『方言に生きる古語』南雲堂
- 木部暢子(2000)「九州」『日本語学』6月号 19-7 明治書院
- 国立国語研究所(1984)『日本言語地図解説—各図の説明4—』
- 佐藤亮一(1982)「方言語彙の分布—『日本言語地図』に見る」『講座日本語の語彙8 方言の語彙』明治書院
- 峪口有香子・岸江信介(2013)「淡路島の方言語彙に関する研究—じゃがいも・さつまいも・さといも—」言語文化研究
- 澤木幹栄(1979)「物とことば」『日本の方言地図』中公新書
- 田籠博(1992)「方言語彙資料としての諸国産物帳—く甘藷>とく南瓜>を中心に—」『国語学』171集
- 中井精一(2011)「現代方言からみた植物利用の地域多様性」『シリーズ 日本列島の三万五千年—人と自然の環境史 第6巻 環境史をとらえる技法』文一総合出版
- 農山漁村文化協会(1975)『農業技術大系作物編5 ジャガイモ・サツマイモ』
- 橋本鉄男 他編(1991)『日本の食生活全集25 聞き書 滋賀の食事』農山漁村文化協会

41

- 廣戸惇(1986)『方言語彙の研究』風間書房
- 堀田良 他編(1989)『日本の食生活全集16 聞き書 富山の食事』農山漁村文化協会
- 藤田秀司 他編『日本の食生活全集2 聞き書青森の食事』農山漁村文化協会
- 古沢典夫 他編(1984)『日本の食生活全集5 聞き書 秋田の食事』農山漁村文化協会
- 宮本常一・潮田鉄男「食生活の構造 (1978年) (シリーズ食文化の発見〈2〉)」柴田書店
- 向原祥隆(2004)『新薩摩学 薩摩・奄美・琉球』南方新社
- 守田良子 他編(1988)『日本の食生活全集17 聞き書 石川の食事』農山漁村文化協会
- 森山泰太郎 他編(1986)『日本の食生活全集2 聞き書青森の食事』農山漁村文化協会
- 矢島睿 他編(1986)『日本の食生活全集1 聞き書 北海道の食事』農山漁村文化協会
- じゃがいも(生産量・消費量)2014全国グルメランキング 都道府県ランキング  
<http://www.japan-rank.com/article/192471586.html>

42

# 同音衝突に関する資料

沢木 幹栄

## LAJにおける同音衝突 プログラムとデータ

沢木幹栄

はじめに

デジタル化されている LAJ (『日本言語地図』) のデータを使って、一つの地点で同音衝突を起こしている例をすべて見つけるプログラムを作成した。そのプログラムの解説とデータの提示を行う。

### プログラムの解説

地図化されるまえの LAJ の調査データは国立国語研究所で当時の調査員から提出された紙のカードの形で保管されてきた。このカードを電子化したデータにする作業が進行中である。ここではこの作業から派生した質問項目ごとのエクセルファイルを利用している。エクセルになっていない質問項目があるので、ここで示すのはあくまでも利用できるデータの範囲で得られた結果である。

対象となっている項目は以下の通り、118 項目である。

〈塩味が〉うすい 〈虹が〉きれいだ あか (垢) あさって (明後日)  
あざ (痣) になる あしたのぼん (明晩) あした (明日) あぜ (畦畔)  
あたま (頭) あまい (甘い) あめ (雨) いえ (家屋) いと (糸)  
いなずま (稲妻・電光) いる (居る) うし (牛) うるち (粳米)  
うろこ (鱗) おいしい (美味しい) おうし (牡牛) おうま (牡馬)  
おかね (貨幣) おそろしい (恐ろしい) おたまじゃくし (蝌蚪)  
おつり (釣銭) おとこ (男) おととい (一昨日) おやゆび (親指)  
おんぶする (幼児を負う) かお (顔) かかし (案山子)  
かくれんぼ (隠れん坊) かぞえる (お金を数える) かたつむり (蝸牛)  
かつぐ (二人で担ぐ) かつぐ (天秤棒を担ぐ) かつぐ (材木を担ぐ)  
かぼちゃ (南瓜) かまきり (螻蛄) きぬいと (絹糸) きのう (昨日)  
くすりゆび (薬指) くちびる (唇) くるぶし (踝) こうし (子牛)  
こうま (子馬) こおる (水が凍る) ここのか (九日) こめ (米)  
こゆび (小指) ごみ (川のごみ?塵芥) ごみ (掃除の対象?塵芥)  
ごみ (目にはいるもの?塵) さきおととい (一昨昨日) さつまいも (甘藷)  
さといも (里芋) しあさって (明明後日) した (舌)  
しもやけ (凍傷) じしん (地震) じゃがいも (馬鈴薯)

すぎな (杉菜・間荊)　すずめ (雀)　すてる (捨てる)　すみれ (菫)  
 すりこぎ (搗粉木)　すりばち (搗鉢)　すわる (坐る)　せともの (陶磁器)　た  
 く (炊く)　たけうま (竹馬)　たてがみ (鬘)　ちゅんちゅん (雀の鳴き声)　つ  
 き (月)　つくし (土筆)　つむじ (旋毛)　つゆ (梅雨)　つらら (氷柱)　と  
 うがらし (蕃椒)　とうもろこし (玉蜀黍)　とかげ (蜥蜴)  
 とげ (刺・棘) ?いばらやさんしょうなどのとげ　とりおどし (鳥威)  
 とんぼ (蜻蛉)　なす (茄子)　なのか (七日)　なめくじ (蛞蝓)  
 におい (匂) をかぐ (嗅ぐ)　におい (匂) をかぐ (嗅ぐ)　におい (悪臭)  
 におい (芳香)　にじ (虹)　にる (煮る)　ぬか (糠)　はげる (禿げる)  
 はたいと (機糸)　はな (鼻)　はんまい (飯米)　ひとさしゆび (人差し指)  
 ひまご (曾孫)　ふけ (雲脂)　ふすま (襖障子)  
 ほくろ (黒子) ?大きいもの　ほくろ (黒子) ?小さいもの　ほほ (頬)  
 まわた (真綿)　めうし (牝牛)　めうま (牝馬)　もうもう (牛の鳴き声)　も  
 ぐら (土竜・鼯鼠)　ものもらい (麦粒腫)　やしゃご (玄孫)  
 やのあさって (明明明後日)　やる (遣る)　ゆうだち (夕立雨)　ゆき (雪)  
 ゆげ (蒸気?飯の場合)　カガミ (鏡) の-Gの音

プログラムの開発言語としてエクセルに付属している VBA を用いた。エクセルのデータを直接読むことができる点で今回の作業に最適だと考えられるからである。現在の最新の VBA は非常に広大なデータ領域を持っていて、64 ビットの WINDOWS 上で1ギガバイトをデータ用に使っても問題ないようである。これは、LAJ の全データの 10 倍以上をメモリーに読み込んで処理できるということの意味する。全データをひとまとめにしてソートできれば、今までメモリー空間の限界を意識して非常に複雑なプログラムを組んでいた苦労が無意味になる。孤例であれ、同音衝突であれ単純なソートの問題に還元できる。今まで苦労してきた身には残念なのだが、プログラミングの敷居が低くなって多くの研究者がこの問題に接近できるようになることを考えれば福音というほかない。

プログラムは最後に示した。データ、プログラムはすべて ram disk (ドライブ名 z:) の¥p\_col4 というディレクトリに入れてある。

LAJ の質問回答を項目ごとにエクセルにしてあったものを順番にプログラムの配列にコピーし、第一キーを地点番号、第二キーを語形、第三キーを項目として全データをソートする。ソートのアルゴリズムはクイックソートである。大小比較ルーチンでキーの優先順位をつけている。クイックソートについてはアルゴリズムの教科書を参考にされたい。

このようにしてソートすると、隣り合った行で地点と語形が同じ場合に同一地点での同音衝突が起きていることになる。ソートしたデータを順番に見て行って同音衝突が起きているデータを `bigresult2.txt` に書き出す。

これが全体の流れだが、LAJ エクセルのデータを配列にコピーするところをもうすこし詳しく見よう。「LAJ ファイルの内容を. . . 」とコメントがついている下では、LAJ ファイルの C 列と D 列のデータ（地点番号）をプログラムのあるエクセルの A 列と B 列にコピーしている。同様のコピー作業をその下の 2 行でも行っている。元ファイルの G 列は項目名で、I 列は語形を表す。コピーし終わったところで、今度はそれをプログラム内の配列に書きこむ。

このエクセルのファイル内容をプログラムのあるエクセルにコピーするためのコマンドを知っていると便利である。鋭い人は気がついたはずだが、実は「コピー」と「ソート」はプログラムを組まなくてもエクセルの普通の使い方だけでもできる。ただ、人力でこの作業を行った場合、時間がかかるし、118 ものファイルをコピーするとなれば、ミスが起きる可能性は大きい。

プログラムで処理することの最大のメリットは人為的なミスが防げることである。

このようにして同一地点での同音衝突をすべて見つけたが、全体で 12000 あまりになるので、同音衝突の地点が多い項目を除外した。それは以下の項目である。

塩味がうすい 甘い おいしい

たく（炊く） なる（煮る）

におい（悪臭） におい（芳香）

かつぐ（二人で担ぐ） かつぐ（天秤棒を担ぐ） かつぐ（材木を担ぐ）

ほくろ（大きいもの） ほくろ（小さいもの）

ごみ（川のごみ 塵芥） ごみ（掃除の対象 塵芥） ごみ（目にはいるもの 塵）

以下にデータとして示す同音衝突の事例はこれ自体で興味深いですが、むしろ更なる研究の材料であると考えられる。電子情報の状態であれば、このデータから新たに地図を描いたり、あるいは「同一地点では同音衝突を起こさないが、異なる項目で同音形になっているものの地図」を描いたりできる。そこから同音衝突について新たな洞察が得られることを期待したい。

（さわき もとえい 信州大学名誉教授）

## 同一地点の同音衝突を検出するプログラム

```
Option Explicit
Public ct(1000000) As Long
Public gokei_citen(1000000, 3) As String

Sub main()
Dim i, j, k As Long
Dim counter, c0, c1, max0 As Long
Dim str0, str1, str2 As String

'エクセルファイル名のファイル
Open "z:\¥p_col4¥lajfil.txt" For Input As #1

c0 = 0
Do While Not EOF(1)
'エクセルファイル名を取得
Line Input #1, str0
'LAJ ファイルの内容を VBA プログラムのあるエクセルにコピー
'地点番号
Sheet1.Range("A1:B4000").FormulaArray = "=" & str0 & "]" & Sheet1!$"C$2:$D4001"
'項目名
Sheet1.Range("C1:C4000").FormulaArray = "=" & str0 & "]" & Sheet1!$"G$2:$G4001"
'語形
Sheet1.Range("D1:D4000").FormulaArray = "=" & str0 & "]" & Sheet1!$"I$2:$I4001"
'エクセルから配列にコピー
counter = 0
str0 = " "
Do While str0 <> "" And str0 <> "0"
counter = counter + 1
c0 = c0 + 1
str0 = Cells(counter, 1)
str1 = Cells(counter, 2)
gokei_citen(c0, 3) = str0 & str1
str0 = Cells(counter, 4)
gokei_citen(c0, 1) = str0
gokei_citen(c0, 2) = Cells(4, 3)
ct(c0) = c0
Loop
c0 = c0 - 1
Loop

Call sort2(1, c0)

'結果を出力するファイルを準備
Open "z:\¥p_col4¥bigresult2.txt" For Output As #2
prev = ""
prev_w = ""
k = 0
'連続した行で語形と地点が同じものを出力する。
For i = 1 To c0
If prev = gokei_citen(ct(i), 3) And prev_w = gokei_citen(ct(i), 1) Then
```

```

If k = 0 Then
    Print #2, prev_w & " " & prev_k & " " & prev
End If
Print #2, gokei_citen(ct(i), 1) & " " & gokei_citen(ct(i), 2) & " " & gokei_citen(ct(i), 3)
k = k + 1
Else
    k = 0
End If
prev = gokei_citen(ct(i), 3)
prev_k = gokei_citen(ct(i), 2)
prev_w = gokei_citen(ct(i), 1)
Next i

Close
End Sub

```

'ソートルーチン gokei\_citen(ct(l),1..3) から gokei\_citen(ct(r),1..3)までソート

```
Sub sort2(ByVal l As Long, ByVal r As Long)
```

```
Dim i, j, k As Long
```

```
Dim x, x2 As Long
```

```
Dim w, x0 As String
```

```
Dim x9(2, 3) As String
```

```
i = 1
```

```
j = r
```

```
x = Int((l + r) / 2)
```

```
gokei_citen(99999, 1) = gokei_citen(ct(x), 1)
```

```
gokei_citen(99999, 2) = gokei_citen(ct(x), 2)
```

```
gokei_citen(99999, 3) = gokei_citen(ct(x), 3)
```

```
Do
```

```
Do While tbuf(ct(i), 99999) < 0
```

```
    i = i + 1
```

```
Loop
```

```
Do While tbuf(99999, ct(j)) < 0
```

```
    j = j - 1
```

```
Loop
```

```
If i <= j Then
```

```
    x2 = ct(i)
```

```
    ct(i) = ct(j)
```

```
    ct(j) = x2
```

```
    i = i + 1
```

```
    j = j - 1
```

```
End If
```

```
Loop Until i > j
```

```
If l < j Then
```

```
    Call sort2(l, j)
```

```
End If
```

```
If i < r Then
```

```
    Call sort2(i, r)
```

```
End If
```

End Sub

'比較ルーチン 第一キー 地点 第二キー 語形 第三キー 項目

Function tbuf(ByVal i As Long, ByVal j As Long) As Long

Dim t2 As Long

Dim m, n As Long

If gokei\_citen(i, 3) > gokei\_citen(j, 3) Then

t2 = 1

Else

If gokei\_citen(i, 3) < gokei\_citen(j, 3) Then

t2 = -1

Else

If gokei\_citen(i, 1) > gokei\_citen(j, 1) Then

t2 = 1

Else

If gokei\_citen(i, 1) < gokei\_citen(j, 1) Then

t2 = -1

Else

If gokei\_citen(i, 2) > gokei\_citen(j, 2) Then

t2 = 1

Else

If gokei\_citen(i, 2) < gokei\_citen(j, 2) Then

t2 = -1

Else

t2 = 0

End If

End If

End If

End If

End If

End If

tbuf = t2

End Function

## 同音衝突データ

CURA	顔	022896	IRIKI	鱗	025743	KOME	米	077688
CURA	頬	022896	IRIKI	雲脂	025743	KOME	飯米	077688
IRIKI	鱗	022896	SIMI-	案山子	025743	SIBARERU	凍る	077903
IRIKI	雲脂	022896	SIMI-	鳥威	025743	SIBARERU	凍傷	077903
IRIKI	鱗	023779	ICYUU	糸	026596	BEKO	牝牛	084033
IRIKI	雲脂	023779	ICYUU	絹糸	026596	BEKO	牝牛	084033
ITO	糸	023779	ICYUU	機糸	026596	USI	牛	084033
ITO	機糸	023779	IKKI	鱗	026596	USI	牝牛	084033
SEME-	案山子	023779	IKKI	雲脂	026596	BEKO	牝牛	087394
SEME-	鳥威	023779	IKKI	鱗	027536	BEKO	牝牛	087394
IRIKI	鱗	023784	IKKI	雲脂	027536	SIBARERU	凍る	089461
IRIKI	雲脂	023784	SIMI	案山子	027536	SIBARERU	凍傷	089461
SI-ME-	案山子	023784	SIMI	鳥威	027536	YANOASATTE	明明後日	089622
SI-ME-	鳥威	023784	ICCYU	糸	027597	YANOASATTE	明明後日	089622
CURA	顔	023855	ICCYU	機糸	027597	KUMI	粳米	114859
CURA	頬	023855	IKKI	鱗	027597	KUMI	米	114859
IRIKI	鱗	023855	IKKI	雲脂	027597	IRICI	鱗	115689
IRIKI	雲脂	023855	KUMI-	粳米	027597	IRICI	雲脂	115689
SYEME-	案山子	023855	KUMI-	米	027597	IRICI	鱗	116701
SYEME-	鳥威	023855	YUNDURYAYUKI-	案山子	027597	IRICI	雲脂	116701
IRIKYA	鱗	024648	YUNDURYAYUKI-	鳥威	027597	IRICI	鱗	116984
IRIKYA	雲脂	024648	ICYU	糸	027650	IRICI	雲脂	116984
TIRA	顔	024648	ICYU	絹糸	027650	IRICII	鱗	121169
TIRA	頬	024648	ICYU	機糸	027650	IRICII	雲脂	121169
IRIKI	鱗	024697	IKKI	鱗	027650	CIRA	顔	121376
IRIKI	雲脂	024697	IKKI	雲脂	027650	CIRA	頬	121376
SI-MI-	案山子	024697	HUMI	粳米	029466	I IKI	鱗	121376
SI-MI-	鳥威	024697	HUMI	米	029466	I IKI	雲脂	121376
TIRA	顔	024697	I ICI	鱗	029466	SYAAGA	絹糸	121376
TIRA	頬	024697	I ICI	雲脂	029466	SYAAGA	機糸	121376
CURA	顔	024731	HUMII	粳米	029493	IRICI	鱗	122147
CURA	頬	024731	HUMII	米	029493	IRICI	雲脂	122147
IRIKI	鱗	024731	I IKII	鱗	029493	SIMI	案山子	122391
IRIKI	雲脂	024731	I IKII	雲脂	029493	SIMI	鳥威	122391
IRIKI	鱗	024756	SYAAGA	絹糸	029493	HICYUU	糸	123188
IRIKI	雲脂	024756	SYAAGA	機糸	029493	HICYUU	月	123188
CIRA	顔	024800	ICCI	鱗	034000	IKKI	鱗	123229
CIRA	頬	024800	ICCI	雲脂	034000	IKKI	雲脂	123229
SIMI-	案山子	024800	ICYUU	糸	034000	SIMI	案山子	123229
SIMI-	鳥威	024800	ICYUU	機糸	034000	SIMI	鳥威	123229
ICCI	鱗	024917	KOME	粳米	071646	IKKI	鱗	123275
ICCI	雲脂	024917	KOME	米	071646	IKKI	雲脂	123275
SYUMI-	案山子	025608	SIBARERU	凍る	073794	SIMI	案山子	123275
SYUMI-	鳥威	025608	SIBARERU	凍傷	073794	SIMI	鳥威	123275
TIRA	顔	025608	KOME	粳米	074770	CIRA	顔	123361
TIRA	頬	025608	KOME	米	074770	CIRA	頬	123361
IRIKI	鱗	025676	MESU	牝牛	074770	IKKI	鱗	123361
IRIKI	雲脂	025676	MESU	牝馬	074770	IKKI	雲脂	123361
TURA	顔	025676	SIBARERU	凍る	074770	SIMI	案山子	123361
TURA	頬	025676	SIBARERU	凍傷	074770	SIMI	鳥威	123361
IRIKE	鱗	025689	BEKO	牛	077688	IRIKI	鱗	124105
IRIKE	雲脂	025689	BEKO	牝牛	077688	IRIKI	雲脂	124105

IREEKII	鱗	124149	IRICI	雲脂	127029	NAMEKUZI	蛞蝓	178195
IREEKII	雲脂	124149	TIRA	顔	127105	SIASATTE	明明後日	178195
SIMI	案山子	124149	TIRA	頬	127105	SIASATTE	明明明後日	178195
SIMI	鳥威	124149	IRICI	鱗	127120	KOME	粳米	178613
IRIKII	鱗	124196	IRICI	雲脂	127120	KOME	米	178613
IRIKII	雲脂	124196	KOME	米	169914	NAMEKUZIRA	蝸牛	179133
SIIMI	案山子	124196	KOME	飯米	169914	NAMEKUZIRA	蛞蝓	179133
SIIMI	鳥威	124196	NAMEKUZIRI	蝸牛	169914	BEKO	牛	179813
IRICI	鱗	124200	NAMEKUZIRI	蛞蝓	169914	BEKO	子牛	179813
IRICI	雲脂	124200	ITO	糸	171938	OSU	牡牛	179813
IRIKI	鱗	124222	ITO	機糸	171938	OSU	牡馬	179813
IRIKI	雲脂	124222	YANOASATTE	明明後日	171938	SIBARERU	凍る	181425
SIMI	案山子	124222	YANOASATTE	明明明後日	171938	SIBARERU	凍傷	181425
SIMI	鳥威	124222	KAKASI	案山子	172535	USI	牛	181425
IRIKI	鱗	124226	KAKASI	鳥威	172535	USI	牝牛	181425
IRIKI	雲脂	124226	CUKUSI	杉菜	173189	SIBARERU	凍る	181652
SIMI	案山子	124226	CUKUSI	土筆	173189	SIBARERU	凍傷	181652
SIMI	鳥威	124226	KOME	米	173189	USI	牛	181652
IRIKI	鱗	124272	KOME	飯米	173189	USI	牝牛	181652
IRIKI	雲脂	124272	CUKIBO(O)SI	杉菜	173819	SIBARERU	凍る	185424
SIIMI	案山子	124272	CUKIBO(O)SI	土筆	173819	SIBARERU	凍傷	185424
SIIMI	鳥威	124272	TOOZAIGO	子牛	173819	SIBARERU	凍る	185984
IRICI	鱗	125059	TOOZAIGO	子馬	173819	SIBARERU	凍傷	185984
IRICI	雲脂	125059	USI	牛	173910	SIBARERU	凍る	186348
IRICII	鱗	125104	USI	牝牛	173910	SIBARERU	凍傷	186348
IRICII	雲脂	125104	SIBARERU	凍る	173985	SIBARERU	凍る	189310
SIIMI	案山子	125104	SIBARERU	凍傷	173985	SIBARERU	凍傷	189310
SIIMI	鳥威	125104	KOME	粳米	174370	KOME	粳米	194203
IRICII	鱗	125127	KOME	米	174370	KOME	米	194203
IRICII	雲脂	125127	KOME	粳米	174755	USI	牛	194203
IRICI	鱗	125198	KOME	米	174755	USI	牡牛	194203
IRICI	雲脂	125198	MAMEZUKURI	蝸牛	176174	USI	牝牛	194203
IRICI	鱗	126078	MAMEZUKURI	蛞蝓	176174	SI-TARIGIMUN	案山子	206752
IRICI	雲脂	126078	KOME	米	176210	SI-TARIGIMUN	鳥威	206752
IRICI	鱗	126087	KOME	飯米	176210	NUIMUNU	案山子	207469
IRICI	雲脂	126087	SIASATTE	明明後日	176210	NUIMUNU	鳥威	207469
IRICI	鱗	126101	SIASATTE	明明明後日	176210	NUKIMUNU	案山子	207522
IRICI	雲脂	126101	YANAASATTE	明明後日	176210	NUKIMUNU	鳥威	207522
KUMI	粳米	126101	YANAASATTE	明明明後日	176210	IRIKI	鱗	207625
KUMI	米	126101	KOME	粳米	176360	IRIKI	雲脂	207625
IRICI	鱗	126116	KOME	米	176360	SI-TARAGI	案山子	207625
IRICI	雲脂	126116	KOME	飯米	176360	SI-TARAGI	鳥威	207625
KUMI	粳米	126116	SUGINA	杉菜	176360	SI-TARAGI-	案山子	207696
KUMI	米	126116	SUGINA	土筆	176360	SI-TARAGI-	鳥威	207696
IRICI	鱗	126132	KOME	米	177018	CURA	顔	207698
IRICI	雲脂	126132	KOME	飯米	177018	CURA	頬	207698
IRICI	鱗	126170	NAMEKUZI	蝸牛	177018	SI-TARAGI	案山子	207699
IRICI	雲脂	126170	NAMEKUZI	蛞蝓	177018	SI-TARAGI	鳥威	207699
KUMI	粳米	126170	KOME	米	177327	ZIN	貨幣	209560
KUMI	米	126170	KOME	飯米	177327	ZIN	旋毛	209560
IRICI	鱗	126180	SIASATTE	明明後日	177845	MAI	粳米	214049
IRICI	雲脂	126180	SIASATTE	明明明後日	177845	MAI	米	214049
IRIKI	鱗	127026	KOME	米	178195	IIKI	鱗	214161
IRIKI	雲脂	127026	KOME	飯米	178195	IIKI	雲脂	214161
IRICI	鱗	127029	NAMEKUZI	蝸牛	178195	MALI-	粳米	214161

MALI-	米	214161	KANA	糸	273342	TO(O)ZE(E)K(K)O	子馬	278191
ISIKI	鱗	214171	KANA	絹糸	273342	ASI	明日	278267
ISIKI	雲脂	214171	KOME	米	273342	ASI	竹馬	278267
MALI-	粳米	214171	KOME	飯米	273342	NAMEKUZU	蝸牛	278267
MALI-	米	214171	KANA	糸	273405	NAMEKUZU	蛞蝓	278267
IIZIKYA	鱗	215007	KANA	絹糸	273405	SIWASATTE	明明後日	278267
IIZIKYA	雲脂	215007	KOME	米	273405	SIWASATTE	明明明後日	278267
IIZIKYA	鱗	215017	KOME	飯米	273405	TO(O)ZE(E)	子牛	278348
IIZIKYA	雲脂	215017	NAMEKUZIRI	蝸牛	275043	TO(O)ZE(E)	子馬	278348
ISIKI	鱗	215120	NAMEKUZIRI	蛞蝓	275043	KAG [g] ASI	案山子	278373
ISIKI	雲脂	215120	NAMEKUZIRI	蝸牛	275044	KAG [g] ASI	鳥威	278373
IZIKI	鱗	215151	NAMEKUZIRI	蛞蝓	275044	KOME	粳米	278373
IZIKI	雲脂	215151	KOME	米	275110	KOME	米	278373
KANA	糸	261768	KOME	飯米	275110	TO(O)ZAI	子牛	278574
KANA	絹糸	261768	NAMEKUZU	蝸牛	276144	TO(O)ZAI	子馬	278574
KOME	米	261768	NAMEKUZU	蛞蝓	276144	NAMEKUZU	蝸牛	279041
KOME	飯米	261768	NAMEKUZU	蝸牛	276177	NAMEKUZU	蛞蝓	279041
SUGINA	杉菜	261768	NAMEKUZU	蛞蝓	276177	TO(O)ZE(E)	子牛	279041
SUGINA	土筆	261768	MANOSATO	杉菜	276261	TO(O)ZE(E)	子馬	279041
KOME	米	261928	MANOSATO	土筆	276261	KOME	粳米	279115
KOME	飯米	261928	NAMEKUZU	蝸牛	276261	KOME	米	279115
KAKASI	案山子	264979	NAMEKUZU	蛞蝓	276261	BEKO	蝸牛	279180
KAKASI	鳥威	264979	NAMEKUZIRI	蝸牛	276322	BEKO	蛞蝓	279180
KOME	米	264979	NAMEKUZIRI	蛞蝓	276322	ASI	明日	279207
KOME	飯米	264979	NAMEKUZIRI	蝸牛	276566	ASI	竹馬	279207
SUGINA	杉菜	269989	NAMEKUZIRI	蛞蝓	276566	NAMERAKUZU	蝸牛	279207
SUGINA	土筆	269989	TO(O)ZAI	子牛	276566	NAMERAKUZU	蛞蝓	279207
KANA	糸	270048	TO(O)ZAI	子馬	276566	SUGINA	杉菜	279240
KANA	絹糸	270048	NAMEKUZIRI	蝸牛	276571	SUGINA	土筆	279240
KOME	米	270048	NAMEKUZIRI	蛞蝓	276571	AGA	垢	279501
KOME	飯米	270048	SUGINA	杉菜	276571	AGA	雲脂	279501
SIASATTE	明明後日	270048	SUGINA	土筆	276571	KAKASI	案山子	279501
SIASATTE	明明明後日	270048	TO(O)ZE(E)	子牛	276571	KAKASI	鳥威	279501
USI	牛	270048	TO(O)ZE(E)	子馬	276571	SI(I)NA	杉菜	279501
USI	牝牛	270048	TO(O)ZAI	子牛	277122	SI(I)NA	土筆	279501
KOME	粳米	270318	TO(O)ZAI	子馬	277122	TO(O)ZE(E)	子牛	279501
KOME	米	270318	ASI	明日	277274	TO(O)ZE(E)	子馬	279501
KOME	米	271233	ASI	竹馬	277274	SI(I)NA	杉菜	279566
KOME	飯米	271233	NAMERAKUZU	蝸牛	277313	SI(I)NA	土筆	279566
NAMEKUZU	蝸牛	271233	NAMERAKUZU	蛞蝓	277313	SI(I)NA	杉菜	279572
NAMEKUZU	蛞蝓	271233	KAKASI	案山子	277459	SI(I)NA	土筆	279572
KAG [g] ASI	案山子	271383	KAKASI	鳥威	277459	OSU	牡牛	280052
KAG [g] ASI	鳥威	271383	KOME	粳米	277459	OSU	牡馬	280052
KOME	米	271383	KOME	米	277459	SIASATTE	明明後日	280052
KOME	飯米	271383	TO(O)ZE(E)	子牛	277459	SIASATTE	明明明後日	280052
SUGINA	杉菜	271383	TO(O)ZE(E)	子馬	277459	YANAASATTE	明明後日	280052
SUGINA	土筆	271383	TO(O)ZE(E)	子牛	277545	YANAASATTE	明明明後日	280052
KOME	米	272075	TO(O)ZE(E)	子馬	277545	USI	牛	280322
KOME	飯米	272075	SUGINA	杉菜	278134	USI	牝牛	280322
NAMEKUZIRA	蝸牛	272267	SUGINA	土筆	278134	TO(O)ZE(E)	子牛	360917
NAMEKUZIRA	蛞蝓	272267	NAMEKUZU	蝸牛	278191	TO(O)ZE(E)	子馬	360917
NAMEZUKURI	蝸牛	273197	NAMEKUZU	蛞蝓	278191	TO(O)ZE(E)K(K)O	子牛	360947
NAMEZUKURI	蛞蝓	273197	SUGINA	杉菜	278191	TO(O)ZE(E)K(K)O	子馬	360947
KOME	粳米	273239	SUGINA	土筆	278191	KAKASI	案山子	361908
KOME	米	273239	TO(O)ZE(E)K(K)O	子牛	278191	KAKASI	鳥威	361908

SIMIRU	凍る	361908	SI(I)NA	土筆	371658	NAMEKUZINA	蛞蝓	372721
SIMIRU	凍傷	361908	SI(I)NA	杉菜	371790	SUGINA	杉菜	373146
SUGINA	杉菜	361908	SI(I)NA	土筆	371790	SUGINA	土筆	373146
SUGINA	土筆	361908	CUKUSI	杉菜	372058	SUGINA	杉菜	373226
TO(O)ZAI	子牛	361908	CUKUSI	土筆	372058	SUGINA	土筆	373226
TO(O)ZAI	子馬	361908	TO(O)NEK(K)O	子牛	372058	AGA	垢	373318
TO(O)ZE(E)	子牛	361908	TO(O)NEK(K)O	子馬	372058	AGA	雲脂	373318
TO(O)ZE(E)	子馬	361908	KANA	糸	372071	KOME	米	373322
KAG [N*] ASI	案山子	363949	KANA	絹糸	372071	KOME	飯米	373322
KAG [N*] ASI	鳥威	363949	TO(O)NEK(K)O	子牛	372130	TO(O)ZE(E)K(K)O	子牛	373322
KOME	粳米	364916	TO(O)NEK(K)O	子馬	372130	TO(O)ZE(E)K(K)O	子馬	373322
KOME	米	364916	TO(O)ZE(E)K(K)O	子牛	372130	TO(O)ZE(E)	子牛	373442
SUGIGUSA	杉菜	364916	TO(O)ZE(E)K(K)O	子馬	372130	TO(O)ZE(E)	子馬	373442
SUGIGUSA	土筆	364916	HUTOIBI	藜指	372137	TO(O)NEK(K)O	子牛	373550
KOME	粳米	368975	HUTOIBI	人差し指	372137	TO(O)NEK(K)O	子馬	373550
KOME	米	368975	NAMEKUZIRI	蝸牛	372232	ZYOYAKU	牝牛	373550
NAMEKUZIRI	蝸牛	370137	NAMEKUZIRI	蛞蝓	372232	ZYOYAKU	牝馬	373550
NAMEKUZIRI	蛞蝓	370137	SUGINA	杉菜	372232	SUGINA	杉菜	373577
NAMEKUZIRI	蝸牛	370149	SUGINA	土筆	372232	SUGINA	土筆	373577
NAMEKUZIRI	蛞蝓	370149	TO(O)NEK(K)O	子牛	372290	MAMEKUZINA	蝸牛	373603
TO(O)ZE(E)K(K)O	子牛	370170	TO(O)NEK(K)O	子馬	372290	MAMEKUZINA	蛞蝓	373603
TO(O)ZE(E)K(K)O	子馬	370170	AGA	垢	372297	TO(O)NEK(K)O	子牛	373603
SUGINA	杉菜	370289	AGA	雲脂	372297	TO(O)NEK(K)O	子馬	373603
SUGINA	土筆	370289	SUGINA	杉菜	372321	AGA	垢	373658
TO(O)ZE(E)	子牛	370289	SUGINA	土筆	372321	AGA	雲脂	373658
TO(O)ZE(E)	子馬	370289	TO(O)ZE(E)	子牛	372420	SI(I)NA	杉菜	373658
AGA	垢	370442	TO(O)ZE(E)	子馬	372420	SI(I)NA	土筆	373658
AGA	雲脂	370442	KOME	粳米	372496	TO(O)NEK(K)O	子牛	373658
TO(O)ZE(E)K(K)O	子牛	370442	KOME	米	372496	TO(O)NEK(K)O	子馬	373658
TO(O)ZE(E)K(K)O	子馬	370442	SUGINA	杉菜	372496	SUINA	杉菜	373795
KAKASI	案山子	370457	SUGINA	土筆	372496	SUINA	土筆	373795
KAKASI	鳥威	370457	TO(O)ZE(E)K(K)O	子牛	372512	KAG [g] ASI	案山子	374082
KAG [g] ASI	案山子	370547	TO(O)ZE(E)K(K)O	子馬	372512	KAG [g] ASI	鳥威	374082
KAG [g] ASI	鳥威	370547	AGA	垢	372572	SUGINA	杉菜	374116
SI(I)NA	杉菜	370547	AGA	雲脂	372572	SUGINA	土筆	374116
SI(I)NA	土筆	370547	KOBI	垢	372572	TO(O)NEK(K)O	子牛	374116
SI(I)NA	杉菜	370691	KOBI	雲脂	372572	TO(O)NEK(K)O	子馬	374116
SI(I)NA	土筆	370691	KOME	米	372572	TO(O)NEK(K)O	子牛	374157
SUGINA	杉菜	371192	KOME	飯米	372572	TO(O)NEK(K)O	子馬	374157
SUGINA	土筆	371192	TO(O)NEK(K)O	子牛	372572	ZUK(K)UBE	杉菜	374157
TO(O)NEK(K)O	子牛	371192	TO(O)NEK(K)O	子馬	372572	ZUK(K)UBE	土筆	374157
TO(O)NEK(K)O	子馬	371192	SUGINA	杉菜	372577	KOME	米	374418
NAMEKUZIRI	蝸牛	371215	SUGINA	土筆	372577	KOME	飯米	374418
NAMEKUZIRI	蛞蝓	371215	KOBI	垢	372621	TO(O)NEK(K)O	子牛	374433
SUGIGUSA	杉菜	371274	KOBI	雲脂	372621	TO(O)NEK(K)O	子馬	374433
SUGIGUSA	土筆	371274	KAG [g] ASU	案山子	372625	BEKO	牝牛	374562
SI(I)NA	杉菜	371427	KAG [g] ASU	鳥威	372625	BEKO	牝牛	374562
SI(I)NA	土筆	371427	YAZUGUSA	杉菜	372625	SI(I)NA	杉菜	374598
TO(O)ZE(E)	子牛	371427	YAZUGUSA	土筆	372625	SI(I)NA	土筆	374598
TO(O)ZE(E)	子馬	371427	KAG [g] ASI	案山子	372721	TO(O)ZE(E)K(K)O	子牛	374598
TO(O)ZE(E)K(K)O	子牛	371474	KAG [g] ASI	鳥威	372721	TO(O)ZE(E)K(K)O	子馬	374598
TO(O)ZE(E)K(K)O	子馬	371474	KOME	粳米	372721	HATOKAKASI	案山子	374609
KAG [g] ASI	案山子	371627	KOME	米	372721	HATOKAKASI	鳥威	374609
KAG [g] ASI	鳥威	371627	KOME	飯米	372721	SUGINA	杉菜	374609
SI(I)NA	杉菜	371658	NAMEKUZINA	蝸牛	372721	SUGINA	土筆	374609

SI(I)NA	杉菜	374641	TO(O)ZAI	子馬	375732	AGA	垢	377511
SI(I)NA	土筆	374641	KAG [g] ASI	案山子	375759	AGA	雲脂	377511
KAG [g] ASI	案山子	374745	KAG [g] ASI	鳥威	375759	SUGINA	杉菜	377511
KAG [g] ASI	鳥威	374745	SUGINAE	杉菜	376058	SUGINA	土筆	377511
SUINA	杉菜	374745	SUGINAE	土筆	376058	TO(O)NEK(K)O	子牛	377583
SUINA	土筆	374745	TO(O)ZE(E)	子牛	376122	TO(O)NEK(K)O	子馬	377583
TO(O)ZAI	子牛	374745	TO(O)ZE(E)	子馬	376122	AGA	垢	377651
TO(O)ZAI	子馬	374745	KAG [g] ASI	案山子	376174	AGA	雲脂	377651
TO(O)ZE(E)	子牛	374791	KAG [g] ASI	鳥威	376174	KOME	米	377651
TO(O)ZE(E)	子馬	374791	KOME	粳米	376174	KOME	飯米	377651
YAKKAG [g] ASU	案山子	374791	KOME	米	376174	SUGINA	杉菜	377697
YAKKAG [g] ASU	鳥威	374791	KOME	粳米	376242	SUGINA	土筆	377697
TO(O)ZE(E)K(K)O	子牛	375075	KOME	米	376242	KAG [g] ASU	案山子	377748
TO(O)ZE(E)K(K)O	子馬	375075	TO(O)ZE(E)K(K)O	子牛	376271	KAG [g] ASU	鳥威	377748
MOCIGUSA	杉菜	375181	TO(O)ZE(E)K(K)O	子馬	376271	NAMETO	蝸牛	377748
MOCIGUSA	土筆	375181	SUGINA	杉菜	376416	NAMETO	蛞蝓	377748
TO(O)ZE(E)K(K)O	子牛	375247	SUGINA	土筆	376416	KAG [g] ASU	案山子	377786
TO(O)ZE(E)K(K)O	子馬	375247	AGA	垢	376486	KAG [g] ASU	鳥威	377786
SUGINA	杉菜	375289	AGA	雲脂	376486	TO(O)ZE(E)	子牛	377786
SUGINA	土筆	375289	KAG [g] ASU	案山子	376574	TO(O)ZE(E)	子馬	377786
TO(O)ZE(E)	子牛	375289	KAG [g] ASU	鳥威	376574	TO(O)ZE(E)K(K)O	子牛	378121
TO(O)ZE(E)	子馬	375289	SUGINA	杉菜	376574	TO(O)ZE(E)K(K)O	子馬	378121
TO(O)ZE(E)K(K)O	子牛	375289	SUGINA	土筆	376574	TO(O)ZE(E)K(K)O	子牛	378271
TO(O)ZE(E)K(K)O	子馬	375289	TO(O)ZE(E)	子牛	376574	TO(O)ZE(E)K(K)O	子馬	378271
NAMETO	蝸牛	375413	TO(O)ZE(E)	子馬	376574	TO(O)ZE(E)K(K)O	子牛	378298
NAMETO	蛞蝓	375413	SUINA	杉菜	376647	TO(O)ZE(E)K(K)O	子馬	378298
SUGINA	杉菜	375413	SUINA	土筆	376647	KOBI	垢	378308
SUGINA	土筆	375413	HAADA	牝牛	376697	KOBI	雲脂	378308
AGA	垢	375437	HAADA	牝馬	376697	KOME	粳米	378311
AGA	雲脂	375437	NAMETO	蝸牛	376697	KOME	米	378311
KOME	米	375437	NAMETO	蛞蝓	376697	KOKKO	子牛	378358
KOME	飯米	375437	SI(I)NA	杉菜	376697	KOKKO	子馬	378358
SUGINA	杉菜	375437	SI(I)NA	土筆	376697	KAG [g] ASU	案山子	378424
SUGINA	土筆	375437	BEEKO	牝牛	376718	KAG [g] ASU	鳥威	378424
TO(O)NEK(K)O	子牛	375437	BEEKO	牝牛	376718	NAMEKUZI	蝸牛	378487
TO(O)NEK(K)O	子馬	375437	KAG [g] ASU	案山子	376718	NAMEKUZI	蛞蝓	378487
YAKKAG [g] ASU	案山子	375437	KAG [g] ASU	鳥威	376718	KAG [g] ASU	案山子	378542
YAKKAG [g] ASU	鳥威	375437	TO(O)ZE(E)	子牛	376722	KAG [g] ASU	鳥威	378542
ZUKUZUKUSI	杉菜	375476	TO(O)ZE(E)	子馬	376722	TO(O)NEK(K)O	子牛	378542
ZUKUZUKUSI	土筆	375476	KAG [g] ASU	案山子	376850	TO(O)NEK(K)O	子馬	378542
TO(O)ZE(E)	子牛	375532	KAG [g] ASU	鳥威	376850	TO(O)NEK(K)O	子牛	378568
TO(O)ZE(E)	子馬	375532	TO(O)ZE(E)K(K)O	子牛	376850	TO(O)NEK(K)O	子馬	378568
KAG [g] ASI	案山子	375626	TO(O)ZE(E)K(K)O	子馬	376850	TO(O)ZE(E)	子牛	378568
KAG [g] ASI	鳥威	375626	KAG [N*] ASI	案山子	377062	TO(O)ZE(E)	子馬	378568
NAMETO	蝸牛	375626	KAG [N*] ASI	鳥威	377062	NAMEKUZI	蝸牛	378601
NAMETO	蛞蝓	375626	TO(O)ZE(E)K(K)O	子牛	377144	NAMEKUZI	蛞蝓	378601
NAMETO	蝸牛	375640	TO(O)ZE(E)K(K)O	子馬	377144	KAG [g] ASU	案山子	378644
NAMETO	蛞蝓	375640	AGA	垢	377273	KAG [g] ASU	鳥威	378644
AGA	垢	375709	AGA	雲脂	377273	KAG [g] ASU	案山子	378745
AGA	雲脂	375709	GANZYU	牝牛	377273	KAG [g] ASU	鳥威	378745
KAKASI	案山子	375709	GANZYU	牝馬	377273	KAG [g] ASU	案山子	378750
KAKASI	鳥威	375709	KAG [g] ASU	案山子	377312	KAG [g] ASU	鳥威	378750
SUINA	杉菜	375709	KAG [g] ASU	鳥威	377312	AGA	垢	379455
SUINA	土筆	375709	SUGINA	杉菜	377444	AGA	雲脂	379455
TO(O)ZAI	子牛	375732	SUGINA	土筆	377444	KAG [g] ASU	案山子	379455

KAG [g] ASU 烏威	379455	KAKASI 案山子	464410	KAKASI 烏威	467219
TO(O)NEK(K)O 子牛	379519	KAKASI 烏威	464410	SUINA 杉菜	467219
TO(O)NEK(K)O 子馬	379519	KANA 糸	464410	SUINA 土筆	467219
TO(O)NEK(K)O 子牛	379606	KANA 機糸	464410	SUGINA 杉菜	467562
TO(O)NEK(K)O 子馬	379606	NAMEZU 蝸牛	464410	SUGINA 土筆	467562
KAG [g] ASU 案山子	379648	NAMEZU 蛞蝓	464410	CUGECUGE 杉菜	467639
KAG [g] ASU 烏威	379648	TO(O)ZE(E) 子牛	464410	CUGECUGE 土筆	467639
AGA 垢	379695	TO(O)ZE(E) 子馬	464410	TO(O)ZAI 子牛	467639
AGA 雲脂	379695	MESU 牝牛	464787	TO(O)ZAI 子馬	467639
KAG [g] ASU 案山子	379732	MESU 牝馬	464787	CUGICUGI 杉菜	467642
KAG [g] ASU 烏威	379732	OSU 牡牛	464787	CUGICUGI 土筆	467642
CURI 釣錢	458983	OSU 牡馬	464787	KOME 粳米	467642
CURI 旋毛	458983	KOME 粳米	464842	KOME 米	467642
ODOSI 案山子	458983	KOME 米	464842	ITO 糸	467660
ODOSI 烏威	458983	KAKASI 案山子	465302	ITO 機糸	467660
ITO 糸	459766	KAKASI 烏威	465302	SUGAITO 絹糸	467667
ITO 絹糸	459766	KANA 糸	465302	SUGAITO 機糸	467667
ODOSI 案山子	459833	KANA 機糸	465302	KOME 粳米	467871
ODOSI 烏威	459833	MENKO 子牛	465302	KOME 米	467871
SUGINA 杉菜	459833	MENKO 子馬	465302	KOME 粳米	468588
SUGINA 土筆	459833	BOO 牡牛	465384	KOME 米	468588
ODOSI 案山子	459859	BOO 牡馬	465384	SUGINA 杉菜	468588
ODOSI 烏威	459859	SUGINA 杉菜	465384	SUGINA 土筆	468588
ODOSI 案山子	459931	SUGINA 土筆	465384	TO(O)ZAIK(K)O 子牛	468588
ODOSI 烏威	459931	KAKASI 案山子	465452	TO(O)ZAIK(K)O 子馬	468588
KOME 粳米	460954	KAKASI 烏威	465452	TO(O)ZAI 子牛	468602
KOME 米	460954	KAG [g] ASI 案山子	465764	TO(O)ZAI 子馬	468602
KOME 粳米	461923	KAG [g] ASI 烏威	465764	EKI 雪	468652
KOME 米	461923	SUGINA 杉菜	465788	EKI 蒸氣	468652
TO(O)ZE(E) 子牛	461923	SUGINA 土筆	465788	KAG [g] ASI 案山子	468962
TO(O)ZE(E) 子馬	461923	TO(O)ZE(E)K(K)O 子牛	465842	KAG [g] ASI 烏威	468962
KAG [g] ASI 案山子	461929	TO(O)ZE(E)K(K)O 子馬	465842	KAG [g] ASI 案山子	468986
KAG [g] ASI 烏威	461929	AGA 垢	465985	KAG [g] ASI 烏威	468986
KOME 粳米	461963	AGA 雲脂	465985	NAMEKUZIRA 蝸牛	468986
KOME 米	461963	KAG [g] ASI 案山子	465985	NAMEKUZIRA 蛞蝓	468986
KAG [g] ASU 案山子	462861	KAG [g] ASI 烏威	465985	TO(O)ZE(E) 子牛	469495
KAG [g] ASU 烏威	462861	TO(O)ZAI 子牛	465985	TO(O)ZE(E) 子馬	469495
SUGA 絹糸	462943	TO(O)ZAI 子馬	465985	ITO 糸	469521
SUGA 氷柱	462943	ITO 糸	466306	ITO 機糸	469521
TO(O)ZE(E)K(K)O 子牛	462943	ITO 機糸	466306	KOME 粳米	469521
TO(O)ZE(E)K(K)O 子馬	462943	TO(O)ZE(E) 子牛	466306	KOME 米	469521
SUGA 氷柱	463768	TO(O)ZE(E) 子馬	466306	TO(O)ZAIK(K)O 子牛	469587
SUGA 機糸	463768	KAKASI 案山子	466349	TO(O)ZAIK(K)O 子馬	469587
CUGICUGI 杉菜	463822	KAKASI 烏威	466349	EKI 雪	469682
CUGICUGI 土筆	463822	USI 牛	466349	EKI 蒸氣	469682
SUGA 氷柱	463843	USI 牝牛	466349	KAG [g] ASI 案山子	469792
SUGA 機糸	463843	KAG [g] ASI 案山子	466587	KAG [g] ASI 烏威	469792
TO(O)ZAIK(K)O 子牛	463843	KAG [g] ASI 烏威	466587	KAKASI 案山子	469815
TO(O)ZAIK(K)O 子馬	463843	TO(O)ZAIK(K)O 子牛	466699	KAKASI 烏威	469815
KAKASI 案山子	464347	TO(O)ZAIK(K)O 子馬	466699	USI 牛	469815
KAKASI 烏威	464347	AGA 垢	466776	USI 牝牛	469815
USI 牛	464347	AGA 雲脂	466776	KAG [g] ASU 案山子	470037
USI 牝牛	464347	TO(O)ZAIK(K)O 子牛	466955	KAG [g] ASU 烏威	470037
YUKI 雪	464347	TO(O)ZAIK(K)O 子馬	466955	TO(O)NEK(K)O 子牛	470078
YUKI 蒸氣	464347	KAKASI 案山子	467219	TO(O)NEK(K)O 子馬	470078

KAG [g] ASU 案山子	470173	KAG [g] ASI 烏威	472400	KAKASI 案山子	474432
KAG [g] ASU 烏威	470173	KAG [g] ASU 案山子	472501	KAKASI 烏威	474432
NAMEKUZI 蝸牛	470520	KAG [g] ASU 烏威	472501	CUGIGUSA 杉菜	474620
NAMEKUZI 蛞蝓	470520	SUGINAE 杉菜	472568	CUGIGUSA 土筆	474620
SUGINA 杉菜	470553	SUGINAE 土筆	472568	KAKASI 案山子	475227
SUGINA 土筆	470553	KAKASI 案山子	472592	KAKASI 烏威	475227
KAAG [g] ASI 案山子	470653	KAKASI 烏威	472592	KAKASI 案山子	475352
KAAG [g] ASI 烏威	470653	KAKASI 案山子	472680	KAKASI 烏威	475352
AGA 垢	471018	KAKASI 烏威	472680	KAKASI 案山子	475376
AGA 雲脂	471018	KAKASU 案山子	473115	KAKASI 烏威	475376
KAG [g] ASU 案山子	471018	KAKASU 烏威	473115	SUGINA 杉菜	475376
KAG [g] ASU 烏威	471018	TO(O)ZAIK(K)O 子牛	473115	SUGINA 土筆	475376
KAG [g] ASU 案山子	471055	TO(O)ZAIK(K)O 子馬	473115	KAG [g] ASU 案山子	476064
KAG [g] ASU 烏威	471055	KAG [g] ASU 案山子	473142	KAG [g] ASU 烏威	476064
AGA 垢	471141	KAG [g] ASU 烏威	473142	TO(O)ZE(E)K(K)O 子牛	476098
AGA 雲脂	471141	KAG [g] ASI 案山子	473185	TO(O)ZE(E)K(K)O 子馬	476098
KAG [g] ASU 案山子	471141	KAG [g] ASI 烏威	473185	KAKASI 案山子	476157
KAG [g] ASU 烏威	471141	KAG [g] ASU 案山子	473185	KAKASI 烏威	476157
KAG [g] ASU 案山子	471149	KAG [g] ASU 烏威	473185	SUASATTE 明明後日	476204
KAG [g] ASU 烏威	471149	SUGIGUSA 杉菜	473218	SUASATTE 明明後日	476204
KAKASI 案山子	471216	SUGIGUSA 土筆	473218	SUGINA 杉菜	476256
KAKASI 烏威	471216	KAG [g] ASU 案山子	473335	SUGINA 土筆	476256
KOME 米	471254	KAG [g] ASU 烏威	473335	KAG [g] ASI 案山子	476277
KOME 飯米	471254	TO(O)ZE(E)K(K)O 子牛	473391	KAG [g] ASI 烏威	476277
KAKASI 案山子	471345	TO(O)ZE(E)K(K)O 子馬	473391	KONMA 牡馬	476299
KAKASI 烏威	471345	KAKASU 案山子	473420	KONMA 子馬	476299
KAKASI 案山子	471360	KAKASU 烏威	473420	SUGINA 杉菜	476299
KAKASI 烏威	471360	KAG [g] ASI 案山子	473456	SUGINA 土筆	476299
SUGINA 杉菜	471360	KAG [g] ASI 烏威	473456	KAKASI 案山子	476345
SUGINA 土筆	471360	DO 牡牛	473542	KAKASI 烏威	476345
KONMA 牡馬	471468	DO 牡馬	473542	KAKASI 案山子	476362
KONMA 子馬	471468	KAG [g] ASU 案山子	473542	KAKASI 烏威	476362
KAKASI 案山子	471533	KAG [g] ASU 烏威	473542	NAMEKUZI 蝸牛	476362
KAKASI 烏威	471533	SIN 牝牛	473542	NAMEKUZI 蛞蝓	476362
SUGINA 杉菜	471533	SIN 牝馬	473542	KAG [g] ASI 案山子	477062
SUGINA 土筆	471533	KAG [g] ASU 案山子	474026	KAG [g] ASI 烏威	477062
KAKASI 案山子	471598	KAG [g] ASU 烏威	474026	KAG [g] ASI 案山子	477158
KAKASI 烏威	471598	KAG [g] ASU 案山子	474144	KAG [g] ASI 烏威	477158
KAG [g] ASI 案山子	471620	KAG [g] ASU 烏威	474144	KAG [g] ASI 案山子	477248
KAG [g] ASI 烏威	471620	TO(O)ZAIK(K)O 子牛	474192	KAG [g] ASI 烏威	477248
OSU 牡牛	471620	TO(O)ZAIK(K)O 子馬	474192	NAMEKUZI 蝸牛	477248
OSU 牡馬	471620	KAKASU 案山子	474237	NAMEKUZI 蛞蝓	477248
KAG [g] ASU 案山子	472017	KAKASU 烏威	474237	AGA 垢	477315
KAG [g] ASU 烏威	472017	KAKASI 案山子	474295	AGA 雲脂	477315
KAG [g] ASU 案山子	472136	KAKASI 烏威	474295	KAKASI 案山子	477315
KAG [g] ASU 烏威	472136	KOME 粳米	474334	KAKASI 烏威	477315
KAKASI 案山子	472255	KOME 米	474334	KAG [g] ASI 案山子	477327
KAKASI 烏威	472255	SUGINA 杉菜	474361	KAG [g] ASI 烏威	477327
KAG [g] ASI 案山子	472314	SUGINA 土筆	474361	AGA 垢	477378
KAG [g] ASI 烏威	472314	TO(O)ZE(E)K(K)O 子牛	474361	AGA 雲脂	477378
KAG [g] ASU 案山子	472351	TO(O)ZE(E)K(K)O 子馬	474361	KAG [g] ASI 案山子	477378
KAG [g] ASU 烏威	472351	KAG [g] ASI 案山子	474395	KAG [g] ASI 烏威	477378
KONMA 牡馬	472358	KAG [g] ASI 烏威	474395	NAMEKUZI 蝸牛	477378
KONMA 子馬	472358	CUGIGUSA 杉菜	474432	NAMEKUZI 蛞蝓	477378
KAG [g] ASI 案山子	472400	CUGIGUSA 土筆	474432	KAKACI 案山子	478064

KAKACI	鳥威	478064	ODOSI	案山子	547291	ODOSI	鳥威	553794
KAG [N*]	ASI 案山子	478148	ODOSI	鳥威	547291	ODOSI	案山子	553799
KAG [N*]	ASI 鳥威	478148	ODOSI	案山子	550668	ODOSI	鳥威	553799
KAG [g]	ASI 案山子	478186	ODOSI	鳥威	550668	MAMEKUZIRI	蝸牛	553849
KAG [g]	ASI 鳥威	478186	SUGINAE	杉菜	550709	MAMEKUZIRI	蛞蝓	553849
KAG [g]	ASI 案山子	478204	SUGINAE	土筆	550709	ITO	糸	553850
KAG [g]	ASI 鳥威	478204	BEKKO	牛	550766	ITO	機糸	553850
AGA	垢	478374	BEKKO	牝牛	550766	ODOSU	案山子	553850
AGA	雲脂	478374	ODOROKASI	案山子	550816	ODOSU	鳥威	553850
KAG [g]	ASI 案山子	478374	ODOROKASI	鳥威	550816	ODOSI	案山子	553888
KAG [g]	ASI 鳥威	478374	ODORAKASI	案山子	550843	ODOSI	鳥威	553888
AGA	垢	478441	ODORAKASI	鳥威	550843	KOME	粳米	553890
AGA	雲脂	478441	ODOSI	案山子	551619	KOME	米	553890
CUGI(NO)ME	杉菜	478441	ODOSI	鳥威	551619	KOME	粳米	553916
CUGI(NO)ME	土筆	478441	IKI	雪	551724	KOME	米	553916
KAG [g]	ASI 案山子	478441	IKI	蒸気	551724	KOME	粳米	553943
KAG [g]	ASI 鳥威	478441	ITO	糸	551724	KOME	米	553943
NAMEKUZU	蝸牛	478441	ITO	機糸	551724	MAMEKUZIRI	蝸牛	553943
NAMEKUZU	蛞蝓	478441	ODOSI	案山子	551724	MAMEKUZIRI	蛞蝓	553943
KAG [g]	ASI 案山子	479074	ODOSI	鳥威	551724	ODOSU	案山子	553943
KAG [g]	ASI 鳥威	479074	KOME	粳米	551790	ODOSU	鳥威	553943
KAKAASI	案山子	479243	KOME	米	551790	KOME	粳米	553974
KAKAASI	鳥威	479243	ODOSI	案山子	551790	KOME	米	553974
KAG [g]	ASI 案山子	479341	ODOSI	鳥威	551790	ODOSI	案山子	553974
KAG [g]	ASI 鳥威	479341	KOME	米	551820	ODOSI	鳥威	553974
KAKASI	案山子	479430	KOME	飯米	551820	ODOSI	案山子	554656
KAKASI	鳥威	479430	ODORAKASI	案山子	551820	ODOSI	鳥威	554656
OROKO	鱗	546229	ODORAKASI	鳥威	551820	HANMAI	粳米	554725
OROKO	雲脂	546229	ODOKASI	案山子	551871	HANMAI	飯米	554725
SUGINA	杉菜	546312	ODOKASI	鳥威	551871	ODOSI	案山子	554725
SUGINA	土筆	546312	ODOSI	案山子	552715	ODOSI	鳥威	554725
TO(O)ZAI	子牛	546312	ODOSI	鳥威	552715	ITO	絹糸	554796
TO(O)ZAI	子馬	546312	CURI	釣銭	552761	ITO	機糸	554796
UROKO	鱗	546312	CURI	旋毛	552761	KOME	粳米	554796
UROKO	雲脂	546312	ODOSI	案山子	552761	KOME	米	554796
NAMEKUZU	蝸牛	546364	ODOSI	鳥威	552761	ODOSI	案山子	554796
NAMEKUZU	蛞蝓	546364	ODOSI	案山子	552789	ODOSI	鳥威	554796
MACUBUKI	杉菜	547159	ODOSI	鳥威	552789	ODOSI	案山子	554824
MACUBUKI	土筆	547159	NAMEKUZIRI	蝸牛	552794	ODOSI	鳥威	554824
NAMEKUZU	蝸牛	547159	NAMEKUZIRI	蛞蝓	552794	USI	家屋	554824
NAMEKUZU	蛞蝓	547159	ODOSI	案山子	552831	USI	牛	554824
TO(O)ZAI	子牛	547159	ODOSI	鳥威	552831	TO(O)ZAI	子牛	554835
TO(O)ZAI	子馬	547159	ITO	絹糸	552977	TO(O)ZAI	子馬	554835
UROKO	鱗	547159	ITO	機糸	552977	ODOSI	案山子	554858
UROKO	雲脂	547159	KOME	粳米	552977	ODOSI	鳥威	554858
MOO	牛	547231	KOME	米	552977	SUGABOOUZU	杉菜	554909
MOO	牛の鳴き声	547231	ODORAKASI	案山子	552977	SUGABOOUZU	土筆	554909
DAGO	子馬	547234	ODORAKASI	鳥威	552977	KOME	粳米	554932
DAGO	牝馬	547234	ODOSI	案山子	553699	KOME	米	554932
MACUBUKI	杉菜	547234	ODOSI	鳥威	553699	ODOSI	案山子	555635
MACUBUKI	土筆	547234	MAMEKUZIRI	蝸牛	553734	ODOSI	鳥威	555635
UROKO	鱗	547234	MAMEKUZIRI	蛞蝓	553734	ITO	絹糸	555684
UROKO	雲脂	547234	KOME	粳米	553794	ITO	機糸	555684
AKA	垢	547291	KOME	米	553794	ODOSI	案山子	555748
AKA	雲脂	547291	ODOSI	案山子	553794	ODOSI	鳥威	555748

ODOSI	案山子	555809	SOME	鳥威	557827	SOME	鳥威	559853
ODOSI	鳥威	555809	KOME	粳米	557910	MAIMAI	蝸牛	559867
SOME	案山子	555867	KOME	米	557910	MAIMAI	旋毛	559867
SOME	鳥威	555867	SOME	案山子	557910	IKI	雪	559975
IKI	雪	555951	SOME	鳥威	557910	IKI	蒸気	559975
IKI	蒸気	555951	IKI	雪	557979	MAIMAI	蝸牛	559975
SOME	案山子	555951	IKI	蒸気	557979	MAIMAI	旋毛	559975
SOME	鳥威	555951	MESU	牝牛	557979	KOME	粳米	560335
ITO	糸	556512	MESU	牝馬	557979	KOME	米	560335
ITO	絹糸	556512	OSU	牡牛	557979	TO(O)ZAI	子牛	560388
ODOSI	案山子	556512	OSU	牡馬	557979	TO(O)ZAI	子馬	560388
ODOSI	鳥威	556512	TO(O)ZAI	子牛	557979	BOO	牛	560428
ITO	糸	556695	TO(O)ZAI	子馬	557979	BOO	牛の鳴き声	560428
ITO	機糸	556695	ITO	糸	558422	TO(O)ZAI	子牛	560465
KOME	粳米	556695	ITO	機糸	558422	TO(O)ZAI	子馬	560465
KOME	米	556695	ODOSI	案山子	558422	EKI	雪	560557
MAMEKUZIRI	蝸牛	556695	ODOSI	鳥威	558422	EKI	蒸気	560557
MAMEKUZIRI	蛞蝓	556695	ODOSI	案山子	558457	KOME	粳米	560557
ODOSI	案山子	556695	ODOSI	鳥威	558457	KOME	米	560557
ODOSI	鳥威	556695	ODOSI	案山子	558509	TO(O)ZAI	子牛	560570
SOME	案山子	556746	ODOSI	鳥威	558509	TO(O)ZAI	子馬	560570
SOME	鳥威	556746	KOME	粳米	558563	EKI	雪	560683
BINTA	牝牛	556857	KOME	米	558563	EKI	蒸気	560683
BINTA	牝馬	556857	ODOSI	案山子	558563	KAG [g] ASI	案山子	560851
IKI	雪	556857	ODOSI	鳥威	558563	KAG [g] ASI	鳥威	560851
IKI	蒸気	556857	KOME	粳米	558656	MAMEKUZIRA	蝸牛	560851
SOME	案山子	556857	KOME	米	558656	MAMEKUZIRA	蛞蝓	560851
SOME	鳥威	556857	KOME	飯米	558656	SUGINA	杉菜	560926
IKI	雪	556936	SOME	案山子	558774	SUGINA	土筆	560926
IKI	蒸気	556936	SOME	鳥威	558774	KAKASI	案山子	560981
NAMEKUZIRA	蝸牛	556936	MAMEKUZIRA	蝸牛	558802	KAKASI	鳥威	560981
NAMEKUZIRA	蛞蝓	556936	MAMEKUZIRA	蛞蝓	558802	BOO	牛	561174
MAMEKUZIRA	蝸牛	556999	IKI	雪	558878	BOO	牡牛	561174
MAMEKUZIRA	蛞蝓	556999	IKI	蒸気	558878	ITO	糸	561181
TO(O)ZAI	子牛	556999	IKI	雪	558930	ITO	機糸	561181
TO(O)ZAI	子馬	556999	IKI	蒸気	558930	AKA	垢	561222
ODOSI	案山子	557442	KOME	米	558930	AKA	雲脂	561222
ODOSI	鳥威	557442	KOME	飯米	558930	KAG [g] ASI	案山子	561348
ITO	糸	557593	SOME	案山子	558930	KAG [g] ASI	鳥威	561348
ITO	機糸	557593	SOME	鳥威	558930	TO(O)ZAI	子牛	561353
SUINA	杉菜	557593	MACUNA	杉菜	559053	TO(O)ZAI	子馬	561353
SUINA	土筆	557593	MACUNA	土筆	559053	EKI	雪	561468
IKI	雪	557788	KOME	粳米	559437	EKI	蒸気	561468
IKI	蒸気	557788	KOME	米	559437	TO(O)ZAI	子牛	561468
SOME	案山子	557788	ODOSI	案山子	559437	TO(O)ZAI	子馬	561468
SOME	鳥威	557788	ODOSI	鳥威	559437	EKI	雪	561520
SYAKUZIRO	蝸牛	557788	SOME	案山子	559589	EKI	蒸気	561520
SYAKUZIRO	蛞蝓	557788	SOME	鳥威	559589	CUGICUGI	杉菜	561528
TO(O)ZAI	子牛	557788	IKI	雪	559778	CUGICUGI	土筆	561528
TO(O)ZAI	子馬	557788	IKI	蒸気	559778	EKI	雪	561528
IKI	雪	557827	KOME	粳米	559778	EKI	蒸気	561528
IKI	蒸気	557827	KOME	米	559778	EKI	雪	561574
KOMA	牡馬	557827	SOME	案山子	559778	EKI	蒸気	561574
KOMA	子馬	557827	SOME	鳥威	559778	GEPPUSI	杉菜	561574
SOME	案山子	557827	SOME	案山子	559853	GEPPUSI	土筆	561574

MAMEKUZI	蝸牛	561574	KOME	米	562692	HANMAI	粳米	564543
MAMEKUZI	蛞蝓	561574	TO(O)ZAI	子牛	562692	HANMAI	飯米	564543
TO(O)NEK(K)O	子牛	561574	TO(O)ZAI	子馬	562692	KAKASI	案山子	564543
TO(O)NEK(K)O	子馬	561574	TO(O)ZE(E)	子牛	562692	KAKASI	鳥威	564543
KAKASI	案山子	561785	TO(O)ZE(E)	子馬	562692	KAKASI	案山子	564589
KAKASI	鳥威	561785	KAG [N*] ASI	案山子	562823	KAKASI	鳥威	564589
SUGINA	杉菜	561785	KAG [N*] ASI	鳥威	562823	OSU	牡牛	564589
SUGINA	土筆	561785	KAKASI	案山子	562866	OSU	牡馬	564589
KAG [g] ASI	案山子	561843	KAKASI	鳥威	562866	TO(O)NEK(K)O	子牛	564589
KAG [g] ASI	鳥威	561843	KAKASI	案山子	562923	TO(O)NEK(K)O	子馬	564589
TO(O)NEK(K)O	子牛	561843	KAKASI	鳥威	562923	TO(O)ZAI	子牛	564589
TO(O)NEK(K)O	子馬	561843	KAKASI	案山子	562998	TO(O)ZAI	子馬	564589
KAKASI	案山子	561967	KAKASI	鳥威	562998	KAKASI	案山子	564612
KAKASI	鳥威	561967	BOO	牛	563228	KAKASI	鳥威	564612
IKI	雪	562032	BOO	牛の鳴き声	563228	TO(O)NEK(K)O	子牛	564639
IKI	蒸気	562032	TOOSAI	子牛	563228	TO(O)NEK(K)O	子馬	564639
KOME	粳米	562032	TOOSAI	子馬	563228	KAKASI	案山子	564671
KOME	米	562032	ITO	糸	563283	KAKASI	鳥威	564671
ODOROKASI	案山子	562032	ITO	機糸	563283	KAG [g] ASI	案山子	564727
ODOROKASI	鳥威	562032	BEEBOO	牛	563345	KAG [g] ASI	鳥威	564727
KOME	粳米	562080	BEEBOO	牛の鳴き声	563345	KAKASI	案山子	564756
KOME	米	562080	EKI	雪	563345	KAKASI	鳥威	564756
ODOSI	案山子	562080	EKI	蒸気	563345	KINUITO	絹糸	564756
ODOSI	鳥威	562080	KAKASI	案山子	563548	KINUITO	機糸	564756
KAKASI	案山子	562143	KAKASI	鳥威	563548	TO(O)ZAIK(K)O	子牛	564756
KAKASI	鳥威	562143	KOME	米	563565	TO(O)ZAIK(K)O	子馬	564756
KAG [g] ASI	案山子	562248	KOME	飯米	563565	CUGENOKO	杉菜	564813
KAG [g] ASI	鳥威	562248	TOKAKE	蠶螂	563565	CUGENOKO	土筆	564813
SUINA	杉菜	562248	TOKAKE	蜥蜴	563565	KAKASI	案山子	564813
SUINA	土筆	562248	KAKASI	案山子	563649	KAKASI	鳥威	564813
BOO	牛	562327	KAKASI	鳥威	563649	CUGENOKO	杉菜	564896
BOO	牛の鳴き声	562327	ITO	糸	563674	CUGENOKO	土筆	564896
SUGINA	杉菜	562327	ITO	機糸	563674	KAKASI	案山子	564896
SUGINA	土筆	562327	KAKASI	案山子	563674	KAKASI	鳥威	564896
USI	牛	562327	KAKASI	鳥威	563674	KAKASI	案山子	564929
USI	牝牛	562327	CUKUSI	杉菜	563853	KAKASI	鳥威	564929
TO(O)ZE(E)	子牛	562385	CUKUSI	土筆	563853	KAKASI	案山子	564953
TO(O)ZE(E)	子馬	562385	KAKASI	案山子	563853	KAKASI	鳥威	564953
EKI	雪	562405	KAKASI	鳥威	563853	KAKASI	案山子	565206
EKI	蒸気	562405	TO(O)ZAI	子牛	563853	KAKASI	鳥威	565206
SUGINABOOZU	杉菜	562405	TO(O)ZAI	子馬	563853	ITO	糸	565296
SUGINABOOZU	土筆	562405	KAKASI	案山子	563867	ITO	機糸	565296
TO(O)ZAI	子牛	562405	KAKASI	鳥威	563867	SUGINA	杉菜	565308
TO(O)ZAI	子馬	562405	KAKASI	案山子	563947	SUGINA	土筆	565308
ICI	雪	562485	KAKASI	鳥威	563947	KAKASI	案山子	565342
ICI	蒸気	562485	KAKASI	案山子	563980	KAKASI	鳥威	565342
TO(O)ZAI	子牛	562485	KAKASI	鳥威	563980	KAKASI	案山子	565494
TO(O)ZAI	子馬	562485	ITO	糸	564173	KAKASI	鳥威	565494
EKI	雪	562532	ITO	機糸	564173	KOME	米	565494
EKI	蒸気	562532	ITO	糸	564424	KOME	飯米	565494
TO(O)NEK(K)O	子牛	562532	ITO	機糸	564424	KAKASI	案山子	565498
TO(O)NEK(K)O	子馬	562532	KAKASI	案山子	564424	KAKASI	鳥威	565498
KAKASI	案山子	562692	KAKASI	鳥威	564424	ITO	糸	565541
KAKASI	鳥威	562692	USINENBOO	牛	564474	ITO	絹糸	565541
KOME	粳米	562692	USINENBOO	子牛	564474	ITO	機糸	565541

KAKASI	案山子	565541	TOKAKE	蜥蜴	566777	TO(O)ZAI	子馬	567728
KAKASI	烏威	565541	KAKASI	案山子	566781	TOKAKE	蠐螬	567728
KINUITO	絹糸	565557	KAKASI	烏威	566781	TOKAKE	蜥蜴	567728
KINUITO	機糸	565557	KAMAKIRI	蠐螬	566781	DOKKO	杉菜	567785
KAKASI	案山子	565656	KAMAKIRI	蜥蜴	566781	DOKKO	土筆	567785
KAKASI	烏威	565656	KAKASI	案山子	566813	KAKASI	案山子	567785
OTOKO	牡馬	565656	KAKASI	烏威	566813	KAKASI	烏威	567785
OTOKO	男	565656	KOME	粳米	566813	KAKASI	案山子	567833
KAKASI	案山子	565662	KOME	米	566813	KAKASI	烏威	567833
KAKASI	烏威	565662	MESU	牝牛	566838	KAMAHEBI	蠐螬	567833
ITO	糸	565773	MESU	牝馬	566838	KAMAHEBI	蜥蜴	567833
ITO	機糸	565773	OSU	牡牛	566838	TOOSAI	子牛	567833
KAKASI	案山子	565773	OSU	牡馬	566838	TOOSAI	子馬	567833
KAKASI	烏威	565773	ITO	糸	566851	CUGINOKO	杉菜	567859
KAKASI	案山子	565778	ITO	機糸	566851	CUGINOKO	土筆	567859
KAKASI	烏威	565778	KAKASI	案山子	566851	ITO	糸	567871
KAKASI	案山子	565854	KAKASI	烏威	566851	ITO	機糸	567871
KAKASI	烏威	565854	KAKASI	案山子	566888	SUGINA	杉菜	567871
SUGINA	杉菜	565854	KAKASI	烏威	566888	SUGINA	土筆	567871
SUGINA	土筆	565854	KAKASI	案山子	566912	CUGINOKO	杉菜	567886
KAKASI	案山子	565889	KAKASI	烏威	566912	CUGINOKO	土筆	567886
KAKASI	烏威	565889	TO(O)ZAIK(K)O	子牛	566912	USI	牛	567886
OSU	牡牛	565889	TO(O)ZAIK(K)O	子馬	566912	USI	牝牛	567886
OSU	牡馬	565889	SOME	案山子	567047	ITO	糸	568034
KAKASI	案山子	565942	SOME	烏威	567047	ITO	機糸	568034
KAKASI	烏威	565942	ITO	糸	567136	KOME	粳米	568034
KAKASI	案山子	565946	ITO	機糸	567136	KOME	米	568034
KAKASI	烏威	565946	KAKASI	案山子	567378	NAMEKUZI	蝸牛	568034
TO(O)ZE(E)	子牛	566134	KAKASI	烏威	567378	NAMEKUZI	蛞蝓	568034
TO(O)ZE(E)	子馬	566134	KAKASI	案山子	567406	SOME	案山子	568034
TO(O)ZAI	子牛	566364	KAKASI	烏威	567406	SOME	烏威	568034
TO(O)ZAI	子馬	566364	KAKASI	案山子	567536	TO(O)ZAI	子牛	568147
EKI	雪	566451	KAKASI	烏威	567536	TO(O)ZAI	子馬	568147
EKI	蒸氣	566451	KAKASI	案山子	567587	SUGINA	杉菜	568292
KAKASI	案山子	566451	KAKASI	烏威	567587	SUGINA	土筆	568292
KAKASI	烏威	566451	KOME	粳米	567628	ITO	糸	568361
KAKASI	案山子	566458	KOME	米	567628	ITO	機糸	568361
KAKASI	烏威	566458	SUGINA	杉菜	567652	KAKASI	案山子	568377
KAKASI	案山子	566511	SUGINA	土筆	567652	KAKASI	烏威	568377
KAKASI	烏威	566511	KAKASI	案山子	567684	KAKASI	案山子	568426
KAKASI	案山子	566546	KAKASI	烏威	567684	KAKASI	烏威	568426
KAKASI	烏威	566546	KOME	米	567684	ITO	糸	568502
MESU	牝牛	566546	KOME	飯米	567684	ITO	機糸	568502
MESU	牝馬	566546	MESU	牝牛	567684	KAKASI	案山子	568502
OSU	牡牛	566546	MESU	牝馬	567684	KAKASI	烏威	568502
OSU	牡馬	566546	OSU	牡牛	567684	SUGINA	杉菜	568502
KOME	粳米	566610	OSU	牡馬	567684	SUGINA	土筆	568502
KOME	米	566610	OSU	男	567684	ITO	糸	568537
KAKASI	案山子	566618	SUGINAE	杉菜	567714	ITO	機糸	568537
KAKASI	烏威	566618	SUGINAE	土筆	567714	KINUITO	絹糸	568537
KAKASI	案山子	566724	KAKASI	案山子	567728	KINUITO	機糸	568537
KAKASI	烏威	566724	KAKASI	烏威	567728	KOME	粳米	568537
TOKAKE	蠐螬	566741	KOME	米	567728	KOME	米	568537
TOKAKE	蜥蜴	566741	KOME	飯米	567728	USI	牛	568537
TOKAKE	蠐螬	566777	TO(O)ZAI	子牛	567728	USI	牝牛	568537

KAKASI	案山子	568615	KAG [g] ASI 鳥威	569547	KAG [g] ASI 案山子	570370
KAKASI	鳥威	568615	ITO 糸	569561	KAG [g] ASI 鳥威	570370
ITO	糸	568631	ITO 機糸	569561	NAMEKUZI 蝸牛	570370
ITO	機糸	568631	KAKASI 案山子	569561	NAMEKUZI 蛞蝓	570370
ITO	糸	568667	KAKASI 鳥威	569561	MAMEKUZI 蝸牛	571042
ITO	機糸	568667	KAMAG [N*] ICCYO 蟻螂	569613	MAMEKUZI 蛞蝓	571042
KAKASI	案山子	568667	KAMAG [N*] ICCYO 蜥蜴	569613	TO(O)ZAIK(K)O 子牛	571042
KAKASI	鳥威	568667	KAKASI 案山子	569668	TO(O)ZAIK(K)O 子馬	571042
ITO	糸	568732	KAKASI 鳥威	569668	KAKASI 案山子	571084
ITO	機糸	568732	USI 牛	569668	KAKASI 鳥威	571084
KAKASI	案山子	568732	USI 牝牛	569668	MAMEKUZI 蝸牛	571084
KAKASI	鳥威	568732	USI 牛	569720	MAMEKUZI 蛞蝓	571084
ITO	糸	568759	USI 牡牛	569720	KAG [g] ASI 案山子	571185
ITO	機糸	568759	ITO 糸	569724	KAG [g] ASI 鳥威	571185
KAKASI	案山子	568786	ITO 機糸	569724	KAKASI 案山子	571270
KAKASI	鳥威	568786	KAKASI 案山子	569724	KAKASI 鳥威	571270
KAKASI	案山子	568801	KAKASI 鳥威	569724	NAMEKUZI 蝸牛	571270
KAKASI	鳥威	568801	KAKASI 案山子	569786	NAMEKUZI 蛞蝓	571270
SUGINA	杉菜	568801	KAKASI 鳥威	569786	SUGINA 杉菜	571270
SUGINA	土筆	568801	OSU 牡馬	569786	SUGINA 土筆	571270
KAKASI	案山子	568837	OSU 男	569786	KAG [g] ASI 案山子	571288
KAKASI	鳥威	568837	ITO 糸	569819	KAG [g] ASI 鳥威	571288
KUSURIYUBI 薬指		568837	ITO 機糸	569819	KAKASI 案山子	571410
KUSURIYUBI 小指		568837	KAKASI 案山子	569830	KAKASI 鳥威	571410
KAKASI 案山子		568874	KAKASI 鳥威	569830	CUGINANBO(O) 杉菜	572034
KAKASI 鳥威		568874	KAKASI 案山子	569854	CUGINANBO(O) 土筆	572034
CUGINOKO 杉菜		568910	KAKASI 鳥威	569854	KAKASI 案山子	572034
CUGINOKO 土筆		568910	MESU 牝牛	569854	KAKASI 鳥威	572034
TO(O)ZAI 子牛		568934	MESU 牡馬	569854	CUGINANBO(O) 杉菜	572071
TO(O)ZAI 子馬		568934	KOME 粳米	569891	CUGINANBO(O) 土筆	572071
CUGINA 杉菜		568943	KOME 米	569891	KAKASI 案山子	572071
CUGINA 土筆		568943	TO(O)ZAIK(K)O 子牛	569925	KAKASI 鳥威	572071
KAKASI 案山子		568943	TO(O)ZAIK(K)O 子馬	569925	KAKASI 案山子	572127
KAKASI 鳥威		568943	KAKASI 案山子	569942	KAKASI 鳥威	572127
NAMEKUZIRA 蝸牛		568943	KAKASI 鳥威	569942	KAG [g] ASI 案山子	572177
NAMEKUZIRA 蛞蝓		568943	NAMEKUZI 蝸牛	569989	KAG [g] ASI 鳥威	572177
TO(O)ZAI 子牛		568998	NAMEKUZI 蛞蝓	569989	CUGINOKO 杉菜	572237
TO(O)ZAI 子馬		568998	KAG [g] ASI 案山子	570028	CUGINOKO 土筆	572237
TO(O)ZE(E)K(K)O 子牛		568998	KAG [g] ASI 鳥威	570028	KAG [g] ASI 案山子	572237
TO(O)ZE(E)K(K)O 子馬		568998	KAG [g] ASI 案山子	570125	KAG [g] ASI 鳥威	572237
TOOZEKKORO 子牛		568998	KAG [g] ASI 鳥威	570125	KAG [g] ASI 案山子	572336
TOOZEKKORO 子馬		568998	NAMEKUZI 蝸牛	570125	KAG [g] ASI 鳥威	572336
SOME 案山子		569096	NAMEKUZI 蛞蝓	570125	KAG [g] ASI 案山子	572360
SOME 鳥威		569096	KAG [N*] ASI 案山子	570173	KAG [g] ASI 鳥威	572360
KAKASI 案山子		569253	KAG [N*] ASI 鳥威	570173	KAKASI 案山子	573057
KAKASI 鳥威		569253	KAKASI 案山子	570207	KAKASI 鳥威	573057
KAKASI 案山子		569378	KAKASI 鳥威	570207	KOME 粳米	573057
KAKASI 鳥威		569378	KAG [g] ASI 案山子	570252	KOME 米	573057
KAKASI 案山子		569431	KAG [g] ASI 鳥威	570252	CUGINANBO(O) 杉菜	573071
KAKASI 鳥威		569431	KAG [g] ASI 案山子	570319	CUGINANBO(O) 土筆	573071
ITO 糸		569482	KAG [g] ASI 鳥威	570319	KAKASI 案山子	573071
ITO 機糸		569482	CUGINOKO 杉菜	570368	KAKASI 鳥威	573071
KAKASI 案山子		569482	CUGINOKO 土筆	570368	TONKO 子牛	573113
KAKASI 鳥威		569482	KOME 粳米	570368	TONKO 子馬	573113
KAG [g] ASI 案山子		569547	KOME 米	570368	TONKOME 子牛	573113

TONKOME	子馬	573113	KAG [g] ASI	案山子	577136	TO(O)ZE(E)K(K)O	子馬	579218									
KAG [g]	ASI	案山子	573167	KAG [g]	ASI	鳥威	577136	KOME	粳米	579262							
KAG [g]	ASI	鳥威	573167	SUGINA	杉菜	577136	KOME	米	579262								
KAG [g]	ASI	案山子	573213	SUGINA	土筆	577136	SUGINA	杉菜	579278								
KAG [g]	ASI	鳥威	573213	KOME	粳米	577142	SUGINA	土筆	579278								
OSU	牡牛	573278	KOME	米	577142	KAG [g]	ASE	案山子	579320								
OSU	牡馬	573278	MESU	牝牛	577142	KAG [g]	ASE	鳥威	579320								
KAG [g]	ASI	案山子	573302	MESU	牝馬	577142	TO(O)ZE(E)	子牛	579320								
KAG [g]	ASI	鳥威	573302	OSU	牡牛	577142	TO(O)ZE(E)	子馬	579320								
CUGINANBO(O)	杉菜	574016	OSU	牡馬	577142	MESU	牝牛	579363									
CUGINANBO(O)	土筆	574016	KAG [g]	ASI	案山子	577284	MESU	牝馬	579363								
KAKASI	案山子	574016	KAG [g]	ASI	鳥威	577284	SUINA	杉菜	579363								
KAKASI	鳥威	574016	ONNA	牝牛	578011	ONNA	牝馬	578011	579363								
CUGINANBO(O)	杉菜	574087	ONNA	牝馬	578011	OTOKO	牡牛	578011	KAG [g]	ASE	案山子	579374					
CUGINANBO(O)	土筆	574087	OTOKO	牡牛	578011	OTOKO	牡馬	578011	KAG [g]	ASE	鳥威	579374					
KAKASI	案山子	574087	OTOKO	牡馬	578011	TO(O)ZE(E)	子牛	578011	KAG [g]	ASI	案山子	579374					
KAKASI	鳥威	574087	TO(O)ZE(E)	子牛	578011	TO(O)ZE(E)	子馬	578011	KAG [g]	ASI	鳥威	579374					
CUGINANBO(O)	杉菜	574130	TO(O)ZE(E)	子馬	578011	MESU	牝牛	578057	SUGINA	杉菜	579374						
CUGINANBO(O)	土筆	574130	MESU	牝牛	578057	MESU	牝馬	578057	SUGINA	土筆	579374						
NAMEKUZI	蝸牛	574130	MESU	牝馬	578057	OSU	牡牛	578057	NAMEKUZIRI	蝸牛	626768						
NAMEKUZI	蛞蝓	574130	OSU	牡牛	578057	OSU	牡馬	578057	NAMEKUZIRI	蛞蝓	626768						
KAKAASI	案山子	574166	OSU	牡馬	578057	TO(O)ZAI	子牛	578057	ODOSI	案山子	627762						
KAKAASI	鳥威	574166	TO(O)ZAI	子牛	578057	TO(O)ZAI	子馬	578057	ODOSI	鳥威	627762						
KAG [g]	ASI	案山子	574232	TO(O)ZAI	子馬	578057	TOKAG [N*]	E	螻蛄	578062	MACU(BA)GUSA	杉菜	628668				
KAG [g]	ASI	鳥威	574232	TOKAG [N*]	E	蜥蜴	578062	TOKAG [N*]	E	蠅	578062	MACU(BA)GUSA	土筆	628668			
SUGINA	杉菜	574232	TOKAG [N*]	E	蜥蜴	578062	KODOMO	子牛	578122	TO(O)ZE(E)	子牛	628668					
SUGINA	土筆	574232	KODOMO	子牛	578122	KODOMO	子馬	578122	KODOMO	子馬	578122	TO(O)ZE(E)	子馬	628668			
CUNAGINBOO	杉菜	575030	KODOMO	子馬	578122	TO(O)ZE(E)K(K)O	子牛	578165	TO(O)ZE(E)K(K)O	子牛	578165	MACU(BA)GUSA	杉菜	628742			
CUNAGINBOO	土筆	575030	TO(O)ZE(E)K(K)O	子牛	578165	TO(O)ZE(E)K(K)O	子馬	578165	TO(O)ZE(E)K(K)O	子馬	578165	MACU(BA)GUSA	土筆	628742			
TO(O)ZAI	子牛	575031	TO(O)ZE(E)K(K)O	子馬	578165	KAG [N*]	ASI	案山子	578279	KAG [N*]	ASI	案山子	578279	ODOSI	案山子	628742	
TO(O)ZAI	子馬	575031	KAG [N*]	ASI	案山子	578279	KAG [N*]	ASI	鳥威	578279	KAG [N*]	ASI	鳥威	578279	ODOSI	鳥威	628742
CUGINANBO(O)	杉菜	575160	KAG [N*]	ASI	鳥威	578279	TO(O)ZE(E)K(K)O	子牛	578279	TO(O)ZE(E)K(K)O	子牛	578279	CUI	釣錢	629627		
CUGINANBO(O)	土筆	575160	TO(O)ZE(E)K(K)O	子牛	578279	TO(O)ZE(E)K(K)O	子馬	578279	TO(O)ZE(E)K(K)O	子馬	578279	CUI	梅雨	629627			
SUGINA	杉菜	575232	TO(O)ZE(E)K(K)O	子馬	578279	KAG [N*]	ASI	案山子	578294	KAG [N*]	ASI	案山子	KAG [g]	ASI	案山子	633899	
SUGINA	土筆	575232	KAG [N*]	ASI	案山子	578294	KAG [N*]	ASI	案山子	578294	KAG [N*]	ASI	案山子	KAG [g]	ASI	鳥威	633899
USI	牛	575232	KAG [N*]	ASI	鳥威	578294	KOME	粳米	578294	KOME	粳米	578294	NAMEKUZI	蝸牛	633899		
USI	牝牛	575232	KOME	粳米	578294	KOME	米	578294	KOME	米	578294	NAMEKUZI	蛞蝓	633899			
KAKASI	案山子	575294	KOME	米	578294	ITO	糸	579003	ITO	糸	579003	ODOSI	案山子	633935			
KAKASI	鳥威	575294	ITO	糸	579003	ITO	機糸	579003	ITO	機糸	579003	ODOSI	鳥威	633935			
SIASATTE	明明後日	575294	ITO	機糸	579003	KAKASI	案山子	579003	KAKASI	案山子	579003	ODOSI	案山子	633986			
SIASATTE	明明明後日	575294	KAKASI	案山子	579003	KAKASI	鳥威	579003	KAKASI	案山子	579039	ODOSI	鳥威	633986			
KAG [g]	ASI	案山子	576057	KAKASI	鳥威	579003	KAKASI	案山子	579039	KAKASI	鳥威	579039	ODOSI	案山子	634877		
KAG [g]	ASI	鳥威	576057	KAKASI	案山子	579039	KAKASI	案山子	579079	KAKASI	案山子	579079	ODOSI	鳥威	634877		
CUGINOKO	杉菜	576127	KAKASI	案山子	579079	KAKASI	鳥威	579079	KAKASI	鳥威	579079	ODOSI	案山子	634923			
CUGINOKO	土筆	576127	KAKASI	鳥威	579079	KAKASI	案山子	579079	KAKASI	案山子	579079	ODOSI	鳥威	634923			
ONNAME	牝牛	576177	KAKASI	案山子	579079	KAKASI	鳥威	579079	KAKASI	鳥威	579079	ODOSI	案山子	634967			
ONNAME	牝馬	576177	SUGINA	杉菜	579107	SUGINA	杉菜	579107	SUGINA	杉菜	579107	ODOSI	案山子	634967			
OTOKOME	牡牛	576177	SUGINA	土筆	579107	SUGINA	土筆	579107	SUGINA	土筆	579107	ODOSI	鳥威	634967			
OTOKOME	牡馬	576177	OSU	牡牛	579123	OSU	牡牛	579123	OSU	牡牛	579123	ITO	糸	634980			
KAG [g]	ASI	案山子	576191	OSU	牡馬	579123	OSU	牡馬	579123	OSU	牡馬	ITO	機糸	634980			
KAG [g]	ASI	鳥威	576191	TO(O)ZAIK(K)O	子牛	579123	TO(O)ZAIK(K)O	子牛	579123	TO(O)ZAIK(K)O	子牛	ITO	糸	635698			
KAG [g]	ASI	案山子	576241	TO(O)ZAIK(K)O	子馬	579123	TO(O)ZAIK(K)O	子馬	579123	TO(O)ZAIK(K)O	子馬	ITO	機糸	635698			
KAG [g]	ASI	鳥威	576241	KAG [N*]	ASI	案山子	579202	KAG [N*]	ASI	案山子	579202	NAMAKUZI	蝸牛	635698			
SUGINA	杉菜	576241	KAG [N*]	ASI	案山子	579202	KAG [N*]	ASI	案山子	579202	KAG [N*]	ASI	案山子	NAMAKUZI	蛞蝓	635698	
SUGINA	土筆	576241	KAG [N*]	ASI	鳥威	579202	KAG [N*]	ASI	鳥威	579202	KAG [N*]	ASI	鳥威	ODOSI	案山子	635738	
			TO(O)ZE(E)K(K)O	子牛	579218	TO(O)ZE(E)K(K)O	子牛	579218	TO(O)ZE(E)K(K)O	子牛	579218	ODOSI	鳥威	ODOSI	鳥威	635738	

ODOSI	案山子	635774	TOODAI	子牛	637931	MOO	牛の鳴き声	640189
ODOSI	鳥威	635774	TOODAI	子馬	637931	ODOSI	案山子	640189
ODOSI	案山子	635843	MEN	牝牛	637967	ODOSI	鳥威	640189
ODOSI	鳥威	635843	MEN	牝馬	637967	ODOSI	案山子	640294
ODOSI	案山子	635938	ODOSI	案山子	637967	ODOSI	鳥威	640294
ODOSI	鳥威	635938	ODOSI	鳥威	637967	ODOSI	案山子	640360
NAMEKUZI	蝸牛	636616	ON	牡牛	637967	ODOSI	鳥威	640360
NAMEKUZI	蛞蝓	636616	ON	牡馬	637967	ODOSI	案山子	640483
ODOSI	案山子	636624	ODOSI	案山子	638328	ODOSI	鳥威	640483
ODOSI	鳥威	636624	ODOSI	鳥威	638328	ODOSI	案山子	640692
KAG [g] ASI	案山子	636773	KAG [g] ASI	案山子	638425	ODOSI	鳥威	640692
KAG [g] ASI	鳥威	636773	KAG [g] ASI	鳥威	638425	ODOSI	案山子	640728
NAMEKUZI	蝸牛	636773	ODOSI	案山子	638473	ODOSI	鳥威	640728
NAMEKUZI	蛞蝓	636773	ODOSI	鳥威	638473	KINUITO	絹糸	640815
ODOSI	案山子	636859	KASEITO	絹糸	638598	KINUITO	機糸	640815
ODOSI	鳥威	636859	KASEITO	機糸	638598	MENTA	牝牛	640815
ITO	糸	636860	ODOSI	案山子	638598	MENTA	牝馬	640815
ITO	機糸	636860	ODOSI	鳥威	638598	ONTA	牡牛	640815
KOME	粳米	636860	ODOSI	案山子	638632	ONTA	牡馬	640815
KOME	米	636860	ODOSI	鳥威	638632	ODOSI	案山子	640872
KOME	飯米	636860	ODOSI	案山子	638666	ODOSI	鳥威	640872
ODOSI	案山子	636860	ODOSI	鳥威	638666	ITO	糸	640972
ODOSI	鳥威	636860	ODOSI	案山子	638748	ITO	機糸	640972
KAG [g] ASI	案山子	636932	ODOSI	鳥威	638748	KOMA	牡馬	641291
KAG [g] ASI	鳥威	636932	ODOSI	案山子	638762	KOMA	子馬	641291
ODOSI	案山子	636932	ODOSI	鳥威	638762	ITO	糸	641310
ODOSI	鳥威	636932	ODOSI	案山子	638849	ITO	機糸	641310
HI (I)MAGO	曾孫	636937	ODOSI	鳥威	638849	KOME	米	641310
HI (I)MAGO	玄孫	636937	ODOSI	案山子	638852	KOME	飯米	641310
ODOSI	案山子	637359	ODOSI	鳥威	638852	ODOSI	案山子	641310
ODOSI	鳥威	637359	ODOSI	案山子	638959	ODOSI	鳥威	641310
ODOSI	案山子	637464	ODOSI	鳥威	638959	HOOSO	杉菜	641329
ODOSI	鳥威	637464	ODOSI	案山子	639326	HOOSO	土筆	641329
MAMEKUZI	蝸牛	637468	ODOSI	鳥威	639326	ODOSI	案山子	641329
MAMEKUZI	蛞蝓	637468	KOME	粳米	639443	ODOSI	鳥威	641329
MAMEKUZI	蝸牛	637508	KOME	米	639443	ODOSI	案山子	641376
MAMEKUZI	蛞蝓	637508	ODOSI	案山子	639443	ODOSI	鳥威	641376
MAMEKUZI	蝸牛	637540	ODOSI	鳥威	639443	ITO	糸	641417
MAMEKUZI	蛞蝓	637540	TOOSAI	子牛	639478	ITO	機糸	641417
ODOSI	案山子	637565	TOOSAI	子馬	639478	ITO	糸	641523
ODOSI	鳥威	637565	ODOSI	案山子	639521	ITO	機糸	641523
ODOSI	案山子	637633	ODOSI	鳥威	639521	KOME	粳米	641523
ODOSI	鳥威	637633	NAMEKUZI	蝸牛	639546	KOME	米	641523
ODOSI	案山子	637668	NAMEKUZI	蛞蝓	639546	ITO	糸	641580
ODOSI	鳥威	637668	ODOSI	案山子	639608	ITO	機糸	641580
ODOSI	案山子	637711	ODOSI	鳥威	639608	ODOSI	案山子	641580
ODOSI	鳥威	637711	ODOSI	案山子	639724	ODOSI	鳥威	641580
ODOSI	案山子	637870	ODOSI	鳥威	639724	ODOSI	案山子	641609
ODOSI	鳥威	637870	ODOSI	案山子	639807	ODOSI	鳥威	641609
ODOSI	案山子	637887	ODOSI	鳥威	639807	ODOSI	案山子	641631
ODOSI	鳥威	637887	ODOSI	案山子	639842	ODOSI	鳥威	641631
ODOSI	案山子	637931	ODOSI	鳥威	639842	ODOSI	案山子	641658
ODOSI	鳥威	637931	KOME	米	640189	ODOSI	鳥威	641658
OTOKO	牡馬	637931	KOME	飯米	640189	ODOSI	案山子	641714
OTOKO	男	637931	MOO	牛	640189	ODOSI	鳥威	641714

YUUDACI	稲妻	641772	ODOSI	鳥威	643053	ODOSI	案山子	644861
YUUDACI	夕立雨	641772	ITO	糸	643334	ODOSI	鳥威	644861
KINUITO	絹糸	641813	ITO	機糸	643334	ITO	糸	644919
KINUITO	機糸	641813	ODOSI	案山子	643334	ITO	機糸	644919
ITO	糸	641875	ODOSI	鳥威	643334	KOME	粳米	644919
ITO	機糸	641875	ODOSI	案山子	643452	KOME	米	644919
ITO	糸	641925	ODOSI	鳥威	643452	ODOSI	案山子	644920
ITO	機糸	641925	KOME	粳米	643457	ODOSI	鳥威	644920
ODOSI	案山子	641925	KOME	米	643457	ON	牡牛	644920
ODOSI	鳥威	641925	ODOSI	案山子	643568	ON	牡馬	644920
ODOSI	案山子	642060	ODOSI	鳥威	643568	KOME	粳米	644933
ODOSI	鳥威	642060	ODOSI	案山子	643657	KOME	米	644933
ODOSI	案山子	642126	ODOSI	鳥威	643657	ODOSI	案山子	644933
ODOSI	鳥威	642126	ITO	糸	643660	ODOSI	鳥威	644933
ODOSI	案山子	642216	ITO	機糸	643660	SATOIMO	甘藷	645045
ODOSI	鳥威	642216	ODOSI	案山子	643660	SATOIMO	里芋	645045
ODOSI	案山子	642293	ODOSI	鳥威	643660	ITO	糸	645179
ODOSI	鳥威	642293	ODOSI	案山子	643707	ITO	機糸	645179
ITO	糸	642375	ODOSI	鳥威	643707	ODOSI	案山子	645217
ITO	機糸	642375	ODOSI	案山子	643794	ODOSI	鳥威	645217
ITO	糸	642420	ODOSI	鳥威	643794	ODOSI	案山子	645283
ITO	機糸	642420	ITO	糸	643977	ODOSI	鳥威	645283
ODOSI	案山子	642435	ITO	機糸	643977	ITO	糸	645359
ODOSI	鳥威	642435	ODOSI	案山子	643977	ITO	機糸	645359
ODOSI	案山子	642489	ODOSI	鳥威	643977	ITO	糸	645488
ODOSI	鳥威	642489	MOON	牛	644025	ITO	機糸	645488
YOKO	子牛	642541	MOON	牛の鳴き声	644025	ODOSI	案山子	645488
YOKO	子馬	642541	ODOSI	案山子	644025	ODOSI	鳥威	645488
ITO	糸	642604	ODOSI	鳥威	644025	ITO	糸	645527
ITO	機糸	642604	MOON	牛	644067	ITO	機糸	645527
ODOSI	案山子	642604	MOON	牛の鳴き声	644067	ODOSI	案山子	645527
ODOSI	鳥威	642604	ODOSI	案山子	644235	ODOSI	鳥威	645527
ODOSI	案山子	642647	ODOSI	鳥威	644235	KOME	粳米	645588
ODOSI	鳥威	642647	ODOSI	案山子	644303	KOME	米	645588
ODOSI	案山子	642727	ODOSI	鳥威	644303	ODOSI	案山子	645588
ODOSI	鳥威	642727	ITO	糸	644388	ODOSI	鳥威	645588
ODOSI	案山子	642740	ITO	機糸	644388	ODOSI	案山子	645623
ODOSI	鳥威	642740	ODOSI	案山子	644388	ODOSI	鳥威	645623
KABUCYA	頭	642826	ODOSI	鳥威	644388	ITO	糸	645657
KABUCYA	南瓜	642826	ITO	糸	644425	ITO	機糸	645657
ODOSI	案山子	642826	ITO	機糸	644425	KOME	粳米	645657
ODOSI	鳥威	642826	ODOSI	案山子	644425	KOME	米	645657
KINUITO	絹糸	642876	ODOSI	鳥威	644425	ODOSI	案山子	645657
KINUITO	機糸	642876	ITO	糸	644557	ODOSI	鳥威	645657
ODOSI	案山子	642876	ITO	機糸	644557	ODOSI	案山子	645673
ODOSI	鳥威	642876	ODOSI	案山子	644643	ODOSI	鳥威	645673
KINUITO	絹糸	642915	ODOSI	鳥威	644643	YUUDACI	稲妻	645718
KINUITO	機糸	642915	ODOSI	案山子	644708	YUUDACI	夕立雨	645718
KIITO	絹糸	642961	ODOSI	鳥威	644708	ODOSI	案山子	645745
KIITO	機糸	642961	KINUITO	絹糸	644784	ODOSI	鳥威	645745
ODOSI	案山子	642961	KINUITO	機糸	644784	ODOSI	案山子	645751
ODOSI	鳥威	642961	ODOSI	案山子	644784	ODOSI	鳥威	645751
MOON	牛	643053	ODOSI	鳥威	644784	ITO	糸	645808
MOON	牛の鳴き声	643053	ITO	糸	644861	ITO	機糸	645808
ODOSI	案山子	643053	ITO	機糸	644861	ODOSI	案山子	645808

ODOSI	鳥威	645808	ODOSI	案山子	647126	ODOSI	案山子	648223
KOME	粳米	645952	ODOSI	鳥威	647126	ODOSI	鳥威	648223
KOME	米	645952	MEN	牝牛	647199	ON	牝牛	648223
KOMA	牡馬	646008	MEN	牝馬	647199	ON	牝馬	648223
KOMA	子馬	646008	ITO	糸	647205	KOME	粳米	648226
ODOSI	案山子	646008	ITO	機糸	647205	KOME	米	648226
ODOSI	鳥威	646008	ODOSI	案山子	647268	ODOSI	案山子	648252
ITO	糸	646010	ODOSI	鳥威	647268	ODOSI	鳥威	648252
ITO	機糸	646010	KAG [g] ASI	案山子	647304	UMA	牝馬	648443
KOME	粳米	646076	KAG [g] ASI	鳥威	647304	UMA	牝馬	648443
KOME	米	646076	KOME	粳米	647304	ODOSI	案山子	648546
ODOSI	案山子	646076	KOME	米	647304	ODOSI	鳥威	648546
ODOSI	鳥威	646076	KOME	粳米	647365	ONTA	牝馬	648582
ODOSI	案山子	646127	KOME	米	647365	ONTA	男	648582
ODOSI	鳥威	646127	ODOSI	案山子	647365	ON	牝馬	648743
ITO	糸	646153	ODOSI	鳥威	647365	ON	男	648743
ITO	機糸	646153	ODOSI	案山子	647507	ITO	糸	648766
ODOSI	案山子	646153	ODOSI	鳥威	647507	ITO	機糸	648766
ODOSI	鳥威	646153	KOME	粳米	647561	MENTA	牝牛	648766
OTOKO	牝馬	646153	KOME	米	647561	MENTA	牝馬	648766
OTOKO	男	646153	ODOSI	案山子	647561	ONTA	牝牛	648766
TO(O)ZAI	子牛	646153	ODOSI	鳥威	647561	ONTA	牝馬	648766
TO(O)ZAI	子馬	646153	MEN	牝牛	647702	ODOSI	案山子	648848
ITO	糸	646259	MEN	牝馬	647702	ODOSI	鳥威	648848
ITO	機糸	646259	MENTA	牝牛	647702	KOME	粳米	648927
ODOSI	案山子	646338	MENTA	牝馬	647702	KOME	米	648927
ODOSI	鳥威	646338	ONTA	牝牛	647702	MEN	牝牛	648927
KAG [g] ASI	案山子	646373	ONTA	牝馬	647702	MEN	牝馬	648927
KAG [g] ASI	鳥威	646373	ONTA	男	647702	ON	牝牛	648927
ODOSI	案山子	646423	MEN	牝牛	647926	ON	牝馬	648927
ODOSI	鳥威	646423	MEN	牝馬	647926	KOME	粳米	649030
ODOSI	案山子	646477	ON	牝牛	647926	KOME	米	649030
ODOSI	鳥威	646477	ON	牝馬	647926	ITO	糸	649149
KOME	粳米	646540	ODOSI	案山子	647951	ITO	機糸	649149
KOME	米	646540	ODOSI	鳥威	647951	ODOSI	案山子	649165
ITO	糸	646601	ODOSI	案山子	648029	ODOSI	鳥威	649165
ITO	機糸	646601	ODOSI	鳥威	648029	ITO	糸	649211
KOME	粳米	646601	ODOSI	案山子	648041	ITO	機糸	649211
KOME	米	646601	ODOSI	鳥威	648041	ODOSI	案山子	649211
ODOSI	案山子	646601	ON	牝牛	648041	ODOSI	鳥威	649211
ODOSI	鳥威	646601	ON	牝馬	648041	TOOZAIGO	子牛	649211
KOME	粳米	646616	MENTA	牝牛	648091	TOOZAIGO	子馬	649211
KOME	米	646616	MENTA	牝馬	648091	KINUITO	絹糸	649408
ODOSI	案山子	646616	ONTA	牝牛	648091	KINUITO	機糸	649408
ODOSI	鳥威	646616	ONTA	牝馬	648091	NMOO	牛	649408
MEN	牝牛	646919	ODOSI	案山子	648115	NMOO	牛の鳴き声	649408
MEN	牝馬	646919	ODOSI	鳥威	648115	ODOSI	案山子	649408
ON	牝牛	646919	KOME	粳米	648156	ODOSI	鳥威	649408
ON	牝馬	646919	KOME	米	648156	MEN	牝牛	649421
SUGINA	杉菜	647011	MEN	牝牛	648156	MEN	牝馬	649421
SUGINA	土筆	647011	MEN	牝馬	648156	MENTA	牝牛	649421
ODOSI	案山子	647059	ODOSI	案山子	648156	MENTA	牝馬	649421
ODOSI	鳥威	647059	ODOSI	鳥威	648156	ON	牝牛	649421
ON	牝牛	647059	MEN	牝牛	648223	ON	牝馬	649421
ON	牝馬	647059	MEN	牝馬	648223	ONTA	牝牛	649421

ONTA	牡馬	649421	ODOSI	案山子	651524	ODOSI	鳥威	652505
ODOSI	案山子	649518	ODOSI	鳥威	651524	ODOSI	案山子	652575
ODOSI	鳥威	649518	ODOSI	案山子	651570	ODOSI	鳥威	652575
KOME	粳米	649582	ODOSI	鳥威	651570	KAG [N*] ASI	案山子	652604
KOME	米	649582	MEN	牝牛	651615	KAG [N*] ASI	鳥威	652604
MENTA	牝牛	649656	MEN	牝馬	651615	MEN	牝牛	652604
MENTA	牝馬	649656	MENTA	牝牛	651615	MEN	牝馬	652604
ONTA	牝牛	649656	MENTA	牝馬	651615	MOO	牛	652604
ONTA	牝馬	649656	ODOSI	案山子	651615	MOO	牛の鳴き声	652604
ODOSI	案山子	649736	ODOSI	鳥威	651615	ON	牝牛	652604
ODOSI	鳥威	649736	ON	牝牛	651615	ON	牝馬	652604
MEN	牝牛	649741	ON	牝馬	651615	TO(O)ZAI	子牛	652604
MEN	牝馬	649741	ONTA	牝牛	651615	TO(O)ZAI	子馬	652604
ODOSI	案山子	649741	ONTA	牝馬	651615	MEN	牝牛	652608
ODOSI	鳥威	649741	ODOSI	案山子	651731	MEN	牝馬	652608
ON	牝牛	649741	ODOSI	鳥威	651731	ON	牝牛	652608
ON	牝馬	649741	YUUDACI	稻妻	651731	ON	牝馬	652608
MACUNA	杉菜	649800	YUUDACI	夕立雨	651731	MEN	牝牛	652645
MACUNA	土筆	649800	GENSI	糸	651765	MEN	牝馬	652645
KOME	粳米	650083	GENSI	機糸	651765	MENTA	牝牛	652645
KOME	米	650083	KOMA	牝馬	651770	MENTA	牝馬	652645
ODOSI	案山子	650401	KOMA	子馬	651770	ON	牝牛	652645
ODOSI	鳥威	650401	MENCU	牝牛	651770	ON	牝馬	652645
ODOSI	案山子	650558	MENCU	牝馬	651770	ONTA	牝牛	652645
ODOSI	鳥威	650558	ONCU	牝牛	651770	ONTA	牝馬	652645
MENTA	牝牛	650560	ONCU	牝馬	651770	ITO	糸	652698
MENTA	牝馬	650560	YUUDACI	稻妻	651777	ITO	機糸	652698
ONTA	牝牛	650560	YUUDACI	夕立雨	651777	ITO	糸	652722
ONTA	牝馬	650560	KOME	粳米	651815	ITO	機糸	652722
ODOSI	案山子	650686	KOME	米	651815	KOME	粳米	652722
ODOSI	鳥威	650686	SOME	案山子	651830	KOME	米	652722
SOME	案山子	650713	SOME	鳥威	651830	ITO	糸	652744
SOME	鳥威	650713	HANMAI	粳米	652094	ITO	機糸	652744
ZUKU(N)BO(O)	杉菜	650713	HANMAI	飯米	652094	ITO	糸	652806
ZUKU(N)BO(O)	土筆	650713	ODOSI	案山子	652103	ITO	機糸	652806
KOME	粳米	650748	ODOSI	鳥威	652103	ITO	糸	652864
KOME	米	650748	HI(I)MAGO	曾孫	652120	ITO	機糸	652864
ODOSI	案山子	650779	HI(I)MAGO	玄孫	652120	KAKASI	案山子	652915
ODOSI	鳥威	650779	BEKO	子牛	652237	KAKASI	鳥威	652915
ODOSI	案山子	650938	BEKO	牝牛	652237	MAIMAI	蝸牛	652915
ODOSI	鳥威	650938	KAG [g] ASI	案山子	652237	MAIMAI	旋毛	652915
ONTA	牝牛	650938	KAG [g] ASI	鳥威	652237	SOME	案山子	652915
ONTA	牝馬	650938	ODOSI	案山子	652354	SOME	鳥威	652915
KOME	粳米	650943	ODOSI	鳥威	652354	ITO	糸	652963
KOME	米	650943	ITO	糸	652386	ITO	機糸	652963
MAIMAI	蝸牛	650943	ITO	機糸	652386	ITO	糸	653023
MAIMAI	旋毛	650943	KOME	粳米	652386	ITO	機糸	653023
MAMEKUZI	蝸牛	650991	KOME	米	652386	KOME	粳米	653058
MAMEKUZI	蛞蝓	650991	ODOSI	案山子	652386	KOME	米	653058
BEKO	牛	651065	ODOSI	鳥威	652386	ODOSI	案山子	653058
BEKO	子牛	651065	ITO	糸	652401	ODOSI	鳥威	653058
ITO	糸	651438	ITO	機糸	652401	ITO	糸	653153
ITO	機糸	651438	KOME	粳米	652466	ITO	機糸	653153
ODOSI	案山子	651438	KOME	米	652466	ODOSI	案山子	653153
ODOSI	鳥威	651438	ODOSI	案山子	652505	ODOSI	鳥威	653153

ITO	糸	653230	ITO	糸	654541	SUZUMENOODOSI	鳥威	655322
ITO	機糸	653230	ITO	機糸	654541	ITO	糸	655347
KAG [N*]	ASI 案山子	653289	MOO	牛	654541	ITO	機糸	655347
KAG [N*]	ASI 鳥威	653289	MOO	牛の鳴き声	654541	MENTA	牝牛	655347
ITO	糸	653331	USI	牛	654588	MENTA	牝馬	655347
ITO	機糸	653331	USI	牝牛	654588	ODOSI	案山子	655347
ODOSI	案山子	653331	KOME	粳米	654673	ODOSI	鳥威	655347
ODOSI	鳥威	653331	KOME	米	654673	ONTA	牡牛	655347
ITO	糸	653336	MENTA	牝牛	654709	ONTA	牝馬	655347
ITO	機糸	653336	MENTA	牝馬	654709	ONTA	男	655347
ODOSI	案山子	653336	ONTA	牡牛	654709	MENTA	牝牛	655352
ODOSI	鳥威	653336	ONTA	牝馬	654709	MENTA	牝馬	655352
ODOSI	案山子	653389	ITO	糸	654724	ONTA	牡牛	655352
ODOSI	鳥威	653389	ITO	機糸	654724	ONTA	牝馬	655352
ODOSI	案山子	653485	ITO	糸	654802	ODOSI	案山子	655383
ODOSI	鳥威	653485	ITO	機糸	654802	ODOSI	鳥威	655383
CURI	釣銭	653573	ITO	糸	654826	MENDA	牝牛	655399
CURI	真綿	653573	ITO	機糸	654826	MENDA	牝馬	655399
ODOSI	案山子	653573	SOME	案山子	654826	MENTA	牝牛	655408
ODOSI	鳥威	653573	SOME	鳥威	654826	MENTA	牝馬	655408
ITO	糸	653632	MENTA	牝牛	654882	ODOSI	案山子	655408
ITO	機糸	653632	MENTA	牝馬	654882	ODOSI	鳥威	655408
HANMEE	粳米	653639	ONTA	牡牛	654882	ONTA	牡牛	655408
HANMEE	飯米	653639	ONTA	牝馬	654882	ONTA	牝馬	655408
ITO	糸	653639	SOME	案山子	654903	ITO	糸	655445
ITO	絹糸	653639	SOME	鳥威	654903	ITO	機糸	655445
USI	牛	653639	ITO	糸	654960	ODOSI	案山子	655445
USI	牝牛	653639	ITO	機糸	654960	ODOSI	鳥威	655445
SUZUMEODOSI	案山子	653706	MENCU	牝牛	654969	USI	牛	655531
SUZUMEODOSI	鳥威	653706	MENCU	牝馬	654969	USI	牝牛	655531
ITO	糸	653721	ONCU	牡牛	654969	ODOSI	案山子	655565
ITO	機糸	653721	ONCU	牝馬	654969	ODOSI	鳥威	655565
ODOSI	案山子	654016	ODOSI	案山子	655013	MENTA	牝牛	655603
ODOSI	鳥威	654016	ODOSI	鳥威	655013	MENTA	牝馬	655603
MENTA	牝牛	654079	ITO	糸	655118	ITO	糸	655837
MENTA	牝馬	654079	ITO	機糸	655118	ITO	機糸	655837
KOME	米	654127	HANMAI	粳米	655152	ITO	糸	655922
KOME	飯米	654127	HANMAI	飯米	655152	ITO	機糸	655922
BEKO	牡牛	654166	OROSI	案山子	655152	USI	牛	655922
BEKO	子牛	654166	OROSI	鳥威	655152	USI	牝牛	655922
BEKO	牝牛	654166	MENTA	牝牛	655177	USI	牛	656022
ITO	糸	654166	MENTA	牝馬	655177	USI	牝牛	656022
ITO	機糸	654166	ITO	糸	655203	USI	牛	656222
ODOSI	案山子	654227	ITO	機糸	655203	USI	牝牛	656222
ODOSI	鳥威	654227	MENTA	牝牛	655246	ITO	糸	656264
ODOSI	案山子	654232	MENTA	牝馬	655246	ITO	機糸	656264
ODOSI	鳥威	654232	ITO	糸	655271	ODOSI	案山子	656264
ODOSI	案山子	654352	ITO	機糸	655271	ODOSI	鳥威	656264
ODOSI	鳥威	654352	ODOSI	案山子	655288	ITO	糸	656343
ODOSI	案山子	654426	ODOSI	鳥威	655288	ITO	機糸	656343
ODOSI	鳥威	654426	KOME	粳米	655322	ITO	糸	656358
ODOSI	案山子	654469	KOME	米	655322	ITO	機糸	656358
ODOSI	鳥威	654469	MEN	牝牛	655322	ITO	糸	656384
ITO	糸	654519	MEN	牝馬	655322	ITO	機糸	656384
ITO	機糸	654519	SUZUMENOODOSI	案山子	655322	MOON	牛	656384

MOON	牛の鳴き声	656384	ON	牡馬	657229	ODOSI	案山子	658248
ODOSI	案山子	656384	ONTA	牡牛	657229	ODOSI	鳥威	658248
ODOSI	鳥威	656384	ONTA	牡馬	657229	OROSI	案山子	658273
ITO	糸	656433	ITO	糸	657297	OROSI	鳥威	658273
ITO	機糸	656433	ITO	機糸	657297	ITO	糸	658319
KAG [N*]	ASIRA 案山子	656433	MOON	牛	657297	ITO	機糸	658319
KAG [N*]	ASIRA 鳥威	656433	MOON	牛の鳴き声	657297	MEN	牝牛	658319
MENDA	牝牛	656433	ODOSI	案山子	657297	MEN	牝馬	658319
MENDA	牝馬	656433	ODOSI	鳥威	657297	ODOSI	案山子	658319
ODOSI	案山子	656433	ITO	糸	657317	ODOSI	鳥威	658319
ODOSI	鳥威	656433	ITO	機糸	657317	ON	牝牛	658319
ITO	糸	656451	MENTA	牝牛	657317	ON	牝馬	658319
ITO	機糸	656451	MENTA	牝馬	657317	ITO	糸	658341
ODOSI	案山子	656451	ONTA	牝牛	657317	ITO	機糸	658341
ODOSI	鳥威	656451	ONTA	牝馬	657317	ODOSI	案山子	658341
ONDA	牝馬	656451	HANMAI	粳米	657371	ODOSI	鳥威	658341
ONDA	男	656451	HANMAI	飯米	657371	OROSI	案山子	658393
ITO	糸	656517	ITO	糸	657371	OROSI	鳥威	658393
ITO	機糸	656517	ITO	機糸	657371	ODOSI	案山子	658490
ODOSI	案山子	656517	MENTA	牝牛	657371	ODOSI	鳥威	658490
ODOSI	鳥威	656517	MENTA	牝馬	657371	KOME	粳米	658627
ITO	糸	656809	ONTA	牝牛	657371	KOME	米	658627
ITO	機糸	656809	ONTA	牝馬	657371	ODOSI	案山子	658627
ONCU	牝牛	656912	ODOSI	案山子	657406	ODOSI	鳥威	658627
ONCU	牝馬	656912	ODOSI	鳥威	657406	ITO	糸	659008
ITO	糸	657115	MENTA	牝牛	657452	ITO	機糸	659008
ITO	機糸	657115	MENTA	牝馬	657452	ODOSI	案山子	659087
KOME	粳米	657115	ONTA	牝牛	657452	ODOSI	鳥威	659087
KOME	米	657115	ONTA	牝馬	657452	USI	牛	659087
KOME	飯米	657115	KOME	粳米	657517	USI	牝牛	659087
ITO	糸	657163	KOME	米	657517	ODOSI	案山子	659157
ITO	機糸	657163	ODOSI	案山子	657517	ODOSI	鳥威	659157
ODOSI	案山子	657163	ODOSI	鳥威	657517	SUGINA	杉菜	659330
ODOSI	鳥威	657163	USI	牛	657517	SUGINA	土筆	659330
USI	牛	657163	USI	牝牛	657517	KOME	粳米	659398
USI	牝牛	657163	MENTA	牝牛	657540	KOME	米	659398
OROSI	案山子	657168	MENTA	牝馬	657540	MACU (BA)GUSA	杉菜	659398
OROSI	鳥威	657168	SIASATTE	明明後日	657540	MACU (BA)GUSA	土筆	659398
MEN	牝牛	657204	SIASATTE	明明明後日	657540	ODOSI	案山子	659467
MEN	牝馬	657204	ODOSI	案山子	657628	ODOSI	鳥威	659467
MENTA	牝牛	657204	ODOSI	鳥威	657628	KOME	粳米	659532
MENTA	牝馬	657204	MENTA	牝牛	657632	KOME	米	659532
ON	牝牛	657204	MENTA	牝馬	657632	ODOSI	案山子	659532
ON	牝馬	657204	ODOSI	案山子	657656	ODOSI	鳥威	659532
ONTA	牝牛	657204	ODOSI	鳥威	657656	USI	牛	659590
ONTA	牝馬	657204	KOME	粳米	657713	USI	牝牛	659590
ITO	糸	657222	KOME	米	657713	MAMEKUZI	蝸牛	660053
ITO	機糸	657222	MOO	牛	658066	MAMEKUZI	蛞蝓	660053
ODOSI	案山子	657222	MOO	牛の鳴き声	658066	ODOSI	案山子	660053
ODOSI	鳥威	657222	OROSI	案山子	658136	ODOSI	鳥威	660053
MEN	牝牛	657229	OROSI	鳥威	658136	OSU	牝牛	660125
MEN	牝馬	657229	ODOSI	案山子	658152	OSU	牝馬	660125
MENTA	牝牛	657229	ODOSI	鳥威	658152	SUGINA	杉菜	660125
MENTA	牝馬	657229	MENTA	牝牛	658248	SUGINA	土筆	660125
ON	牝牛	657229	MENTA	牝馬	658248	SOME	案山子	660262

SOME	鳥威	660262	SUGINA	杉菜	661851	MENTA	牝馬	664258
ITO	糸	660308	SUGINA	土筆	661851	MOO	牛	664258
ITO	機糸	660308	KOME	粳米	661976	MOO	牛の鳴き声	664258
KAKASI	案山子	660308	KOME	米	661976	KAKASI	案山子	664537
KAKASI	鳥威	660308	TO(O)ZE(E)	子牛	661976	KAKASI	鳥威	664537
TO(O)NEK(K)O	子牛	660308	TO(O)ZE(E)	子馬	661976	KAKASI	案山子	664623
TO(O)NEK(K)O	子馬	660308	SOME	案山子	662053	KAKASI	鳥威	664623
KAKASI	案山子	660438	SOME	鳥威	662053	SUGINA	杉菜	664623
KAKASI	鳥威	660438	SOME	案山子	662194	SUGINA	土筆	664623
KAKASI	案山子	660460	SOME	鳥威	662194	KAKASI	案山子	664674
KAKASI	鳥威	660460	KAG [N*]	ASI 案山子	662353	KAKASI	鳥威	664674
KAKASI	案山子	660537	KAG [N*]	ASI 鳥威	662353	KAASI	案山子	664913
KAKASI	鳥威	660537	KOME	粳米	662353	KAASI	鳥威	664913
ITO	糸	660584	KOME	米	662353	TO(O)ZE(E)K(K)O	子牛	664928
ITO	機糸	660584	KAKASI	案山子	662413	TO(O)ZE(E)K(K)O	子馬	664928
KAKASI	案山子	660635	KAKASI	鳥威	662413	MENTA	牝牛	665070
KAKASI	鳥威	660635	KAKASI	案山子	662566	MENTA	牝馬	665070
KAKASI	案山子	660638	KAKASI	鳥威	662566	NANBAN	蕃椒	665070
KAKASI	鳥威	660638	KAKASI	案山子	662630	NANBAN	玉蜀黍	665070
KAKASI	案山子	660703	KAKASI	鳥威	662630	ODOSI	案山子	665070
KAKASI	鳥威	660703	SIASATTE	明明後日	662712	ODOSI	鳥威	665070
KOME	粳米	660703	SIASATTE	明明明後日	662712	ONTA	牡牛	665070
KOME	米	660703	USI	牛	662823	ONTA	牡馬	665070
KAKASI	案山子	660784	USI	牝牛	662823	SOME	案山子	665070
KAKASI	鳥威	660784	KAKASI	案山子	662924	SOME	鳥威	665070
KOME	米	660822	KAKASI	鳥威	662924	ODOKASI	案山子	665230
KOME	飯米	660822	ITO	糸	663043	ODOKASI	鳥威	665230
KOME	粳米	660902	ITO	機糸	663043	ODOSI	案山子	665277
KOME	米	660902	META	牝牛	663043	ODOSI	鳥威	665277
KAKASI	案山子	660905	META	牝馬	663043	KAKASI	案山子	665631
KAKASI	鳥威	660905	SOME	案山子	663082	KAKASI	鳥威	665631
OSU	牡牛	661000	SOME	鳥威	663082	KAHASI	案山子	665754
OSU	牡馬	661000	KAKASI	案山子	663105	KAHASI	鳥威	665754
ITO	糸	661077	KAKASI	鳥威	663105	KOKKO	子牛	665754
ITO	機糸	661077	SUGINA	杉菜	663215	KOKKO	子馬	665754
KAKASI	案山子	661307	SUGINA	土筆	663215	KOKE	垢	665796
KAKASI	鳥威	661307	KAG [N*]	ASI 案山子	663432	KOKE	雲脂	665796
KAKASI	案山子	661377	KAG [N*]	ASI 鳥威	663432	ODOSI	案山子	666102
KAKASI	鳥威	661377	KAKASI	案山子	663554	ODOSI	鳥威	666102
ITO	糸	661404	KAKASI	鳥威	663554	MESU	牝牛	666201
ITO	機糸	661404	KOME	粳米	663814	MESU	牝馬	666201
KAKASI	案山子	661502	KOME	米	663814	OSU	牡牛	666201
KAKASI	鳥威	661502	KAASI	案山子	663979	OSU	牡馬	666201
SUGINA	杉菜	661679	KAASI	鳥威	663979	CUUNAGI	杉菜	666238
SUGINA	土筆	661679	KAKASI	案山子	664143	CUUNAGI	土筆	666238
ITO	糸	661693	KAKASI	鳥威	664143	ODOSI	案山子	666238
ITO	機糸	661693	KOME	粳米	664143	ODOSI	鳥威	666238
KAKASI	案山子	661693	KOME	米	664143	ITO	糸	666525
KAKASI	鳥威	661693	ODOSI	案山子	664143	ITO	機糸	666525
KOME	米	661693	ODOSI	鳥威	664143	KOME	米	666525
KOME	飯米	661693	KOME	粳米	664182	KOME	飯米	666525
KAKASI	案山子	661775	KOME	米	664182	SUGINA	杉菜	666525
KAKASI	鳥威	661775	ODOSI	案山子	664233	SUGINA	土筆	666525
KAKASI	案山子	661851	ODOSI	鳥威	664233	INBOSUI	蝸牛	667741
KAKASI	鳥威	661851	MENTA	牝牛	664258	INBOSUI	蠶螂	667741

CUKUSI	杉菜	667770	ITO	機糸	673033	ODOSI	案山子	730317
CUKUSI	土筆	667770	KARASUNOODOSI	案山子	721809	ODOSI	鳥威	730317
NAMERAKOOZI	蝸牛	667770	KARASUNOODOSI	鳥威	721809	OTOKO	牡馬	730361
NAMERAKOOZI	蛞蝓	667770	ODORIKASI	案山子	721826	OTOKO	男	730361
NAMERAKOOZI	蝸牛	668675	ODORIKASI	鳥威	721826	KOME	粳米	730429
NAMERAKOOZI	蛞蝓	668675	ODORIKASI	案山子	721858	KOME	米	730429
YARO	牡牛	669739	ODORIKASI	鳥威	721858	ODOSI	案山子	730429
YARO	男	669739	CUBA	唇	723840	ODOSI	鳥威	730429
KOME	米	669861	CUBA	舌	723840	ODOSI	案山子	730513
KOME	飯米	669861	USI	牛	723886	ODOSI	鳥威	730513
KAKASI	案山子	670025	USI	牝牛	723886	KATACUMURI	蝸牛	730718
KAKASI	鳥威	670025	KARASUODOOSI	案山子	723924	KATACUMURI	蟻螂	730718
USI	牛	670098	KARASUODOOSI	鳥威	723924	ODOSI	案山子	730718
USI	牝牛	670098	KARASUODOSI	案山子	723929	ODOSI	鳥威	730718
KAKASI	案山子	670101	KARASUODOSI	鳥威	723929	ODOSI	案山子	730833
KAKASI	鳥威	670101	TOBOSI	案山子	723941	ODOSI	鳥威	730833
TO(O)ZE(E)K(K)O	子牛	670101	TOBOSI	鳥威	723941	ODOSI	案山子	730848
TO(O)ZE(E)K(K)O	子馬	670101	ODOSI	案山子	723982	ODOSI	鳥威	730848
KAG [g] ASI	案山子	670221	ODOSI	鳥威	723982	ITO	糸	730937
KAG [g] ASI	鳥威	670221	ODOSI	案山子	723985	ITO	機糸	730937
KOME	粳米	670221	ODOSI	鳥威	723985	ODOSI	案山子	730937
KOME	米	670221	KARASUODOSI	案山子	724682	ODOSI	鳥威	730937
SUGINA	杉菜	670221	KARASUODOSI	鳥威	724682	KOKE	垢	730961
SUGINA	土筆	670221	KARASUTOBOSI	案山子	724786	KOKE	雲脂	730961
KAASI	案山子	671055	KARASUTOBOSI	鳥威	724786	ODOSI	案山子	730961
KAASI	鳥威	671055	KARASUTOBOSI	案山子	724815	ODOSI	鳥威	730961
TO(O)NENKO	子牛	671055	KARASUTOBOSI	鳥威	724815	MAIMAI	蝸牛	731168
TO(O)NENKO	子馬	671055	TOOBOSI	案山子	724995	MAIMAI	旋毛	731168
TO(O)ZE(E)K(K)O	子牛	671055	TOOBOSI	鳥威	724995	ODOSI	案山子	731693
TO(O)ZE(E)K(K)O	子馬	671055	USI	牛	725664	ODOSI	鳥威	731693
TO(O)ZE(E)	子牛	671160	USI	牝牛	725664	MAIMAI	蝸牛	732059
TO(O)ZE(E)	子馬	671160	NAMEKUZI	蝸牛	725794	MAIMAI	旋毛	732059
TO(O)ZE(E)K(K)O	子牛	671160	NAMEKUZI	蛞蝓	725794	KAG [g] ASI	案山子	732146
TO(O)ZE(E)K(K)O	子馬	671160	BEE	子牛	726609	KAG [g] ASI	鳥威	732146
KAASI	案山子	671195	BEE	牛の鳴き声	726609	KINUITO	絹糸	732146
KAASI	鳥威	671195	NAMEKUZI	蝸牛	726609	KINUITO	機糸	732146
KAASI	案山子	672023	NAMEKUZI	蛞蝓	726609	KOME	粳米	732146
KAASI	鳥威	672023	ITO	糸	726634	KOME	米	732146
TO(O)ZE(E)K(K)O	子牛	672023	ITO	機糸	726634	MECCYO	牝牛	732187
TO(O)ZE(E)K(K)O	子馬	672023	ODOSI	案山子	726634	MECCYO	牝馬	732187
KAASI	案山子	672067	ODOSI	鳥威	726634	MAIMAI	蝸牛	732193
KAASI	鳥威	672067	ODOSI	案山子	726692	MAIMAI	旋毛	732193
TO(O)NENKO	子牛	672067	ODOSI	鳥威	726692	OROSI	案山子	732221
TO(O)NENKO	子馬	672067	TOBOSI	案山子	726845	OROSI	鳥威	732221
TO(O)ZE(E)K(K)O	子牛	672067	TOBOSI	鳥威	726845	ODOSI	案山子	732584
TO(O)ZE(E)K(K)O	子馬	672067	CU	鱗	727457	ODOSI	鳥威	732584
ITO	糸	672131	CU	釣銭	727457	ITO	糸	732641
ITO	機糸	672131	USI	牛	727457	ITO	機糸	732641
KAASI	案山子	672133	USI	牝牛	727457	BERO	垢	732669
KAASI	鳥威	672133	NAMEKUZI	蝸牛	727993	BERO	舌	732669
TO(O)NENKO	子牛	672133	NAMEKUZI	蛞蝓	727993	ODOSI	案山子	732669
TO(O)NENKO	子馬	672133	MAMEKUZI	蝸牛	728931	ODOSI	鳥威	732669
TO(O)ZE(E)	子牛	672133	MAMEKUZI	蛞蝓	728931	ODOSI	案山子	732957
TO(O)ZE(E)	子馬	672133	ODOSI	案山子	730287	ODOSI	鳥威	732957
ITO	糸	673033	ODOSI	鳥威	730287	SUZUMEODOSI	案山子	733031

SUZUMEODOSI	鳥威	733031	ITO	糸	734445	ODOSI	鳥威	735655
NAMEKUSI	蝸牛	733141	ITO	機糸	734445	TOODAI	子牛	735670
NAMEKUSI	蛞蝓	733141	KOME	粳米	734445	TOODAI	子馬	735670
ODOSI	案山子	733141	KOME	米	734445	ODOSI	案山子	735731
ODOSI	鳥威	733141	ODOSI	案山子	734445	ODOSI	鳥威	735731
KOME	粳米	733246	ODOSI	鳥威	734445	USI	牛	735731
KOME	米	733246	ODOSI	案山子	734543	USI	牝牛	735731
SUZUMEODOSI	案山子	733297	ODOSI	鳥威	734543	KOME	粳米	735764
SUZUMEODOSI	鳥威	733297	ODOSI	案山子	734547	KOME	米	735764
USI	牛	733297	ODOSI	鳥威	734547	ODOSI	案山子	735764
USI	牝牛	733297	ODOSI	案山子	734658	ODOSI	鳥威	735764
KOME	粳米	733375	ODOSI	鳥威	734658	MACUNAEGUSA	杉菜	736182
KOME	米	733375	KOME	粳米	734663	MACUNAEGUSA	土筆	736182
ODOSI	案山子	733375	KOME	米	734663	SUZUMEODOSI	案山子	736182
ODOSI	鳥威	733375	ODOSI	案山子	734663	SUZUMEODOSI	鳥威	736182
ODOSI	案山子	733444	ODOSI	鳥威	734663	KOME	粳米	736242
ODOSI	鳥威	733444	TOONA	杉菜	734793	KOME	米	736242
ODOSI	案山子	733478	TOONA	土筆	734793	KOME	粳米	736267
ODOSI	鳥威	733478	OSU	牡牛	734907	KOME	米	736267
ODOSI	案山子	733519	OSU	牡馬	734907	NAMEKUSI	蝸牛	736267
ODOSI	鳥威	733519	MAMEKUSI	蝸牛	735021	NAMEKUSI	蛞蝓	736267
IRA	垢	733534	MAMEKUSI	蛞蝓	735021	DADA	牡馬	736312
IRA	鱗	733534	MAMEKUSI	蝸牛	735044	DADA	牝馬	736312
ODOSI	案山子	733534	MAMEKUSI	蛞蝓	735044	ITO	糸	736312
ODOSI	鳥威	733534	MACUNA	杉菜	735096	ITO	機糸	736312
ODOSI	案山子	733654	MACUNA	土筆	735096	NAMEKUSI	蝸牛	736312
ODOSI	鳥威	733654	TOBOSI	案山子	735096	NAMEKUSI	蛞蝓	736312
ODOSI	案山子	733671	TOBOSI	鳥威	735096	MACUNA	杉菜	736359
ODOSI	鳥威	733671	KAG [g] ASI	案山子	735238	MACUNA	土筆	736359
TO(O)ZAI	子牛	733671	KAG [g] ASI	鳥威	735238	IMO	甘藷	736385
TO(O)ZAI	子馬	733671	NAMEKUSI	蝸牛	735261	IMO	里芋	736385
ODOSI	案山子	733855	NAMEKUSI	蛞蝓	735261	KOME	粳米	736385
ODOSI	鳥威	733855	NAMEKUSI	蝸牛	735297	KOME	米	736385
NAMEKUSI	蝸牛	734024	NAMEKUSI	蛞蝓	735297	TORIODOSI	案山子	736385
NAMEKUSI	蛞蝓	734024	SUZUMEODOSI	案山子	735297	TORIODOSI	鳥威	736385
SUZUMEODOSI	案山子	734024	SUZUMEODOSI	鳥威	735297	TOONA	杉菜	736434
SUZUMEODOSI	鳥威	734024	KAZIME	案山子	735303	TOONA	土筆	736434
NAMEKUSI	蝸牛	734027	KAZIME	鳥威	735303	NAMEKUSI	蝸牛	736567
NAMEKUSI	蛞蝓	734027	TORIODOSI	案山子	735319	NAMEKUSI	蛞蝓	736567
NAMEKUSI	蝸牛	734142	TORIODOSI	鳥威	735319	ODOSI	案山子	736567
NAMEKUSI	蛞蝓	734142	ODOSI	案山子	735351	ODOSI	鳥威	736567
ZUKU(N)BO(O)	杉菜	734147	ODOSI	鳥威	735351	ODOSI	案山子	736614
ZUKU(N)BO(O)	土筆	734147	KAG [g] ASI	案山子	735423	ODOSI	鳥威	736614
ZUKU(N)BO(O)	杉菜	734276	KAG [g] ASI	鳥威	735423	ITO	糸	736687
ZUKU(N)BO(O)	土筆	734276	TOOZAIGO	子牛	735423	ITO	機糸	736687
ODOSI	案山子	734314	TOOZAIGO	子馬	735423	KOKE	垢	736687
ODOSI	鳥威	734314	TORIODOSI	案山子	735423	KOKE	雲脂	736687
NAMEKUSI	蝸牛	734317	TORIODOSI	鳥威	735423	ODOSI	案山子	736687
NAMEKUSI	蛞蝓	734317	ODOSI	案山子	735548	ODOSI	鳥威	736687
ODOSI	案山子	734317	ODOSI	鳥威	735548	TOOZAIGO	子牛	736687
ODOSI	鳥威	734317	ODOSI	案山子	735581	TOOZAIGO	子馬	736687
TO(O)ZAI	子牛	734317	ODOSI	鳥威	735581	NAMEKUSI	蝸牛	736691
TO(O)ZAI	子馬	734317	ODOSI	案山子	735606	NAMEKUSI	蛞蝓	736691
ODOSI	案山子	734430	ODOSI	鳥威	735606	ITO	糸	736725
ODOSI	鳥威	734430	ODOSI	案山子	735655	ITO	機糸	736725

ODOSI	案山子	736725	ODOSI	鳥威	737772	ODOSI	案山子	739245
ODOSI	鳥威	736725	ODOSI	案山子	738074	ODOSI	鳥威	739245
IRA	鱗	736761	ODOSI	鳥威	738074	MAMEKUZI	蝸牛	739294
IRA	雲脂	736761	KOKE	垢	738138	MAMEKUZI	蛞蝓	739294
ODOSI	案山子	736761	KOKE	雲脂	738138	TO(O)ZAI	子牛	739362
ODOSI	鳥威	736761	MAMEKUZI	蝸牛	738138	TO(O)ZAI	子馬	739362
ITO	糸	737058	MAMEKUZI	蛞蝓	738138	TONNOODOSI	案山子	739362
ITO	機糸	737058	ODOSI	案山子	738138	TONNOODOSI	鳥威	739362
ITO	糸	737154	ODOSI	鳥威	738138	SUGINA	杉菜	739414
ITO	機糸	737154	ODOSI	案山子	738197	SUGINA	土筆	739414
MACUNA	杉菜	737193	ODOSI	鳥威	738197	SYAKUNOKOME	粳米	739414
MACUNA	土筆	737193	KONMA	牡馬	738201	SYAKUNOKOME	飯米	739414
KAG [g] ASI	案山子	737227	KONMA	子馬	738201	KAG [g] ASI	案山子	739485
KAG [g] ASI	鳥威	737227	MACU(BA)GUSA	杉菜	738201	KAG [g] ASI	鳥威	739485
CUKIBO(O)SI	杉菜	737296	MACU(BA)GUSA	土筆	738201	KAZIME	案山子	739485
CUKIBO(O)SI	土筆	737296	MACUNAEGUSA	杉菜	738201	KAZIME	鳥威	739485
KOME	粳米	737296	MACUNAEGUSA	土筆	738201	NAMEKUZI	蝸牛	739485
KOME	米	737296	MAMEKUZI	蝸牛	738258	NAMEKUZI	蛞蝓	739485
ODOSI	案山子	737296	MAMEKUZI	蛞蝓	738258	ODOSI	案山子	739525
ODOSI	鳥威	737296	MAMEKUZI	蝸牛	738293	ODOSI	鳥威	739525
KOME	米	737323	MAMEKUZI	蛞蝓	738293	ODOSI	案山子	739563
KOME	飯米	737323	DAMA	牝牛	738297	ODOSI	鳥威	739563
MACUNAEGUSA	杉菜	737323	DAMA	牝馬	738297	MACU(BA)GUSA	杉菜	739653
MACUNAEGUSA	土筆	737323	KOME	米	738297	MACU(BA)GUSA	土筆	739653
ODOSI	案山子	737323	KOME	飯米	738297	ODOSI	案山子	739653
ODOSI	鳥威	737323	KOTTE	牡牛	738297	ODOSI	鳥威	739653
ODOSI	案山子	737392	KOTTE	牡馬	738297	ODOSI	案山子	740015
ODOSI	鳥威	737392	KAZIME	案山子	738383	ODOSI	鳥威	740015
SUZUMEODOSI	案山子	737392	KAZIME	鳥威	738383	TO(O)ZAI	子牛	740118
SUZUMEODOSI	鳥威	737392	MAMEKUSI	蝸牛	738383	TO(O)ZAI	子馬	740118
TO(O)ZAI	子牛	737399	MAMEKUSI	蛞蝓	738383	KOME	粳米	740242
TO(O)ZAI	子馬	737399	ODOSI	案山子	738383	KOME	米	740242
TORIODOSI	案山子	737399	ODOSI	鳥威	738383	MEN	牝牛	740247
TORIODOSI	鳥威	737399	ITO	糸	738416	MEN	牝馬	740247
TORIODOSI	案山子	737415	ITO	機糸	738416	MEN	牝牛	740321
TORIODOSI	鳥威	737415	ODOSI	案山子	738416	MEN	牝馬	740321
KOKE	垢	737475	ODOSI	鳥威	738416	ON	牡牛	740386
KOKE	雲脂	737475	KOKE	垢	738538	ON	牡馬	740386
MAMEKUZI	蝸牛	737475	KOKE	雲脂	738538	ODOSI	案山子	740412
MAMEKUZI	蛞蝓	737475	ODOSI	案山子	738538	ODOSI	鳥威	740412
TO(O)ZE(E)	子牛	737530	ODOSI	鳥威	738538	KOME	粳米	740456
TO(O)ZE(E)	子馬	737530	KUIGOME	粳米	738561	KOME	米	740456
NAMEKUZI	蝸牛	737571	KUIGOME	飯米	738561	SIME	案山子	740585
NAMEKUZI	蛞蝓	737571	ODOSI	案山子	738655	SIME	鳥威	740585
ODOSI	案山子	737668	ODOSI	鳥威	738655	KOME	粳米	740625
ODOSI	鳥威	737668	ODOSI	案山子	738663	KOME	米	740625
TO(O)ZE(E)	子牛	737668	ODOSI	鳥威	738663	NAMEKUZI	蝸牛	740625
TO(O)ZE(E)	子馬	737668	ODOSI	案山子	739026	NAMEKUZI	蛞蝓	740625
KOME	粳米	737727	ODOSI	鳥威	739026	KOME	米	740653
KOME	米	737727	KARASUODOSI	案山子	739070	KOME	飯米	740653
ODOSI	案山子	737727	KARASUODOSI	鳥威	739070	MOON	牛	740653
ODOSI	鳥威	737727	MACU(BA)GUSA	杉菜	739075	MOON	牛の鳴き声	740653
IRIKO	鱗	737772	MACU(BA)GUSA	土筆	739075	KOME	粳米	740736
IRIKO	雲脂	737772	ODOSI	案山子	739144	KOME	米	740736
ODOSI	案山子	737772	ODOSI	鳥威	739144	ODOSI	案山子	740736

ODOSI	鳥威	740736	ODOSI	案山子	743075	CUKUSI	土筆	765940
TO(O)ZAI	子牛	741057	ODOSI	鳥威	743075	ODOSI	案山子	765951
TO(O)ZAI	子馬	741057	MACURA	杉菜	743244	ODOSI	鳥威	765951
MEN	牝牛	741161	MACURA	土筆	743244	CUKUSI	杉菜	765953
MEN	牝馬	741161	TO(O)ZAI	子牛	743244	CUKUSI	土筆	765953
ODOSI	案山子	741161	TO(O)ZAI	子馬	743244	ITO	絹糸	765953
ODOSI	鳥威	741161	ODOSI	案山子	743295	ITO	機糸	765953
ODOSI	案山子	741226	ODOSI	鳥威	743295	ODOSI	案山子	765962
ODOSI	鳥威	741226	ODOKASI	案山子	744626	ODOSI	鳥威	765962
SIME	案山子	741226	ODOKASI	鳥威	744626	IKO	鱗	822996
SIME	鳥威	741226	ASU	明日	745020	IKO	雲脂	822996
MEN	牝牛	741231	ASU	明晩	745020	ODOOSI	案山子	822996
MEN	牝馬	741231	ODOSI	案山子	745044	ODOOSI	鳥威	822996
GOMI	垢	741271	ODOSI	鳥威	745044	ODOSI	案山子	830025
GOMI	雲脂	741271	ODOSI	案山子	745122	ODOSI	鳥威	830025
TO(O)ZAI	子牛	741271	ODOSI	鳥威	745122	USI	牛	830025
TO(O)ZAI	子馬	741271	NAMEKUZU	蝸牛	745208	USI	牝牛	830025
HOKE	雲脂	741362	NAMEKUZU	蛞蝓	745208	MOO	隠れん坊	830080
HOKE	蒸気	741362	HANMAI	粳米	745254	MOO	牛の鳴き声	830080
NAMEKUZU	蝸牛	741585	HANMAI	飯米	745254	SUZUMEODOSI	案山子	830080
NAMEKUZU	蛞蝓	741585	NAMEKUZU	蝸牛	747138	SUZUMEODOSI	鳥威	830080
SIME	案山子	741634	NAMEKUZU	蛞蝓	747138	SUZUMEODOSI	案山子	830087
SIME	鳥威	741634	ODOSI	案山子	750024	SUZUMEODOSI	鳥威	830087
MEN	牝牛	741779	ODOSI	鳥威	750024	MACU(BA)GUSA	杉菜	830119
MEN	牝馬	741779	ODOSI	案山子	750168	MACU(BA)GUSA	土筆	830119
CUKUSI	杉菜	741833	ODOSI	鳥威	750168	ODOSI	案山子	830176
CUKUSI	土筆	741833	SUGINAE	杉菜	750222	ODOSI	鳥威	830176
ODOSI	案山子	741833	SUGINAE	土筆	750222	NAMEKUCI	蝸牛	830219
ODOSI	鳥威	741833	ITO	糸	750311	NAMEKUCI	蛞蝓	830219
ODOSI	案山子	742018	ITO	機糸	750311	DENDENMUSI	蝸牛	830255
ODOSI	鳥威	742018	CUGI(NO)ME	杉菜	750348	DENDENMUSI	蛞蝓	830255
TOOZAIGO	子牛	742018	CUGI(NO)ME	土筆	750348	MAMEKUZU	蝸牛	830255
TOOZAIGO	子馬	742018	MEN	牝牛	750348	MAMEKUZU	蛞蝓	830255
ODOSE	案山子	742162	MEN	牝馬	750348	TORINOODOSI	案山子	830255
ODOSE	鳥威	742162	ON	牡牛	750348	TORINOODOSI	鳥威	830255
SAKUMAI	粳米	742226	ON	牡馬	750348	NAMEKUZU	蝸牛	830313
SAKUMAI	飯米	742226	ODOSI	案山子	751018	NAMEKUZU	蛞蝓	830313
TO(O)ZAI	子牛	742377	ODOSI	鳥威	751018	ODOSI	案山子	830313
TO(O)ZAI	子馬	742377	ODOSI	案山子	751166	ODOSI	鳥威	830313
ODORAKASI	案山子	742460	ODOSI	鳥威	751166	KOKE	垢	830347
ODORAKASI	鳥威	742460	ODOSI	案山子	751369	KOKE	雲脂	830347
MAMEKUZU	蝸牛	742502	ODOSI	鳥威	751369	ODOSI	案山子	830347
MAMEKUZU	蛞蝓	742502	ODOSI	案山子	752116	ODOSI	鳥威	830347
NAMEKUZIRA	蝸牛	742527	ODOSI	鳥威	752116	MAMEKUSI	蝸牛	830384
NAMEKUZIRA	蛞蝓	742527	ODOSI	案山子	752374	MAMEKUSI	蛞蝓	830384
ODORAKASI	案山子	742582	ODOSI	鳥威	752374	MAMEKUSI	蝸牛	830384
ODORAKASI	鳥威	742582	USI	牛	753311	MAMEKUSI	蛞蝓	830384
MACU(BA)GUSA	杉菜	742661	USI	牝牛	753311	KAZIME	案山子	830466
MACU(BA)GUSA	土筆	742661	CUKUSI	杉菜	765931	KAZIME	鳥威	830466
ODOSI	案山子	742724	CUKUSI	土筆	765931	ODOSI	案山子	830573
ODOSI	鳥威	742724	NEBEKOCIKI	蝸牛	765931	ODOSI	鳥威	830573
USI	牛	742771	NEBEKOCIKI	蛞蝓	765931	UROKO	鱗	830573
USI	牝牛	742771	ODOSI	案山子	765931	UROKO	雲脂	830573
ODOSE	案山子	743015	ODOSI	鳥威	765931	ODOSI	案山子	830642
ODOSE	鳥威	743015	CUKUSI	杉菜	765940	ODOSI	鳥威	830642

UROKO	鱗	830642	ODOSI	烏威	832483	IKO	鱗	834194
UROKO	雲脂	830642	ODOSI	案山子	832503	IKO	雲脂	834194
IKO	鱗	831087	ODOSI	烏威	832503	IKO	鱗	834251
IKO	雲脂	831087	UROKO	鱗	832503	IKO	雲脂	834251
ODOSI	案山子	831087	UROKO	雲脂	832503	MACU(BA)GUSA	杉菜	834251
ODOSI	烏威	831087	TO(O)ZAI	子牛	832577	MACU(BA)GUSA	土筆	834251
IKO	鱗	831163	TO(O)ZAI	子馬	832577	ODOSI	案山子	834251
IKO	雲脂	831163	IKO	鱗	833117	ODOSI	烏威	834251
NAMEKUZI	蝸牛	831233	IKO	雲脂	833117	ODOSI	案山子	834397
NAMEKUZI	蛞蝓	831233	ZIGOKUGUSA	杉菜	833198	ODOSI	烏威	834397
ODOSI	案山子	831233	ZIGOKUGUSA	土筆	833198	UROKO	鱗	834397
ODOSI	烏威	831233	IKO	鱗	833242	UROKO	雲脂	834397
IKO	鱗	831275	IKO	雲脂	833242	ODOSI	案山子	834411
IKO	雲脂	831275	ODOSI	案山子	833242	ODOSI	烏威	834411
IKO	鱗	831372	ODOSI	烏威	833242	ODOSI	案山子	834524
IKO	雲脂	831372	IKO	鱗	833259	ODOSI	烏威	834524
MAMEKUZI	蝸牛	831384	IKO	雲脂	833259	IKO	鱗	835068
MAMEKUZI	蛞蝓	831384	ODOSI	案山子	833259	IKO	雲脂	835068
NAMEKUZI	蝸牛	831452	ODOSI	烏威	833259	IKO	鱗	835165
NAMEKUZI	蛞蝓	831452	MAMEKUZI	蝸牛	833284	IKO	雲脂	835165
ODOSI	案山子	831452	MAMEKUZI	蛞蝓	833284	MACU(BA)GUSA	杉菜	835165
ODOSI	烏威	831452	ODOSI	案山子	833303	MACU(BA)GUSA	土筆	835165
MACUNA	杉菜	831542	ODOSI	烏威	833303	ODOSI	案山子	835165
MACUNA	土筆	831542	IKO	鱗	833379	ODOSI	烏威	835165
ODOSI	案山子	831546	IKO	雲脂	833379	ODOSI	案山子	835229
ODOSI	烏威	831546	MACU(BA)GUSA	杉菜	833379	ODOSI	烏威	835229
UROKO	鱗	831546	MACU(BA)GUSA	土筆	833379	MAMEKUZIRI	蝸牛	835240
UROKO	雲脂	831546	ODOSI	案山子	833379	MAMEKUZIRI	蛞蝓	835240
ODOSI	案山子	831589	ODOSI	烏威	833379	TOINOSIME	案山子	835240
ODOSI	烏威	831589	IKO	鱗	833392	TOINOSIME	烏威	835240
YOGORE	垢	831589	IKO	雲脂	833392	MACU(BA)GUSA	杉菜	835292
YOGORE	雲脂	831589	ODOSI	案山子	833425	MACU(BA)GUSA	土筆	835292
ODOSI	案山子	831620	ODOSI	烏威	833425	MACU(BA)GUSA	杉菜	835363
ODOSI	烏威	831620	I I KO	鱗	833463	MACU(BA)GUSA	土筆	835363
ODOSI	案山子	832059	I I KO	雲脂	833463	ODOSI	案山子	835363
ODOSI	烏威	832059	ODOSI	案山子	833463	ODOSI	烏威	835363
IKO	鱗	832158	ODOSI	烏威	833463	UROKO	鱗	835368
IKO	雲脂	832158	ODOSI	案山子	833511	UROKO	雲脂	835368
ODOSI	案山子	832158	ODOSI	烏威	833511	I I KO	鱗	835414
ODOSI	烏威	832158	UROKO	鱗	833511	I I KO	雲脂	835414
MAMEKUZI	蝸牛	832243	UROKO	雲脂	833511	ODOSI	案山子	835414
MAMEKUZI	蛞蝓	832243	ODOSI	案山子	833548	ODOSI	烏威	835414
ODOSI	案山子	832268	ODOSI	烏威	833548	ODOSI	案山子	835523
ODOSI	烏威	832268	ODOSI	案山子	833583	ODOSI	烏威	835523
MACU(BA)GUSA	杉菜	832359	ODOSI	烏威	833583	IKO	鱗	836128
MACU(BA)GUSA	土筆	832359	IKO	鱗	834112	IKO	雲脂	836128
ODOSI	案山子	832359	IKO	雲脂	834112	IKO	鱗	836131
ODOSI	烏威	832359	KONMA	牡馬	834112	IKO	雲脂	836131
ODOSI	案山子	832426	KONMA	子馬	834112	IKO	鱗	836234
ODOSI	烏威	832426	ODOS	案山子	834112	IKO	雲脂	836234
UROKO	鱗	832426	ODOS	烏威	834112	ITO	糸	836234
UROKO	雲脂	832426	SUZUMEODOS	案山子	834112	ITO	機糸	836234
MACU(BA)GUSA	杉菜	832483	SUZUMEODOS	烏威	834112	KOME	米	836234
MACU(BA)GUSA	土筆	832483	IKO	鱗	834146	KOME	飯米	836234
ODOSI	案山子	832483	IKO	雲脂	834146	MACU(BA)GUSA	杉菜	836234

MACU(BA)GUSA	土筆	836234
IKO	鱗	836281
IKO	雲脂	836281
ODOSI	案山子	836281
ODOSI	烏威	836281
ODOSI	案山子	836364
ODOSI	烏威	836364
IRAKO	鱗	836433
IRAKO	雲脂	836433
MACU(BA)GUSA	杉菜	836433
MACU(BA)GUSA	土筆	836433
ODOSI	案山子	836433
ODOSI	烏威	836433
IKO	鱗	837247
IKO	雲脂	837247
KAG [g] ASI	案山子	837343
KAG [g] ASI	烏威	837343
TO(O)NENKO	子牛	837343
TO(O)NENKO	子馬	837343
MECCYAA	牝牛	839401
MECCYAA	牝馬	839401
OCCYAA	牡牛	839401
OCCYAA	牡馬	839401
IRIKO	鱗	930388
IRIKO	雲脂	930388
IRIKO	鱗	931355
IRIKO	雲脂	931355

# 海外の方言学

# フランス方言学の現状

Elisabetta Carpitelli

(グルノーブル・アルプ大学)

編集 川口裕司(東京外国語大学)

語史再構における言語地理学的解釈の  
再検討—類型的定式化の試み  
第7回研究会  
2019年11月23日(於 富山大学)



## 地域別言語地図 (G. Brun-Trigaudによる)

ALBRAM : Bretagne romane, Anjou, Maine  
ALAL: Auvergne et Limousin  
ALB : Bourgogne  
ALCB Champagne et Brie  
ALCE : Centre  
ALFC : Franche Comté  
ALIFO : Île de France et Orléanais  
ALLY : Lorraine germanophone  
ALG : Lorraine germanophone  
ALLOc : Languedoc occidental  
ALLor : Languedoc oriental  
ALLR : Lorraine romane  
ALO : Ouest  
ALPO : Roussillon (Pyrénées orientales)  
NALC : Nouvel Atlas Linguistique de la Corse  
ALPA : Atlas Linguistique des Petites Antilles



ALPic : Atlas Linguistique et Ethnographique de la Picardie

ALJA : Atlas Linguistique du Jura et des Alpes ALLy : Atl. Ling. du Lyonnais 2

ALPA : Atlas Linguistique des Petites Antilles

# フランスにおける方言学の中心

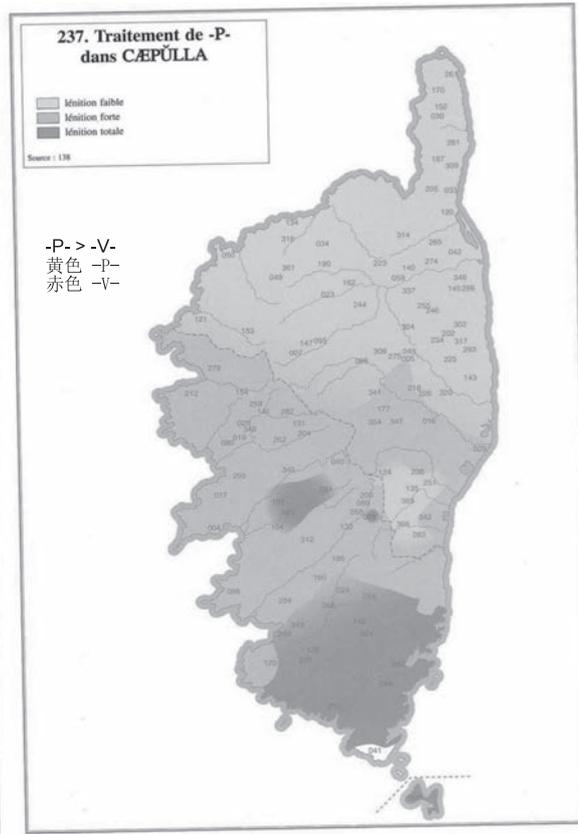
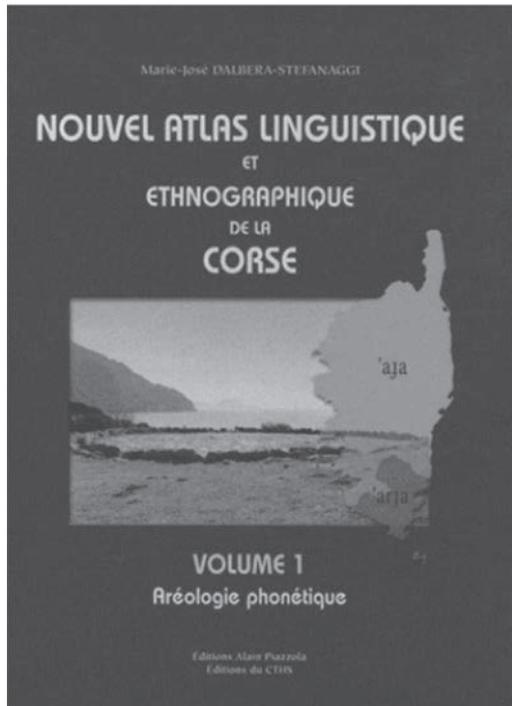


3

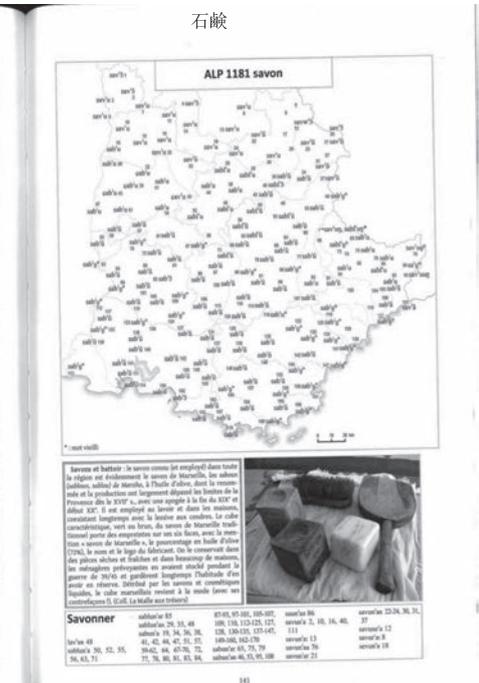
## フランス方言学の研究領域

- ・ 言語地図の発刊継続
- ・ オンライン版言語地図
- ・ オンライン版方言データ
- ・ マルチリンガル言語地図
- ・ 方言データに基づく語源研究
- ・ 方言使用に関するアンケート調査
- ・ 地名研究
- ・ 計量方言学

# 新コルシカ言語民族誌地図

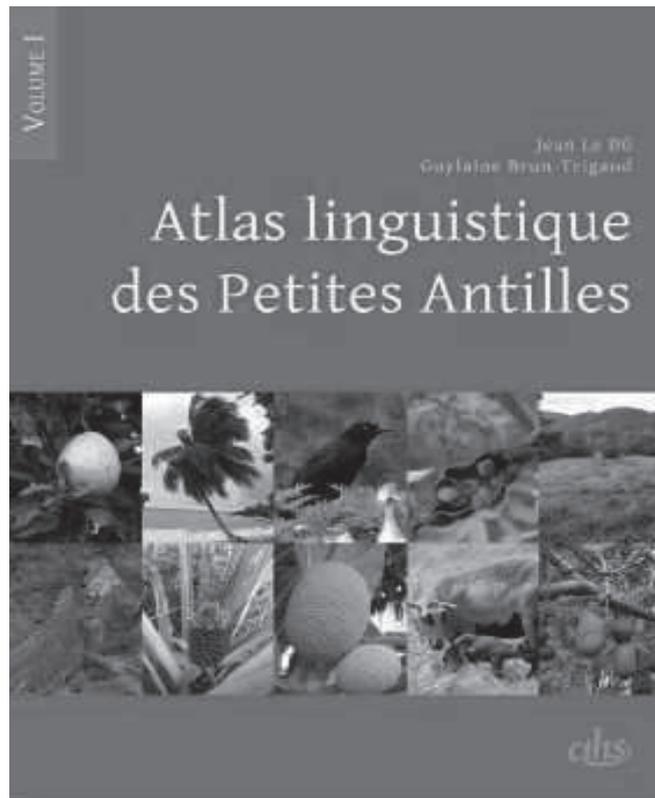


# オック語（南仏語）新言語地図



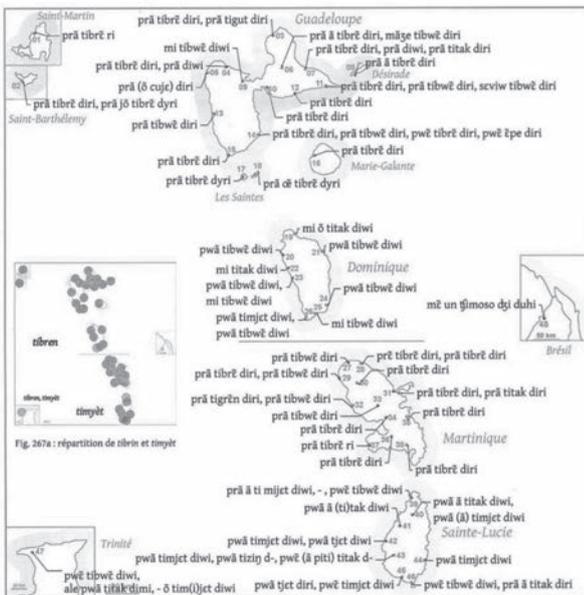


# フランス海外県言語地図



16

ALPA 267 prends un peu de riz - have some rice Q. 181



Le mot 'prends' est *prâ* et variantes. Certains ont utilisé *mi* 'voici (présentatif)', par ex. dans *mi ô titak diwi* (19), *mâge tibrê diri* 'mangez un peu de riz' (06), *sewiw tibrê diri* 'servez-vous un peu de riz' (11).  
 Pour 'un peu', le mot le plus fréquent est *tibrê lit.* 'un petit brin' et variantes, tandis que *timjêt* est surtout présent à Sainte-Lucie (et aux pts 26 et 47) (fig. 267a). Ces mots sont bien attestés dans les parlers de l'ouest de la France au sens de 'un peu', comme le montre la carte ALF 1007 'un peu' (fig. 267b).  
*titak*, d'origine inconnue, se trouve en plusieurs pts de Sainte-Lucie et aux pts 07, 19, 22, 31, 47. D'autres mots n'apparaissent que rarement : *tigrên* 'petite graine' (12), *tigt* 'petite goutte' (03), *ipe* 'un peu' (14), *tjimoso* 'petit morceau' (48) ; *tziig* (43) est d'origine obscure.  
 Au pt 14, l'informateur ajoute *bâ mwê*, 'pour moi'.  
*diri, diwi*, le mot est constitué du mot riz précédé du partitif du qui y est agglutiné.

Le mot *diri*, prononciation dominante dans les îles françaises, a la variante *diwi* dans les îles ex-anglaises. Cette variation *r/ w* est la même pour *prâ 'prends'* qui a les variantes *pwâ* et aussi, avec changement de voyelle, *pwê* et *prê*. À Olopoaque, *zir* se prononce *dabî*.  
*tibrê* à la variante *tibrêw*. *timjêt* a les variantes *timjêt* et *tjêt*.

À Olopoaque, on a relevé *dji* 'de' partitif qu'on ne rencontre pas dans les Petites Antilles.



Fig. 267b : ALF 1007 'un peu', répartition de un brin et une miette

ALPA 267  
 少しのコメを  
 食べる

tibrê~  
 = petit brin

ti mijet  
 = petite miette

ALFの「少し」



Atlas Linguistique Multimédia de la région Rhône-Alpes

Entrer sur le site

# 音声言語地図

## ローヌ・アルプス地域のマルチメディア地図 (2014-15)



[http://www.atlas-almura.net/Almura\\_intro.html](http://www.atlas-almura.net/Almura_intro.html)

### Atlas

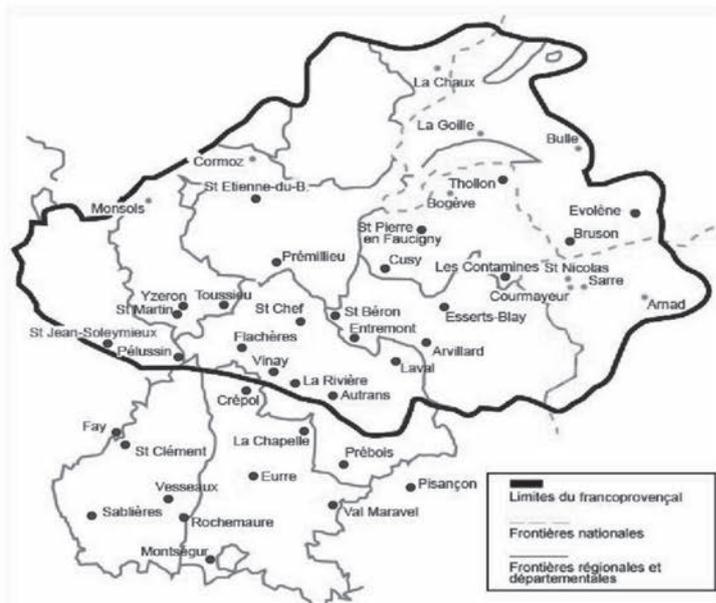
- Cliquez sur les différents points pour afficher les localités sur les cartes de l'atlas Almura.
- Utilisez le menu de droite pour sélectionner les locutions que vous souhaitez entendre. Bonne visite !

### RECHERCHE

Rechercher

### THÈMES

- Salutations
- Etat Civil
- Présentation du village
- Chemins et routes
- Les moments de la journée
- Le corps humain
- Le Relief
- Fruits et légumes
- Cuisine et nourriture
- Ustensiles
- Les liens de parenté
- Naissance et enfance
- Les fêtes
- Architecture et habitat
- Travaux des champs
- La forêt, le bois, l'affouage
- Les phénomènes atmosphériques
- Animaux domestiques
- Les champignons
- Plantes
- Les arbres



# アルプス西部地域の音声言語地図 (1995)

<http://lulla0005.mutu.firsttheberg.net/centredialectologie/atlas/couverture/index.html>

**Atlas linguistique parlant**

Présentation Atlas linguistique parlant Cartes phonétiques

Sélectionner un thème

Les 700 mots ou expressions choisis pour cet Atlas linguistique parlant ont été regroupés en 15 thèmes relatifs à la vie quotidienne.

La sélection d'un village permet d'écouter le mot choisi, tel qu'il a été prononcé par une ou un de ses habitants. On peut ainsi, en passant d'un point à l'autre, entendre et comparer les différentes formes locales et constater le passage progressif d'une langue à l'autre : du francoprovençal au nord, à l'occitan alpin, au sud.

# 音声言語地図 (2017)

**Atlas sonore des langues régionales de France**

Une même fable d'Ésope peut être écoutée et lue en français (en cliquant sur Paris) et dans une centaine de variétés de langues régionales (en cliquant sur les différents points de la carte)

**Langues romanes**

- langues(s) d'oïl
- ang argevin
- bou bourguignon-morvandiau
- cen parlers centraux
- cha champenois
- flc franco-comtois
- gal gallo
- lor lorrain roman
- mai mainiot
- nor normand
- pic picard
- poi polonais-saintongeais
- wal wallon

**Langues d'oc (occitan)**

- gas gascon
- lan languedocien
- noc nord-occitan
- pro provençal

**autres langues romanes**

- cat catalan
- cor corse
- frp francoprovençal

**Langues germaniques**

- als alsacien
- fla flamand c
- fra francique

**Autres langues**

- bas basque
- bre breton

F. Vernier, Ph. Boula de Mareüil, A. Rilliard (UPR 3251 LIMSIS)  
<http://vernier.frederic.free.fr/Infq4/Exploded/data/alf.html>

# オンライン版フランス言語地図 (ALF)

[CONTACT](#)[CHERCHER](#)[ACCUEIL](#)

## Atlas Linguistique de la France projet Cartodialect CNRS PEPS interdisciplinaire « en réseau » HuMaIn 2013 projet Géodialect Labex Persyval ANR--11-LABX-0025

[Présentation](#)[Notions Linguistiques](#)[Cartes ALF](#)[Chercher](#)[Partenariats](#)[Crédits](#)[Contact](#)

### CartoDialect : Extraction d'informations sémantiques et géographiques à partir des données géolinguistiques

L'Atlas Linguistique de la France, réalisé entre 1897 et 1900 par Jules Gilliéron et Edmond Edmont – et publié entre 1902 et 1910 consiste en un recueil de 1920 cartes (1421 cartes entières et 449 cartes partielles) permettant d'étudier les variations lexicales gallo-romanes au début du XXe siècle. Les données linguistiques contenues sont utilisées pour élaborer les atlas interprétatifs.

Les Projets Exploratoires [GéoDialect](#) et [Cartodialect](#) financés respectivement par le Labex Persyval et la mission inter-disciplinaire du CNRS, se sont intéressés à la fois à l'exploration des outils géomatiques pour le traitement et l'analyse des données géolinguistiques et à la définition de méthodes et d'outils facilitant l'extraction automatique des données sémantiques et géographiques contenues dans les cartes de l'ALF. La mise à disposition des cartes de l'ALF en version numérique s'inscrit dans le cadre de cette recherche.

Ce site vous permet de consulter et de télécharger les cartes de l'Atlas linguistique de la France. Vous pouvez également rechercher une carte par notion linguistique associée, ou par son numéro (le numéro attribué par l'ALF).

Ce projet est financé par :



<http://cartodialect.imag.fr/cartodialect/>  
<http://eclats.imag.fr/>

cartoDialect / 2015

[CONTACT](#)[CHERCHER](#)[ACCUEIL](#)

## Atlas Linguistique de la France projet Cartodialect CNRS PEPS interdisciplinaire « en réseau » HuMaIn 2013 projet Géodialect Labex Persyval ANR--11-LABX-0025

[Présentation](#)[Notions Linguistiques](#)[Cartes ALF](#)[Chercher](#)[Partenariats](#)[Crédits](#)[Contact](#)

Liste des cartes ALF

Numéro	Carte	Notion linguistique	Consultation	Téléchargement
1	CarteALF0001	abeille	<a href="#">Visualiser</a>	<a href="#">Télécharger</a>
2	CarteALF0002	aboyer	<a href="#">Visualiser</a>	<a href="#">Télécharger</a>
3	CarteALF0003	à l'abreuvoir	<a href="#">Visualiser</a>	<a href="#">Télécharger</a>
4	CarteALF0004	abri (du vent) (à l') ; abri (de la pluie) (à l')	<a href="#">Visualiser</a>	<a href="#">Télécharger</a>
5	CarteALF0005	absinthe	<a href="#">Visualiser</a>	<a href="#">Télécharger</a>
6	CarteALF0006	acheter (je vais - deux chevaux)	<a href="#">Visualiser</a>	<a href="#">Télécharger</a>
7	CarteALF0007	achetés (les deux que j'ai -)	<a href="#">Visualiser</a>	<a href="#">Télécharger</a>
8	CarteALF0008	acier	<a href="#">Visualiser</a>	<a href="#">Télécharger</a>
9	CarteALF0009	quel âge (as-tu ?)	<a href="#">Visualiser</a>	<a href="#">Télécharger</a>
10	CarteALF0010A	ils s'agenouilleraient	<a href="#">Visualiser</a>	<a href="#">Télécharger</a>
10	CarteALF0010B	ils s'agenouilleraient	<a href="#">Visualiser</a>	<a href="#">Télécharger</a>
11	CarteALF0011	agneau-agneaux-agnelle	<a href="#">Visualiser</a>	<a href="#">Télécharger</a>
12	CarteALF0012A	moi, je ne les aide pas	<a href="#">Visualiser</a>	<a href="#">Télécharger</a>
12	CarteALF0012B	moi, je ne les aide pas	<a href="#">Visualiser</a>	<a href="#">Télécharger</a>
13	CarteALF0013	aigle	<a href="#">Visualiser</a>	<a href="#">Télécharger</a>
14	CarteALF0014	aiguille	<a href="#">Visualiser</a>	<a href="#">Télécharger</a>
15	CarteALF0015	aiguillon (de guêpe)	<a href="#">Visualiser</a>	<a href="#">Télécharger</a>
16	CarteALF0016	aiguiser	<a href="#">Visualiser</a>	<a href="#">Télécharger</a>
17	CarteALF0017	aill	<a href="#">Visualiser</a>	<a href="#">Télécharger</a>

cartoDialect / 2015

# L'Atlas Linguistique de la France en ligne (Cartodialect)

CONTACT

CHERCHER

ACCUEIL

Atlas Linguistique de la France  
projet Cartodialect CNRS PEPS IRL  
projet Géodialect Labex Persyva

Présentation

Notions Linguistiques

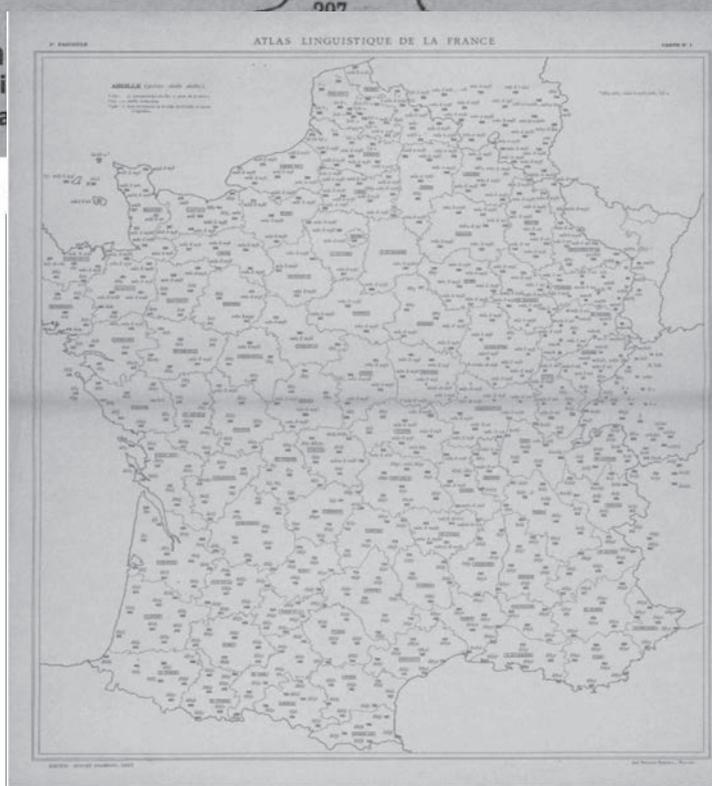
Cartes ALF

Chercher

Partenariats

Crédits

Contact



cartoDialect / 2015

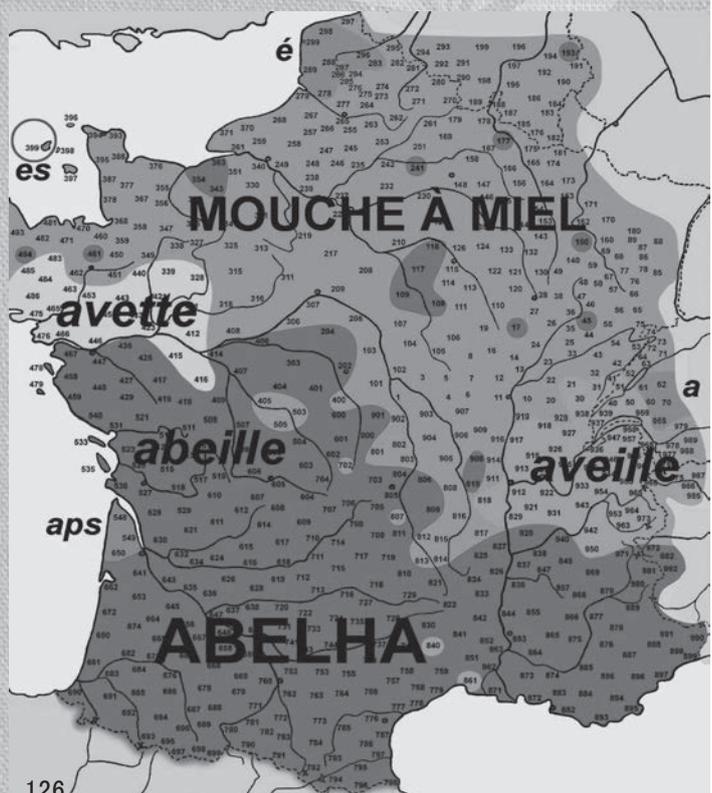
## ALFの解釈地図

Lectures de l'Atlas linguistique de la France de Gillieron et Edmont  
Du temps dans l'espace

Guylaine Brun-Trigaud, Yves Le Berre et Jean Le Du



editions du Comité des travaux historiques et scientifiques



# ウェブ版オック語語彙辞典

UMR 7320 : Bases, Corpus, Langage English Français

<http://thesaurus.unice.fr/>

36

## Site web

<b>THESOC</b> <small>BASE DE DONNÉES LINGUISTIQUES</small>							
<b>anaduèh - CREUSE(23)</b>							
	Localité	Phonie (?)	Graphie (?)	Morphologie	Etymon	Commentaire	Source
orvet	BASVILLE (ALAL 20)	and'ø	...	...	ANATOLIUS*	...	ALAL-448
orvet	GIOUX (ALAL 25)	ænad'e	...	...	ANATOLIUS*	...	ALAL-448
orvet	GRAND-BOURG (ALAL 36)	anad'əy	...	féminin singulier	ANATOLIUS*	...	ALAL-448
orvet	LUSSAT (ALAL 22)	and'ø	...	...	ANATOLIUS*	...	ALAL-448
orvet	PEYRAT-LA-NONNIERE (ALAL 24)	ænd'e	...	...	ANATOLIUS*	...	ALAL-448
orvet	ROUGNAT (ALAL 21)	ænyd'e	...	...	ANATOLIUS*	...	ALAL-448
orvet	SAINT-GEORGES-LA-POUGE (ALAL 32)	ænad'ø	...	féminin singulier	ANATOLIUS*	...	ALAL-448
orvet	SAINT-GOUSSAUD (ALAL 51)	anad'əy	...	féminin singulier	ANATOLIUS*	...	ALAL-448
orvet	SAINT-LAURENT (ALAL 33)	and'ə:	...	féminin singulier	ANATOLIUS*	...	ALAL-448
orvet	SAINT-MORELL (ALAL 38)	ænd'ej	...	féminin singulier	ANATOLIUS*	...	ALAL-448
orvet	SAINT-SYLVAIN-BAS-LE-ROC (ALAL 23)	ænd'æ	...	...	ANATOLIUS*	...	ALAL-448
orvet	SARDENT (ALAL 37)	anad'ø	...	féminin singulier	ANATOLIUS*	...	ALAL-448

# 元データ

numéro_base	5032question	7162	prvet	source(s)	ATLAS
numéro_localité	225	GENOLHAC		Commentaire	
forme phonique	nadɥ'el				
graphie phonologisante	naduèl				
lemme	naduèlh				
base morphologique					
étymon	ANATOLIUS*		REW		
formule étymologique			FEW	24, 532b	Quitter
catégorie grammaticale			Voir Tableau		

# 検索画面

Saisissez le début du mot recherché

**Cliquez sur un mot**

- chou
- chou-fleur
- chou-rave
- choucas
- chouette

**Liste des questions correspondantes**

- chouette
- dictons sur la chouette





Modification d'un texte

titre: Entretien Pascal Martini

code: Ent\_Pas\_1

année: 2006

Enquête: 1: PAM

20 sur 91 n°: 72 localit : 187: TENDE (06)

question THESOC source genre: 1: Ethnotexte de: 1: Jean-Claude Ranucci (J-C...)

Phon tique 1818 Caract res

Graphie Mistralienne 1721 Caract res

Signifi  2053 Caract res

e na dʒurn'a de travaʒu dar me de dʒyɲu l'ea l'o'ge l'o'ge e d'yre ɔr k'awdu a fat'iga ar ma traβ'aju l'ea d'e'd'a gwarɔa e β'ake kw'a'd av'ija d'ejʒe duz 'ani e'nda) gward'a e β'ake de deʒ'ene de β'ake l'ea dif'iʒile pæsk'e e β'ake nu stɑ' p'a: f'ermeli β'e't'a surveja't'e β'e't'a faʒle b'e'u β'e't'a faʒle mandʒ'a a n'u: pɔr laj't'a e menaβ'amu e'te st'ala tt kap'ife 'ɔni t'a'tu sɑ skapaβ'amu sɑ dʒygaβ'amu m' p'oku dɔstrem'aw   m'e pap'a ar nɔ truβ'aβa f'ybitu β'ame m' p'okw a pija s'o β'ame m' pokw a pija l'o   an'e okyp'aβa ko'tinyalm'e'te ku e fl'etʒe ku a fl'etʒa ku i b'awsi

e na journa de trava  dar me de jurnou l'eran longue longue e dure er caoudo a fatiga ar ma trava  l'era d'enda guarda e vaque cuand avia deize dous ani enda guarda e vaque de dejene de vaque l'era difichile pasque e baque nou stan pa fermeli venta sourveiarie venta farie beou venta farie manja a nou per laita e menavamou ente stala ti capisse ogni tantou se scapavamou se jugavamou n pocou de stremou e me papa ar ne trovava subitou vamen pocu a pia so vamen pocu a pia lo e ar ne ocupava continualmente coun e flecha coun a flecha coun i baussi o aloura andazavam a pesca ent ar valoun e davama chapa coun i mei frai e coun i vijn a li era de vijn al  de vijn da a ma eta un l'avia n anou menou que mi e lei m rtou mesquin lei m rtou a tr nt ane a manja cuandou ndazia leugnou me pourtava a tascapan l'era pan e aiou e euri e ajeou e magara na fricha ma mae la mi fazzia na fricha na fricha l'eri a meleta na meleta de seboula de patate a de seria l'era pastassucha o a men tra a men tra a men tra de verdura de verouna gr sa pignata de men tra de verdura couniou ar couniou e galine coussi el era l' sugeli talarin e lazugane e panisse l' menoun

En ! Une journ e de travail du mois de juin, elles  tait longues. Longues  t dures. Le chaud, la fatigue. Mon travail, c' tait d'aller garder les vaches. Quand j'avais dix-douze ans... Aller garder les vaches. Des dizaines de vaches. C' tait difficile parce que ... les vaches ne restent pas arr t es l ...il faut les surveiller, il faut les faire boire, il faut les faire manger. Ah non, pour traire, nous les amenions   f table.Tu comprends ? Parfois, nous nous  chappions, nous nous amusions un peu en cachette. Mais Papa nous trouvait tout de suite : « Va un peu me chercher ceci, va un peu me chercher cela ». Il nous occupait continuellement. Avec les fl ches. Avec la fl che, avec les cailloux. Ou alors, nous allions p cher dans le valion. Avec mes fr res, et avec les voisins. Il y avait des voisins, il y avait des voisins de mon  ge. L'un avait un an de moins que moi. Et il est mort, le pauvre, il est mort   trente ans. Quand j'allais loin, je m'emmenais... le « tascapan ». C' tait du pain avec de l'ail, et de l'huile et du vinaigre. Et parfois une « frici  ». Ma m re me faisait une « frici  ». Une « frici  », c'est l'omelette, une omelette. De foignon. De foignon, des patates. Le soir, c' tait les p tes s ches, ou la soupe, la soupe... la soupe de l gumes (...) une grosse marmite de soupe de l gumes. Lapin. Le lapin, les poules. Ici, c' tait les s geli, les talliarins, les lasagnes, les panisses, les menouns. Les panisses, c'est un peu comme la panisse que vous trouvez   Nice. La panisse, l -bas, ils la font avec,   Nice, ils la font avec la farine de pois chiches. Par contre ici, c' tait de la farine

G n rer la graphie [^G]

Multim dia

Nom du fichier son t187-1.wav

Nom du fichier image im187-Pmartini.jpg

Commentaires... publics (visibles en consultation)

im187-Pmartini.jpg

t187-1.wav

Pascal Martini Tende (2006, 2007)

コルシカ語データベース (BDLC)

UNIVERSIT  DI CORSICA

PASQUALE PAOLI

BANQUE DE DONN ES LANGUE CORSE

UMR 6240 LISA

CORS

LANGUE FRAN AIS

ACCUEIL PR SENTATION BIBLIOGRAPHIE CONTACT

LEXIQUE FRAN AIS/CORSE | LEXIQUE CORSE/FRAN AIS | RECHERCHE PAR TH MES | LOCALIT S | TEXTES

BIENVENUE SUR LE SITE DE LA B. D. L. C.

La Base de Donn es Langue Corse de l'Universit  de Corse et de l'UMR Lisa vous permet de rechercher des mots corse recueillis dans plusieurs villages de l' le.

Vous devez choisir, tout d'abord, un premier type de requ te : depuis le fran ais, le corse, ou depuis un th me de la vie traditionnelle. Il faut ensuite affiner la requ te en fonction du contexte th matique du mot recherch .

Vous trouverez ainsi les mots que nous avons recueillis dans les villages, tanscrits en phon tique, en orthographe ainsi que selon le type lexical auquel ils appartiennent.

Vous pourrez aussi les voir projet s sur des cartes en phon tique ou sous forme de symboles. Pour un certain nombre de r ponses, vous aurez la possibilit  de voir des photos ou d'entendre les mots tels que nous les avons enregistr s.

Les villages et villes o  ont  t  r alis s les recueils lexicaux sont pr sent s dans le fichier des localit s.

# LEXIQUE CORSE/FRANÇAIS

## THÈME

Cultures	E culture
Elevage	L'allevu
Homme	L'omu
Maison et vie quotidienne	A casa
<b>Nature</b>	<b>A natura</b>
Village, ville	Paese è cita

## SOUS THÈME

Gibier et chasse	Ropa salvatica è caccia
La forêt	Furesta è arbori
La mer	U mare
Le temps	U tempu chi passa
Les oiseaux	L'acelli
<b>Maquis et plantes sauvages</b>	<b>Machja è fiori</b>
Petits animaux et insectes	L'animalucci
Sol, relief, cours d'eau	Terra è acqua
Temps (météorologique)	U tempu

## CONTEXTE DU MOT

- Le 'maquis'
- Le 'ciste'
- Le 'myrte'
- 'Arbousier'
- 'Arbouse'
- Le 'lentisque'
- La 'filaria'
- Le 'genêt'
- Le 'genêt' épineux
- Le 'buplèvre' ligneux
- La 'bruyère'
- Le 'romarin'
- La 'lavande'
- La 'menthe'
- 'Immortelle'
- La 'marjolaine'
- La 'sauge'
- Le 'thym'
- Le 'laurier'

## TRADUCTIONS ET LOCALISATIONS

le 'coquelicot' : 62 réponse(s) trouvée(s)

Rechercher :				
Son	Forme phonique	Forme graphique	Lemme	Localité
	a r'ozuṭa burtj'ina	rosula purcina (a) n.f.	rosula purcina	Moltifau
	a r'ozua	rosula (a) n.f.	rosula	Galeria
	u bāmpaʒ'olu	pampasgiolu (u) n.m.	pampasgiolu	Corti
	a r'ozula burtj'ina	rosula purcina (a) n.f.	rosula purcina	Corti
	a r'ozula budʒ'ina	rosula purcina (a) n.f.	rosula purcina	Corti
	a r'ozu'ta zerβ'atiya	rosula selvatica (a) n.f.	rosula selvatica	Antisanti
	a r'ozula vin'aja	rosula finaghja (a) n.f.	rosula finaghja	Veru
	a puṗ'uʒa	puppusgia (a) n.f.	puppusgia	Eccica Suaredda
	u pap'a'ar"	papavaru (u) n.m.	papavaru	Quenza

ヒナゲシ  
62回答

<http://bdlc.univ-corse.fr/bdlc/corse.php>

### le 'coquelicot' : 15 lemmes

- baldachinu
- pampasgiolu
- papaghjolu
- paparone
- papavaru
- pavone
- puppusgia
- rosula
- rosula finaghja
- rosula purcina
- rosula selvatica
- rosulella
- rusulacciu
- spusella
- spusellara

Cliquez sur un lemme pour l'insérer sur la carte. Au survol d'un picto, le nom de la commune s'affiche en info-bulle.



Google | Plan | Données cartographiques ©2017 Google | Conditions d'utilisation

### le 'coquelicot' : 50 formes phonétiques



Google | Plan | Données cartographiques ©2017 Google | Conditions d'utilisation

ヒナゲシ  
50形

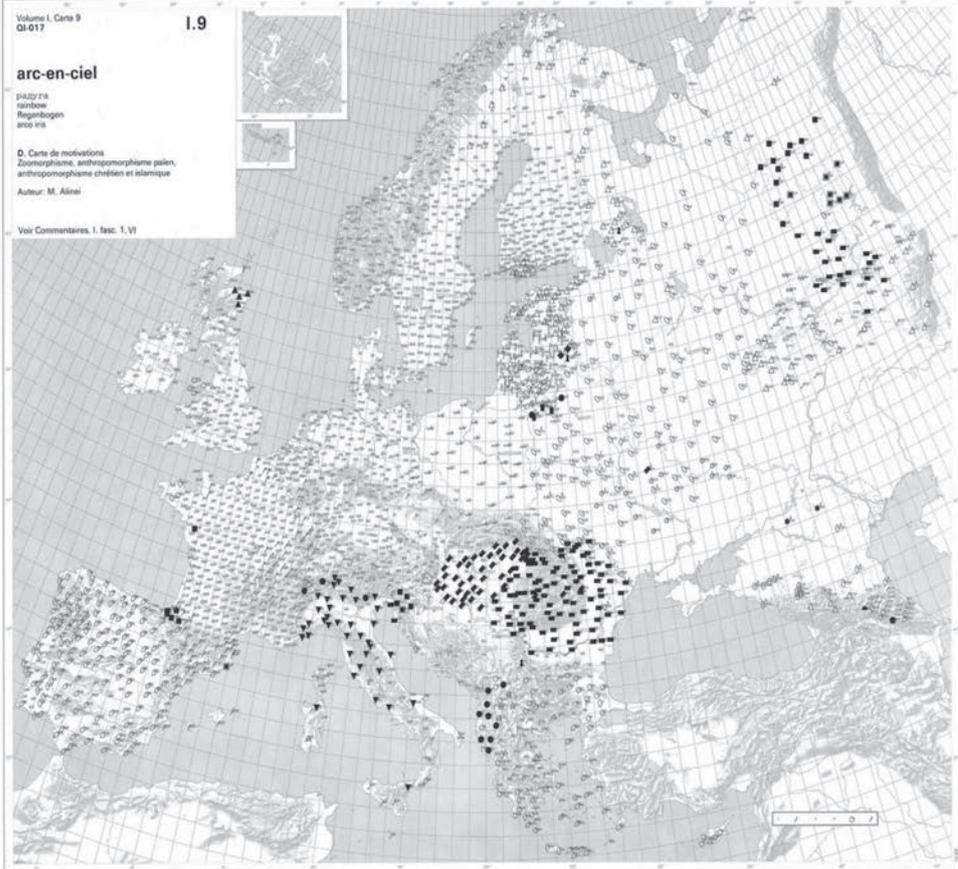
<http://bdlc.univ-corse.fr/bdlc/corse.php>

# マルチリンガル言語地図

**Légende**

- 1.1 zomorphisme
- 1.2 Y cadavères (holmes)
- 1.3 ● dragons, serpents exerts
- 1.4 ■ struands
- 1.5 ▲ chérons, «pauvres jeunes»
- 1.6 ■ vache noire, «boeuf», boeuf et vaches, vaches, veaux, veau de breuil
- 1.7 ■ animaux domestiques (vache de dieu, boeuf de dieu, score de dieu)
- 1.8 ■ autres animaux, au non-définis
- 1.9 ■ étranges (qui sont)
- 1.10 ● «pays»
- 1.11 ▲ «bois», «bois», etc.
- 1.12 ● «bois»
- 1.13 ▲ «bois» vert
  
- 2. anthropomorphisme païen
- 2.1 △ Ulla, «Valland», «Tomme» (dieu), Turron, Tarrag, Sotat, «vaudins», «pays», «carré» (lame de dieu), «bois couché», «plaisir»
- 2.2 D Lait (Nogon)
- 2.3 ○ «berg»
- 2.4 ○ «la vieille», «vieilles», «femme sage», «vieille bo-
- 2.5 ○ Iria, «Dame lune», Laine, «fille grasse», «filles jaunes», «dames», Marielle, Nozandula (la hermine), «sainte», «sainte», etc.
- 2.6 C «saint» (indifin)
- 2.7 ○ «pays»
- 2.8 ○ «vita et bibi», «vieux de fruits», etc.
- 2.9 ○ «qui sont le sein»
- 2.10 ○ «sainte», «sainte», «sainte», «sainte», etc.
- 2.11 ○ «sainte», «sainte», «sainte», «sainte», etc.
- 2.12 ○ «sainte», «sainte», etc.
- 2.13 ○ «sainte», «sainte», etc.
- 2.14 ○ «sainte», «sainte», etc.
- 2.15 ○ «sainte», «sainte», etc.
- 2.16 ○ «sainte», «sainte», etc.
- 2.17 ○ «sainte», «sainte», etc.
- 2.18 ○ «sainte», «sainte», etc.
- 2.19 ○ «sainte», «sainte», etc.
  
- 3. anthropomorphisme chrétien et islamique
- 3.1 / «Dieu», «sainte», Allah, «sainte»
- 3.2 / «sainte» (sainte)
- 3.3 / «sainte», «sainte», «sainte», «sainte», «sainte», etc.
- 3.4 / «sainte», «sainte», «sainte», «sainte», etc.
- 3.5 / «sainte», «sainte», etc.
- 3.6 / «sainte», «sainte», etc.
- 3.7 / «sainte», «sainte», etc.
  
- 4. autres motivations
- 4.1 — «sainte»
- 4.2 — «sainte» + «sainte»
- 4.3 / «sainte»
- 4.4 / «sainte»
- 4.5 / «sainte»

ATLAS LINGUARUM EUROPAE



# アシナシトカゲ

## Orvet (Anguis fragilis)

<http://reptile-database.reptarium.cz/>

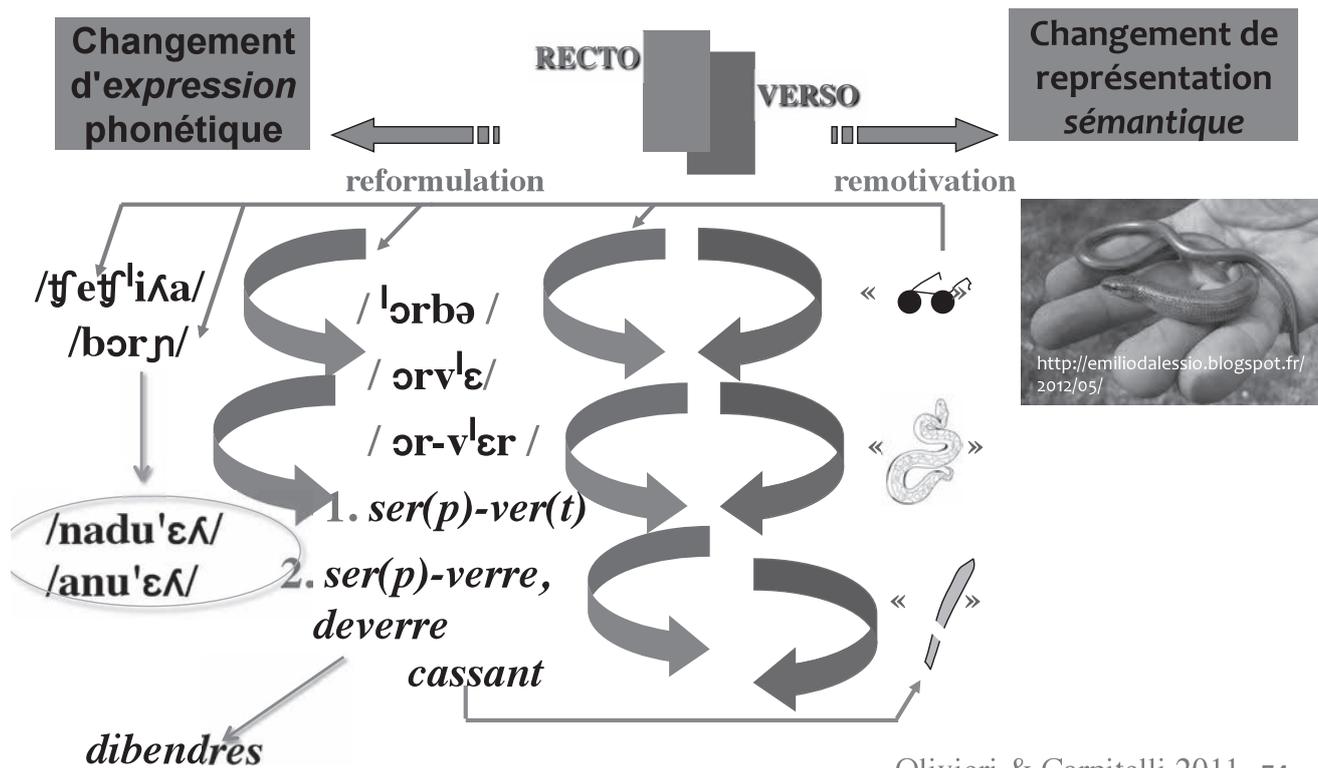


<http://nature.de.chez.nous.overblog.com/>

### ロマンス言語語地図 (ALiR)のアシナシトカゲ



## アシナシトカゲ (orvet) と動機づけ



## ロマンス語圏のプロソディー地図

(AMPER)

# ロマンス語圏のプロソディー地図 (AMPER) (Romano 2004)

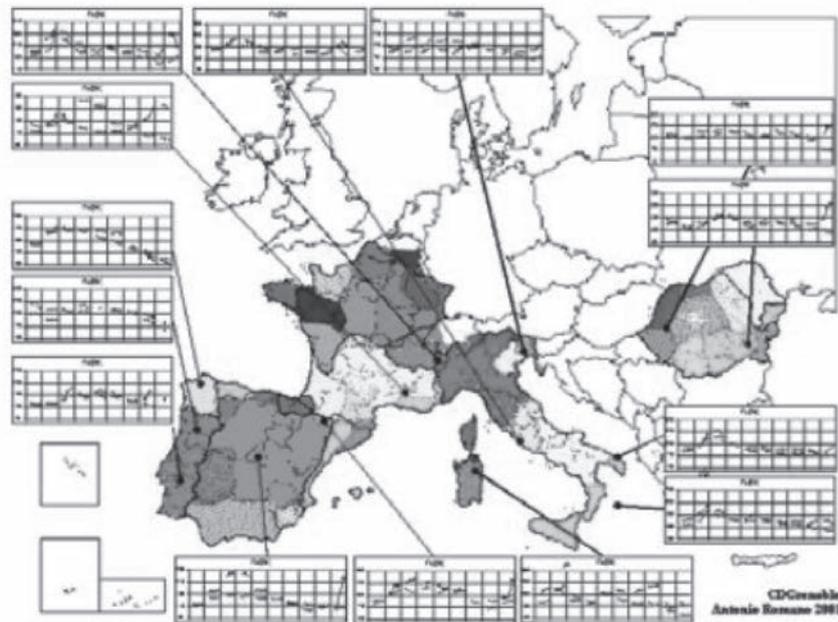


FIG. 2 – Carte géoprosodique et courbes de  $F_0$  des voyelles de phrases comparables (cf. Fig. 1).

94

## フランコプロヴァンス語とオック語の調査

**Rhône-Alpes**  
Région

---

**ETUDE FORA**

Francoprovençal et occitan en Rhône-Alpes

Etude Pilotée par l'Institut Pierre Gardette  
Version Finale – Juillet 2009

  
 Université  
Catholique  
de Lyon

Responsables de l'étude: Michel BERT & James COSTA  
Conseiller Scientifique : Jean-Baptiste MARTIN



**LIEUX D'ENQUETES**

Deux lieux d'enquêtes avaient initialement été prévus pour chaque département. Nous avons finalement pu en réaliser plus que prévu :

- Ain : Pont de Vaux, Pont de Veyle, Champagne en Valromey, Saint-Étienne du Bois.
- Ardèche : Privas, Lamastre, Annonay.
- Drôme : Drôme provençale (entre Nyons et Pierrelatte), Etoile-sur-Rhône.
- Loire : Montbrison, Roanne, Pilat.
- Rhône : Monts du Lyonnais, Nord-Beaujolais.
- Isère : Terres Froides, région grenobloise.
- Savoie et Haute-Savoie : multiples points d'enquêtes

## 量的調査

- ・ローヌ・アルプス地方における実際の方言話者数の把握
- ・成人話者への調査
  
- ・小学校最終学年 CM2(10-11歳)への調査
  - ・地域語の保持を数値化する
  - ・両親・祖父母による家庭内での地域語への接触度
  - ・地域語の継承の有無

97

## 質的調査

- ・被調査者の履歴(子供時代、学校での言語)  
両親からの言語継承を年代づける
- ・両親や他人との家庭・公的場での実際の言語使用
- ・他者による言語能力の評価
- ・地域語の保持に関するイメージ

## 誰が方言を話しているか

Age	Moins de 30 ans	30-40 ans	40-50 ans	50-60 ans	60-70 ans	70-80 ans	Plus de 80 ans
Proportion de personnes déclarant bien parler la langue régionale	2%	0%	1.5%	3.9%	7.2%	14%	30%

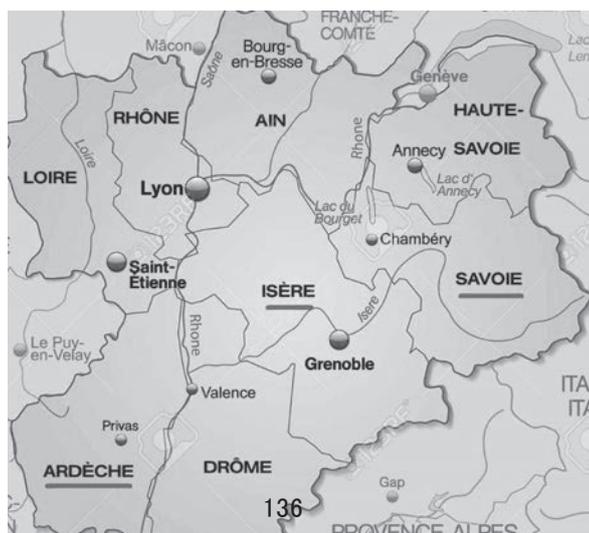
1960～70年代は子供たちが方言を多く使用していた

99

## どの県で方言を話しているか

Département	01	07	26	38	42	69	73	74
Proportion de personnes déclarant bien parler la langue régionale	NS	11.1%	5%	6.5%	NS	NS	7.4%	4%

- 01 Ain
- 07 Ardèche
- 26 Drôme
- 38 Isère
- 42 Loire
- 69 Rhône
- 73 Savoie
- 74 Haute Savoie



100

## 参考文献

- Alinei, M. (1986), « Belette », in *Atlas Linguarum Europae*, vol. I.2, Van Gorcu, Assen : 145-224, c. 28.
- Blanchet, Ph. (2007), « Évolutions méthodologiques, théoriques et épistémologiques de la « dialectologie » en France » (et ailleurs) », in Raimondi, G. & Revelli, L. (éds), *La dialectologie aujourd'hui*, Ed. dell'Orso, Alessandria : 13-18.
- Brun-Trigaud Guylaine (2009), « Le logiciel multimédia THESAURUS OCCITAN (THESOC) », in Horiot, B. (éd.), *La dialectologie hier et aujourd'hui (1906-2006)*, Centre d'Études Linguistiques Jacques Goudet, Lyon : 61-93.
- Contini, M. (2007), « La motivation sémantique : un axe de recherche productif en dialectologie européenne », in J. Dorta, *Temas de dialectología*, Instituto de Estudios Canarios, La Laguna-Tenerife: 43-79.
- Contini, M. (2016), « Analyse contrastive de la prosodie dans les variétés romanes : un bilan de l'Atlas Multimédia Prosodique de l'Espace Roman et son élargissement à des nouvelles approches possibles », *Dialectologia*, 6 : 3-38.
- Dalbera, J.-Ph. (2007), « Quel avenir pour la dialectologie », in Horiot, B. (éd.), *La dialectologie hier et aujourd'hui (1906-2006)*, Centre d'Études Linguistiques Jacques Goudet, Lyon : 455-468.
- Dalbera, J.-Ph. (2013), La trajectoire de la dialectologie au sein des sciences du langage. De la reconstruction des systèmes dialectaux à la sémantique lexicale et à l'étymologie », *Corpus* 12: 173-200.
- Dotte, A.-L., Muni Toke, V. & Sibille, J. (2012), *Langues de France, langues en danger : aménagement et rôle des linguistes*, Cahiers de l'Observatoire des pratiques linguistiques, n. 3, Éd. Privat, Toulouse.
- Le Dù, J. (2007), « Espace et diachronie : le atlas linguistiques, une fenêtre sur le passé des langues », in Raimondi, G. & Revelli, L. (éds), *La dialectologie aujourd'hui*, Ed. dell'Orso, Alessandria : 99-114.
- Martin, J.-Ph.
- Mesnil, M. & Popova, A. (1992), « Belette et tais-toi ! Ou la mégère répudiée », *Langage et société*, 60: 79-106.
- Romano, A. & Contini, M. (2014), « L'Atlas Multimédia Prosodique de l'Espace Roman : uno strumento per lo studio della variazione geoprosodica », in F. Tosques (éd.), *20 Jahre digitale Sprachgeographie*, Humboldt-Universität/Institut für Romanistik, Berlin : 27-47.

105

本スライドは、原著者Elisabetta Carpitelli教授から、内容を編集し、転載する許可を得ています。  
Carpitelli教授には、この場をお借りして、感謝の意を表したいと思います。

# 从地方志看明清时代的苏州方言

石汝杰

熊本学園大学

在地方志里记录本地方言，大概是从宋代开始的。真正兴盛起来，是明清两代。直到现代，地方志仍然把方言的记录作为一个重要的构成部分。虽然从语言学的角度来看，还有很多问题和不足之处，但是，毕竟对于一个地方来说，本地的语言，有记录比没有记录要好。苏州地区，乃至吴语地区的地方志有很多。这里以苏州一地为例，来考察其中的记录，尝试对其成败得失做出一个评价。

本文以波多野太郎编的《中国方志所录方言汇编》（第六编）所收的几部苏州方志为对象，来整理归纳其中所呈现的方言面貌。

根据《汇编》目录，与苏州有关的方志有9种，按时间顺序排列如下：

- (1) 吴郡志，民国3年（1914）覆宋本
- (2) 苏州府志，洪武12年（1379）序本
- (3) 姑苏志，正德年间（1506-1521）序本
- (4) 吴县志，乾隆10年（1745）序本
- (5) 苏州府志，乾隆12年（1747）序本
- (6) 元和县志，乾隆26年（1761）序本
- (7) 吴门补乘，乾隆38年（1773）序本
- (8) 苏州府志，道光4年（1824）序本
- (9) 吴县志，民国22年（1933）排印本

## 一、各个地方志中的方言记录

首先，我们来考察这些地方志记录的方言资料。下文先列出各个文献的原文，再做分析说明。要说明的是：（1）原文的分段，以及各个项目前的○，是我加的，以表示项目间的界限。（2）原文中的小字注文，都放在【】里。（3）有几个特别的字，字库里没有，我把相关部件列出，用[]括起来。实在没有办法时，用文字说明。（4）有的方志文字有讹误，不一一改正，在相应的地方讨论时可能会提到。（5）每种文献的标题最后处标的页码是《汇编》（第六编）里的。

### （一）《吴郡志》第2卷，民国3年（1914）覆宋本（第351页）

○吴语谓来为釐，本于陆德明：“貽我来牟，弃甲復来。”皆音釐。德明吴人，岂遂以乡音释注，或自古本有釐音耶。

○吴谓罢必缀一“休”字，曰罢休。

宋本《吴郡志》没有特别列出方言类，只在风俗部分有几行字的记录。提到的

现象只有两项：(1)“来”读如“釐”，这可以算是语音问题。(2)作罢，必须说“罢休”。

## (二)《苏州府志》，明洪武12年(1379)序本(第1页)

先看原文：

风土不同，语言亦异。

○吴人以耒为釐，盖有所本。范蠡曰：“得时无怠，时不再来。”吴氏《补韵》云：“怠读作怡，来读作釐。”又本于陆德明“贻我来牟，弃甲復来”。皆音釐。德明吴人，岂遂以乡音释注，或自古本有釐音邪。

○谓罢必缀一休字，曰罢休。《史记》：吴王孙武曰：将军罢休。盖古有此语。

○又多用“宁馨”二字为问，犹言若何也。

○谓中州人曰伧。晋周玘以忧愤谓子勰曰：害我者伧子也。陆玩食酪得疾，与王道賤云：仆虽吴人，几作伧鬼。盖轻易之词。

○又自称我为依。《湘山野录》钱王歌：你辈见依的懽喜，永在我依心子里。

○又谓人为馱子。宋淳祐中，吴樵任平江节度，推官尝谓人曰：樵居官久，深知吴风。吴人尚奢争胜，所事不切。广置田宅，计较微利。殊不知异时反贻子孙不肖之害。故人以馱目之，盖以此也。

明初出版的这部《苏州府志》，方言部分篇幅也不大。但是开宗明义，首先强调：“风土不同，语言亦异。”并开启了照抄前志的做法。先把宋本提出的两项方言现象补充、改写一下，列在开头处。但是又增加了几个方言项目，有：(1)宁馨，怎样。现代苏州叫“捺亨”。(2)称北方人为“伧”。读音和用法待考。(3)第一人称称为“依”。引宋人的《湘山野录》。这一用法早期见于魏晋时期的作品，如：《樂府詩集》卷四四·清商曲辭一·晉宋齊辭·子夜歌四二首之一九：“歡愁儂亦慘，郎笑我便喜。”(转引自《重编国语辞典修订本》网络版)后来的作品，往往模仿、照抄这一类诗歌，未必是当时当地的方言口语。(4)称人为“馱子”。根据现代吴语的读法，这时应该读为ái，还需要进一步考证。

## (三)《姑苏志》第13卷，明正德年间(1506-1521)序本(第9-11页)

先看原文。为了有利于进一步讨论，我调查了有关的文献，把获得的资料(文献的片断)附在相关条目后面，放在括弧里，并在其前加上“按”。下文同。

有方言，有方音。大氏语必有义，最为近古。

○如相谓曰依。【《湘山野录》记钱王歌云：你辈见依的观喜，在我依心子里。《平江记事》云：吴有渠依等称，故嘉定号三依之地。谓隔户问人曰：“谁依？”应曰：“我依。”视之，乃识，曰：“却是你依。”】

○谓中州人曰“伧”。【周玘曰：“害我者诸伧子也。”陆玩曰“几作伧鬼”。顾辟疆曰：“不足齿之伧”。宋孝武目王玄谟为老伧。】

○谓不慧曰馱。【范成大诗：千贯卖汝痴，万贯卖汝馱。又《卖痴馱词》：除夕更阑人不睡，厌襁滞钝迎新岁。小儿呼叫走长街，街有痴馱招人买，二物于人谁独无。

就中吴依仍有：餘巷南巷北卖不得，相逢大笑相揶揄。铄翁块坐重簾下，独要买添令问价。儿云翁买不须钱，奉賒痴馱千百年。又《白獭髓记》石湖戏答同参诗云：我是苏州监本馱。】

（按，宋张仲文《白獭髓》：石湖范参政，初官参州，在客位，其同参者闻为吴郡人，即云“呆子”，石湖先生闻之在怀。）

○问为何如曰“宁馨”。【见《晋书》、《世说》等，不备载。】

○谓虹曰蜃。

○谓罢必缀一休字。【《史记》：吴王语孙武曰：将军罢休。】

○又如曰事际【谓举事之际。《南史》：王晏专权，帝虽以事际须晏，而心恶之。】、

蔑面【谓素昧平生者。盖即《左转》朏明所言“蔑心蔑面”之遗。】、饮飞【谓恶少趯捷者。盖即汉饮飞，饮音如侧。】、受记【欲责人而姑警喻以伺其悛之词。《夷坚志》亦记。】、薄相【谓嬉劣无益、儿童作戏。薄音如[孛文]凡。】、哉【凡谓已然、将然，皆曰哉。犹北人之曰“了”。】

○又如吴江之曰蹇【每语绝必缀蹇字，按《楚辞》以蹇为发语声，吴楚接壤，恐即此。】；常熟之曰且【音若嗟，即《诗》中句尾助音。】曰遐箇【犹言何人。按《诗》：遐不作人。注：遐，何也。】，此方言也。

○灰韵入支【来音如釐之类，陆德明至用以释经】、支韵入齐【儿若倪，古曰耄倪亦然。】、庚韵入阳【羹音若冈之类】、宥韵入真【又音若异之类】、虞韵入麻又入东【呼小儿为孛儿。孛，子孙也。常熟以吴塔为红塔。】。此方音也。

跟洪武《苏州府志》相比，这本书的篇幅大了不少，方言词语等也增添了很多。其具体特点有：

（1）作者强调，方言词语是古已有之的。说：“大氏语必有义，最为近古。”在行文中，也努力贯彻这一点，各个方言词语下，大多有古书的用例。例外只有一个：“蜃”（虹）。

（2）也照抄前志的记录，如：依、伧、馱、宁馨、罢休。

（3）增加了几个方言词：事际、蔑面、饮飞、受记、薄相、哉。其中，“薄相、哉”现代苏州方言还用，“薄相”现代常写作“白相”。其中的资料还有助于解读文献，如“受记”，《山歌》卷一有：“巡盐个衙门单怕得渠管盐事，授记个梅香赔小心。”（眉注：“授记”如限打之类。）这里的“授记”即“受记”，当是警告、告诫。

（4）这里还列出了附近方言的相关现象，如吴江的“蹇”、常熟的“且”。把视野扩大到周边的方言，也是这部地方志的特点之一。

（5）“灰韵入支”等，是记录方音里的现象，除了“来-釐”以外，还有“儿”读若“倪”（支韵入齐）等。作为方言语音现象的记录，这部地方志可能是比较早的。

#### （四）《吴县志》24卷风俗，乾隆10年（1745）序本（第305-306页）

有方言土语，其词似俗，而出处甚典者。

○如不慧者谓之馱子。【范成大有《卖痴馱诗》。】

○怕见人谓之缩[月肉]。【汉《五行志》：王侯缩[月肉]。】

○骂傭工曰客作。【汉《匡衡传》：乃与客作而不求价。】

- 谓贪纵为放手。【《后汉书》：残夫放手。】
- 繚帨之蕊为苏头。【即流苏之意。】
- 谓葺理整齐曰修（音收）妮（音捉）。【《唐书》：中和二年，修妮部伍。】
- 不冷不热曰温暾。【王建诗：新晴草色暖温暾。】
- 髮久不梳而不通曰膺。【音织。见《考工记》工人注。】

本书方言部分的篇幅很少，但是同样强调：“有方言土语，其词似俗，而出处甚典者。”值得注意的是，转引前志的记录只有一条（馱子），其余的词语都是新出现的，这是其一大特点。

### （五）《苏州府志》第2卷风俗，乾隆12年（1747）序本（第3-7页）

- 吴谓善伊谓稻缓【《春秋穀梁传》】，谓来为釐。【《吴郡志》：本陆德明“貽我来牟，弃甲復来，皆音釐。”德明吴人，岂遂以乡音释注，或自古本有釐音邪。】
- 谓罢必缀一休字，曰罢休。【《史记》：吴王谓孙武曰：将军罢休。】
- 相谓曰依。【自称我依，称人你依、渠依。隔户问人云：“谁依？”《湘山野录》记钱武肃王歌云：你辈见依的欢喜，在我依心子里。】
- 谓中州人曰伧。【《晋书》周玘传：害我者诸伧子也。】
- 谓不慧曰馱。【《唐韵》：小馱大痴，不解事者。】
- 谓虹蜺。【蜺，详候切。】（按，反切有误，《广韵》在去声候韵，胡遘切。）
- 谓嬉劣曰薄相。【薄音[李父]。】
- 谓不任事曰缩[月肉]。【《汉书·五行志》：王侯缩[月肉]。】
- 骂傭工曰客作。【《汉书·匡衡传》：衡乃与客作而不求价。】
- 谓贪纵曰放手。【《后汉书》：残吏放手。】
- 谓钱之美者曰黄撰。【撰，与“选”同。《史记·平准书》：白金三品，其一曰重八两，圜之，其文龙，名曰“白选”。钱乃铜铸，故曰黄撰。】
- 谓繚帨之垂曰苏头。【晋挚虞云：流苏者，缉鸟尾垂之若流，然以其蕊下垂，故曰苏。】
- 谓葺理整齐曰修（音收）妮。【妮，音捉。《唐书》：修妮部伍。】  
（按，《资治通鉴》255卷：庄梦蝶与韩秀升、屈行从战，又败。其败兵纷纭还走，所在慰谕，不可遏。遇高仁厚于路，叱之，即止。仁厚斩都虞候一人，更令修妮部伍。）
- 谓当筵犒赏曰喝赐。【唐时倡妓有缠头喝赐。】
- 谓责人而姑警之曰受记，责人曰数说。【如汉高之数项羽。】
- 谓语不明曰含糊。【《唐书·颜杲卿传》：含糊而绝。】  
（按，《新唐书》117卷：禄山不胜忿，缚之天津桥柱，节解以肉啖之，骂不绝，贼钩断其舌，曰：“复能骂否？”杲卿含糊而绝，年六十五。）
- 谓机巧曰儇利。【乡音讹“还赖”。】
- 谓指环曰手记。【《诗》郑笺：后妃群妾，以礼御于君所。女史书其日月，授之以环，当御者著于右手。今俗亦称戒指。】
- 谓煖酒曰急须。【《菽园杂记》：急须，饮器也。赵襄子杀智伯，漆其头为饮器。注：饮，於禁切，溺器也。今人误以煖酒为急须。盖饮字误之耳。俗又譌为滴苏。】

（按，《菽园杂记》：急须，饮器也，以其应急而用，故名。赵襄子杀智伯，漆其头以为饮器。注云：饮，于禁反，溺器也。今人以暖酒器为急须，饮字误之耳。吴音须与苏同。）

○谓以醯醢物曰盐。【去声。《内则》：屑薑与桂以洒诸上而盐之。】

（按，《礼记·内则》熬：捶之，去其膻，编萑布牛肉焉，屑桂与姜，以撒诸上而盐之，干而食之。）

○谓般运曰撻。【力展切。《南史》：何远为武昌太守，以钱买井水，不受钱者撻水还之。】

（按：《南史》：武昌俗皆汲江水，盛夏，远患水温，每以钱买人井寒水。不取钱者，则撻水还之。）

○谓不倜傥为眠媵。【《列子》：眠媵詭倭。注：眠，莫曲切；媵，徒典切。萎缩不正之貌。】

（按，《列子·力命》：“眠媵、詭倭、勇敢、怯疑四人，相与游於世，胥如志也。”张湛注：“眠媵，不开通貌。”明田汝成《西湖游览志馀·委巷丛谈》：“杭人言……蕴藉不暴躁者曰眠媵。”明陈士元《俚言解》卷一：“眠媵音緬忝，出《列子》，俗称人柔媚为眠媵。”）

○谓凑合无罅隙曰脗缝。【脗，美韵切，合唇也。缝，去声。唇合无间。】

○谓甃甃甃。【《尔雅》：瓠甃谓之甃，注：甃甃也。】

（按，《周礼注疏》卷42：甃，薄历反。《尔雅》云：瓠甃谓之甃。郭璞云：今甃甃。）

○谓苇席曰芦[卅廢]。【宋琅邪王敬彻遗命，以一芦[卅廢]藉下。】

（按，《通俗编》卷36杂字：[竹廢]：《方言》注：江东呼籐籐，直文羸者为筴，斜文为[竹廢]。《南史孙谦传》：其子织细[竹廢]装輶，一作菱。《史记·河渠书》：搴长茝兮沉美玉，索隐曰：茝一作菱，音废。亦作[卅廢]。《宋书·琅琊王敬彻传》：遗命一芦[卅廢]藉下，一枚覆上。又作菱。《博雅》：筴筴菱筴，曹注曰：菱，音废。）

（按，《輶軒使者絕代語釋別國方言》第五：簞，宋魏之間謂之筴，或謂之籐苗。自關而西謂之簞，或謂之荝。其粗者謂之籐籐。自關而東或謂之蓋椌。）

○谓众多曰多许。【许字，音若黑可切；谓所在亦曰场许。】

○语尾每曰那。【那，乃贺切。《后汉书》：公是韩伯休那。】

（按，《后汉书·逸民传》韩康：时有女子从康买药，康守价不移，女子怒曰：“公是韩伯休那？乃不二价乎？”康叹曰：“我本欲避名，今小女子皆知有我，何用药为？”乃遁入霸陵山中。）

○谓有事曰事际。【《南史》：王晏专权，帝虽以事际须晏，而心恶之。】

（按，明祝允明《前闻纪》蔑面事际：今吴人呼素昧平生者曰“陌面不相识”，“陌”恐是“蔑”字，即《左传》所谓“昔吾见蔑之面”之语耳。又称“事务”为“事际”。）

（按《南史》：“王晏专权，明帝虽以事际须晏，而心恶之”，二字恐出此。）

○谓死曰过世。【《晋书》秦苻登传：陛下虽过世为神。】

（按，《晋书》卷115苻登：昔陛下假臣龙骧之号，谓臣曰：“朕以龙骧建业，卿其勉之！”明诏昭然，言犹在耳。陛下虽过世为神，岂假手于苻登而图臣，忘前征时言邪！）

○嘲笑人曰阿瘡瘡。【亦招呼声。】

○谓冷热适中曰温暾。【唐王建诗：新晴草色煖温暾。】

○谓髮粘曰臄。【臄，音织。《周礼·考工记》弓人注：櫜，脂膏臄败之臄，臄亦粘也。疏，若今人头发有脂膏者则谓之臄。】

○谓物之不齐曰参差。【参，音如仓含切；差，音如仓何切。亦云“七参八差”。】

○谓恶少趨捷曰饮飞。【饮，音侧。《汉书》谓饮飞，即此。】

（按，《汉书·元帝纪》：诏罢黄门乘輿狗马，水衡禁囿、宜春下苑、少府饮飞外池、严炆池田假与贫民。）

○事已了、将了，皆曰哉。【常熟曰且，音若嗟，即诗中句尾助字；吴江曰蹇，疑即《楚辞》之发语声。】

○谓走曰奔。【昆山曰跌，常熟曰跑，吴江曰跳。】

○谓睡声曰昏涂。【北人曰打呼。昏涂，疑即“呼”字反切。】

○孔曰窟笼。团曰突栾。侦视曰张看，曰望。羞曰钝。扶曰当（去声）。按曰钦（去声）。转曰跋。浮曰吞（上声）。流曰倘。盖曰[匚敢]。捧曰掇。藏避曰伴。藏物曰囤。稠密曰猛。积物曰顿。布帛薄者曰浇。门之关曰闩。美恶兼曰暖。见陵于人曰欺负。非常事曰咤异。喜事曰利市；忧事曰钝事。下酒具曰添按物。完全曰囫囵。揖曰唱喏。阶级曰僵礲。所居曰窠坐。托盘曰反供。此处曰閒边；彼处曰箇边。作事无据曰没雕当（入声）。谓人不能曰无张主。不便利曰笨，亦曰不即溜。自夸大者曰卖弄。事之相值曰偶凑。六畜总曰众（作平声）生。数钱五文曰一花。觅利曰赚钱。锄地曰倒地。首饰曰头面。鞋袜曰脚手。器用曰家生，亦曰家伙。

○常熟谓何人曰遐箇。【《诗》：遐不作人。注：遐，何也。】

○灰韵入支【即来为釐之类】、支韵入齐【儿为倪之类】、庚韵入阳【羹为冈之类】、虞韵入麻又入东【小儿为孛儿之类。常熟以吴塔为红塔。】

与以前各志比较，与《吴县志》只差两年的时间，但是本书的方言项目大大增加了。其特点有：

（1）前志有的词语等，基本上都收入了，并有文字上的修正。如乾隆 10 年《吴县志》有：

○髮久不梳而不通曰臄。【音织。见《考工记》工人注。】

“工人”有误，当是“弓人”，本书改过来了，并充实了引文：

○谓髮粘曰臄。【臄，音织。《周礼·考工记》弓人注：櫜，脂膏臄败之臄，臄亦粘也。疏，若今人头发有脂膏者则谓之臄。】

（2）虽然也继承了强调方言是“古已有之”的传统观念，但是有突破。在最后，罗列了“孔曰窟笼”等 40 多个方言词语，这时就没有依照旧例加上文献的用例。

（3）同样列出附近方言的一些说法，还有创新，增加了如下的例子：

○谓走曰奔。【昆山曰跌，常熟曰跑，吴江曰跳。】

除了苏州方言，还列出昆山、常熟、吴江的说法。此外，“谓睡声曰昏涂”条中，提到北方话：北人曰打呼。

(六)《元和县志》，乾隆26年(1761)序本(第369-370页)

本书收录方言词语不多，完全抄前志，方言词语计有以下几个：

依、猷、宁馨、薄相、缩胸(按，“缩[月肉]”之误)、客作、苏头、修妮、受记、数说、手记、鲨、阿瘡瘡、温嗽、膺、参差、多许、那、哉。

(七)《吴门补乘》，乾隆38年(1773)序本(第21-24页)

吴下方言已详郡邑志，然尚有当记者，如：

- 呼妇人曰女客。
- 打亦谓之敲。
- 刺亦谓之搨。
- 相连曰连牵，亦曰牵连。
- 折花曰拗花。
- 言人逞独见而多忤者曰隼莫。【音如列的。】
- 言人无所可否而多笑貌者曰墨屎。【音如迷痴。】
- 言人胸次耿耿曰佻儻。【音如炽臄。】
- 言人无用曰不中用。
- 人有病曰不耐烦。
- 谓人之愚者曰不知菡董。
- 习气曰毛病。
- 物不洁曰麀糟。
- 小食曰点心。
- 以网兜物曰[才豈]兜。【[才豈]，呼孩切，海平声。见《类聚音韵》。】
- 诱人为恶曰撻(平声)掇。【见《韵会小补》。】
- 疾速曰飞风。
- 胡说曰扯谈。
- 问何人曰陆顾。【吴中陆顾两姓最多，故以为问。】
- 言人举止仓皇曰麀麀马鹿。
- 《俗呼小录》载：忍谓之熬，足谓之馥，移谓之捅【按，《集韵》：捅，他总切，进前也，引也。】，热物谓之顿，热酒谓之铒，泻酒谓之筛。遥相授受谓之胃，干求请托谓之钻。断港谓之浜。鸟兽交感，鸡鹅曰撩水，馀鸟曰打雄；蚕蛾曰对；狗曰练，蛇曰交。窍谓之洞。槩谓之盪，通称一顿。语物事曰牢曹。疟疾曰愕子。俗牵连之辞，如指某人至某人及某物皆曰打【……俗作入声，读如筮。】事在两难曰尴尬。
- 昔苏亦有之。如积秽物曰垃圾，音腊阐。谓人能干曰啍(亦作唵)噍；上音如厘平声，下音遮。垃字、啍字不载字书。圾，《集韵》：同岌，危也。噍，《类篇》：多言也。其解不同。
- 又物残缺不齐，曰[齒頁][齒贊]，上颜入声，下残入声。
- 齧■，二字俱五鎋切。上齿缺也，下器皿缺也。(按，原文：齧，[獻左半+上大下齿]；■，[獻左半+上大下缶]。)

以上文字，抄录时，我省略了多数注文。此书体例略有不同，不是正式的志书，但是格式与一般志书差不多。值得注意的是，作者首先声明“吴下方言已详郡邑志”，所以不重复转抄前志，但是列出了很多其他方志没有的词语。最后抄录《俗呼小录》中的方言词语，从“忍谓之熬”到“上齿缺也，下器皿缺也。”虽然顺序与词句与原文有部分不同。

其中，“人有病曰不耐烦。”也见于其他近代汉语的文献。“习气曰毛病。”到现代已经成为通语了。

#### （八）《苏州府志》第2卷风俗二，道光4年（1824）序本（第13-19页）

本书的方言，是把早期地方志里的方言转抄过来的，顺序和文字（包括注文）都没有明显的变动。第一部分与乾隆12年《苏州府志》同，从“吴谓善伊谓稻缓”抄到“虞韵入麻又入东”。第二部分则是转抄乾隆38年的《吴门补乘》，从“呼妇人曰女客”到《俗呼小录》中的“上齿缺也，下器皿缺也。”

#### （九）《吴县志》第52卷下，民国22年（1933）排印本（第25-35页）

本书是20世纪上半叶出版的铅字排印本，方言部分所用的篇幅是迄今为止最大的，但还只是作为风俗部分的附庸，其中也看不出出现代语言学的影响。作者先抄录前人关于“吴音”的论述。如“吴音轻清而柔缓”（沈彤《声歌说》）等，然后抄录各家方志的记录。从顺序看：（1）第一部分所列项目与乾隆12年《苏州府志》同，从“吴谓善伊谓稻缓”到“器用曰家生，亦曰家伙”。没有抄录“常熟谓何人曰遐箇”和“灰韵入支”等。但是作者对注文做了一些补充修改。（2）第二部分则是以乾隆38年的《吴门补乘》为基础，如“打谓之敲”等，但是顺序和内容都有不同。（3）第三部分则是本书作者补充的，列出“迷露”等很多方言词语，最后有两个数字的例外读音。

这里罗列原文第二、三两个部分的方言项目，注文大多省略，只保留少量对语音的说明。

吴下方言已详旧志，然尚有当记者如下：

- 打谓之敲。刺谓之搨。折花曰拗花。
- 言人逞独见而多忤者曰隗莫。【音如列的。】
- 言人无所可否而多笑貌者曰墨屎。【今音如迷痴。】
- 言人胸次耿耿曰佻儻。【音如炽臆。】
- 言人无用曰不中用。
- 言人聆言不省曰耳边风。
- 人有病曰不耐烦。
- 谓人之愚者曰不知蕞董。
- 习气曰毛病。
- 物不洁曰麀糟。
- 言戏扰不已曰𦉳。
- 小食曰点心。

- 憎人而不与接曰不保。
- 以网兜物曰[才豈]兜。【[才豈]，呼孩切，音海。见《类聚音韵》。】
- 诱人为恶曰撻（平声）掇。【《韵会小补》：诱人为恶曰窳，俗曰撻掇。】
- 疾速曰飞风。
- 问何人曰陆顾。【吴中陆顾两姓最多，故以此为问。】
- 言人举止仓皇曰麤麤马鹿。
- 忍谓之熬。足谓之馥（按，原文“馥”字右下为“多”）。移谓之捅。热物谓之顿。热酒谓之铎。泻酒谓之筛。干求请托谓之钻。断港谓之浜。谓物事曰牢曹。疟疾曰愕子。指某人至某人某物至某物皆曰打【俗作入声，读如笪。】事在两难曰尴尬。谓积秽物曰垃圾，音腊阗。
- 电曰霍闪。滴水曰滂。【《广韵》：滂，音帝，[滂隸]漉也。】饭粒曰米糝。吃食曰嚙。【他答切。】附近曰左近。婢曰丫头。共事曰火。呼痛曰安伟。馈人曰作人情。问辞曰能亨。事烦无条理曰磊[立享]。【《通雅》：今方言皆作累堆，累字平声。】谓事曰正经。谓物曰物事。浣衣曰汰。【《说文》：汰，徒盖切，渐漉也。《玉篇》：汰，洗也。】及下函谓指替。谓诈骗曰黄六。
- 扶持曰抬举。物之阔者曰扁。有所倚曰靠。料事曰打算。畏惧曰寒毛卓卓竖。
- 负而不偿许而不予皆曰赖。
- 计簿曰帐目。
- 擘橙橘之属曰杙。【《广雅》：杙，擘也。】匠斲木而復平之曰铍。
- 石声曰[足憑][上彭下足]。【《通志六书略》：[上彭下足]，蒲孟切。[足憑][上彭下足]，蹋地声。】人物作闹声曰击鞞。
- 吴下方言自冯修《府志》外，续得如干条（按，当为“若干”），汇录如下：
- 雾曰迷路。疾风曰风暴。当时曰登时。清晨曰侵早。午后曰下昼。十五日曰月半。事隔已久曰长远。物之旧者曰古老。土阜曰高敦。田陌曰[田亢]岸。【今人谓田上陌曰[田亢]，音古杏切，亦作埂。】村居曰莊子。河埠曰马头。灰尘曰蓬尘。【蓬，又作捧。《广韵》：塓捧，尘起，蒲蒙切。吴俗谓尘垢飞起为捧起。】
- 物之真实者曰道地。事之困难者曰整屋。【今以事费曲折者曰整屋。】
- 入冬河胶曰连底冻。庭心曰天井。灶突曰烟囱。苇篱曰抢篱。碎瓦曰瓦瓴。【《说文》：瓴，败瓦也。段注：今俗所谓瓦瓴，是此字也。今人语如“办”之平声耳。】
- 私蓄财物曰私房。言人失意谓之倒灶。
- 语女曰媛媪。【扬子《方言》：吴人谓女曰媪。《集韵》牛居切，音鱼。】谓女婿曰补代。
- 言人应得罪愆曰自作自受。言人不务正业曰流宕。
- 当面羞人曰剥面皮。
- 事已误而不服输曰错到底。
- 高自位置曰作声价。
- 言人不明是非曰无皂白。
- 事之劳苦者曰[害爻]力。【《通俗编》按，《广韵》：[害爻]，音同喫。勤苦用力曰[害爻]。】
- 作事敏捷曰僻脱。规避曰躲闪。絮烦曰唠叨。诟辞声曰齏糟。【今俗读若祭遭。】庞杂声曰嘈嘖。【音才曷反。】
- 然其言不然其言皆曰欸。

- 凡发语之辞曰阿。
- 谓事物果实之类其助字曰子，或曰头。
- 谓甚么曰舍。【俗作啥。】
- 待曰等。太曰忒。思曰仑。汝曰耐。增益曰饶。捧物曰掇。物变色曰蔫。压酒曰醉。浙米曰洮。【一作淘。】以肩举物曰捷。【《正韵》：捷，以肩举物也。】以手去汁曰滹。以指取物曰孚。
- 一十五之一读若束。【独谓十五为蜀五，音亦如束。】二十并写之廿，读为念。此皆吴俗方言，三县旧志所未载者也。【采访稿。以上声歌方言之属。】

本书的特点有：(1) 作者注意核对征引的原文，修正文字的讹误，补充和调整解释。(2) 既抄录旧志，又大量补充方言词语。(3) 注意语法现象，如“发语之辞曰阿”是说表疑问的副词；“谓事物果实之类其助字曰子，或曰头”，是说名词的后缀。(4) 数字的特殊读法。如“一十五之一读若束”（按，第二个“一”应是“十”；“束”，现代苏州话读如“舍”，不是入声）、“廿读为念”，是地方志里首次出现的。

## 二、传统志书方言部分的特点和问题

以上各书，大致的趋势是，所收方言词语，数量逐步增加，内容也逐渐丰富起来。其记录为我们了解过去几百年苏州方言的面貌提供了宝贵的信息，是值得重视的文献宝库。但是，考察其总的共同倾向，可以归纳为以下几点。

(1) 强调方言词语是古已有之，所以引用文献多，有时还使用僻字。

(2) 引用文献和前人著作时，繁简各异，有时则是断章取义，差错也时有所见。

(3) 过分强调古典的出处，但是没有用例，有时无法理解方言词语的实际含义究竟是怎样的。如有两部志书有：

○谓贪纵曰放手。【《后汉书》：残吏放手。】

意义不清，现代方言也没有这样的意义了。我们要依据其他文献来判断，其意义是比喻“贪赃”（又说“放手松”）：

○以后在任年馀，渐渐放手长了。有几个富翁为事打通关节，他传出密示，要苏州这卷《金刚经》。诨知富翁要银子反易，要这经却难。（二刻拍案惊奇1卷）

○今言官府贪污失操守者，曰放手松。……盖以贪纵为非者，曰放手也。（留青日札3卷）

乾隆《苏州府志》有“美恶兼曰暖”，更不好理解。与现代方言对比，读为阴上的形容词[nø<sup>52</sup>]，指不挑剔，所取对象比较杂。

(4) 不重视方言语音，只有“灰韵入支”等零碎的有限信息。缺乏现代的语音知识和手段是一个原因；追求引用古书里的语句和说法是另外一个元音。

(5) 后志抄前志，如宋本《吴郡志》所谓“吴语谓来为釐”，到乾隆年间的方志还原封不动地列出来，如果没有其他材料作为证据，很难想象，这近一千年间，这一特点没有发生任何变化。现代苏州话已经不存在这一现象。

(6) 地方志的资料来源不明确，难以了解原作者是谁。后志抄前志，此书抄彼书的现象很多、很普遍。如乾隆《苏州府志》有：

○谓髮粘曰臄。【臄，音织。《周礼·考工记》弓人注：檝，脂膏臄败之臄，臄

亦粘也。疏，若今人头发有脂膏者则谓之𦘔。】

这一项也见于《象山县志》，从历史年代能明确判断其晚于《苏州府志》：

○妇女发为膏泽所黏，谓之𦘔。《考工记》注：𦘔，亦黏也。音职。（道光象山县志1卷）

民国《吴县志》有：

○擘橙橘之属曰杙。【《广雅》：杙，擘也。】

又见于嘉庆《松江府志》：

○擘橙橘之属曰“杙”。【音如“八”，《广雅》】（嘉庆松江府志5卷）

但是，仅凭以上材料，我们无法判断，说乾隆《苏州府志》、嘉庆《松江府志》的记录就一定是原创了。

### 三、小结

综上所述，我们要充分利用已有的各种文献来研究方言的历史，当然包括各种地方志的资料。但是，要尽可能多地掌握各方面相关的文献资料，以求能比较全面地了解方言在各个历史阶段的面貌。

在编写《明清吴语词典》时，我们努力追求过这样的目标。但是，因为条件有局限，如能找到的文献不够多，电脑的字库太小等，没有能做得很完美，是一大遗憾。现在，情况变化很大，研究条件也大大改善了。我们能获得更多的文献资料，电脑的技术也有了飞速的发展，所以，这一方面的研究有了更进一步深入的可能。

据我了解，在中国，有研究者的群体在大规模搜集方言的历史文献，并将把这些资料编印出版。有的已经有了成果，有的还在进行中。这些都是造福学界，有利研究的大好事。我们期待今后有更多更好的研究成果出现。